

令和元年度 横浜市外国人意識調査

調査結果報告書

令和2年3月

横浜市国際局

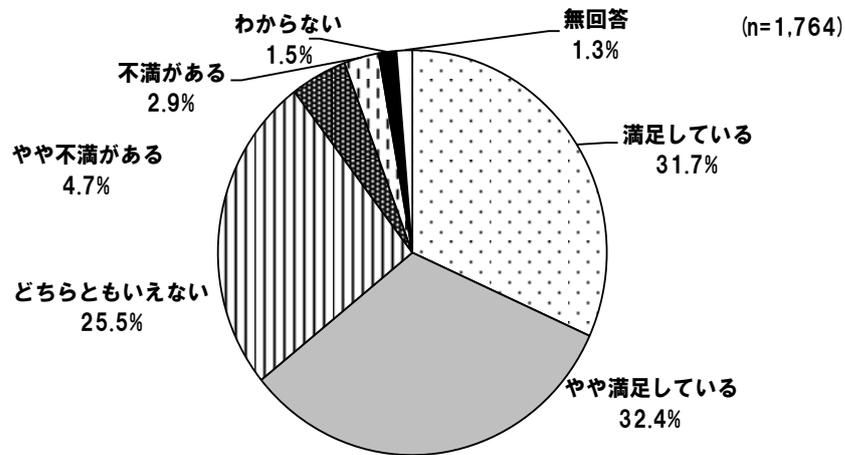
調査の目的

横浜市内の外国人人口が、平成31年4月末に10万人を超え、更なる増加が見込まれる中、市内在住外国人の生活意識やニーズを把握し、市政運営や政策立案の基礎資料として活用することを目的に、「横浜市外国人意識調査」を実施しました。

調査結果のポイント

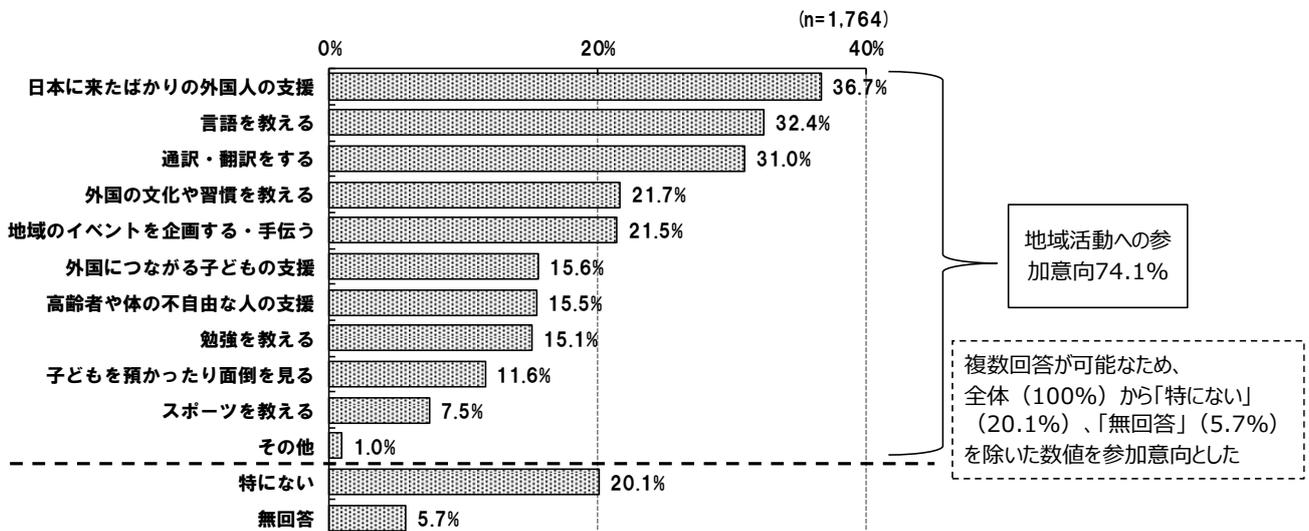
ポイント ① 暮らしの満足度 満足度が6割を超える

現在の生活に満足（満足している+やや満足している）と回答した人は64.1%でした。



ポイント ② 地域活動 7割以上に参加意向あり

「やってみたい地域活動は何ですか」という問いに対し、何らかの地域活動への参加意向を示した人は74.1%でした。



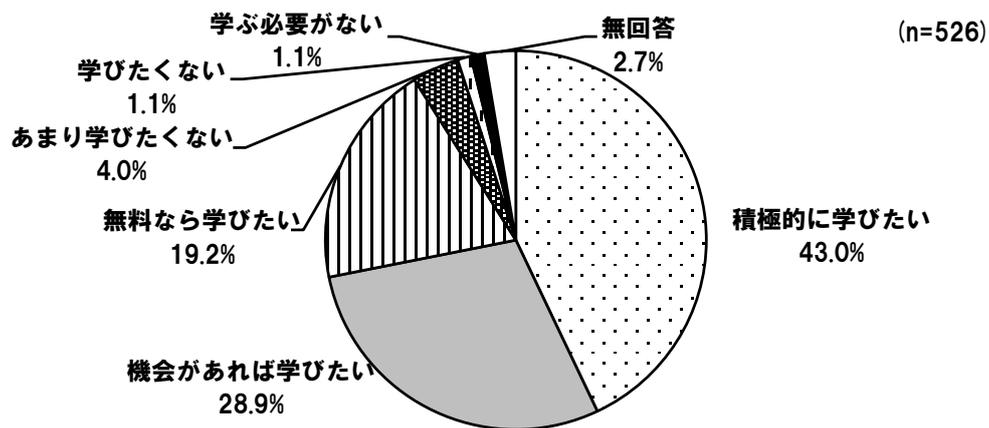
ポイント ③ 困りごと

「日本語の不自由さ」が第一位

「困っていることや心配なこと（複数回答可）」に関して、日本語の不自由さと答えた人は最も多く29.8%でした。そのうち、日本語の学習意欲を有する人（積極的に学びたい＋機会があれば学びたい＋無料なら学びたい）は91.1%でした。

順位	項目	割合
1	日本語の不自由さ	29.8%
2	病気になった時の対応・病院で外国語が通じない	19.3%
3	自分または家族の健康	14.7%
4	災害時・緊急時の対応	14.6%
5	子どもの教育	14.5%

＜「日本語の不自由さに困っている人」の日本語の学習意欲＞



目次

調査概要.....	1
第 I 章 集計分析結果（概要）	2
1. 回答者の属性.....	2
2. ことばについて	3
3. 情報の入手方法について.....	9
4. 生活の満足度や困っていることについて	12
5. 子育て・教育について	15
6. 住まいの環境について	18
7. 防災について.....	20
8. 行政窓口でのサービスについて.....	23
9. 多文化共生について.....	26
10. その他.....	29
第 II 章 集計分析結果.....	30
1. 回答者の属性.....	30
2. ことばについて	42
3. 情報の入手方法について.....	58
4. 生活の満足度や困っていることについて	64
5. 子育て・教育について	85
6. 住まいの環境について	89
7. 防災について.....	100
8. 行政窓口でのサービスについて.....	114
9. 多文化共生について.....	122
10. その他.....	147
調査票	

調査概要

調査対象	満 20 歳以上の市内在住外国人 5,000 人 ※住民基本台帳から無作為抽出
回収数	1,764 件
回収率	35.3%
調査方法	郵便にて送付・回収
調査票対応言語	日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語
調査期間	令和元年 11 月～元年 12 月
調査実施機関	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社
調査結果の表記	SA：単一回答方式の設問 MA：複数回答方式の設問 n：当該設問の有効回答数

※集計結果の見方

回答の比率（すべて百分率「%」で表示）は、その設問の回答者数を基数（件数）として算出している。したがって、複数回答の設問の場合、すべての比率を合計すると 100% を超える場合がある。また、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しているため、合計が 100%にならない場合がある。

第I章 集計分析結果（概要）

1. 回答者の属性

【性別】

- 女性 56.1%、男性 41.9%

【年齢】

- 若年層（39歳以下） 51.6%、中年層（40～59歳） 34.2%、高年層（60歳以上） 13.0%

【居住区】

- 「中区」（12.6%）、「神奈川区」（12.3%）、「鶴見区」（11.1%）、「南区」（9.0%）、「港北区」（7.9%）の5区で全体の 52.8%

【国籍・地域】

- 「中国」（40.9%）、「韓国」（13.5%）、「フィリピン」（8.4%）で全体の 62.9%

【在留資格】

- 「永住者」（40.2%）、「技術・人文知識・国際業務」（13.5%）、「日本人の配偶者等」（7.4%）、「留学」（7.4%）、「家族滞在」（7.1%）で全体の 75.7%

【日本での居住開始時期】

- 2010年以降が 44.3%

【横浜市での居住開始時期】

- 2015年以降が 41.7%

【家族構成】

- 「父母と子[二世帯]」（34.5%）、「夫婦だけ」（22.4%）、「ひとり暮らし」（21.2%）

【職業】

- 「主婦・主夫」（20.1%）、「現業職」（14.2%）、「事務職」（13.9%）、「専門技術職」（12.8%）、「学生」（7.9%）

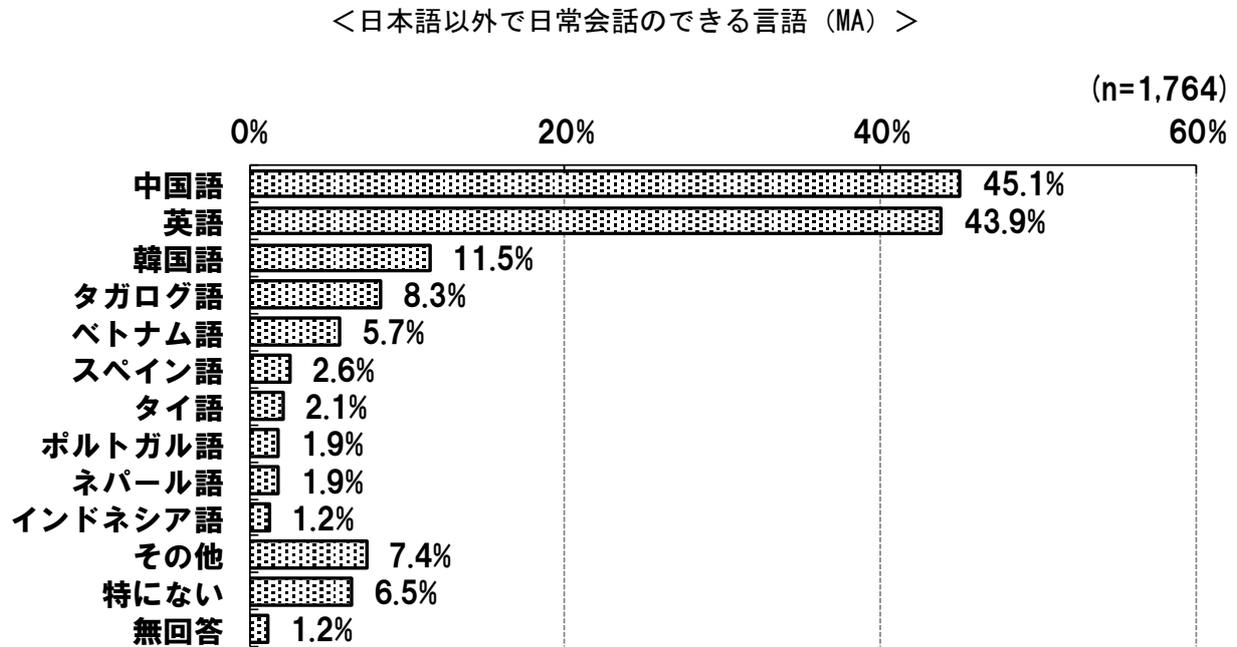
【居住形態】

- 「借家（民間アパート・民間賃貸マンション）」（31.4%）、「持ち家（マンション・共同住宅）」（22.1%）、「持ち家（一戸建て）」（18.2%）

2. ことばについて

(1) 日本語以外で日常会話のできる言語

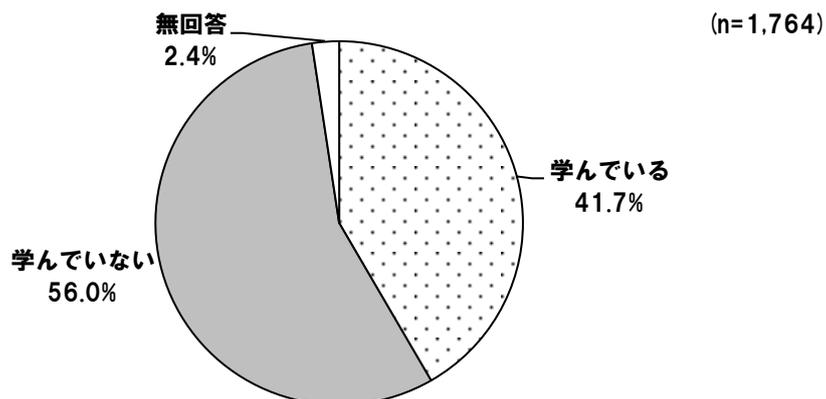
「中国語」(45.1%)と「英語」(43.9%)が多い。



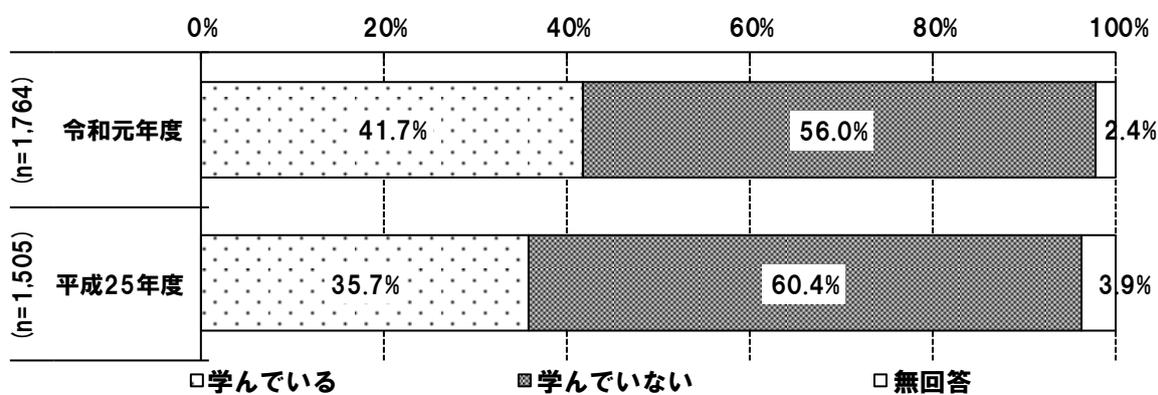
(2) 日本語を学んでいるか

「学んでいない」(56.0%)、「学んでいる」(41.7%)
 平成25年度調査と比較すると、「学んでいる」は35.7%より6.0ポイント増加、「学んでいない」は60.4%より4.4ポイント減少している。

<日本語を学んでいるか (SA) >



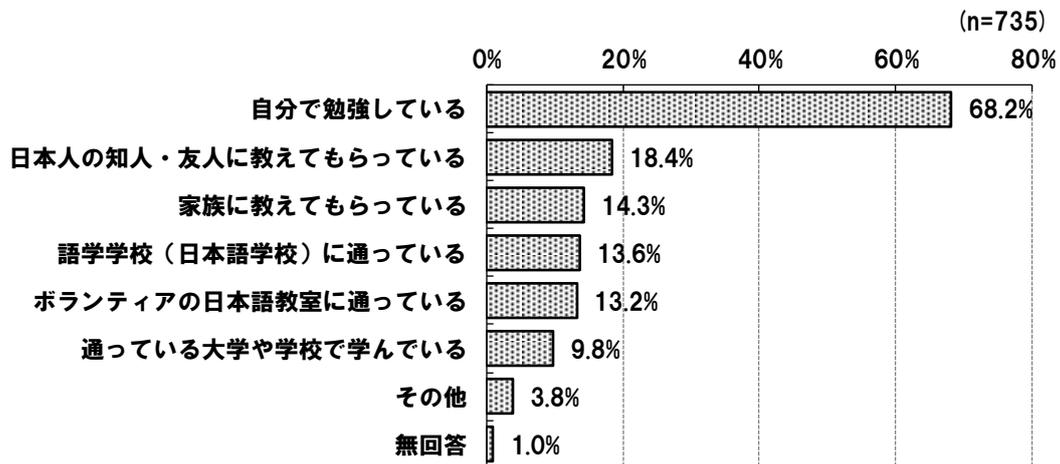
<参考 平成25年度調査結果との比較>



(3) 日本語をどのような方法で学んでいるか

「自分で勉強している」(68.2%)、「日本人の知人・友人に教えてもらっている」(18.4%)、「家族に教えてもらっている」(14.3%)

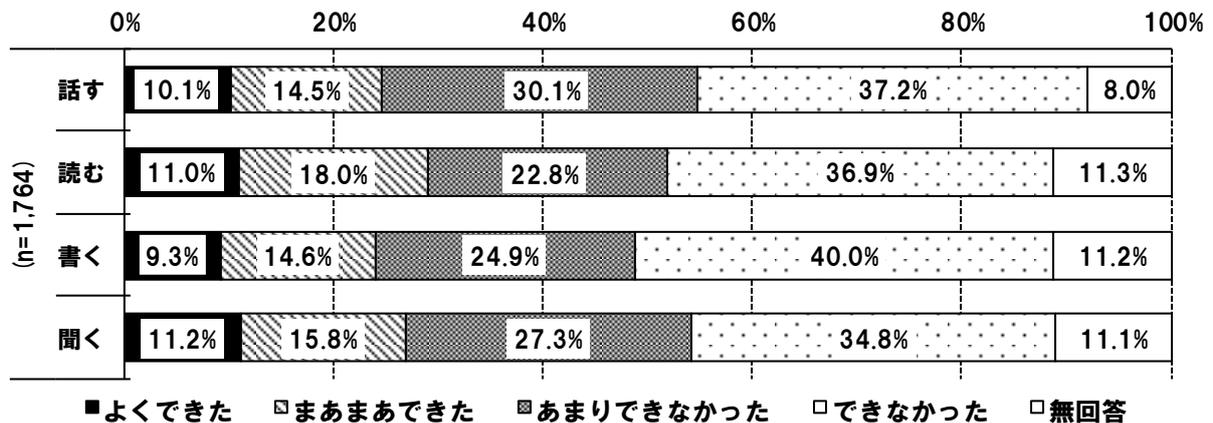
<日本語をどのような方法で学んでいるか (MA) >



(4) 初めて来日したときの日本語レベル

「話す・読む・書く・聞く」のいずれも「できなかった」の割合が多い。

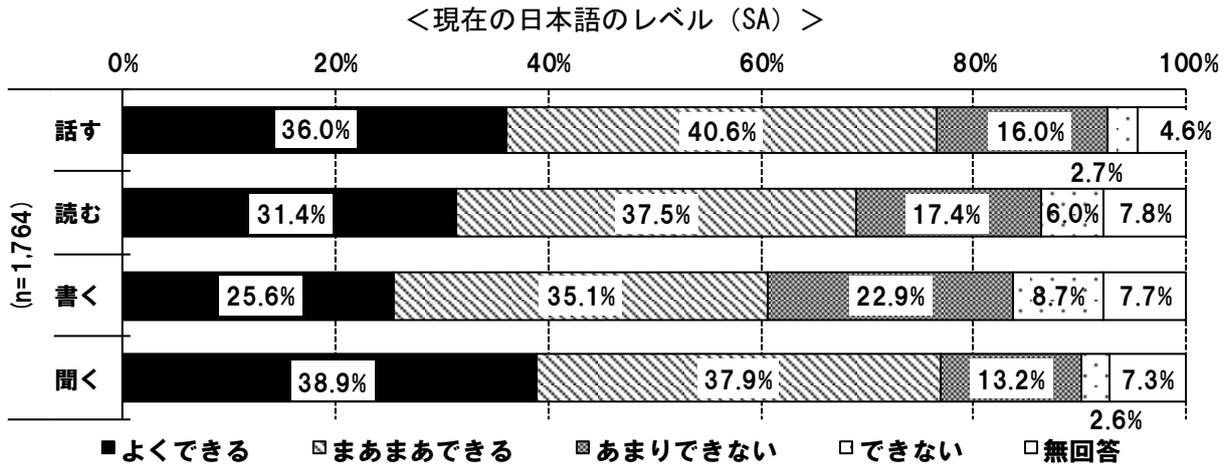
<初めて来日した時の日本語のレベル (SA) >



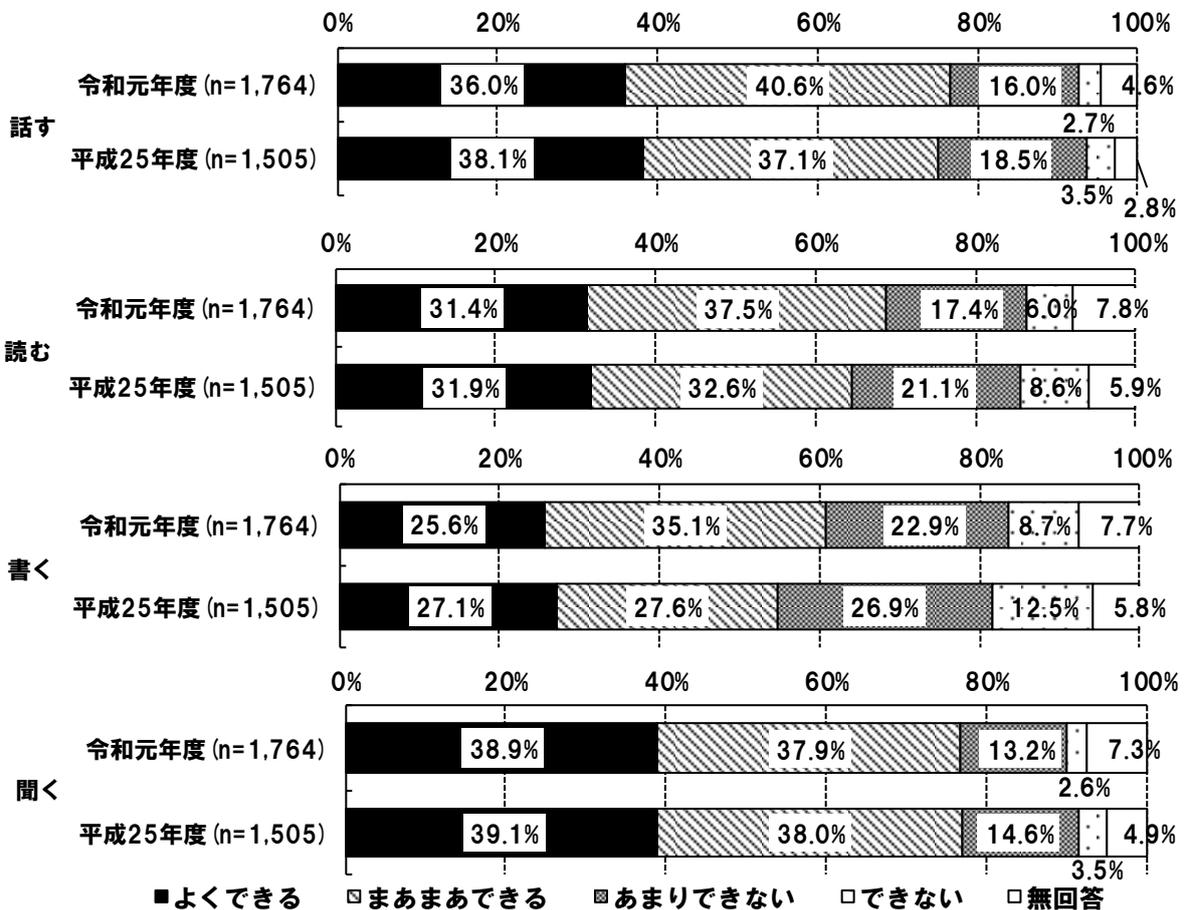
(5) 現在の日本語レベル

「日本語を話すことができる」(76.6%)、「日本語を読むことができる」(68.9%)、「日本語を書くことができる」(60.7%)、「日本語を聞くことができる」(76.8%)と、「話す・読む・書く・聞く」のいずれも「できる」の割合が多い。

平成25年度調査と比較すると、「話す・読む・書く」のいずれも「できる」「まあまあできる」を合わせた割合は1～6ポイント増加している。



＜参考 平成25年度調査結果との比較＞

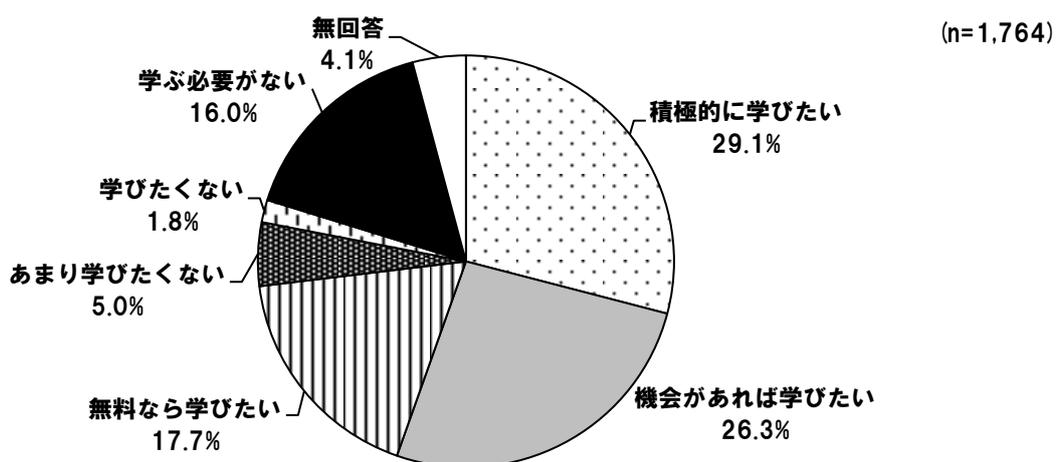


(6) 今後、日本語を学びたいと思うか

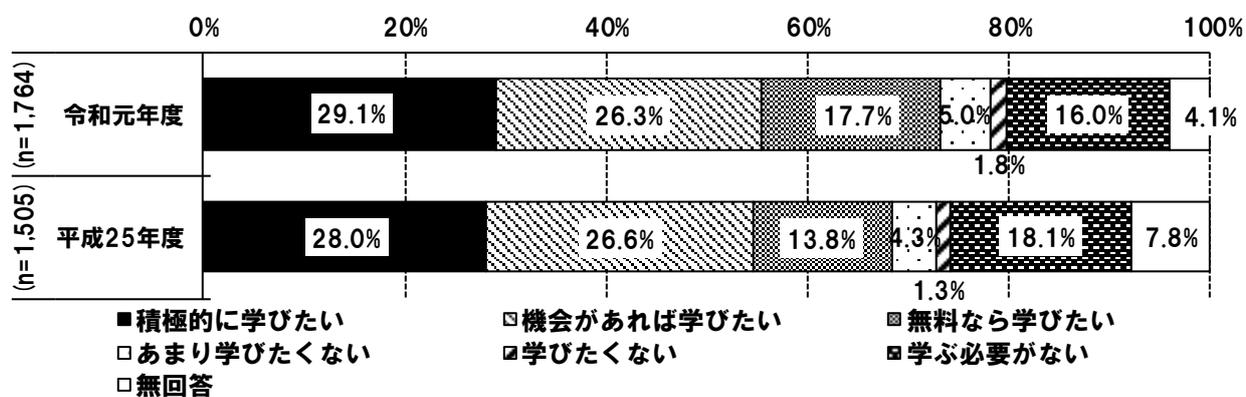
日本語を学びたいとしているのは全体の 73.1%

平成 25 年度調査と比較すると、「積極的に学びたい」「機会があれば学びたい」「無料なら学びたい」を合わせた日本語を学びたいとする人は、68.4%から 73.1%に 4.7 ポイント増加した。なお、「学ぶ必要がない」については 18.1%から 16.0%に 2.1 ポイント減少している。

<今後、日本語を学びたいと思うか (SA) >



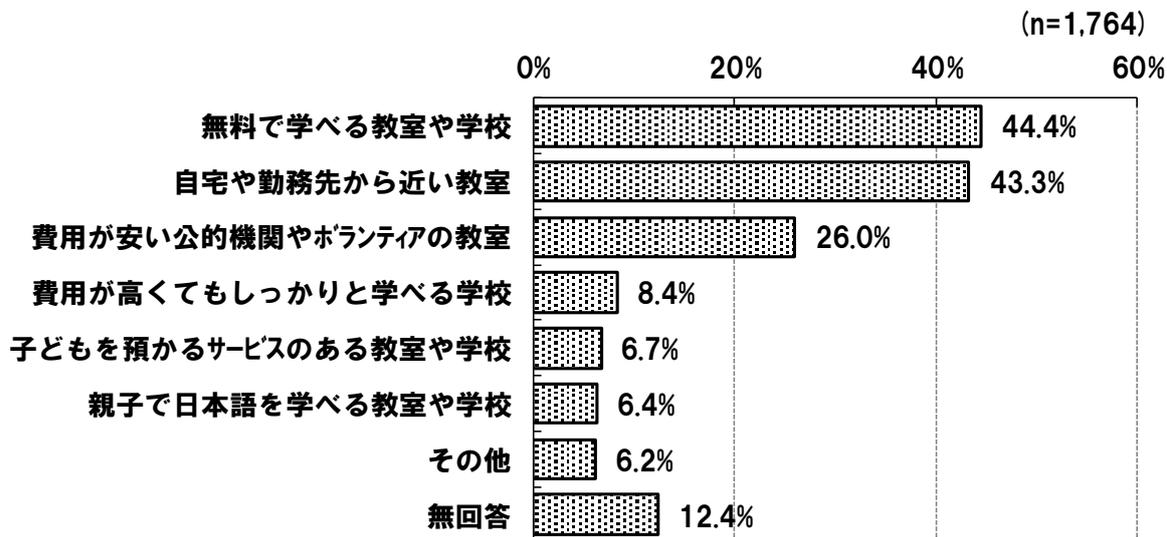
<参考 平成 25 年度調査結果との比較>



(7) どのようなところで、日本語を学びたいと思うか

「無料で学べる教室や学校」(44.4%)、「自宅や勤務先から近い教室」(43.3%)、「費用が安い公的機関やボランティアの教室」(26.0%)

<どのようなところで、日本語を学びたいと思うか (MA) >



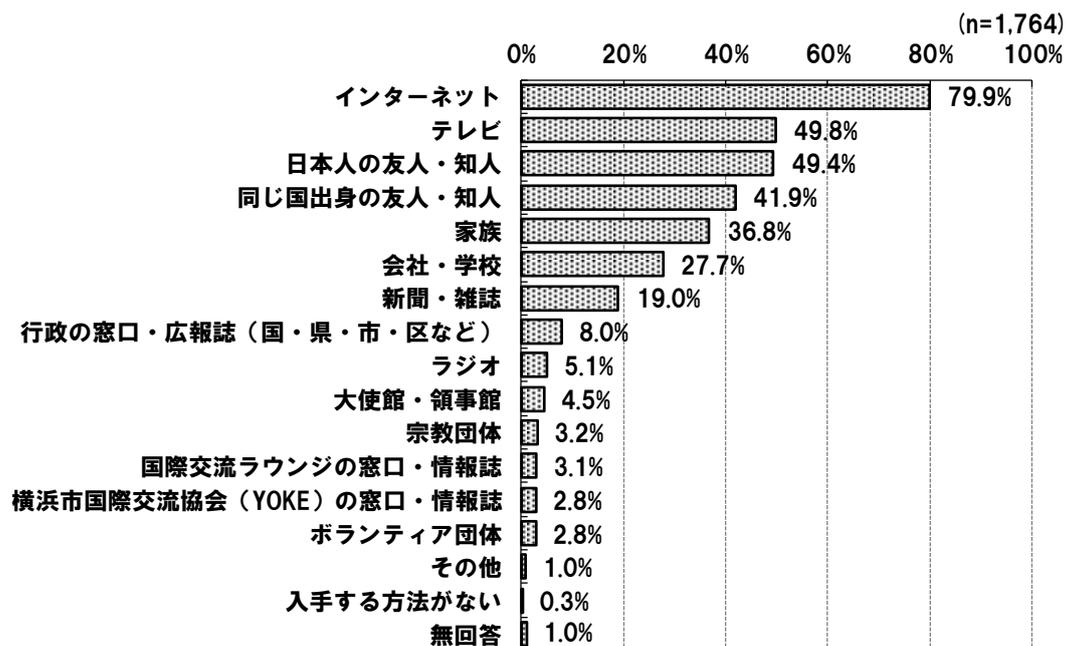
3. 情報の入手方法について

(1) 生活に必要な情報の入手方法

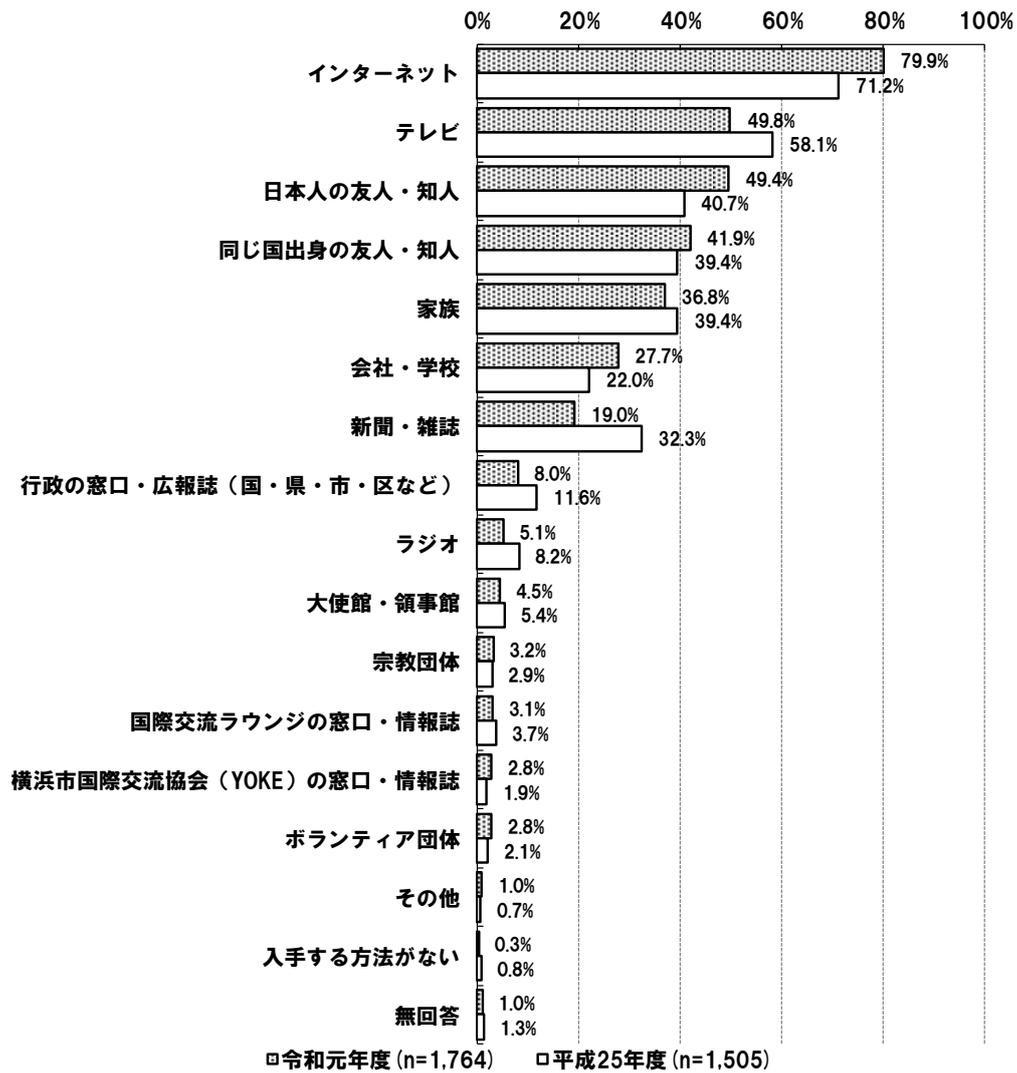
「インターネット」(79.9%)が最も多い。

平成25年度調査と比較すると、「インターネット」が71.2%から8.7ポイント増加した一方で、「テレビ」および「新聞・雑誌」の割合が減少した。

<生活に必要な情報の入手方法 (MA) >



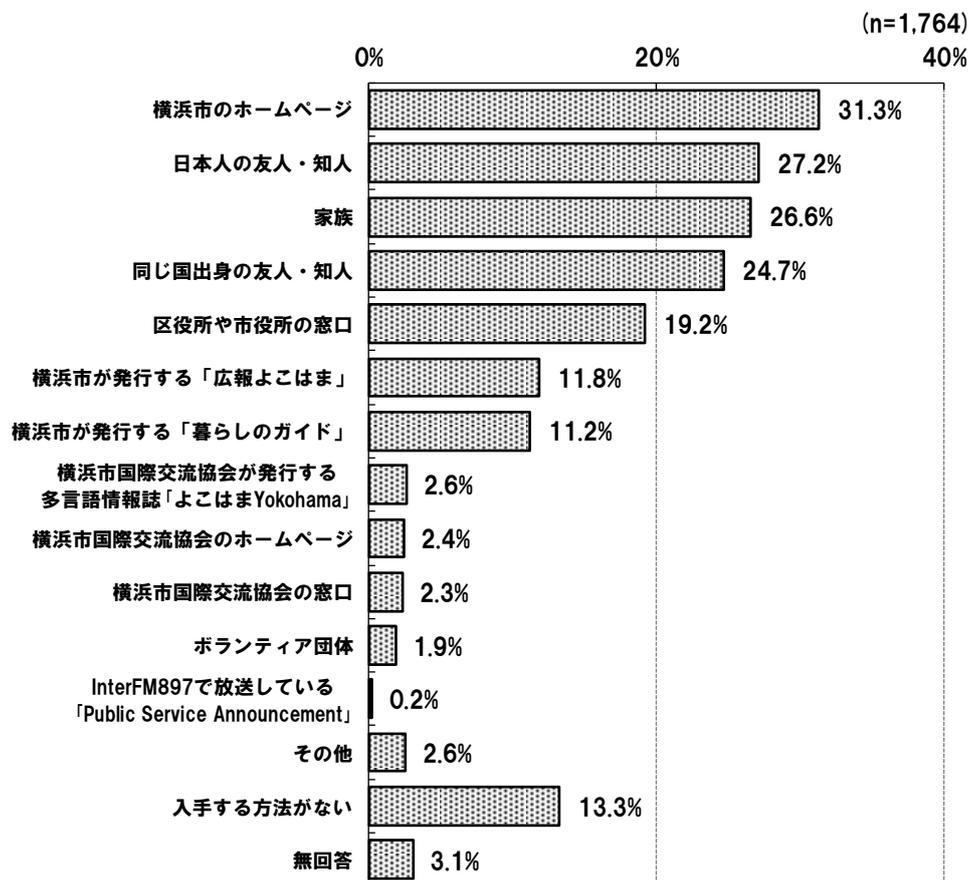
<参考 平成 25 年度調査結果との比較>



(2) 市役所からの情報の入手方法

「横浜市ホームページ」(31.3%)、「日本人の友人・知人」(27.2%)、「家族」(26.6%)

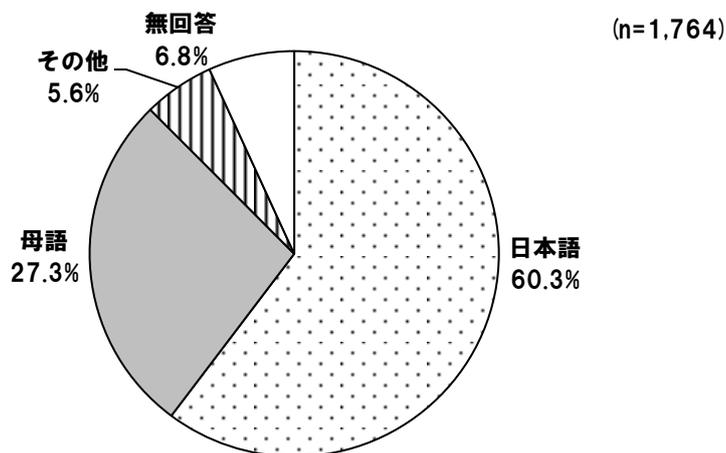
＜市役所からの情報の入手方法 (MA)＞



(3) 情報収集における主な使用言語

「日本語」(60.3%)、「母語」(27.3%)

＜情報収集における主な使用言語 (SA)＞



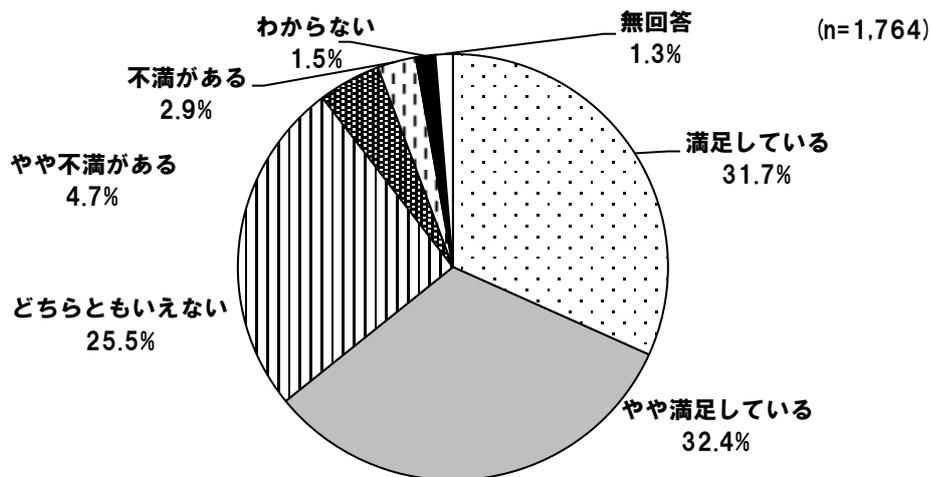
4. 生活の満足度や困っていることについて

(1) 現在の生活の満足度

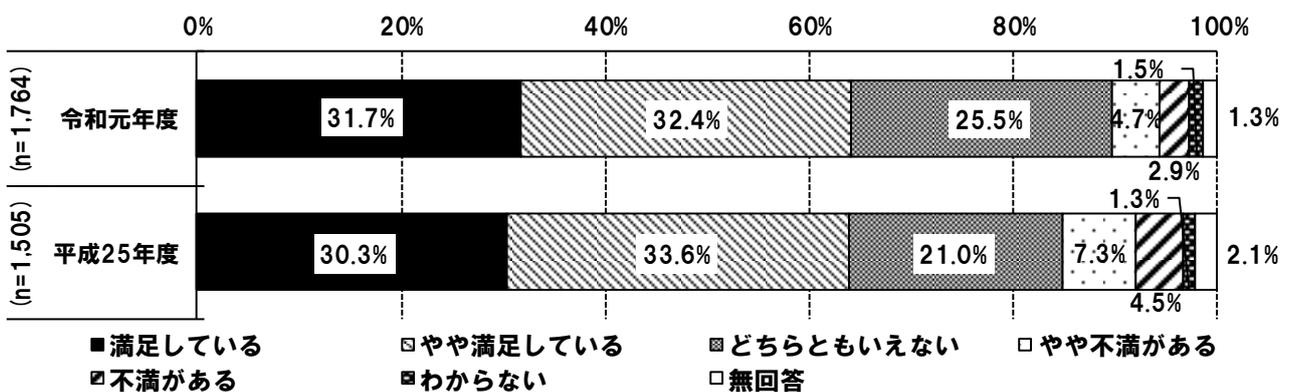
64.1%が満足しており、不満を持つ人は7.6%

平成 25 年度調査と比較すると、「満足している」「やや満足している」の合計が 0.2 ポイント増加し、一方で「不満がある」「やや不満がある」の合計が 4.2 ポイントの減少となっている。

<現在の生活の満足度 (SA) >



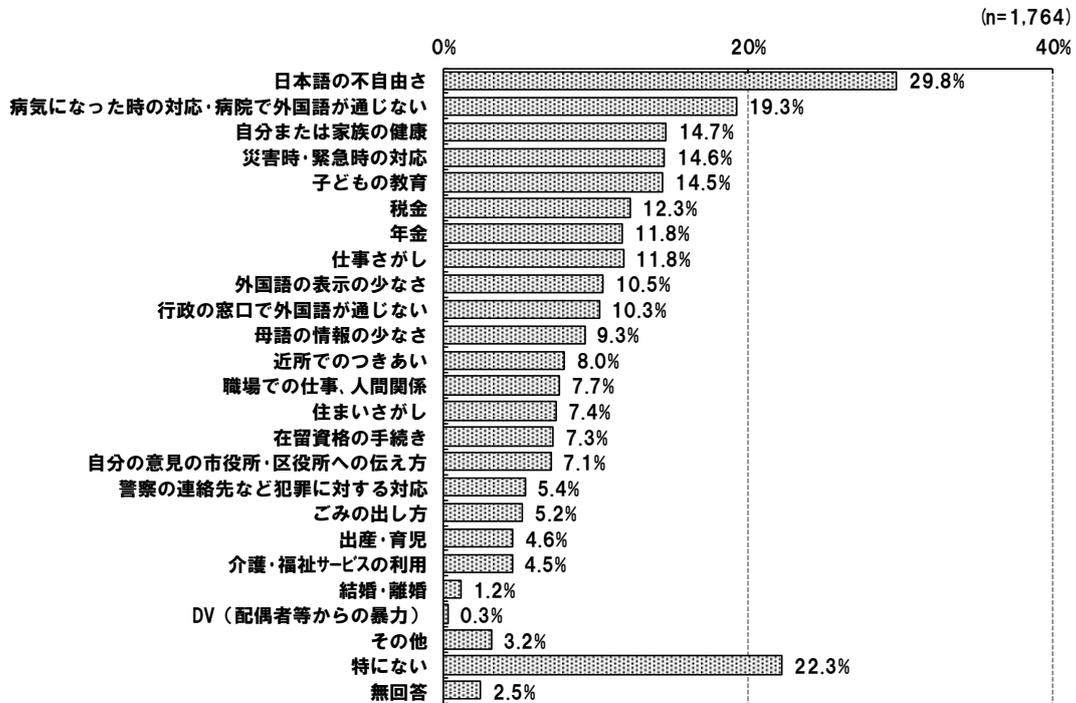
<参考 平成 25 年度調査結果との比較>



(2) 横浜での生活で、困っていることや心配なこと

困っていることや心配なことの上位3項目は、「日本語の不自由さ」(29.8%)、「病気になった時の対応・病院で外国語が通じない」(19.3%)、「自分または家族の健康」(14.7%)。「特にない」は22.3%。

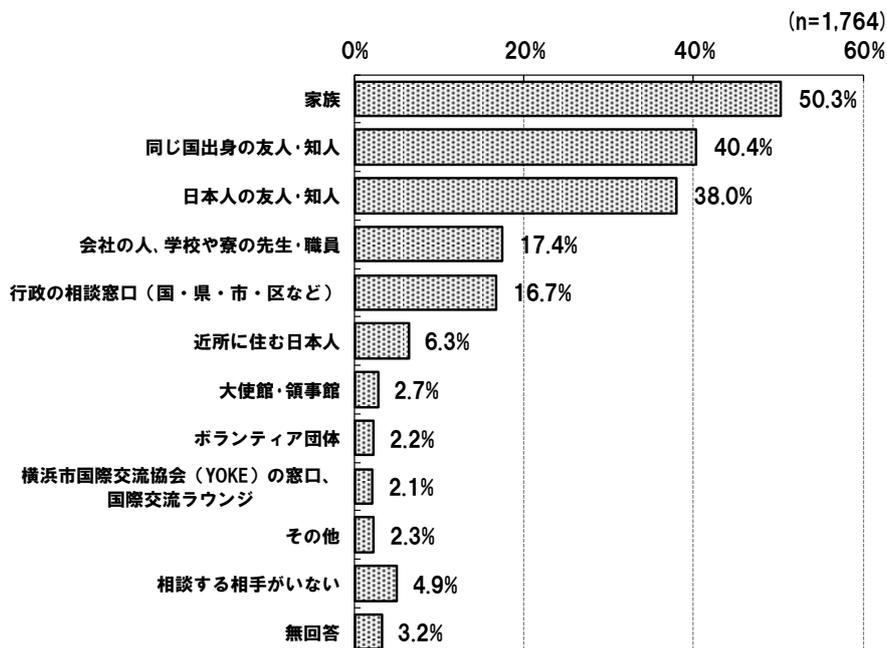
＜横浜での生活で、困っていることや心配なこと (MA)＞



(3) 横浜での生活で困っていることや心配なことがあったときの相談先

「家族」(50.3%)、「同じ国出身の友人・知人」(40.4%)、「日本人の友人・知人」(38.0%)

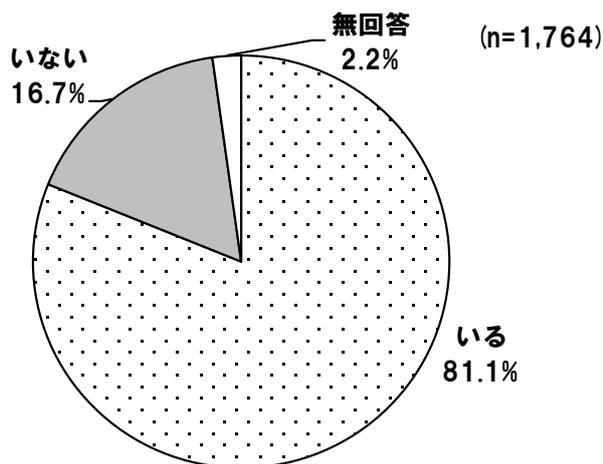
＜横浜での生活で困っていることや心配なことがあったときの相談先 (MA)＞



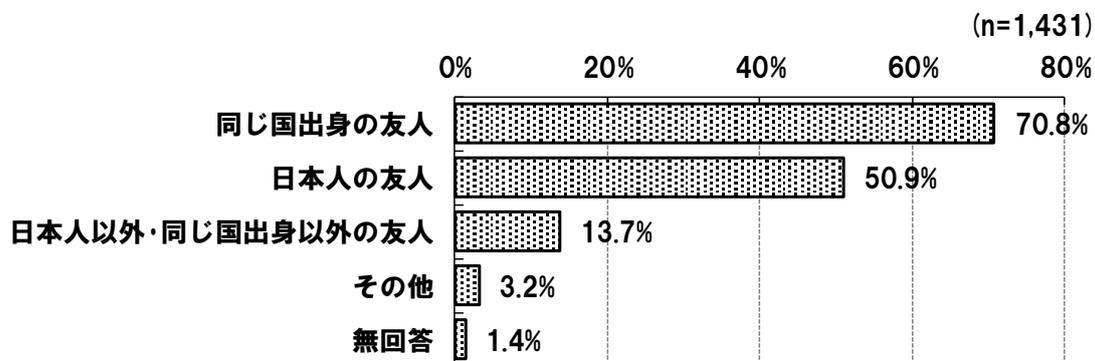
(4) 信頼して相談できる友人の存在

「いる」(81.1%)、「いない」(16.7%)
信頼して相談できる友人は、「同じ国出身の友人」(70.8%)、「日本人の友人」(50.9%)が多い。

<信頼して相談できる友人の有無 (SA) >



<信頼して相談できる友人の属性 (MA) >

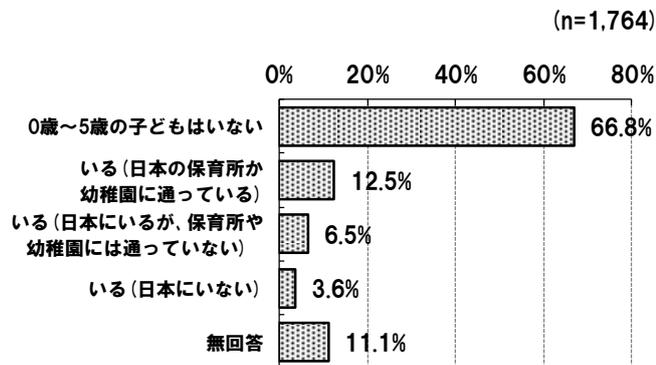


5. 子育て・教育について

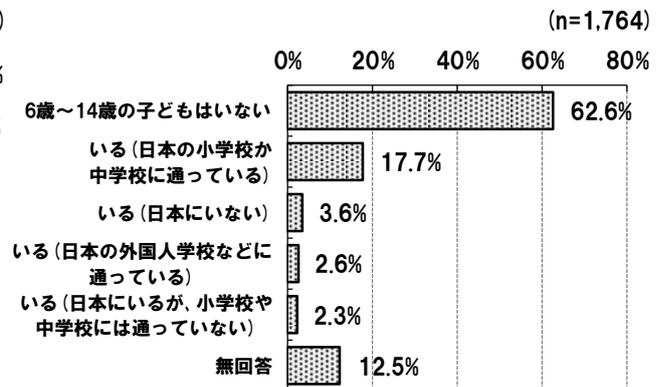
(1) 0歳～5歳、6歳～14歳の子どもの有無

「0歳～5歳の子どもがいる」は全体の22.6%、「6歳～14歳の子どもがいる」は全体の26.2%

<0歳～5歳の子どもの有無(MA)>



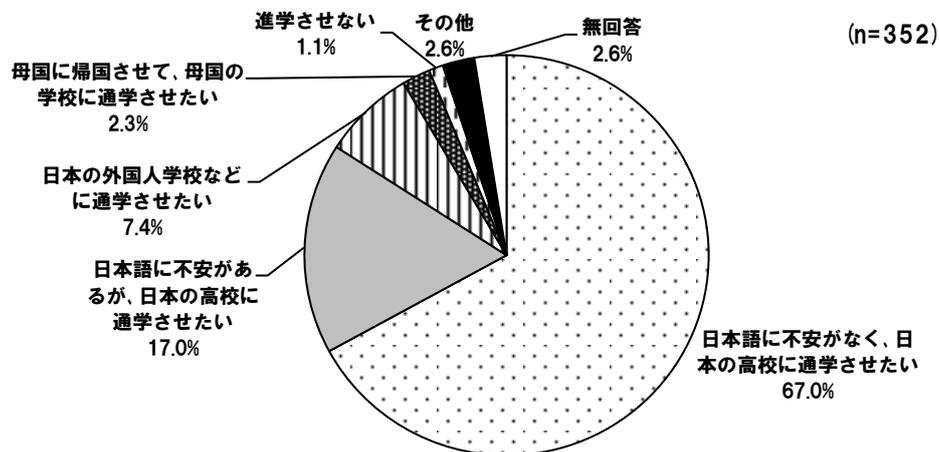
<6歳～14歳の子どもの有無(MA)>



(2) 中学校を卒業したあとどのような進路に進ませたいか

「日本の高校に通学させたい」は全体の84.0%

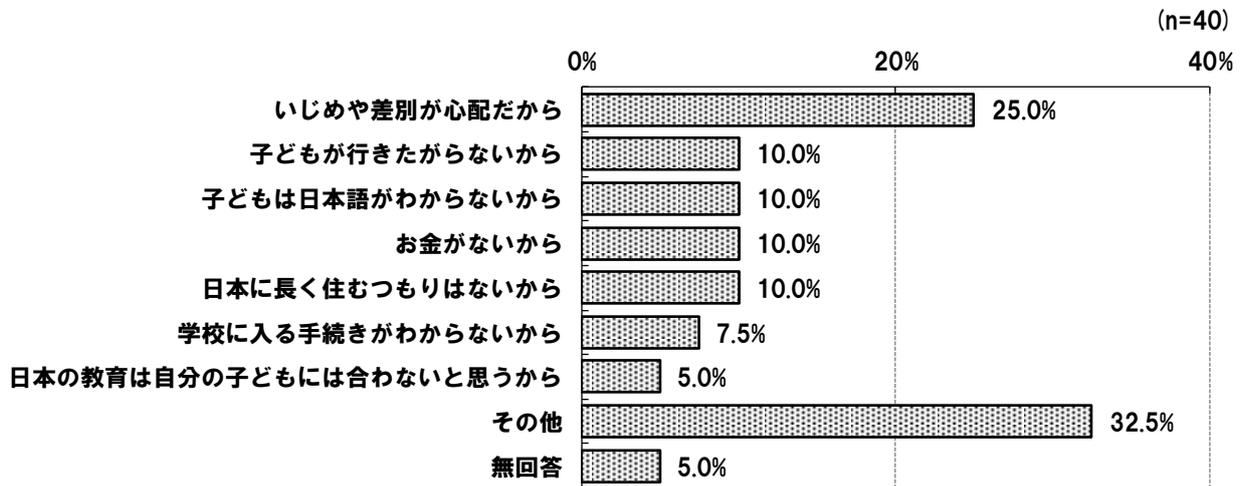
<中学卒業後の進路(SA)>



(3) 子どもが学校に通っていない理由

サンプル数（40 件）は少ないが、「いじめや差別が心配だから」が多い。

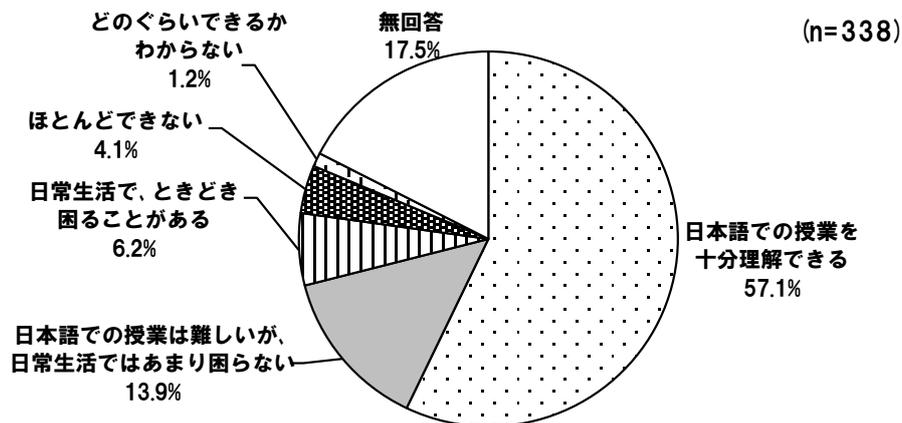
<子どもが学校に通っていない理由 (MA)>



(4) 6 歳～14 歳の子どもの日本語レベル

「日本語での授業を十分理解できる」(57.1%)

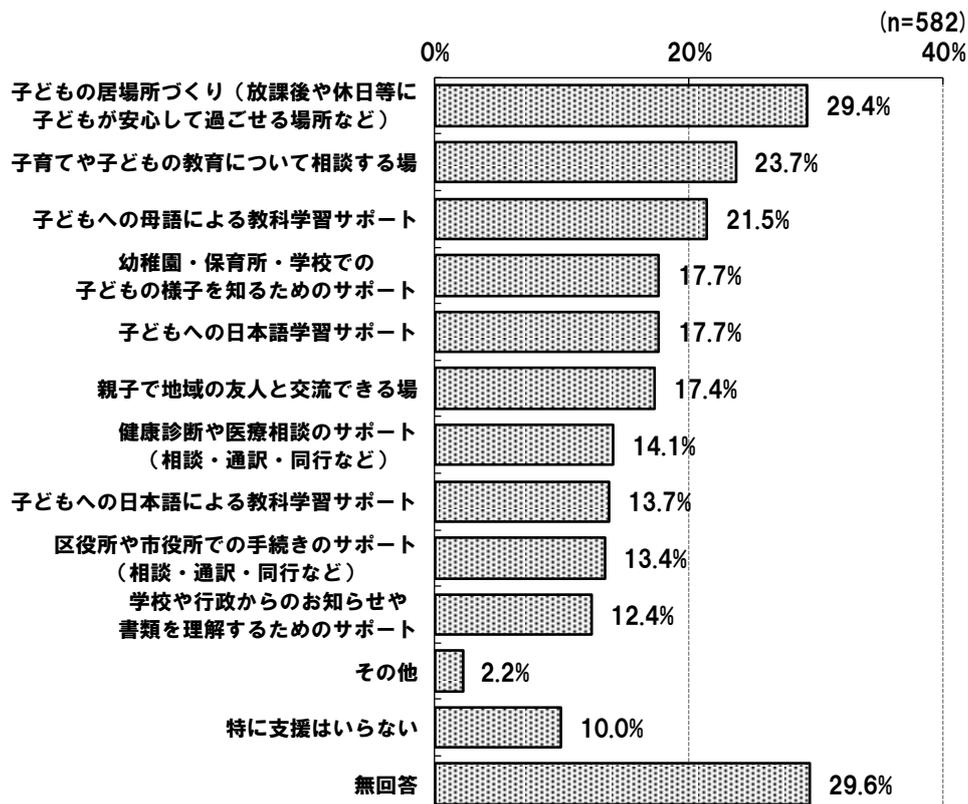
<6 歳～14 歳の子どもの日本語レベル (SA)>



(5) 子育てや子どもの教育についてあったらよい支援

「子どもの居場所づくり（放課後や休日等に安心して過ごせる場所など）」(29.4%)、「子育てや子どもの教育について相談する場」が(23.7%)

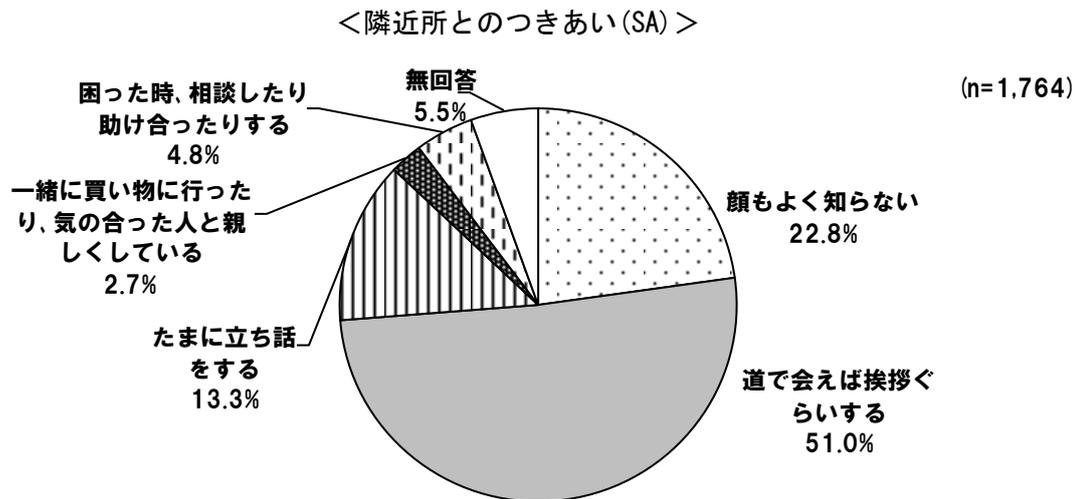
<子育てや子どもの教育についてあったらよい支援(MA)>



6. 住まいの環境について

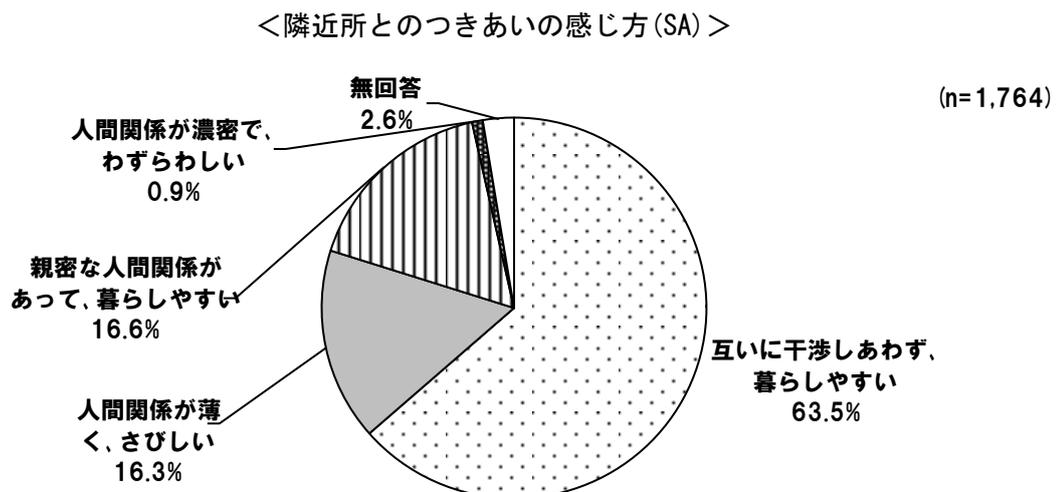
(1) 隣近所とのつきあい

「道で会えば挨拶ぐらいする」(51.0%)、「顔もよく知らない」(22.8%)、「たまに立ち話をする」(13.3%)



(2) 隣近所とのつきあいの感じ方

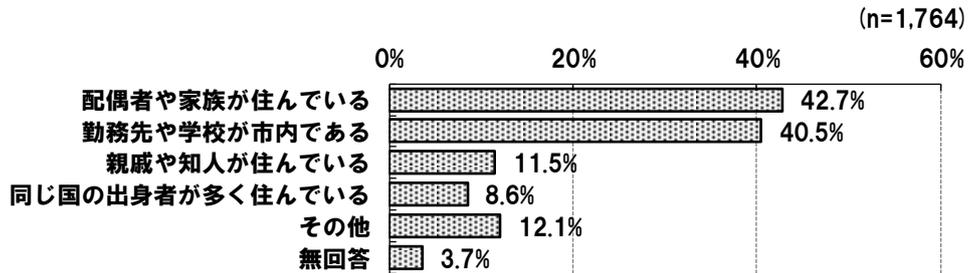
「互いに干渉しあわず、暮らしやすい」(63.5%)、「親密な人間関係があって、暮らしやすい」(16.6%)、「人間関係が薄く、さびしい」(16.3%)



(3) 横浜に住む理由

「配偶者や家族が住んでいる」(42.7%)、「勤務先や学校が市内である」(40.5%)

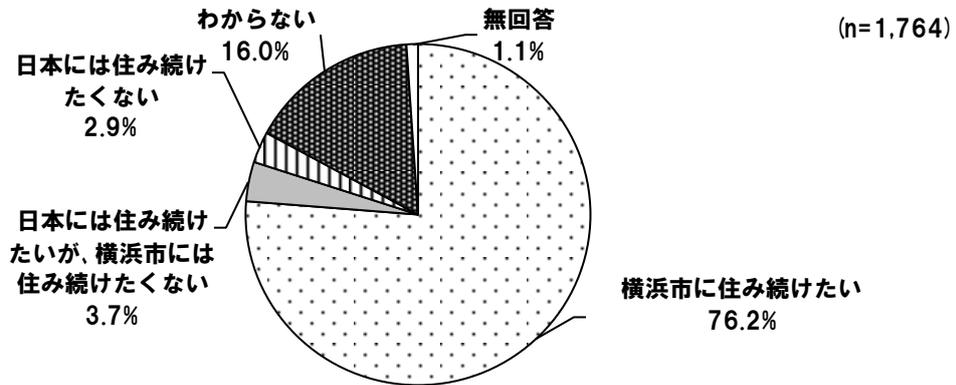
<横浜に住む理由(MA)>



(4) 日本または横浜市への定住希望

「横浜市に住み続けたい」(76.2%)

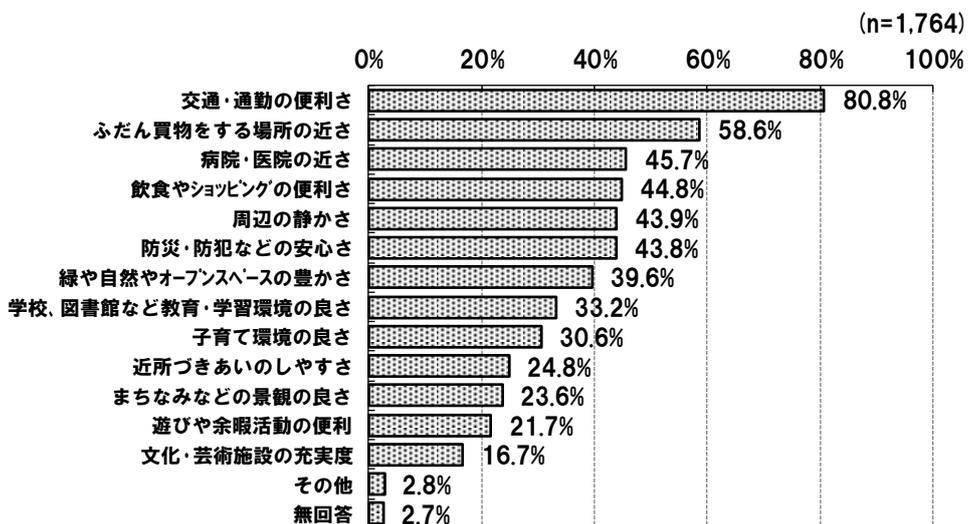
<日本または横浜市への定住希望(SA)>



(5) 特に重視する転居先の住まいの周辺の環境

「交通・通勤の便利さ」(80.8%)、「ふだん買い物をする場所の近さ」(58.6%)、「病院・医院の近さ」(45.7%)

<特に重視する転居先の住まいの周辺の環境(MA)>

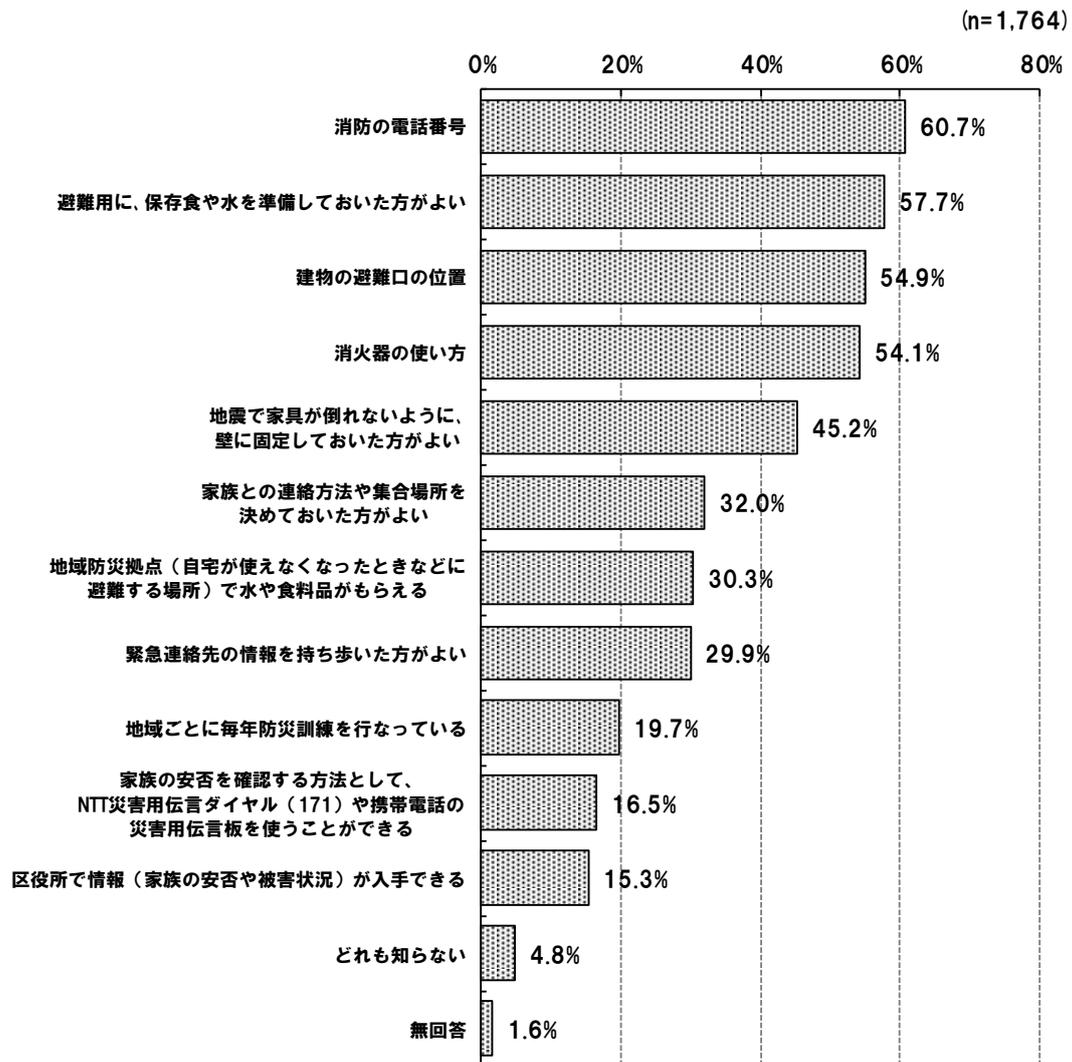


7. 防災について

(1) 災害に関する知識

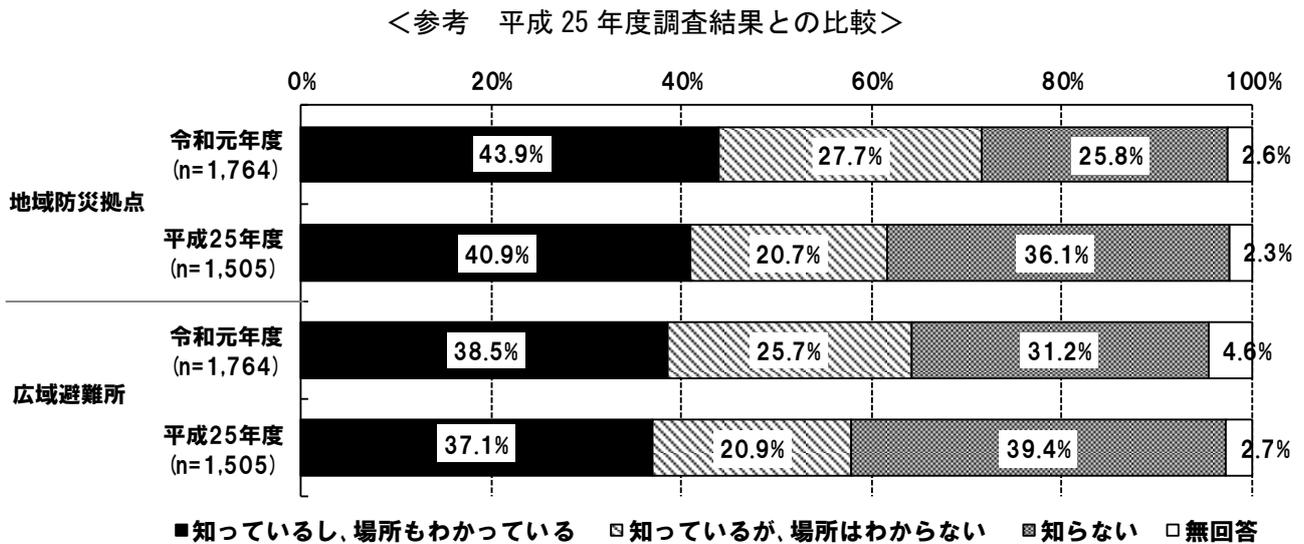
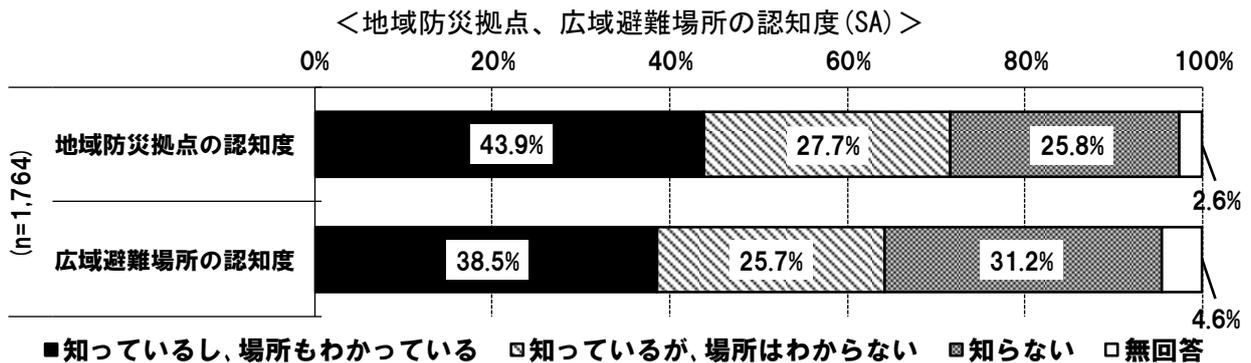
「消防の電話番号」(60.7%)、「避難用に、保存食や水を準備しておいた方がよい」(57.7%)、「建物の避難口の位置」(54.9%)、「消火器の使い方」(54.1%)が多い。

<災害に関する知識(MA)>



(2) 地域防災拠点、広域避難場所の認知度

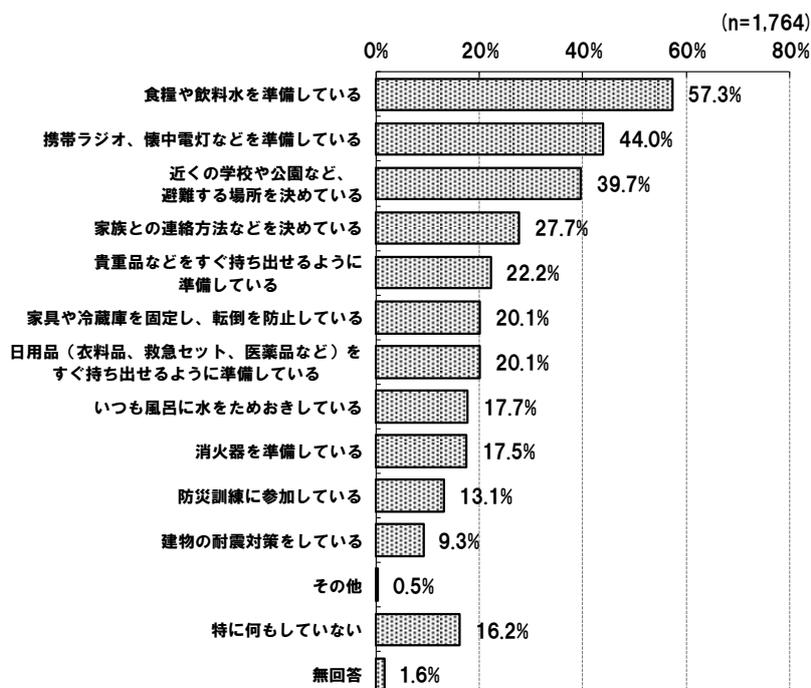
地域防災拠点および広域避難場所はいずれも「知っているし、場所もわかっている」が最も多い。平成25年度調査と比較すると、地域防災拠点については「知っているし、場所もわかっている」が3.0ポイント上昇している。広域避難場所については「知っているし、場所もわかっている」が1.4ポイント上昇している。地域防災拠点および広域避難場所の認知度がいずれも高くなっている。



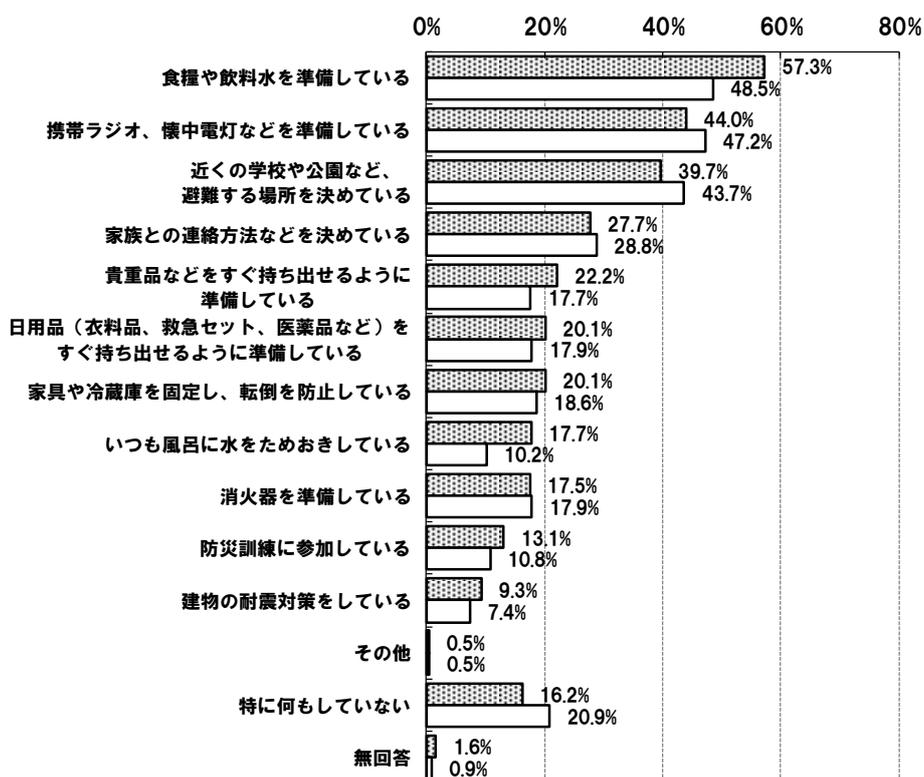
(3) 日頃からの災害への備え

「食糧や飲料水を準備している」(57.3%)、「携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している」(44.0%)、「近くの学校や公園など、避難する場所を決めている」(39.7%)
 平成 25 年度調査と比較すると、「食糧や飲料水を準備している」が 8.8 ポイント上昇している。

<日頃からの災害への備え (MA)>



<参考 平成 25 年度調査結果との比較>



□令和元年度 (n=1,764) □平成25年度 (n=1,505)

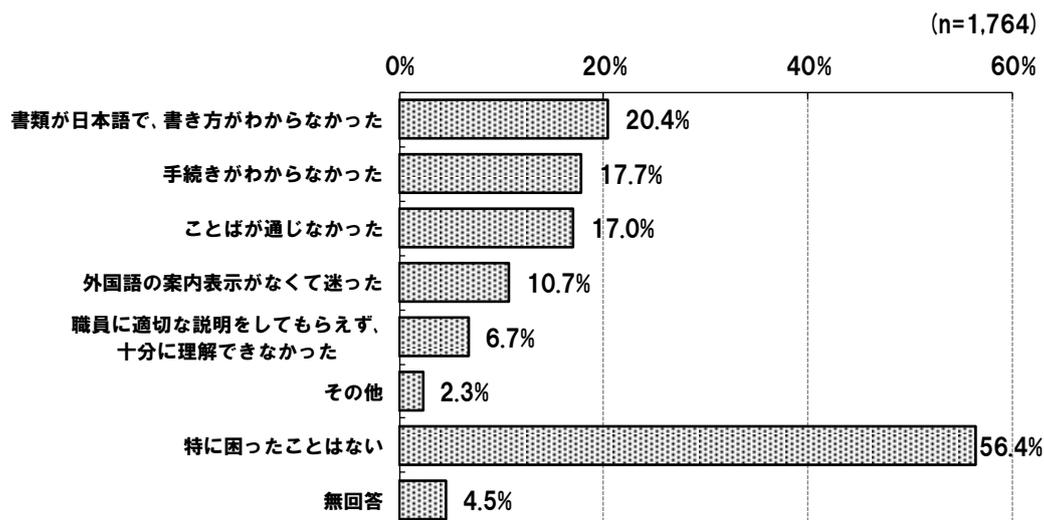
8. 行政窓口でのサービスについて

(1) 区役所などの行政窓口で、困ったことはあるか

「特に困ったことはない」(56.4%)が最も多い。

困ったことでは「書類が日本語で、書き方がわからなかった」(20.4%)、「手続きがわからなかった」(17.7%)、「ことばが通じなかった」(17.0%)が多い。

<区役所などの行政窓口で、困ったこと (MA)>

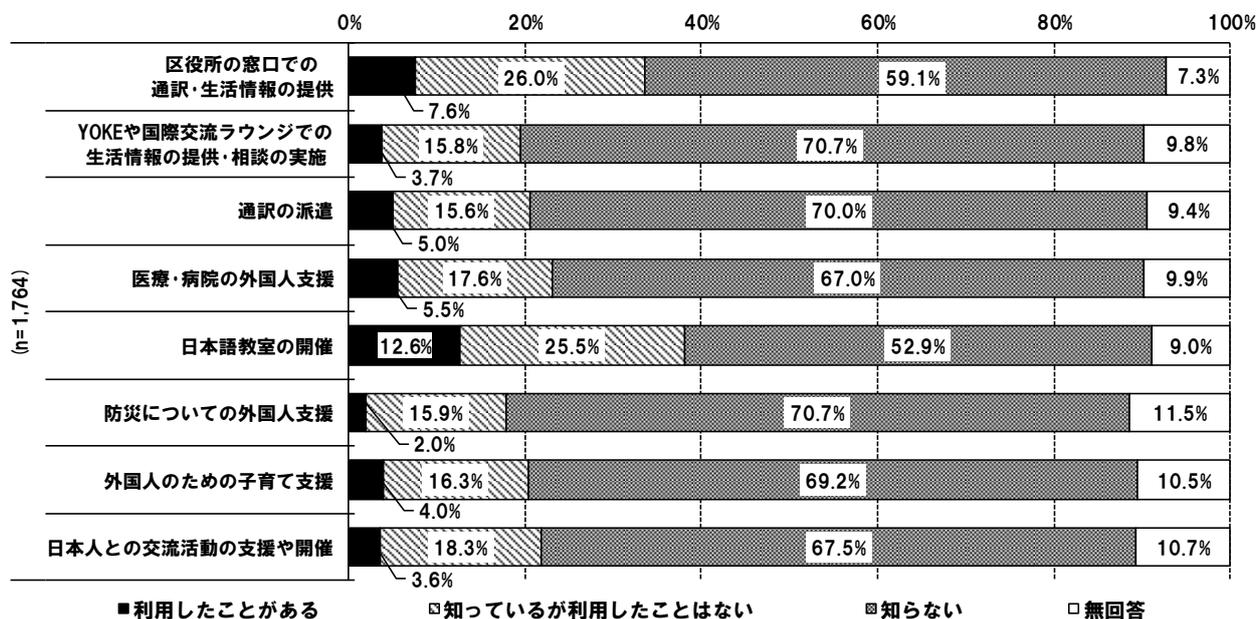


(2) 横浜市役所等の外国人支援サービスの認知度、満足度、重要度

① 認知度

認知度が高いサービスとして、「日本語教室の開催」(38.1%)、「区役所の窓口での通訳・生活情報の提供」(33.6%)、「医療・病院の外国人支援」(23.1%)が上位を占める。

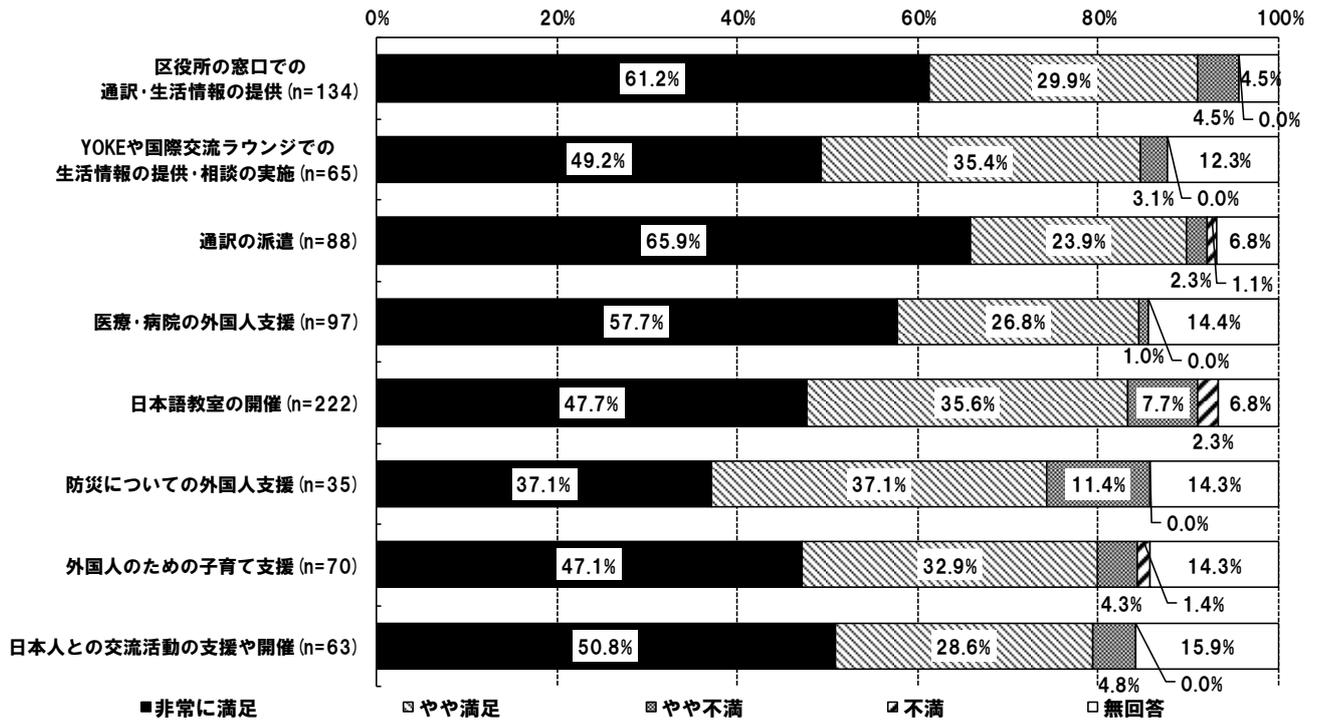
<外国人支援サービスに対する認知度 (SA)>



② 満足度

すべての外国人支援サービスでは、「非常に満足」と「やや満足」をあわせた数値が7割を超えている。なかでも「区役所の窓口での通訳・生活情報の提供」の満足度（91.0%）が最も高い。「通訳の派遣」の満足度（89.8%）はこれに次ぐ。

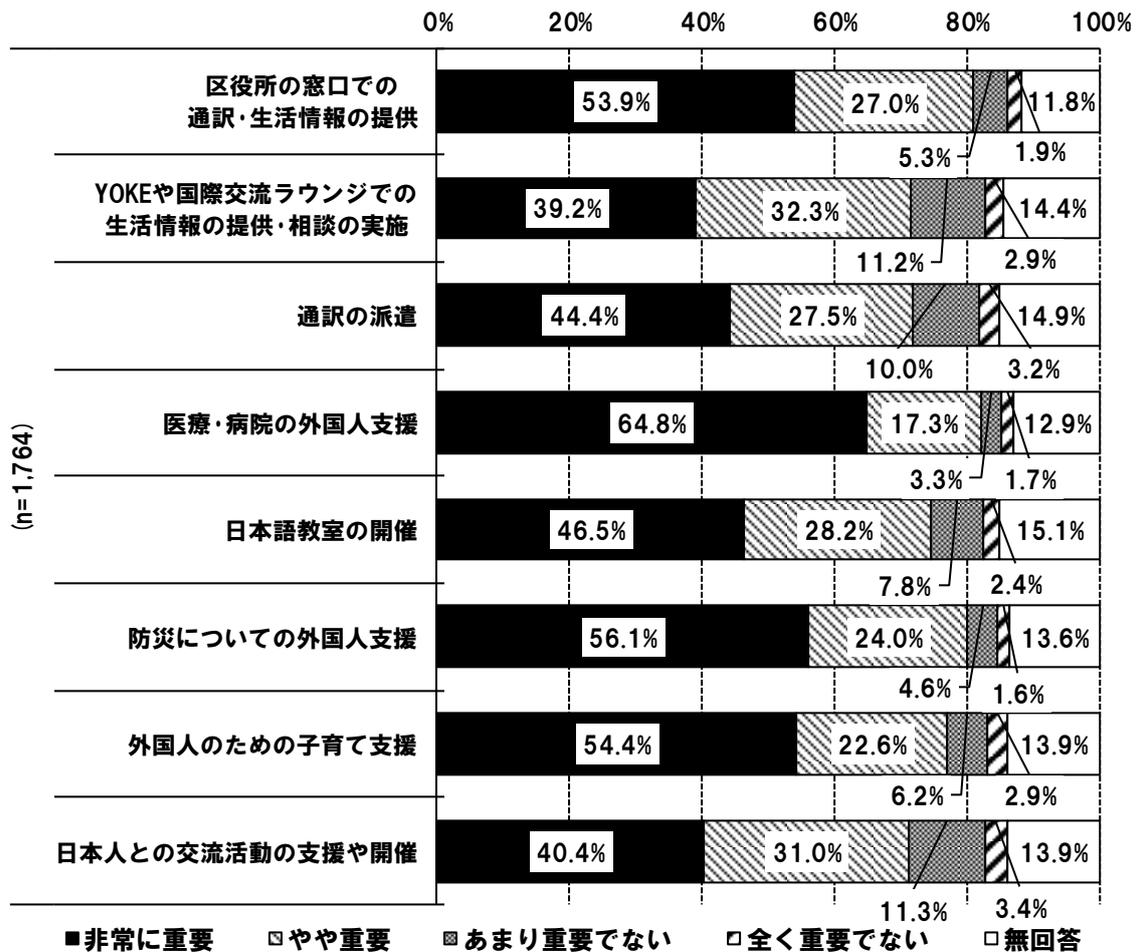
<外国人支援サービスに対する満足度(SA)>



③ 重要度

「非常に重要」と「やや重要」をあわせると、「医療・病院の外国人支援」の重要度（82.1%）が最も高い。「区役所の窓口での通訳・生活情報の提供」（81.0%）、「防災についての外国人支援」（80.1%）はこれに次ぐ。

<外国人支援サービスの重要度(SA)>

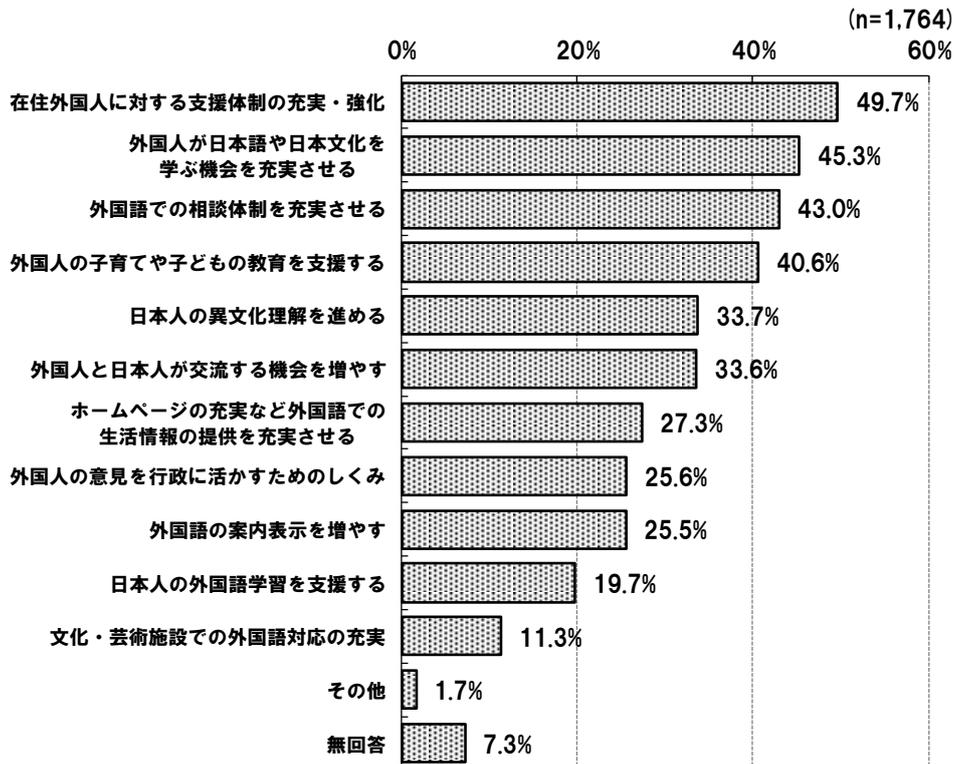


9. 多文化共生について

(1) 外国人にとって暮らしやすいまちにするために必要な取組

「在住外国人に対する支援体制の充実・強化」(49.7%)、「外国人が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させる」(45.3%)、「外国語での相談体制を充実させる」(43.0%)

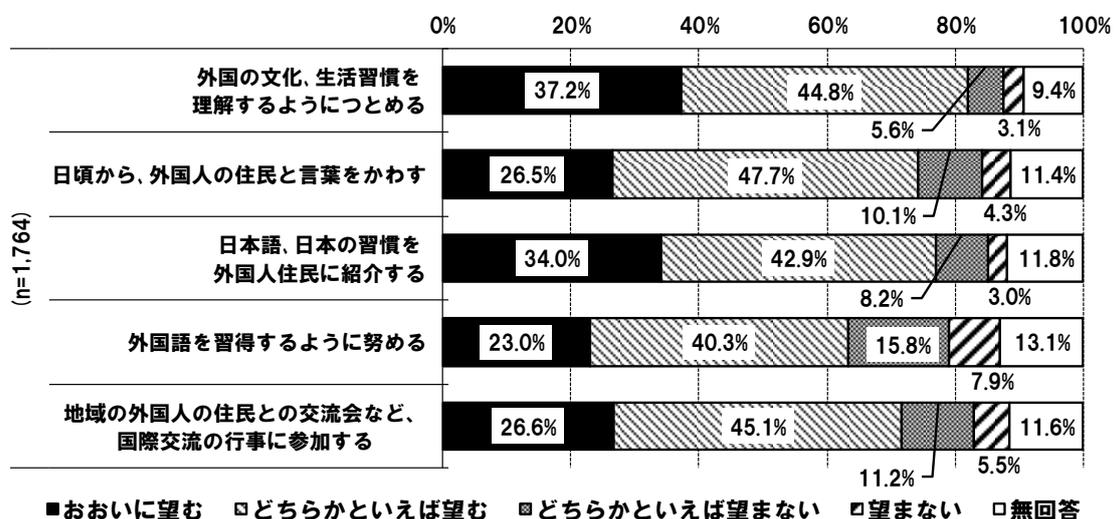
＜外国人にとって暮らしやすいまちにするために必要な取組(MA)＞



(2) 多文化共生のまちづくりについて日本人住民に望むこと

「外国の文化、生活習慣を理解するようにつとめる」(82.0%)、「日本語、日本の習慣を外国人住民に紹介する」(76.9%)、「日頃から、外国人の住民と言葉をかかわす」(74.2%)

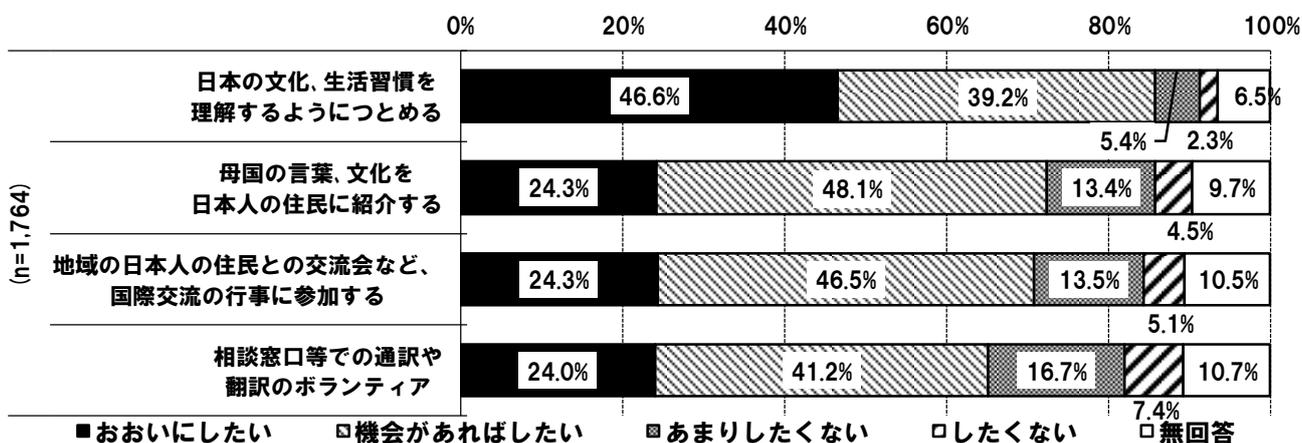
＜多文化共生のまちづくりについて日本人住民に望むこと(SA)＞



(3) 多文化共生のまちづくりについてしたいこと

「日本の文化、生活習慣を理解するようにつとめる」(85.8%)、「母国の言葉、文化を日本人の住民に紹介する」(72.4%)、「地域の日本人の住民との交流会など、国際交流の行事に参加する」(70.8%)

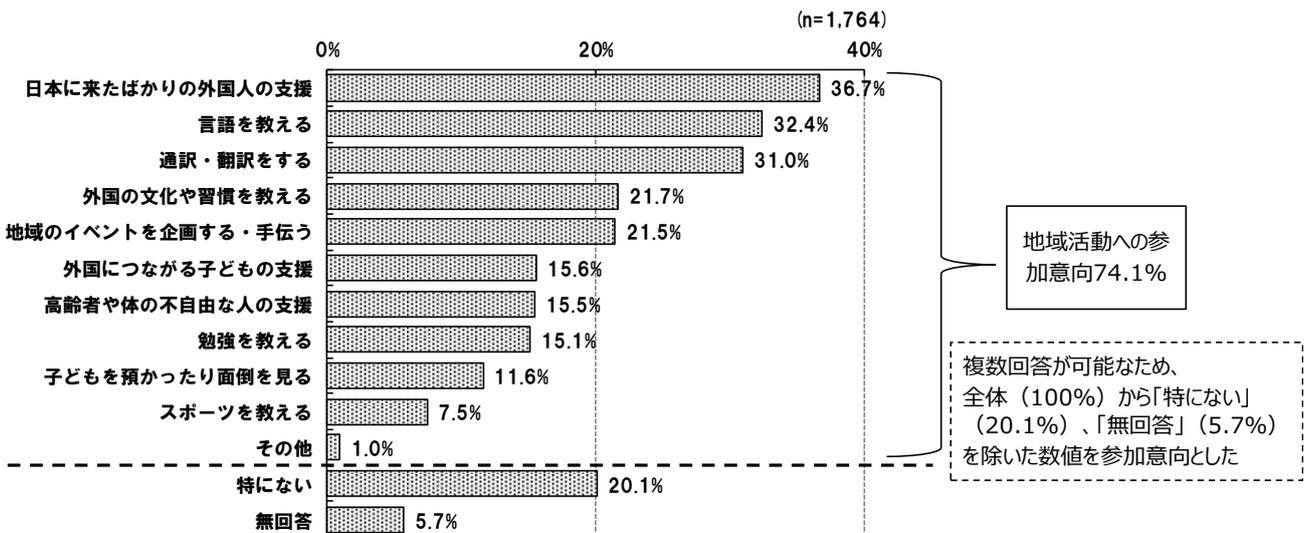
<多文化共生のまちづくりについてしたいこと (SA)>



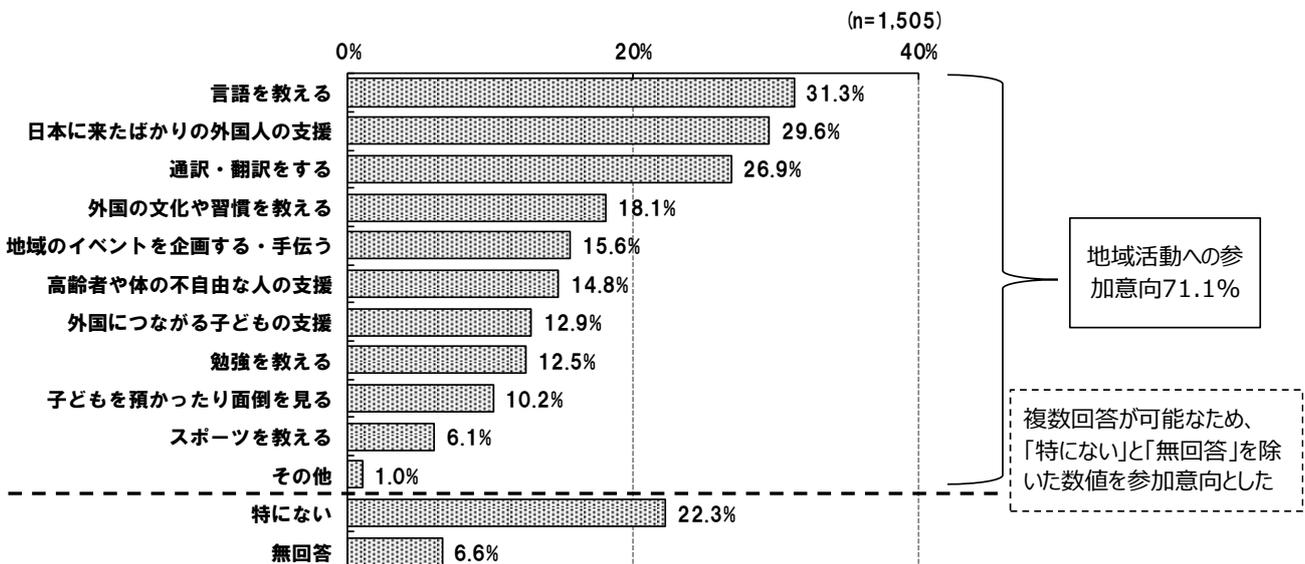
(4) やってみたいと思う地域活動

地域活動への参加意向を有している人の割合は 74.1%と高く、やってみたいと思う地域活動の内容では、「日本に来たばかりの外国人の支援」(36.7%)、「言語を教える」(32.4%)、「通訳・翻訳をする」(31.0%)

<やってみたいと思う地域活動(MA)>



<参考 平成 25 年度調査結果>

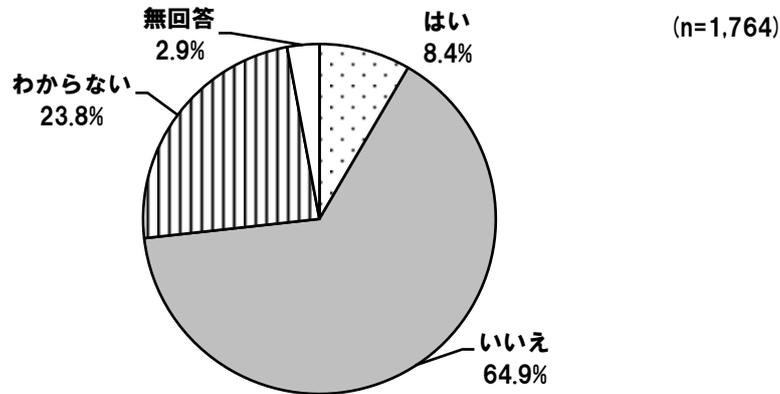


10. その他

(1) 前回調査への回答

「はい」(8.4%)、「いいえ」(64.9%)、「わからない」(23.8%)

＜前回調査に回答したか(SA)＞



(2) 横浜市にぜひ取り組んでほしいこと、日常生活の中で不便に感じていること、困っていること等

回答数 517 件 (1,764 件の 29.3%)、延べ意見数 813 件

延べ意見数の言語別割合では、「日本語」(35.1%)、「英語」(31.4%)、「中国語」(21.6%)、「ベトナム語」(6.8%)、「韓国語」(3.7%)、「ネパール語」(1.5%)

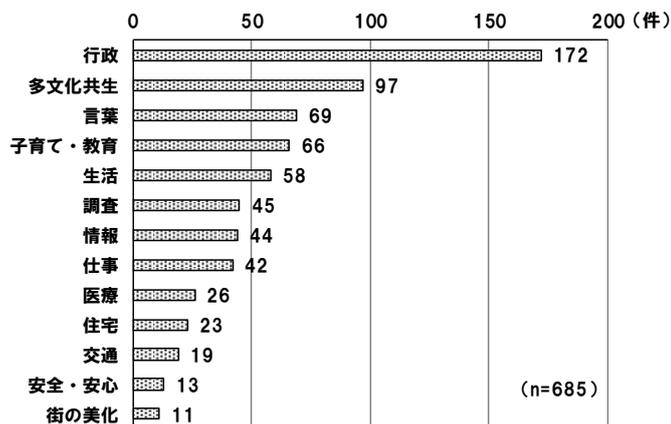
横浜での生活、市の施策や横浜市外国人意識調査の実施などを評価する意見は 128 件

要望に関する意見は 685 件 (84.3%) で、分野別に見ると、「行政」、「多文化共生」、「言葉」、「子育て・教育」、「生活」の順に多く、これら上位 5 位で全体の約 7 割

＜回答言語別延べ件数＞

回答言語	延べ件数 (件)			構成比 (%)	
	評価	要望	合計	評価	要望
日本語	28	257	285	9.8	90.2
英語	56	199	255	22.0	78.0
中国語	24	152	176	13.6	86.4
韓国語	3	27	30	10.0	90.0
ベトナム語	14	41	55	25.5	74.5
ネパール語	3	9	12	25.0	75.0
総計	128	685	813	15.7	84.3

＜要望に関する意見の主な分野＞

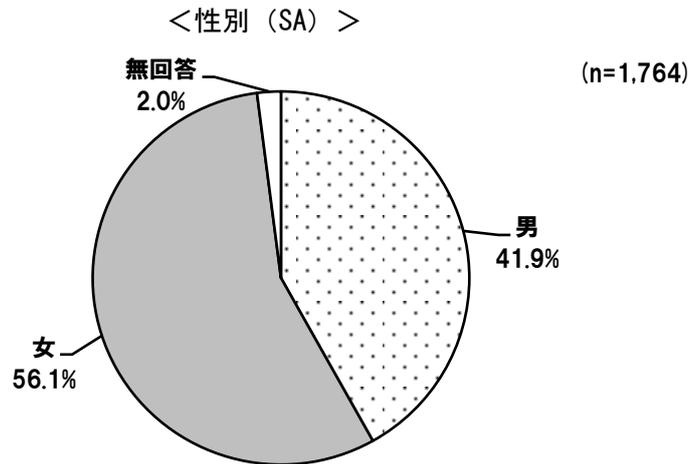


第 II 章 集計分析結果

1. 回答者の属性

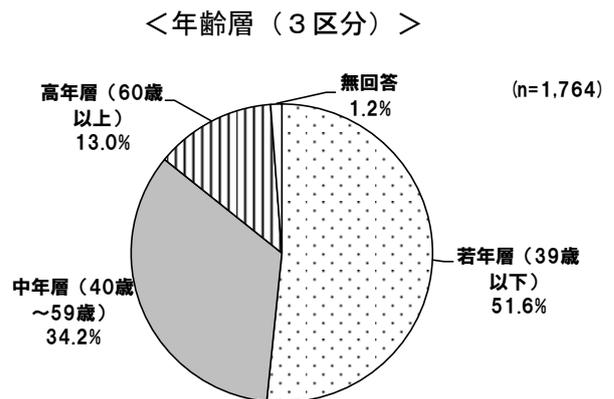
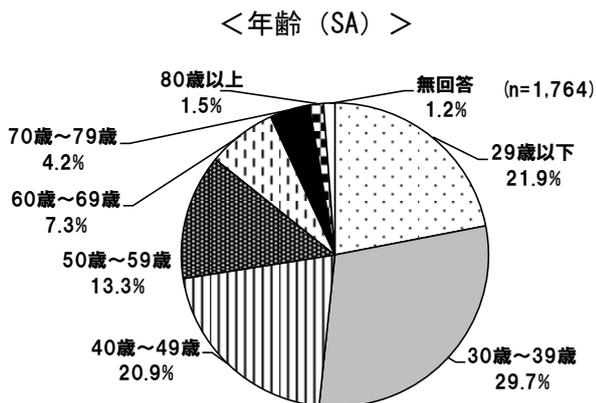
(1) 性別

- ・女性が 56.1%で、男性の 41.9%を 14.2 ポイント上回っている。



(2) 年齢

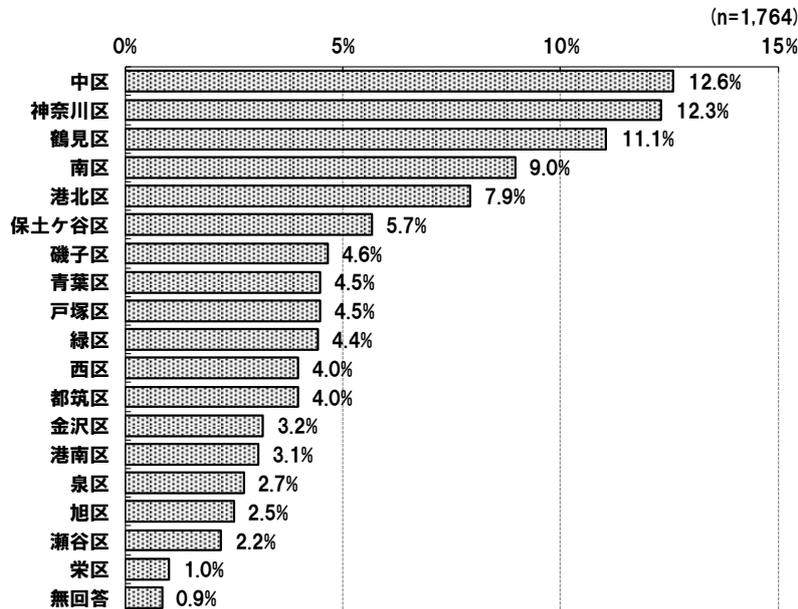
- ・回答者の年齢をみると、「30歳～39歳」が 29.7%と最も多い。次いで「29歳以下」(21.9%)、「40歳～49歳」(20.9%)の順となっている。
- ・39歳以下を「若年層」、40歳～59歳を「中年層」、60歳以上を「高年層」とした場合、「若年層」が全体の半数強を占めている。次いで「中年層」(34.2%)、「高年層」(13.0%)の順となっている



(3) 居住区

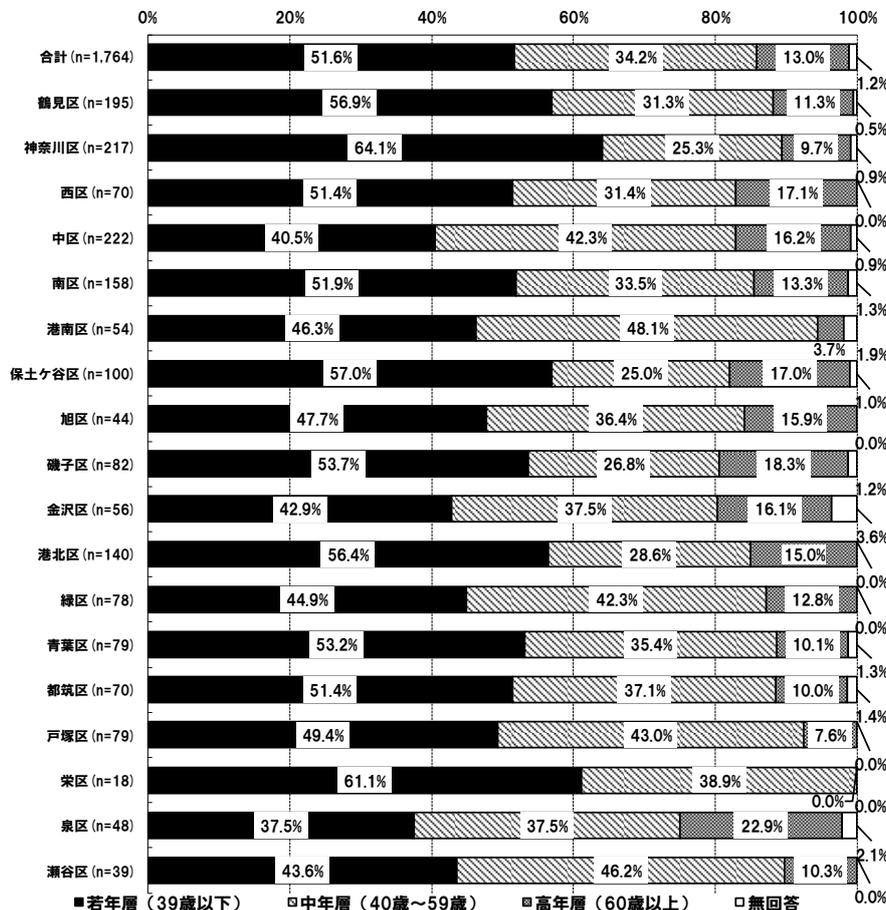
- ・「中区」の居住者が12.6%と最も多い。次いで「神奈川区」(12.3%)、「鶴見区」(11.1%)、「南区」(9.0%)の順となっている。

<居住区 (SA) >



- ・居住区別に年齢層を見ると、神奈川区における若年層の割合、港南区における中年層の割合、泉区における高年層の割合が、それぞれ市全体の数値と比べて10ポイント程度高くなっている。

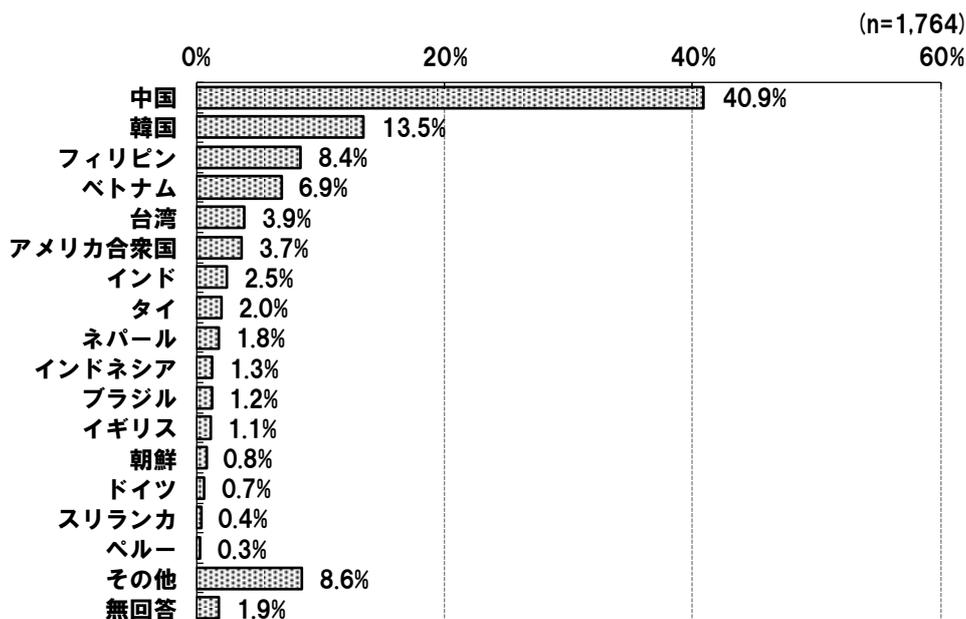
<居住区別 年齢層>



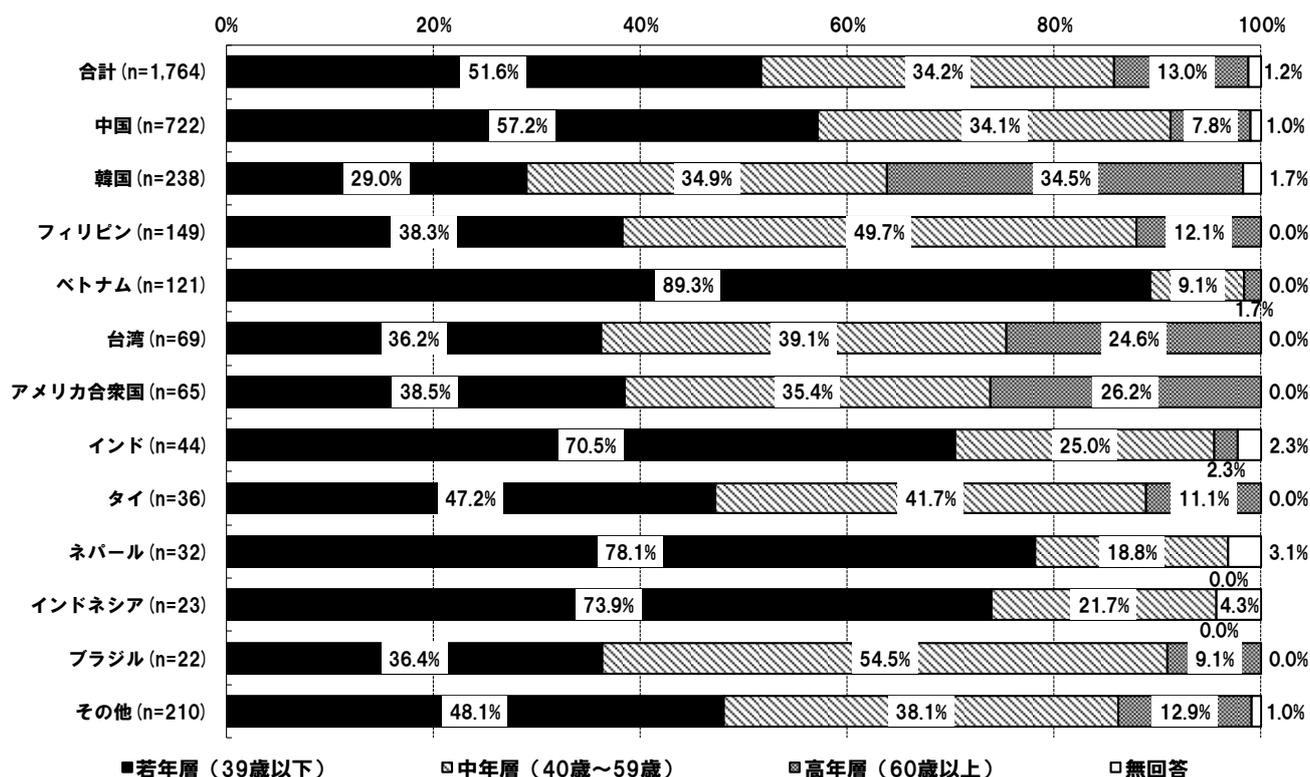
(4) 国籍・地域

- ・「中国」が40.9%と最も多い。次いで「韓国」(13.5%)、「フィリピン」(8.4%)、「ベトナム」(6.9%)の順となっている。上位4か国が全体の7割を占めている。
- ・国籍・地域別の年齢層分布をみると、若年層では「ベトナム」が約9割と最も高い。一方で、高年層では「韓国」が34.5%と最も高い。
- ・国籍・地域別の性別分布をみると、ベトナム、アメリカ合衆国、インド、ネパールおよびインドネシアにおける男性の割合が高くなっている。

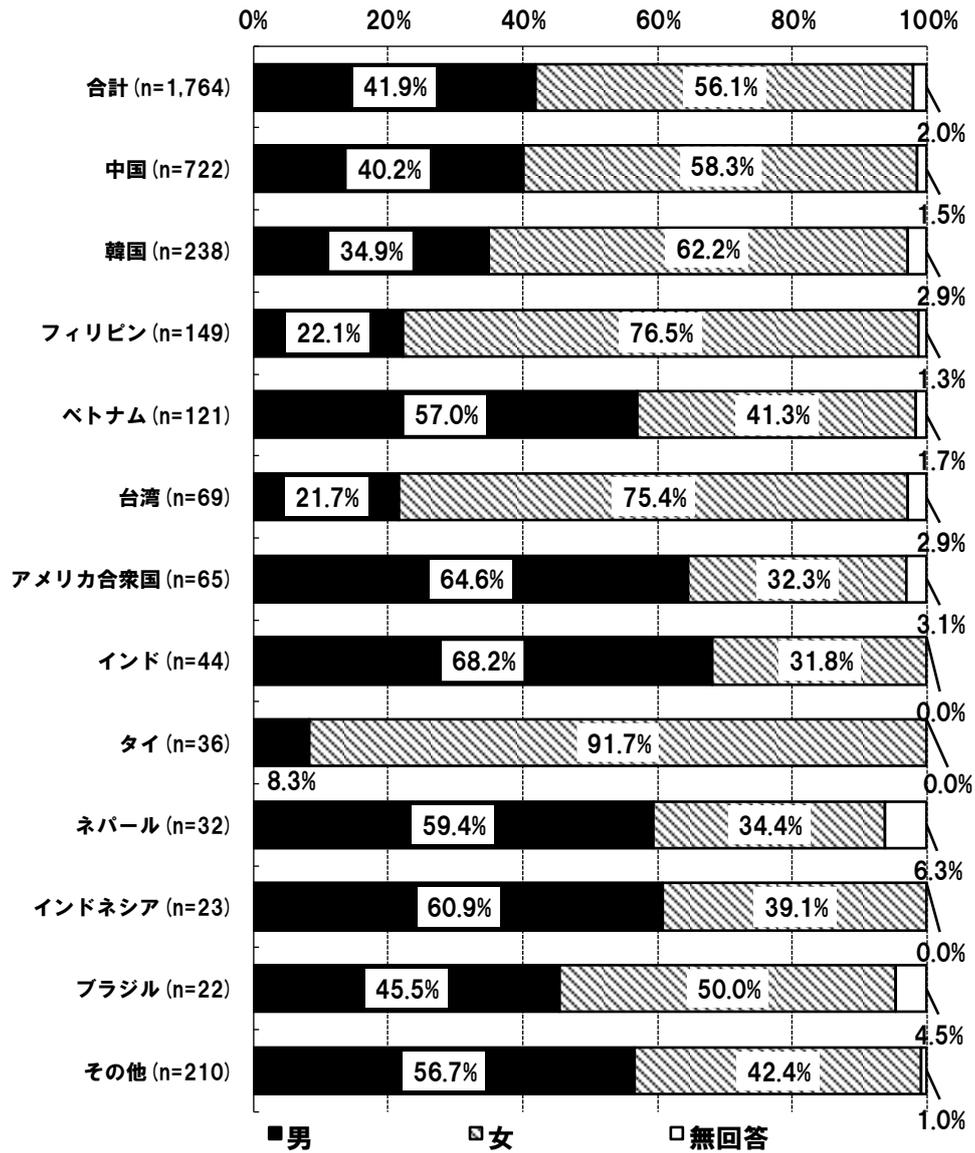
<国籍・地域 (SA) >



<国籍・地域別 年齢層>



<国籍・地域別 性別>

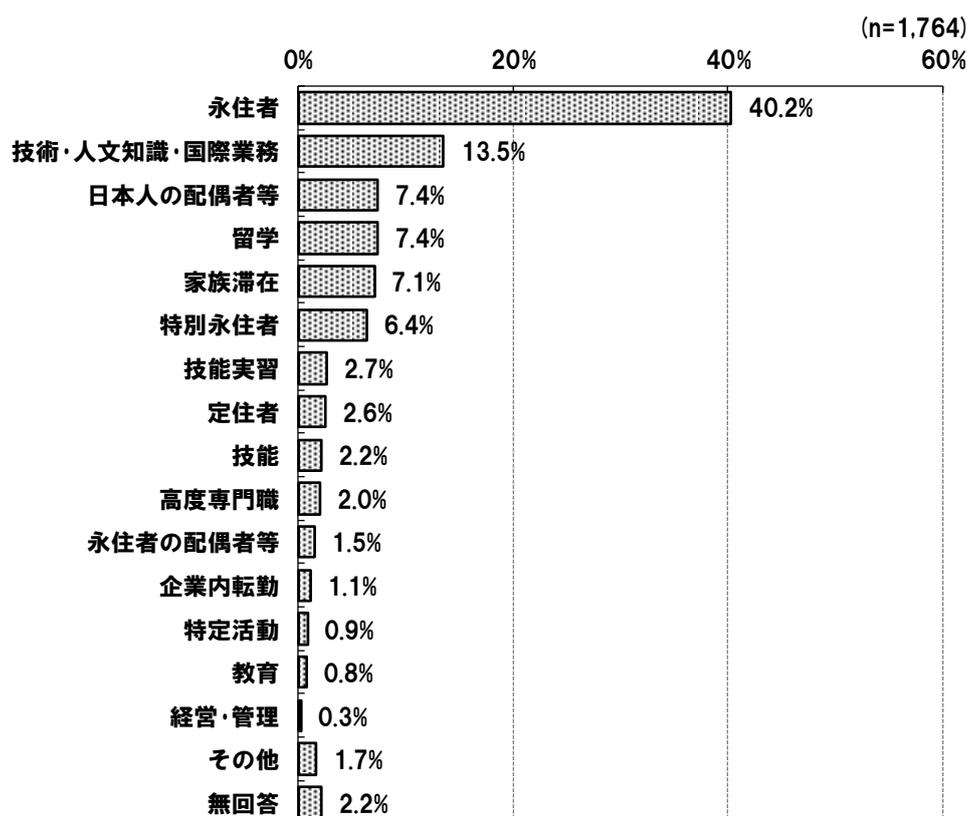


(5) 在留資格

① 現在の在留資格

- ・「永住者」が40.2%と最も多い。次いで「技術・人文知識・国際業務」(13.5%)、「日本人の配偶者等」(7.4%)、「留学」(7.4%)、「家族滞在」(7.1%)の順となっている。
- ・国籍・地域別の在留資格別についてみると、韓国では「特別永住者」、ベトナムでは「技能実習」、インドでは「技術・人文知識・国際業務」、ネパールでは「家族滞在」が最も多くなっている。それ以外の国・地域では「永住者」が最も多くなっている。

<現在の在留資格 (SA) >



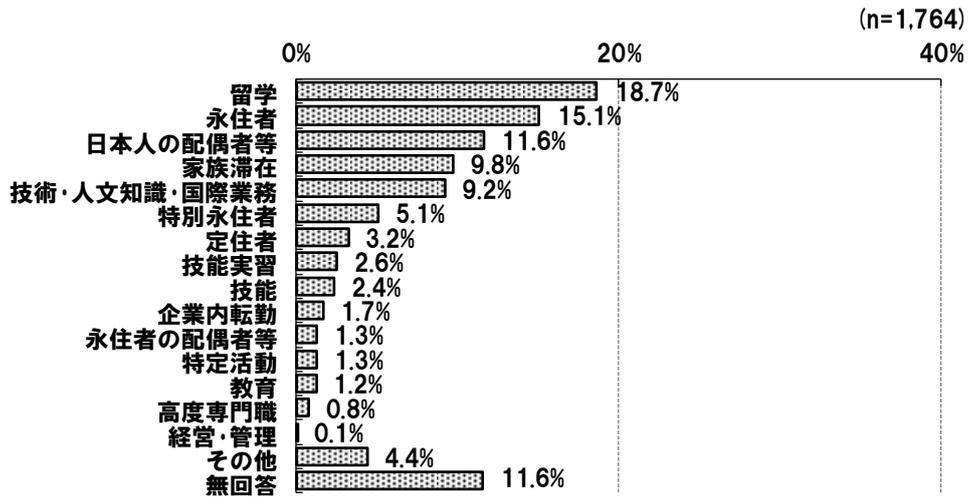
＜国籍・地域別 在留資格＞

	n	永住者	特別永住者	日本人の配偶者等	家族滞在	定住者	永住者の配偶者等	留学	技術・人文知識・国際業務	高度専門職	技能実習	企業内転勤	技能	特定活動	教育	経営・管理	その他	無回答
		%																
合計	1,764	40.2	6.4	7.4	7.1	2.6	1.5	7.4	13.5	2.0	2.7	1.1	2.2	0.9	0.8	0.3	1.7	2.2
中国	722	44.7	0.4	2.9	9.8	2.1	1.8	9.3	15.2	2.8	1.0	1.0	4.7	1.0	0.0	0.4	1.4	1.5
韓国	238	30.7	40.3	9.2	1.7	0.8	0.4	1.7	8.8	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	4.2
フィリピン	149	50.3	0.7	14.8	2.7	7.4	4.0	0.7	10.1	0.7	3.4	2.0	0.7	1.3	0.7	0.0	0.0	0.7
ベトナム	121	15.7	0.0	2.5	11.6	0.8	0.0	16.5	19.0	1.7	25.6	0.8	0.8	0.8	0.0	0.0	1.7	2.5
台湾	69	43.5	1.4	13.0	2.9	2.9	2.9	8.7	20.3	1.4	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0
アメリカ合衆国	65	46.2	0.0	15.4	4.6	1.5	1.5	3.1	13.8	3.1	0.0	1.5	0.0	0.0	7.7	0.0	1.5	0.0
インド	44	20.5	0.0	4.5	13.6	4.5	2.3	2.3	36.4	0.0	0.0	4.5	2.3	0.0	0.0	0.0	4.5	4.5
タイ	36	61.1	0.0	22.2	2.8	0.0	0.0	8.3	2.8	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ネパール	32	9.4	0.0	0.0	25.0	9.4	0.0	21.9	12.5	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	6.3	12.5
インドネシア	23	39.1	0.0	8.7	4.3	0.0	0.0	13.0	4.3	4.3	8.7	0.0	0.0	13.0	0.0	0.0	4.3	0.0
ブラジル	22	54.5	0.0	22.7	0.0	18.2	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	210	44.8	5.7	10.5	4.8	1.9	1.0	6.7	10.0	3.8	0.5	1.4	0.0	1.0	3.8	0.0	3.3	1.0

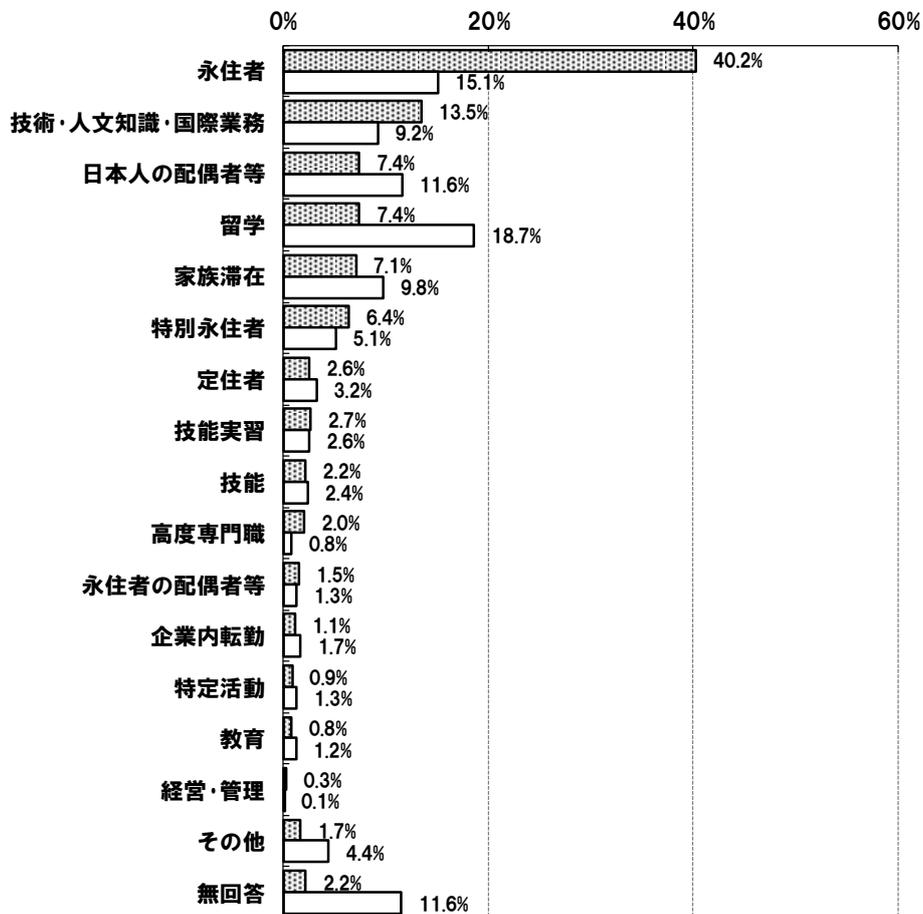
② 初めて日本に来た時の在留資格

- ・「留学」が18.7%と最も多い。次いで「永住者」(15.1%)、「日本人の配偶者等」(11.6%)、「家族滞在」(9.8%)の順となっている。
- ・現在の在留資格と比較してみると、「永住者」が25.1ポイント増加し、「留学」が11.3ポイント減少している。

<初めて日本に来た時の在留資格 (SA) >



<現在の在留資格との比較>

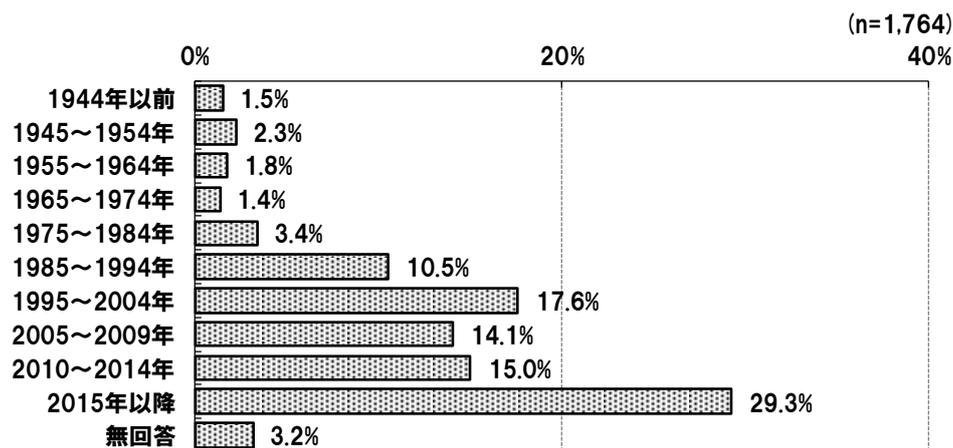


■現在の在留資格 (n=1,764) □初めて日本に来た時の在留資格 (n=1,764)

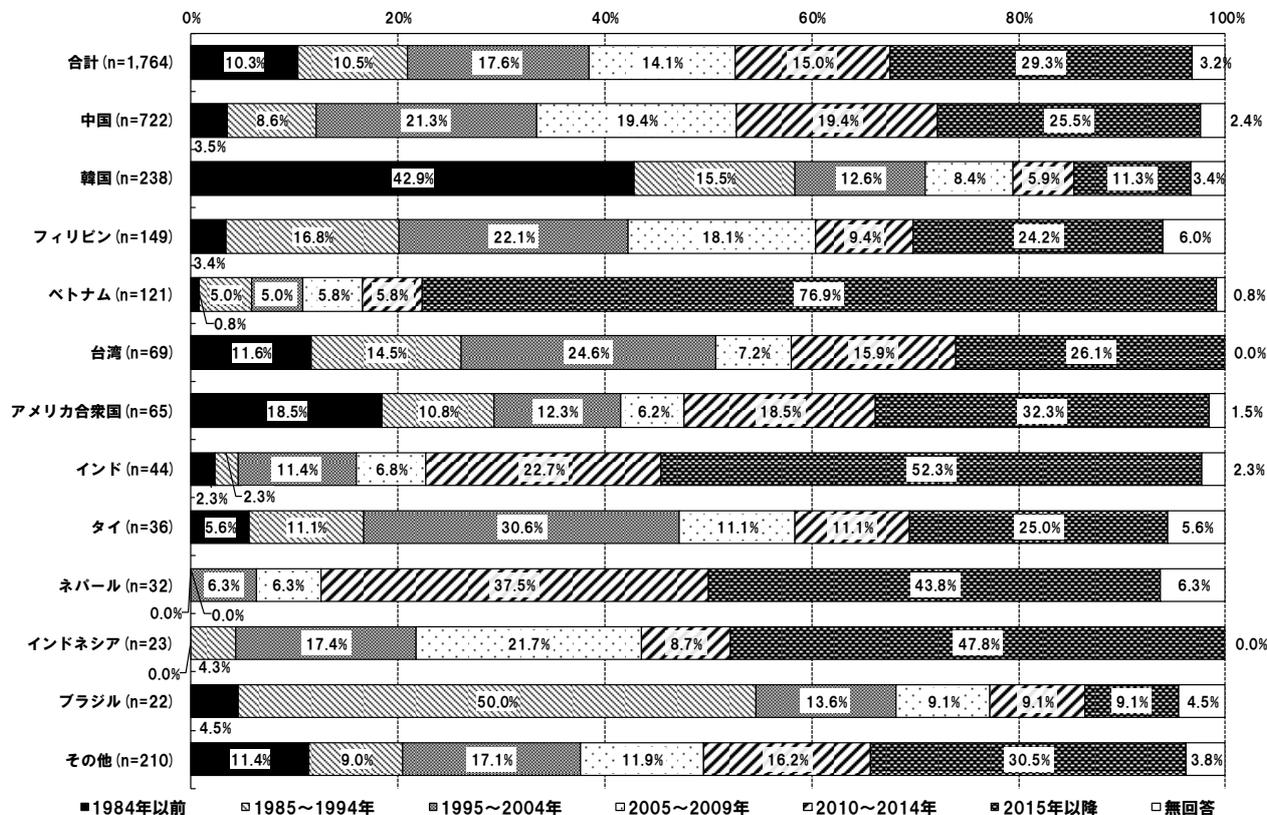
(6) 日本での居住開始時期

- ・「2015年以降」が29.3%と最も多い。次いで「1995～2004年」(17.6%)、「2010年～2014年」(15.0%)、「2005～2009年」(14.1%)の順となっている。2010年以降に日本で居住し始めた人が全体の44.3%を占めている。
- ・国籍・地域別にみると、韓国では「1984年以前」、タイでは「1995～2004年」、ブラジルでは「1985～1994年」がそれぞれ最も多くなっている。それ以外の国・地域では「2015年以降」が最も多く、なかでもベトナムが76.9%と全体平均を大きく上回っている。

<日本での居住開始時期 (SA) >



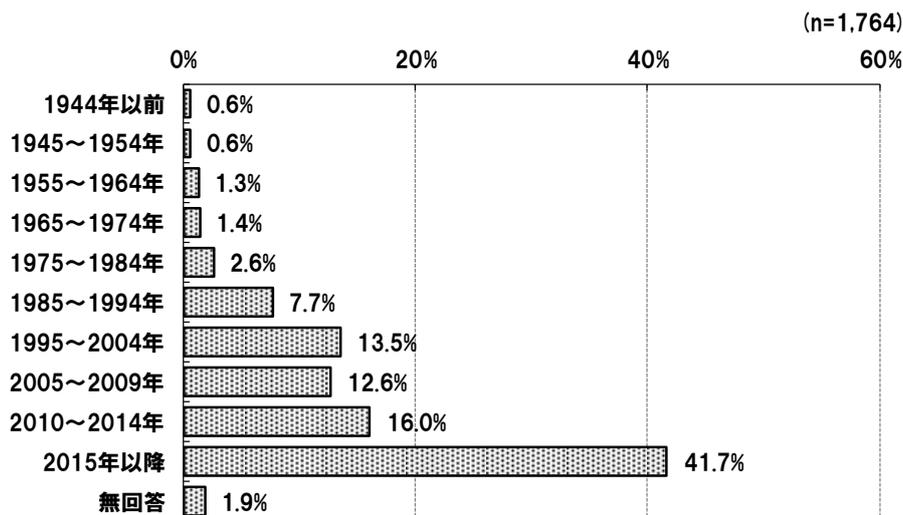
<国籍・地域別 日本での居住開始時期>



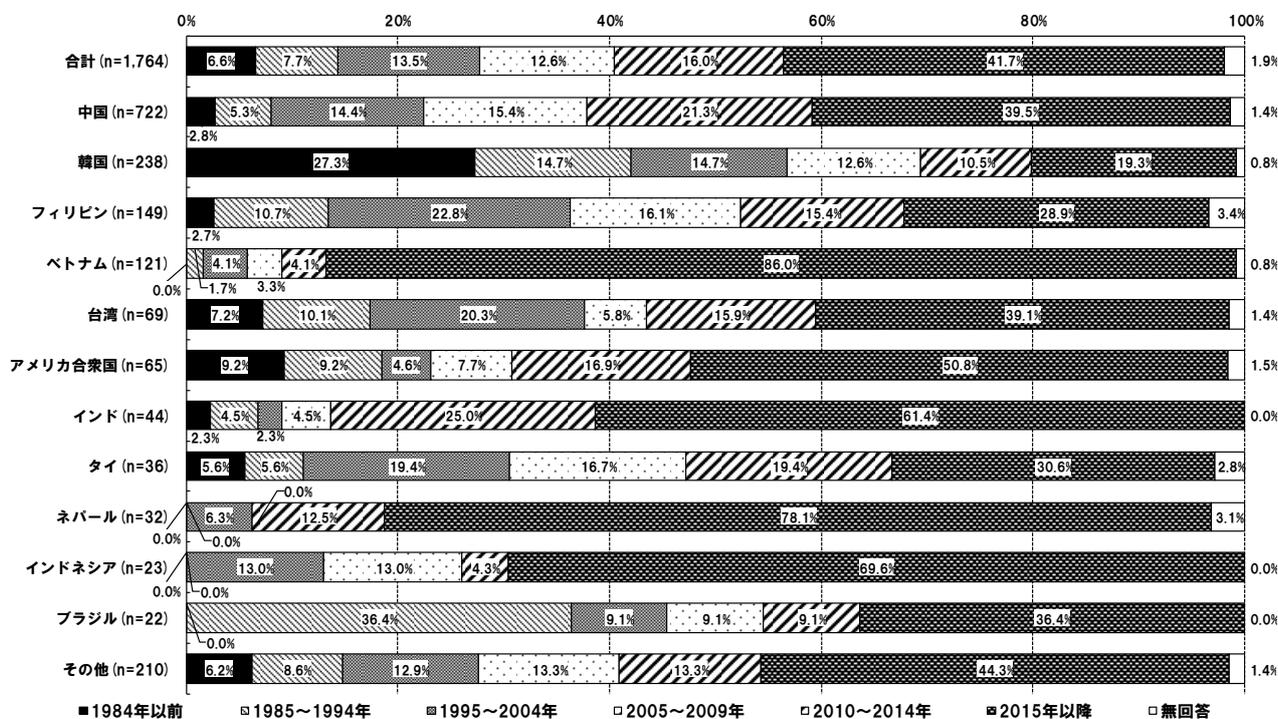
(7) 横浜市での居住開始時期

- ・「2015年以降」が41.7%と最も多い。2010年以降に横浜市で居住し始めた人が全体の57.7%を占めている。
- ・国籍・地域別にみると、韓国では「1984年以前」が最も多くなっている。ブラジルでは、「1985～1994年」と「2015年以降」が同率である。それ以外の国・地域では「2015年以降」が最も多く、なかでもベトナムが86.0%と全体平均を大きく上回っている。

<横浜市での居住開始時期 (SA) >



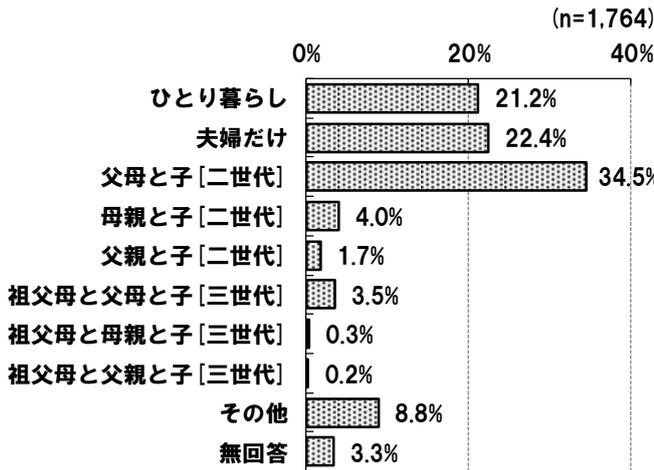
<国籍・地域別 横浜市での居住開始時期>



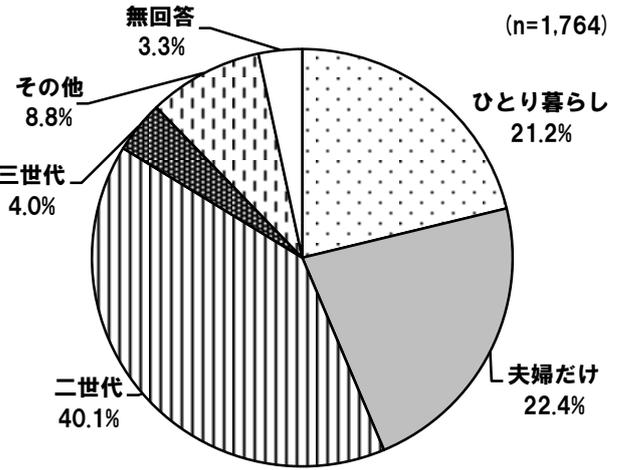
(8) 家族構成

- ・「父母と子〔二世代〕」が34.5%と最も多い。これに「母親と子（二世代）」「父親と子（二世代）」を合わせると、「二世代」が全体の40.1%を占めることとなっている。
- ・年齢層別にみると、若年層（39歳以下）および中年層（40歳～59歳）では「二世代」、高年層（60歳以上）では「夫婦だけ」が最も多くなっている。

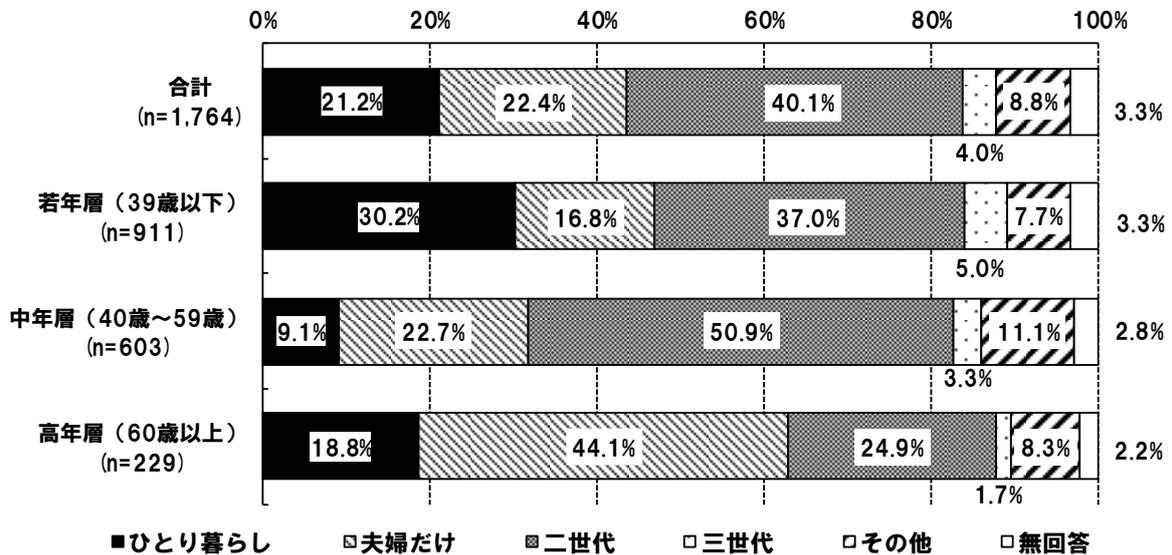
<家族構成 (SA)>



<家族構成 (5区分)>



<年齢層別 家族構成>

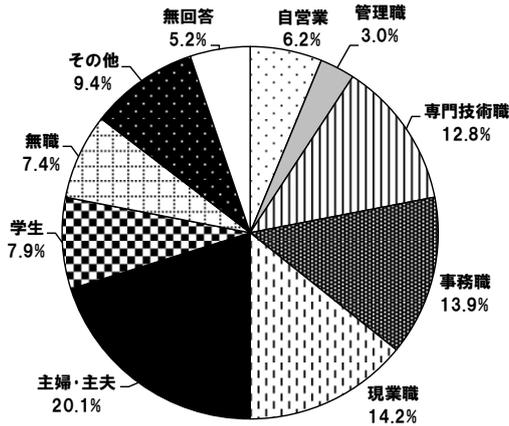


(9) 職業

- ・「主婦・主夫」が 20.1%と最も多い。次いで「現業職」(14.2%)、「事務職」(13.9%)、「専門技術職」(12.8%) の順となっている。
- ・国籍・地域別にみると、フィリピン、ベトナム、ブラジルでは「現業職」、アメリカ合衆国では「事務職」、インドでは「専門技術職」、ネパールでは「学生」がそれぞれ最も多くなっている。それ以外の国・地域では「主婦・主夫」が最も多くなっている。

<職業 (SA) >

(n=1,764)



自営業 (農林漁業、商工サービス業、自由業の自営業主および家族従業者)
 管理職 (会社の部長級以上など)
 専門技術職 (勤務医師、研究所研究員、技師など)
 事務職 (事務職、営業職、教員など)
 現業職 (生産工程、販売・サービス業、運転手、保安職などの従事者)
 主婦・主夫
 学生
 無職
 その他

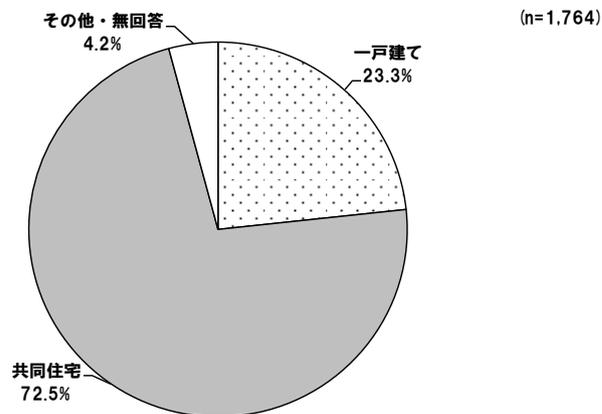
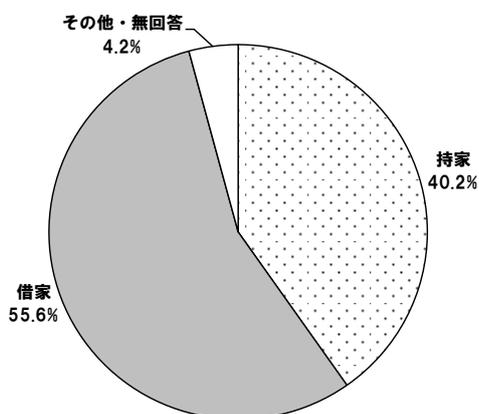
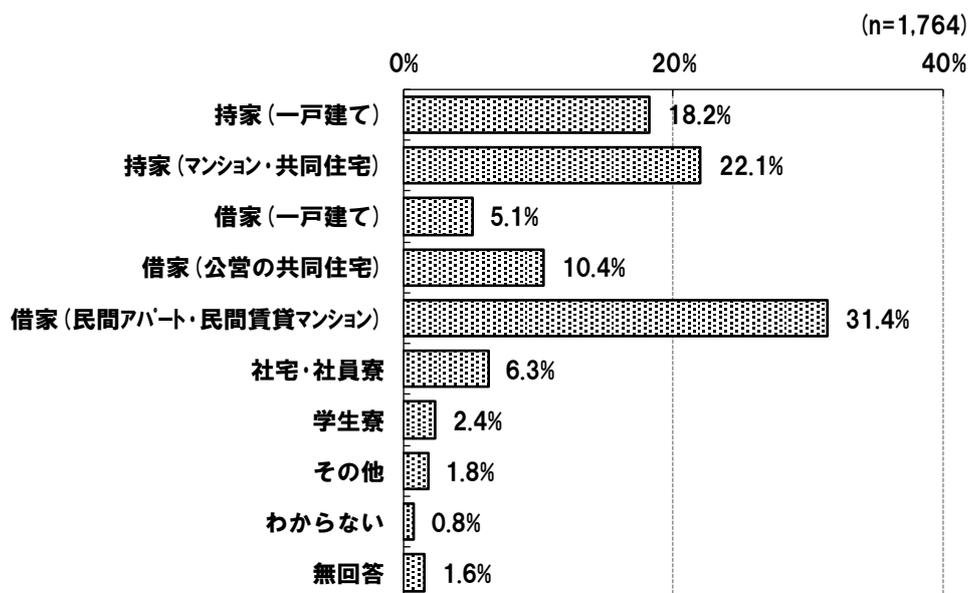
<国籍・地域別 職業>

	n	自営業	管理職	専門技術職	事務職	現業職	主婦・主夫	学生	無職	その他	無回答
		%									
合計	1,764	6.2	3.0	12.8	13.9	14.2	20.1	7.9	7.4	9.4	5.2
中国	722	5.1	1.8	13.3	14.1	12.3	23.4	10.0	7.1	9.3	3.6
韓国	238	10.5	7.1	8.4	16.0	6.7	28.6	3.4	11.8	6.3	1.3
フィリピン	149	4.7	0.0	12.8	8.1	28.2	17.4	0.7	7.4	8.7	12.1
ベトナム	121	4.1	0.0	16.5	9.9	28.9	8.3	14.0	3.3	9.9	5.0
台湾	69	4.3	0.0	11.6	20.3	5.8	27.5	8.7	5.8	14.5	1.4
アメリカ合衆国	65	10.8	10.8	4.6	36.9	4.6	13.8	3.1	4.6	4.6	6.2
インド	44	4.5	6.8	54.5	6.8	6.8	13.6	0.0	2.3	2.3	2.3
タイ	36	2.8	0.0	5.6	2.8	13.9	44.4	8.3	8.3	8.3	5.6
ネパール	32	0.0	0.0	3.1	6.3	18.8	9.4	21.9	3.1	6.3	31.3
インドネシア	23	0.0	0.0	13.0	4.3	17.4	26.1	13.0	4.3	17.4	4.3
ブラジル	22	9.1	0.0	9.1	9.1	27.3	9.1	9.1	9.1	18.2	0.0
その他	210	7.6	6.2	11.9	15.7	14.3	9.5	7.6	9.5	13.8	3.8

(10) 居住形態

- ・「借家（民間アパート・民間賃貸マンション）」が31.4%と最も多い。次いで「持家（マンション・共同住宅）」（22.1%）、「持家（一戸建て）」（18.2%）の順となっている。
- ・持家・借家の別にみると、借家が全体の55.6%を占めている。また、一戸建て・共同住宅の別にみると、共同住宅が全体の72.5%を占めている。

<現在の住まい（SA）>

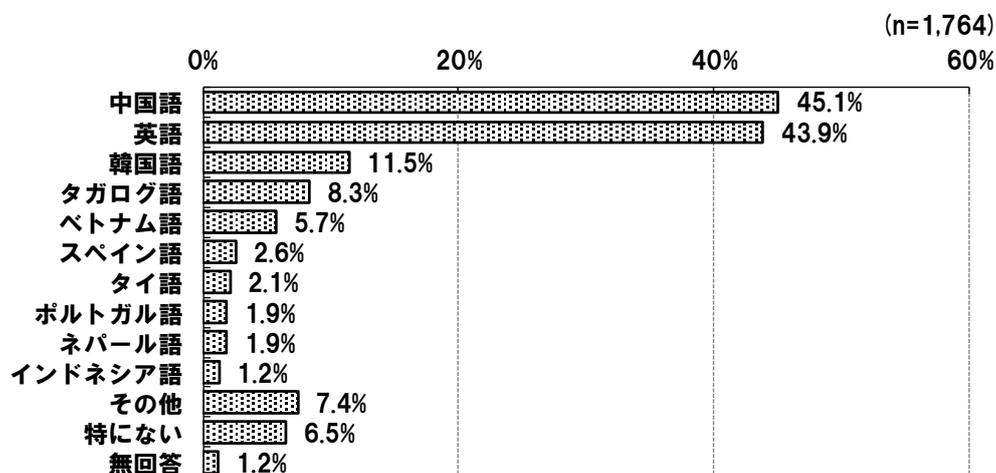


2. ことばについて

(1) 日本語以外で日常会話のできる言語

・「中国語」が45.1%と最も多い。次いで「英語」(43.9%)、「韓国語」(11.5%)の順となっている。

<日本語以外で日常会話のできる言語 (MA) >



■国籍・地域別 日本語以外で日常会話のできる言語

・国籍・地域別にみると、概ね母国の公用語の割合が圧倒的に高い状況にある。また、韓国では「特にない」の割合が高くなっている。

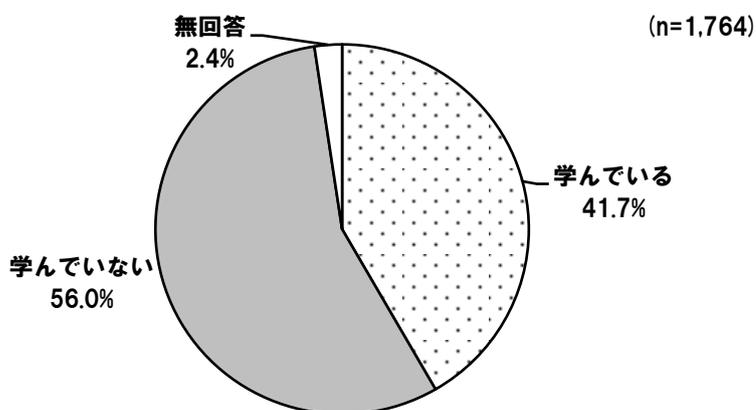
<国籍・地域別 日本語以外で日常会話のできる言語>

	n	英語	中国語	韓国語	スペイン語	ポルトガル語	タガログ語	ベトナム語	ネパール語	インドネシア語	タイ語	その他	特にない	無回答
		%												
合計	1,764	43.9	45.1	11.5	2.6	1.9	8.3	5.7	1.9	1.2	2.1	7.4	6.5	1.2
中国	722	27.1	95.7	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	2.9	0.3
韓国	238	22.3	2.1	66.8	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	27.3	2.9
フィリピン	149	85.2	0.0	0.7	2.7	0.7	96.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	0.0
ベトナム	121	38.0	4.1	0.0	2.5	4.1	0.0	81.0	0.0	0.0	0.0	0.8	6.6	1.7
台湾	69	42.0	88.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.2	7.2	1.4
アメリカ合衆国	65	96.9	3.1	1.5	4.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.6	1.5	1.5
インド	44	90.9	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	22.7	0.0	2.3
タイ	36	38.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
ネパール	32	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
インドネシア	23	43.5	8.7	0.0	0.0	0.0	8.7	0.0	0.0	95.7	0.0	4.3	0.0	4.3
ブラジル	22	31.8	0.0	0.0	27.3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0
その他	210	71.9	10.0	4.8	11.9	1.9	0.0	1.0	0.0	0.0	0.5	46.7	6.7	0.5

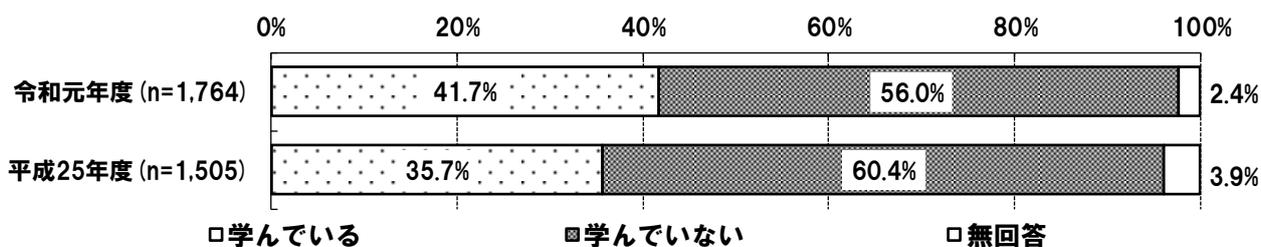
(2) 日本語を学んでいるか

- ・「学んでいない」が 56.0% で、「学んでいる」41.7% より 14.3 ポイント高くなっている。
- ・平成 25 年度調査と比較すると、「学んでいる」が 6.0 ポイント増加し、「学んでいない」が 4.4 ポイント減少している。

<日本語を学んでいるか (SA) >



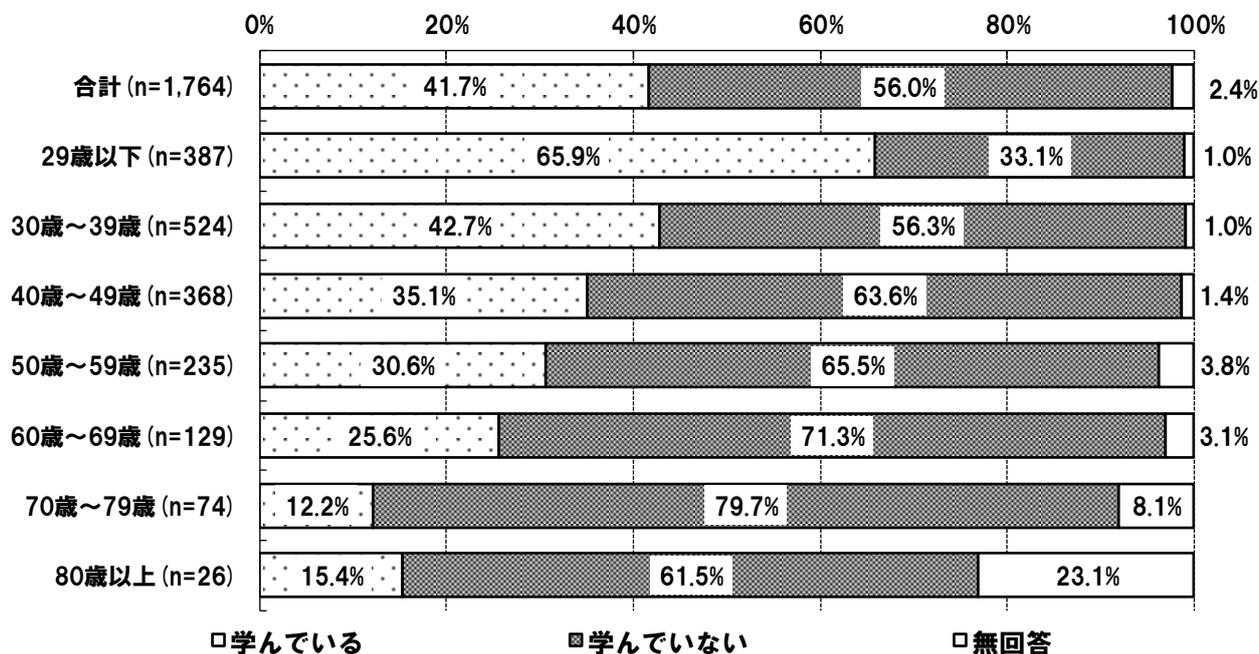
<参考 平成 25 年度調査結果との比較>



■年齢別 日本語の学習状況

- ・概ね年齢が若いほど「学んでいる」の割合が高くなる傾向にある。29 歳以下では、「学んでいる」が「学んでいない」を大きく上回っている。

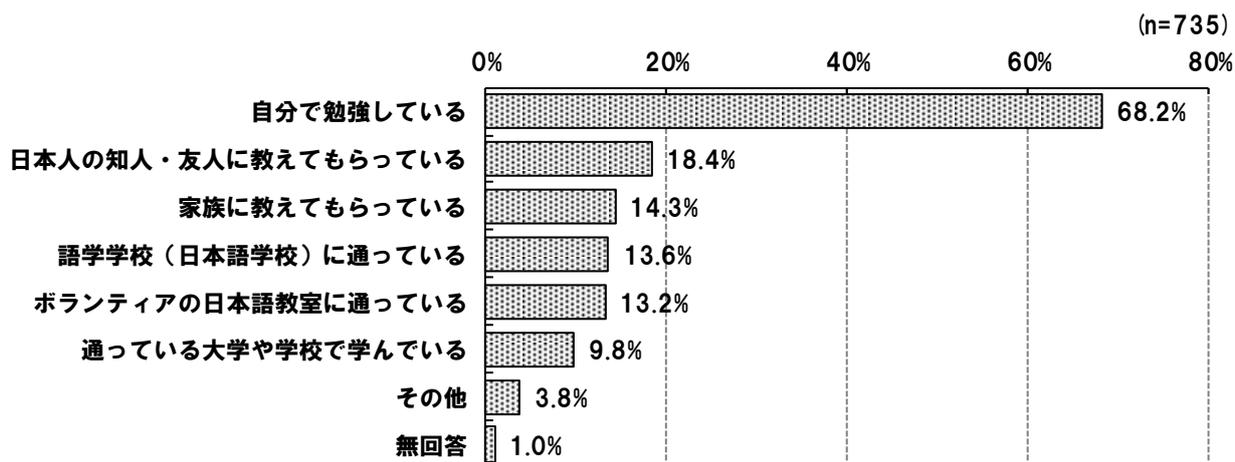
<年齢別 日本語の学習状況>



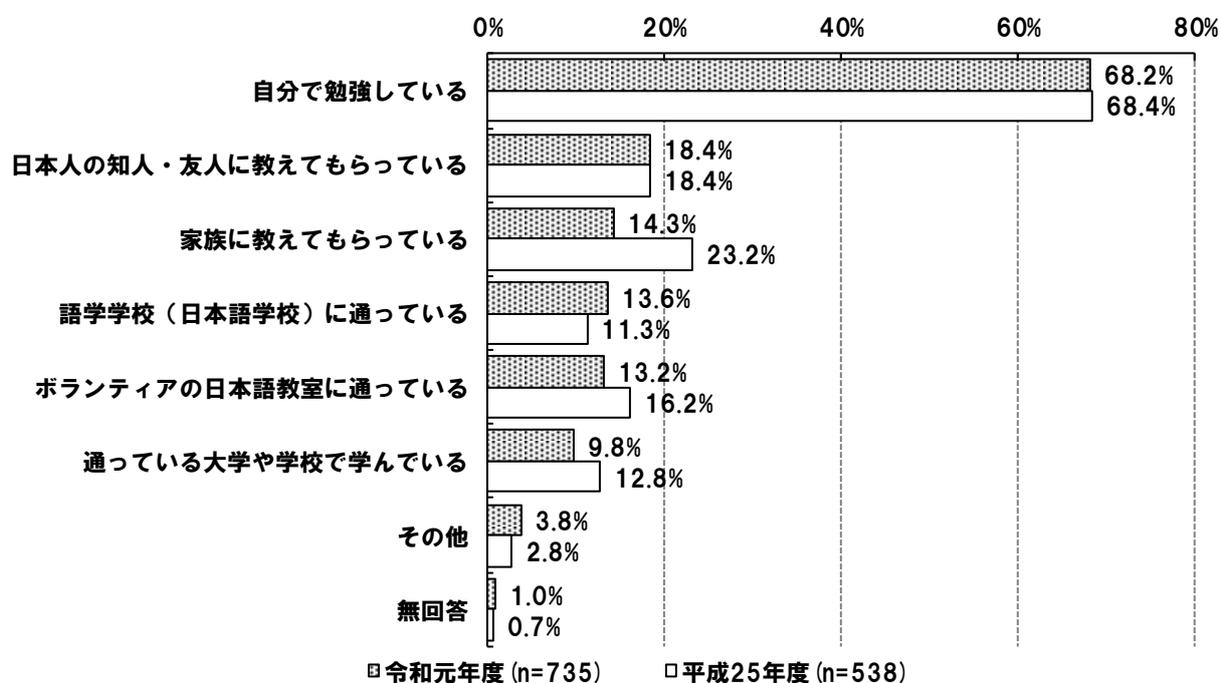
(3) 日本語をどのような方法で学んでいるか

- ・「自分で勉強している」が 68.2%と最も多い。次いで「日本人の知人・友人に教えてもらっている」(18.4%)、「家族に教えてもらっている」(14.3%)、「語学学校(日本語学校)に通っている」(13.6%)の順となっている。
- ・平成 25 年度調査と比較すると、「家族に教えてもらっている」が 8.9 ポイント減少したことで、2位と3位の順位が入れ替わった。

<日本語をどのような方法で学んでいるか (MA) >



<参考 平成 25 年度調査結果との比較>



■年齢別 日本語の学習方法

・いずれも「自分で勉強している」が最も多い。

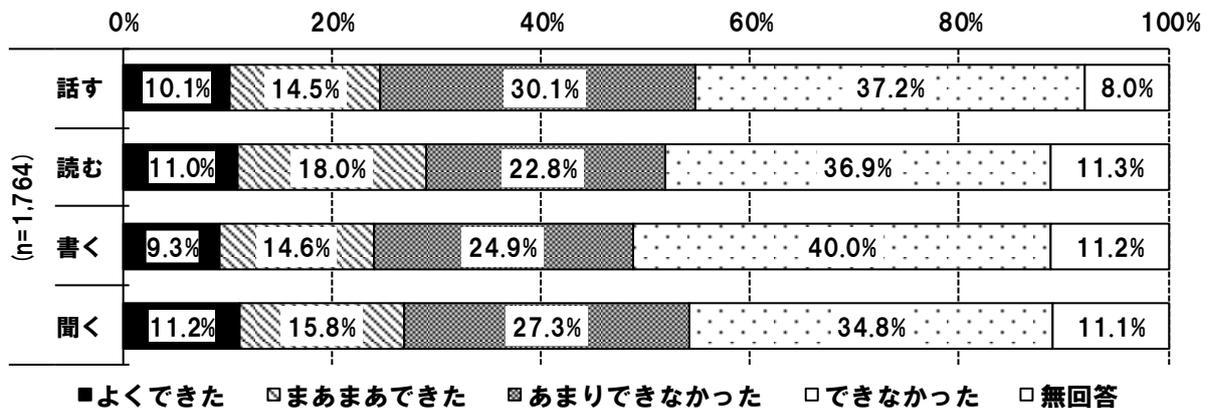
＜年齢別 日本語の学習方法＞

	n	自分で勉強している	家族に教えてもらっている	日本人の知人・友人に 教えてもらっている	通っている大学や学校で 学んでいる	ボランティアの日本語教室に 通っている	語学学校に通っている	その他	無回答
		%							
合計	735	68.2	14.3	18.4	9.8	13.2	13.6	3.8	1.0
29歳以下	255	63.1	5.9	17.6	21.2	9.4	22.0	2.0	1.2
30～39歳	224	76.3	12.1	18.8	4.9	16.1	10.7	4.9	0.4
40～49歳	129	69.0	30.2	20.2	3.1	10.9	7.8	3.9	1.6
50～59歳	72	65.3	20.8	22.2	2.8	18.1	5.6	2.8	1.4
60～69歳	33	63.6	21.2	15.2	0.0	27.3	9.1	6.1	0.0
70～79歳	9	55.6	22.2	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0
80歳以上	4	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0

(4) 初めて来日したときの日本語レベル

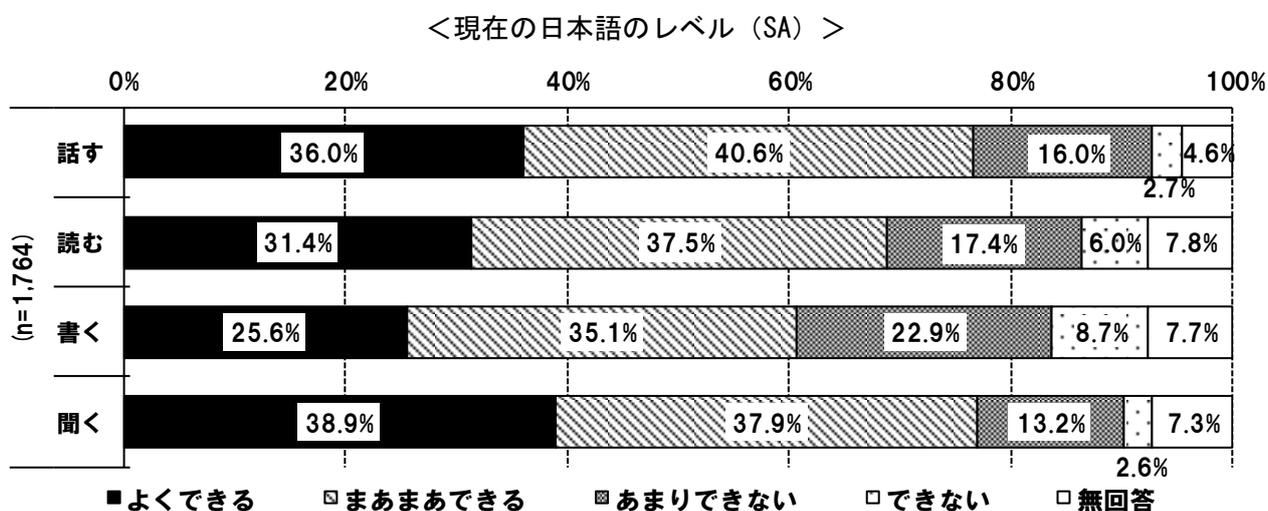
- ・「話す」について、「できなかった」が37.2%、「あまりできなかった」が30.1%となっている。「できなかった」と「あまりできなかった」をあわせると全体の67.3%を占め、「読む・話す・書く・聞く」の中で最も高くなっている。
- ・「読む」について、「できなかった」(36.9%)、「あまりできなかった」(22.8%)があわせて全体の59.7%を占めている。
- ・「書く」について、「できなかった」(40.0%)、「あまりできなかった」(24.9%)があわせて全体の64.9%を占めている。
- ・「聞く」について、「できなかった」(34.8%)、「あまりできなかった」(27.3%)があわせて全体の62.1%を占めている。

＜初めて来日したときの日本語レベル (SA) ＞



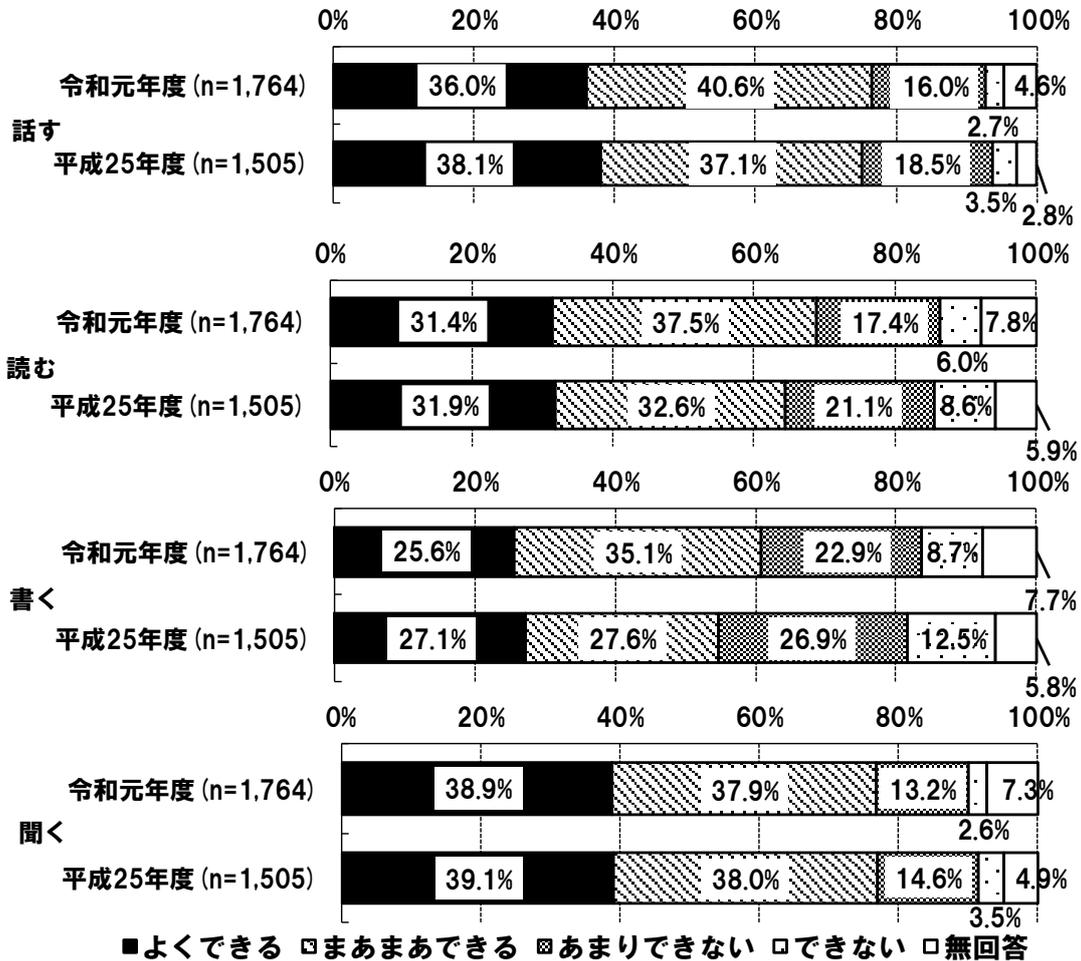
(5) 現在の日本語レベル

- ・初めて来日したときの日本語レベルと比較すると、「話す」「読む」「書く」「聞く」はいずれもできる人の割合が高くなっている。
- ・「話す」について、「まあまあできる」(40.6%)、「よくできる」(36.0%)があわせて全体の76.6%を占めている。
- ・「読む」について、「まあまあできる」(37.5%)、「よくできる」(31.4%)があわせて全体の68.9%を占めている。
- ・「書く」について、「まあまあできる」(35.1%)、「よくできる」(25.6%)があわせて全体の60.7%を占めている。
- ・「聞く」について、「まあまあできる」(37.9%)、「よくできる」(38.9%)があわせて全体の76.8%を占め、「読む・話す・書く・聞く」の中で最も高い数値となっている。



・平成 25 年度調査と比較すると、「よくできる」が概ね横ばい傾向にある。一方で「話す・読む・書く」の「まあまあできる」の数值が 3～7 ポイント増加している。

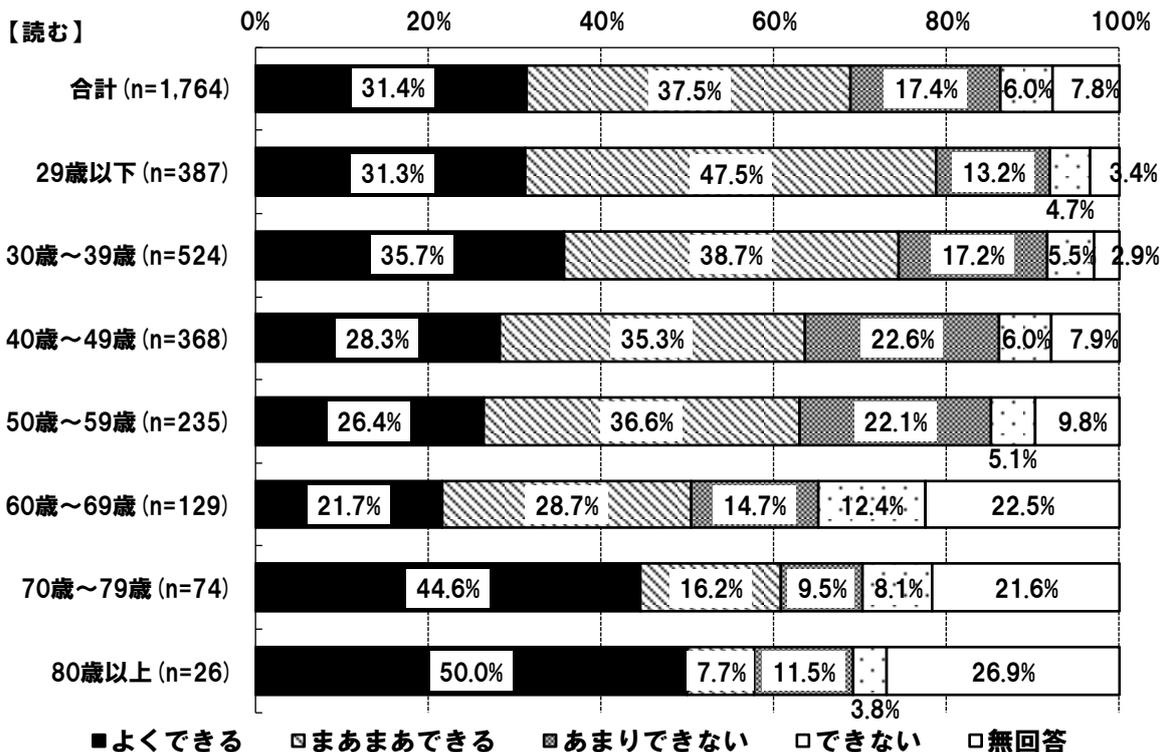
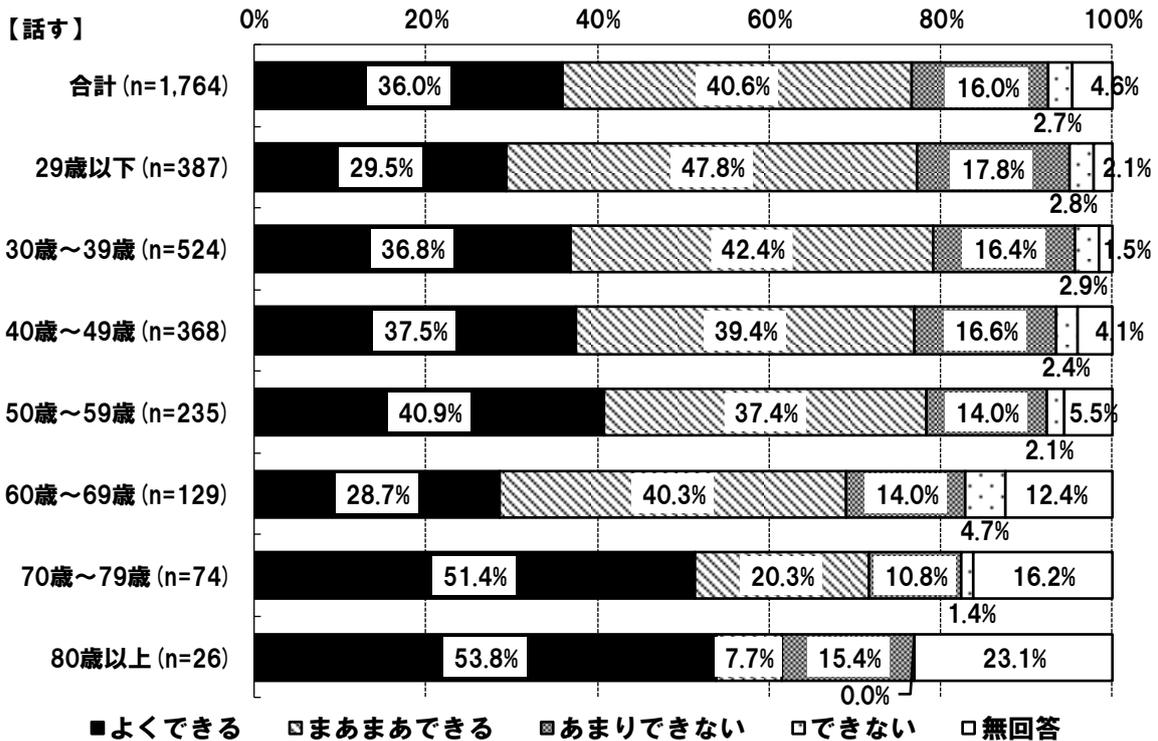
＜参考 平成 25 年度調査結果との比較＞

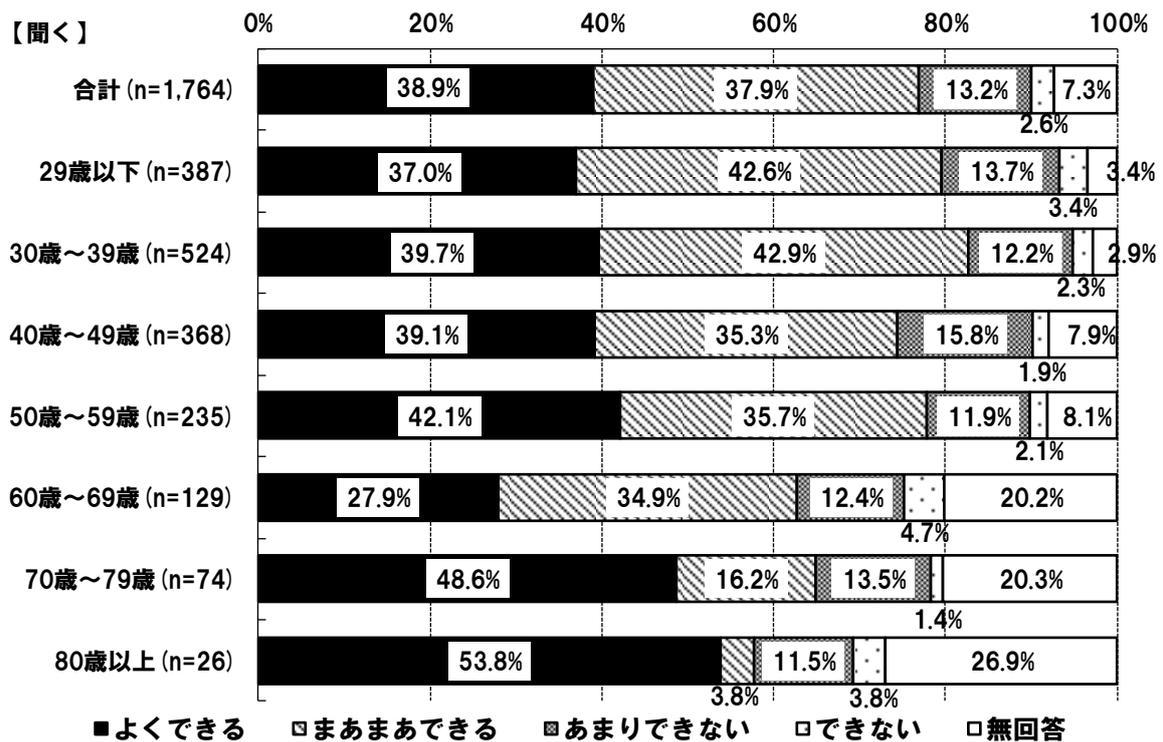
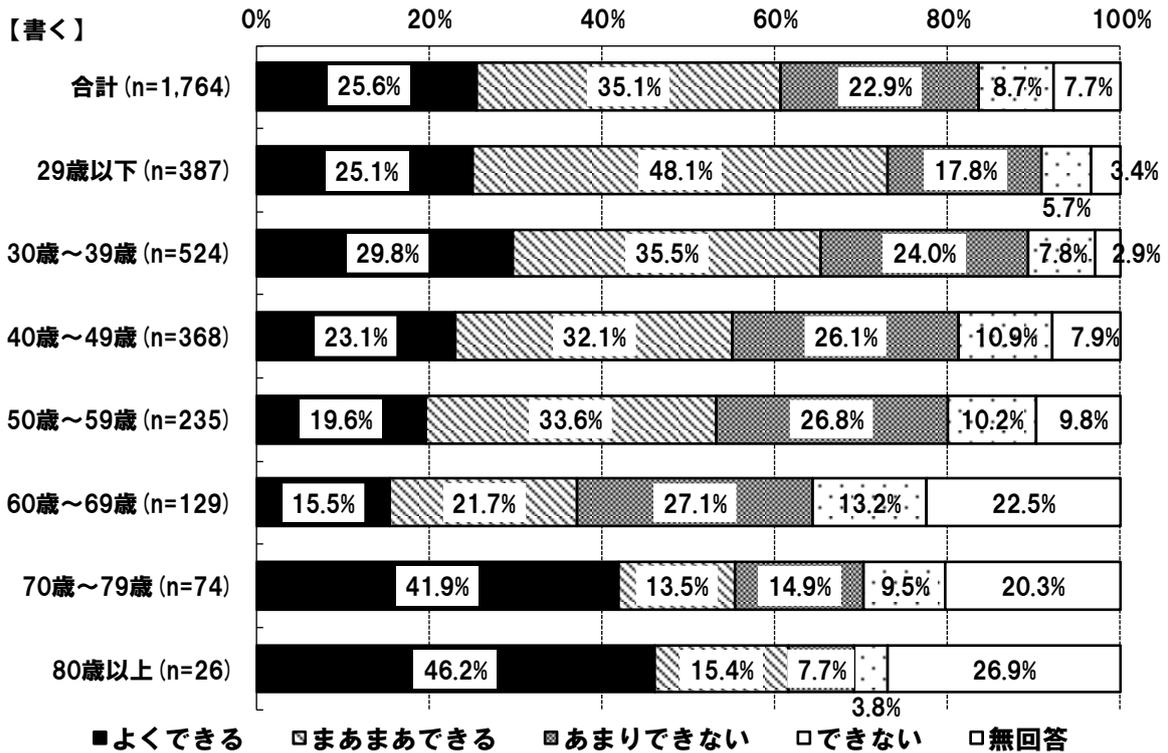


■年齢別 現在の日本語レベル

・「話す」について、69歳以下では「よくできる」が2割～4割程度であるのに対し、70歳以上では5割以上に達しており、70歳を境に顕著な差がみられる。同様に、「読む」「書く」「聞く」においても、70歳以上の日本語の習熟度が高くなっている。ただし「よくできる」「まあまあできる」をあわせると、「話す」「聞く」については30歳代、「読む」「書く」については29歳以下の数値が最も高くなっている。

＜年齢別 現在の日本語レベル＞

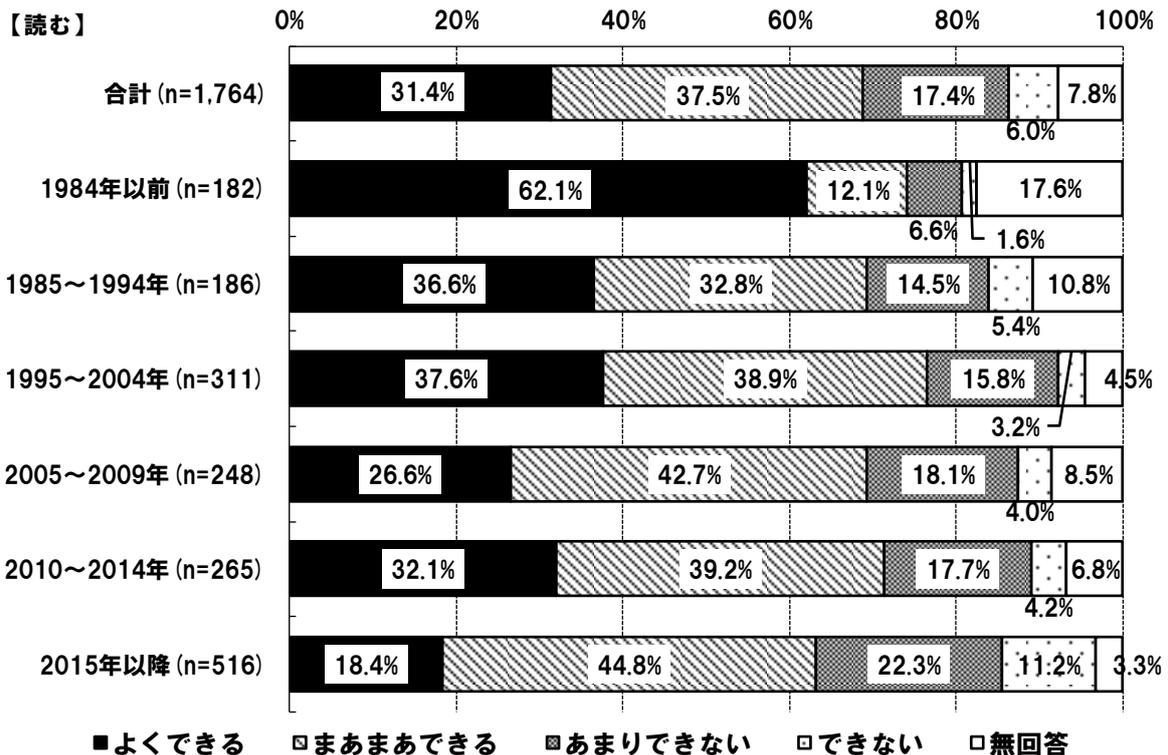
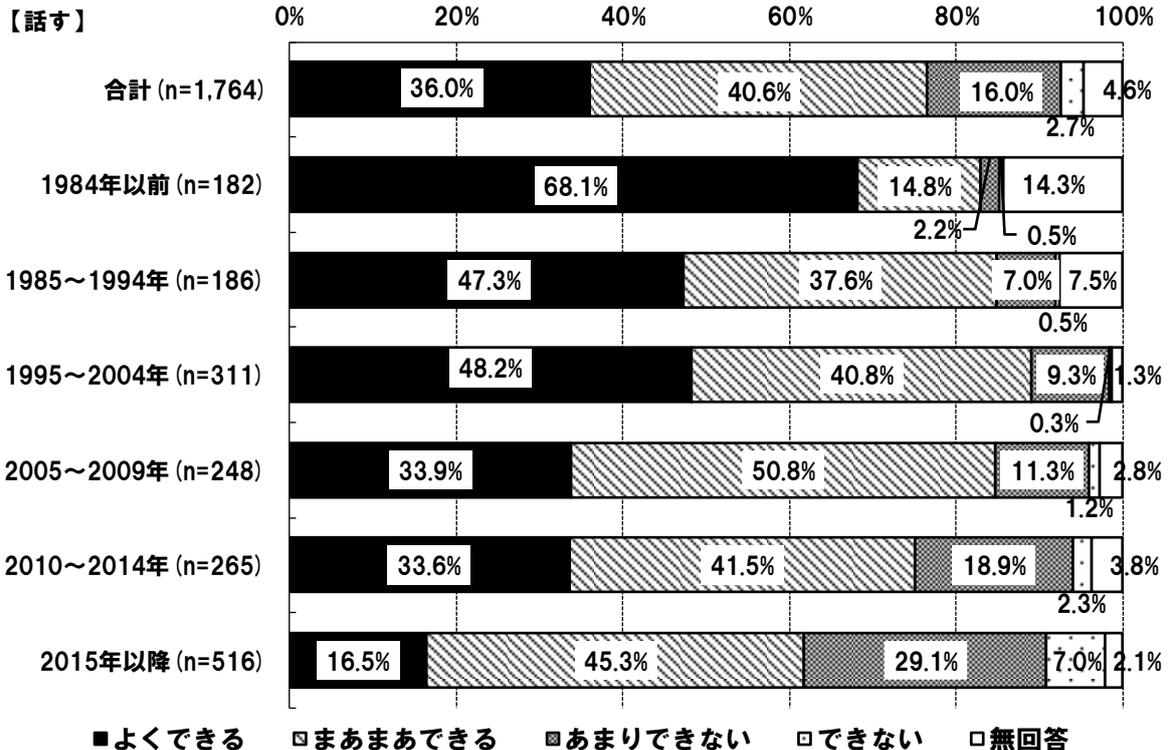


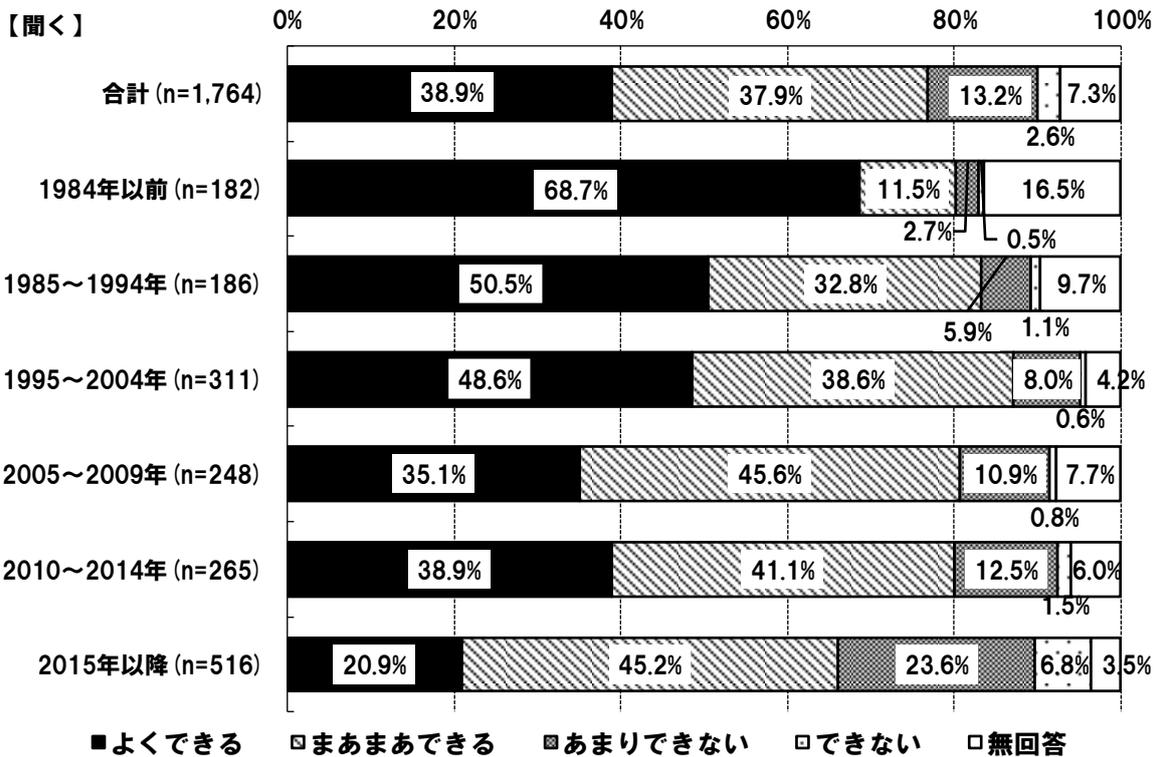
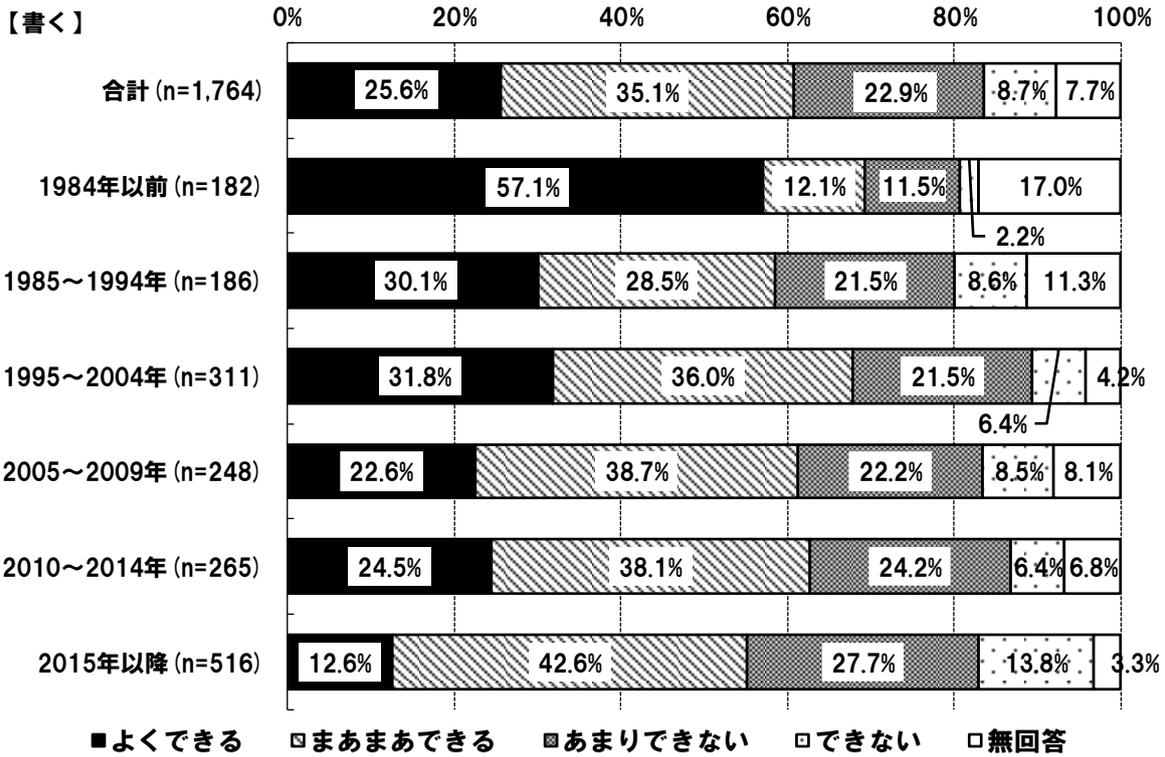


■日本での居住開始時期別 現在の日本語レベル

・概ね日本での居住開始時期が古いほど「よくできる」の割合が高い傾向にある。なかでも「1984年以前」における「よくできる」の割合がほかを大きく上回っている。ただし「よくできる」と「まあまあできる」を合わせると、「話す」「読む」「聞く」においては、「1995～2004年」が最も高くなっている。

<日本での居住開始時期別 現在の日本語レベル>

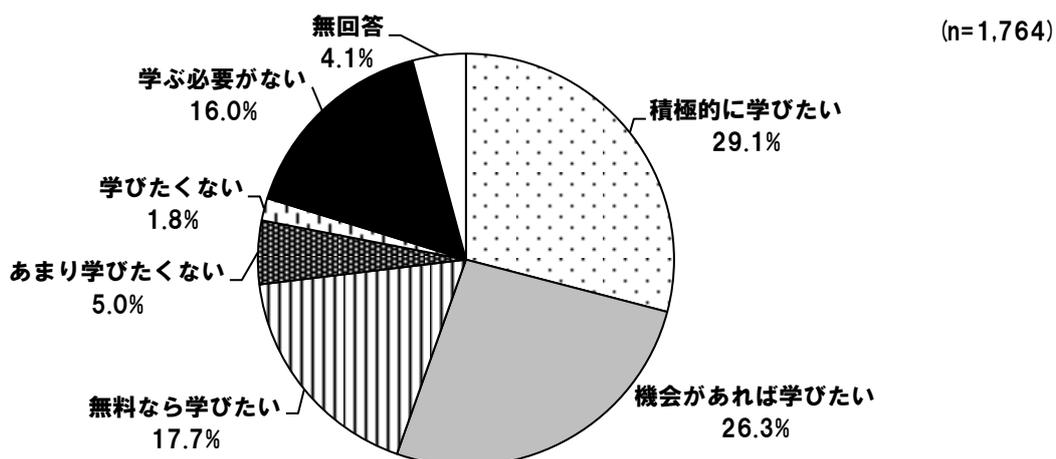




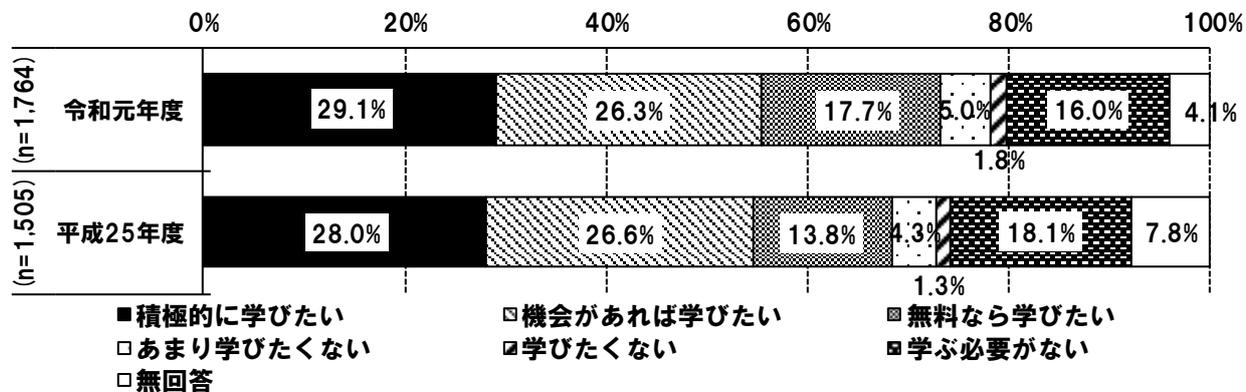
(6) 今後、日本語を学びたいと思うか

- ・「積極的に学びたい」が29.1%と最も多い。これに「機会があれば学びたい」(26.3%)、「無料なら学びたい」(17.7%)をあわせると、日本語を学びたい人が全体の73.1%を占めている。
- ・平成25年度調査と比較すると、日本語を学びたい人が4.7ポイントの増加となっている。一方で「学ぶ必要がない」が2.1ポイント減少している。

＜今後、日本語を学びたいと思うか (SA) ＞



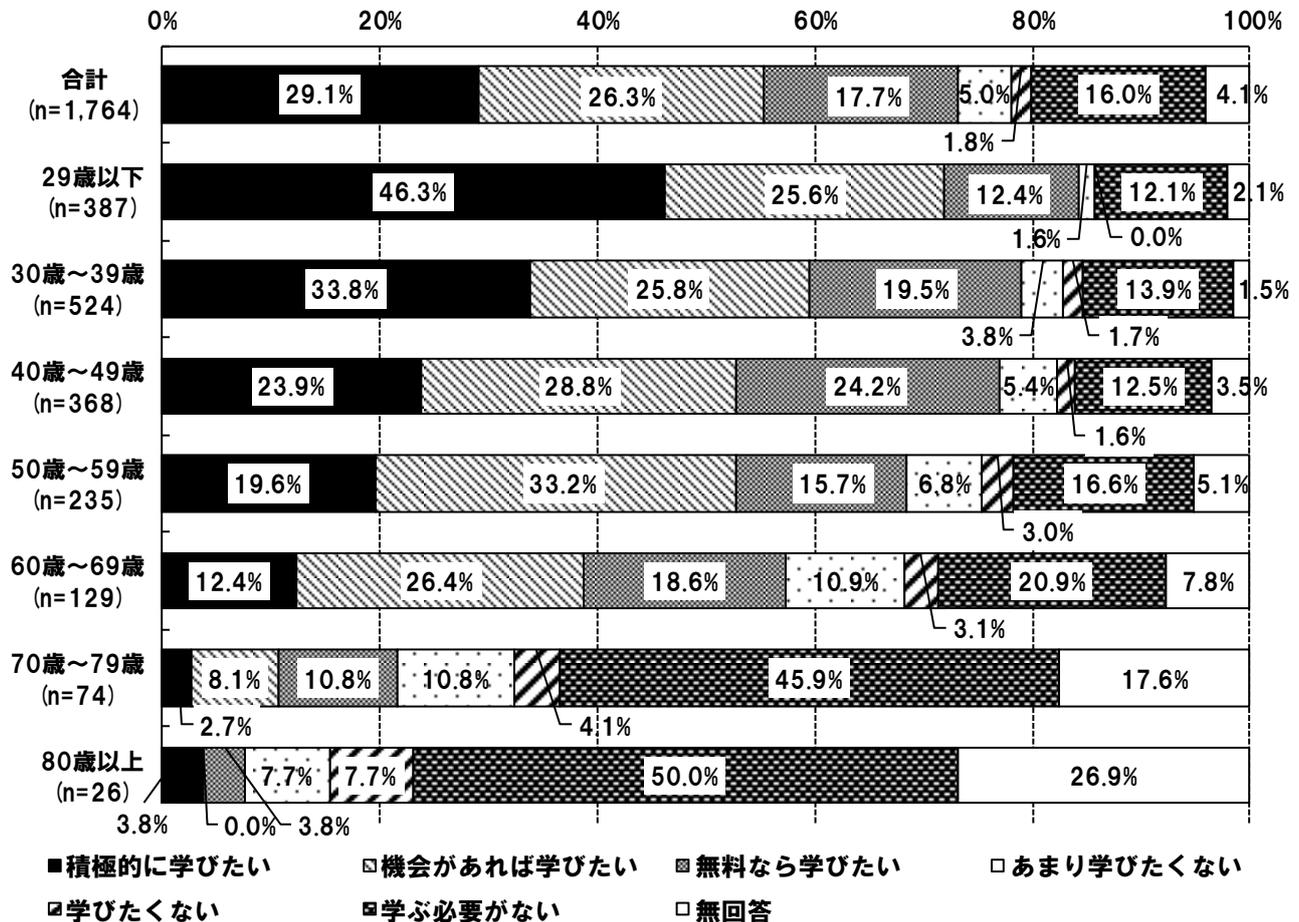
＜参考 平成25年度調査結果との比較＞



■年齢別 日本語の学習意欲

・年齢別にみると、概ね年齢が若いほど「積極的に学びたい」の割合が高くなる傾向にある。「29歳以下」では46.3%、「30歳～39歳」では33.8%の人が積極的な学習意欲を持っている。

<年齢別 日本語の学習意欲>



■現在の日本語レベル別 日本語の学習意欲

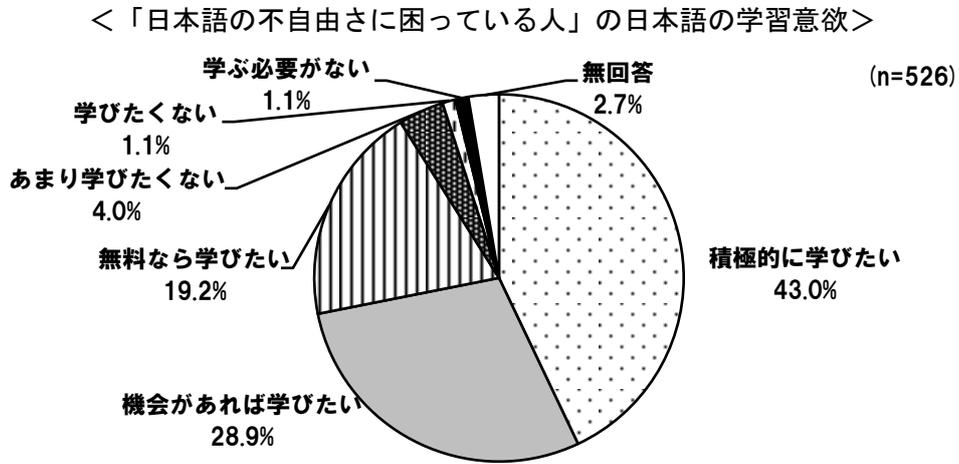
・「話す」「読む」「書く」「聞く」のいずれも、「よくできる」では「学ぶ必要がない」が最も多くなっている。「まあまあできる」「あまりできない」では「積極的に学びたい」が最も多くなっている。「できない」では「機会があれば学びたい」が最も多くなっている。

＜現在の日本語レベル別 日本語の学習意欲＞

		n	積極的に学びたい	機会があれば学びたい	無料なら学びたい	あまり学びたくない	学びたくない	学ぶ必要がない	無回答
			%						
合計		1,764	29.1	26.3	17.7	5.0	1.8	16.0	4.1
話す	よくできる	635	20.8	21.3	10.2	4.3	2.5	38.7	2.2
	まあまあできる	716	34.4	30.9	23.5	5.0	0.7	3.6	2.0
	あまりできない	283	42.4	26.1	19.4	6.7	1.8	1.8	1.8
	できない	48	22.9	35.4	20.8	8.3	6.3	4.2	2.1
読む	よくできる	554	24.0	18.6	8.5	2.7	1.4	42.6	2.2
	まあまあできる	661	35.7	30.3	21.8	5.0	1.5	4.1	1.7
	あまりできない	307	36.5	31.3	20.2	6.5	2.0	2.0	1.6
	できない	105	21.0	34.3	21.9	12.4	3.8	5.7	1.0
書く	よくできる	451	20.2	17.7	6.7	2.2	1.6	49.2	2.4
	まあまあできる	620	35.3	29.4	21.1	4.2	1.3	6.5	2.3
	あまりできない	404	39.6	29.7	19.6	6.9	1.7	1.5	1.0
	できない	153	21.6	35.9	21.6	11.1	3.9	4.6	1.3
聞く	よくできる	687	23.1	22.7	9.9	3.6	2.3	36.2	2.0
	まあまあできる	669	35.7	31.1	22.3	5.2	1.0	3.1	1.5
	あまりできない	233	41.2	24.9	21.0	7.3	0.9	1.7	3.0
	できない	46	19.6	39.1	19.6	10.9	6.5	4.3	0.0

■「日本語の不自由さに困っている人」の日本語の学習意欲

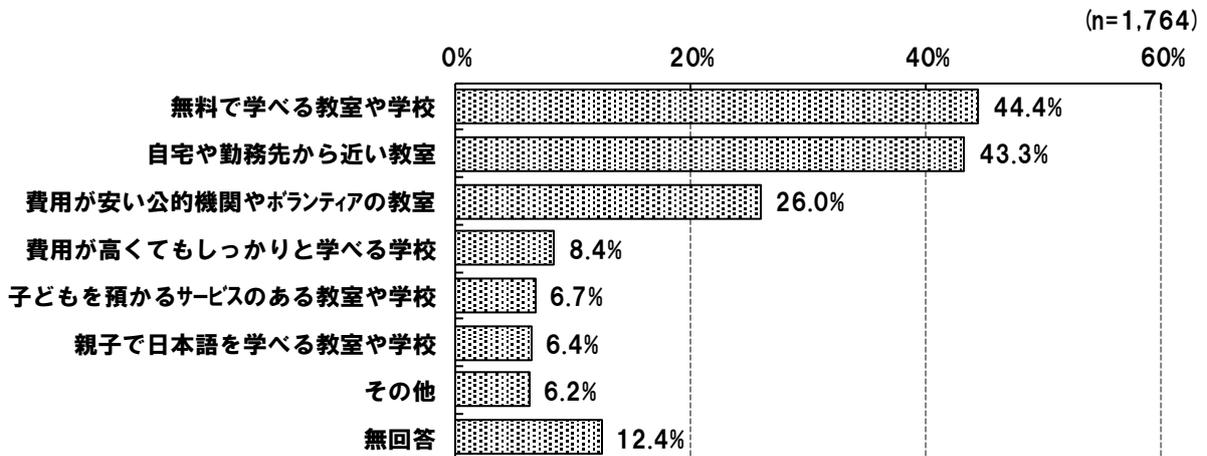
・横浜での生活で困っていることや心配なこととして「日本語の不自由さ」を挙げた人は、「積極的に学びたい」「機会があれば学びたい」「無料なら学びたい」をあわせると 91.1%を占めている。



(7) どのようなところで、日本語を学びたいと思うか

・「無料で学べる教室や学校」が 44.4%と最も多い。また、「自宅や勤務先から近い教室」も 4割強を占めている。

＜日本語を学びたい場所 (MA)＞



- ・日本語の不自由さに困っている人についてみると、学習意向を問わずに、日本語を学びたい場所として「自宅や勤務先から近い教室」「無料で学べる教室や学校」を挙げる割合が高い。「積極的に学びたい」とする人では、「費用が安い公的機関やボランティアの教室」を挙げる割合が他より高くなっている。

＜日本語の学習意欲別 日本語を学びたい場所（日本語の不自由さに困っている人）＞

	n	費用が高くてもしっかりと学べる学校	費用が安い公的機関やボランティアの教室	無料で学べる教室や学校	自宅や勤務先から近い教室	親子で日本語を学べる教室や学校	子どもを預かるサービスの教室や学校	その他	無回答
		%							
合計	526	8.4	36.1	56.7	57.0	8.2	8.9	4.4	4.4
積極的に学びたい	226	14.6	49.6	57.1	65.5	5.8	9.7	5.3	1.8
機会があれば学びたい	152	6.6	29.6	50.0	53.3	11.8	9.2	2.6	3.3
無料なら学びたい	101	0.0	25.7	72.3	55.4	9.9	9.9	4.0	1.0
あまり学びたくない	21	0.0	14.3	38.1	42.9	0.0	4.8	9.5	19.0
学びたくない	6	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	16.7	33.3
学ぶ必要がない	6	16.7	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3

■現在の日本語レベル別 日本語を学びたい場所

- ・現在の日本語レベルを問わずに「自宅や勤務先から近い教室」「無料で学べる教室や学校」が上位2位を占めている。

＜現在の日本語レベル別 日本語を学びたい場所＞

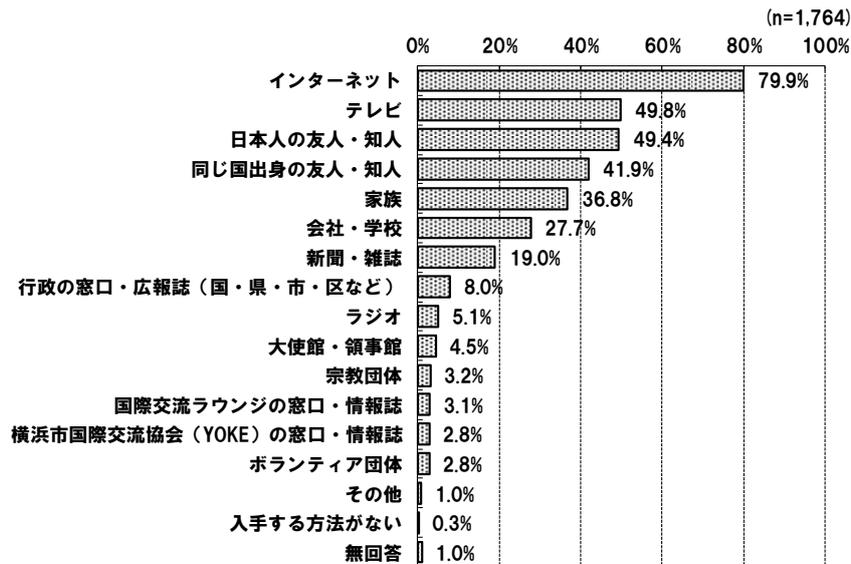
		n	費用が高くてもしっかりと学べる学校	費用が安い公的機関やボランティアの教室	無料で学べる教室や学校	自宅や勤務先から近い教室	親子で日本語を学べる教室や学校	子どもを預かるサービスの教室や学校	その他	無回答
			%							
合計		1,764	8.4	26.0	44.4	43.3	6.4	6.7	6.2	12.4
話す	よくできる	635	8.8	19.7	35.4	35.7	6.6	5.4	11.0	18.0
	まあまあできる	716	9.9	29.1	49.6	47.3	6.3	7.1	3.9	5.6
	あまりできない	283	7.1	36.0	56.9	55.1	7.8	9.2	3.5	5.3
	できない	48	2.1	29.2	50.0	56.3	4.2	10.4	0.0	10.4
読む	よくできる	554	9.7	19.1	31.4	33.4	6.9	6.0	11.7	18.6
	まあまあできる	661	9.7	32.2	52.5	49.6	6.2	7.1	3.9	5.0
	あまりできない	307	8.5	31.9	56.4	52.1	7.8	9.4	3.6	5.9
	できない	105	2.9	24.8	47.6	55.2	4.8	4.8	1.0	8.6
書く	よくできる	451	8.9	17.3	30.6	31.0	7.3	6.4	12.6	21.3
	まあまあできる	620	9.4	30.3	50.2	48.2	5.5	6.1	4.0	5.6
	あまりできない	404	10.4	33.4	54.2	52.5	7.4	9.7	4.2	5.0
	できない	153	4.6	25.5	51.6	51.6	7.2	5.2	2.6	8.5
聞く	よくできる	687	9.9	21.8	34.6	36.8	6.6	5.2	10.9	16.6
	まあまあできる	669	9.4	29.7	52.5	49.9	6.7	8.1	3.4	5.2
	あまりできない	233	6.4	33.0	59.7	51.1	6.9	9.4	3.0	5.6
	できない	46	2.2	34.8	43.5	56.5	4.3	4.3	0.0	6.5

3. 情報の入手方法について

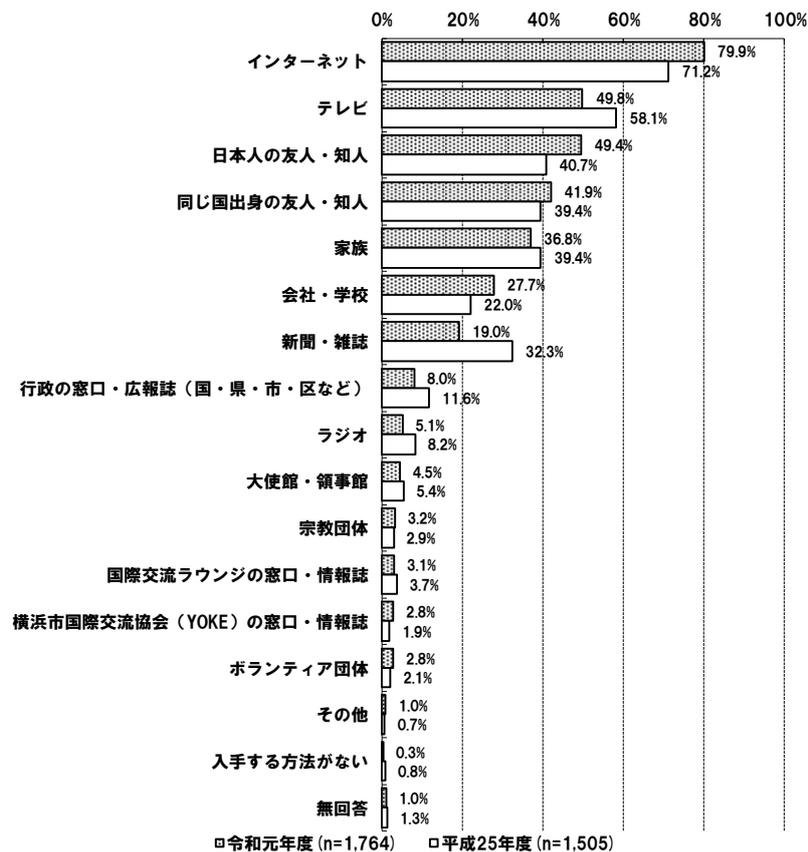
(1) 生活に必要な情報の入手方法

- ・「インターネット」が79.9%と最も多い。次いで「テレビ」(49.8%)、「日本人の友人・知人」(49.4%)、「同じ国出身の友人・知人」(41.9%)の順となっている。
- ・平成25年度調査と比較すると、「インターネット」および「日本人の友人・知人」がいずれも8.7ポイント増加している。一方で、「新聞・雑誌」が13.3ポイントの減少となっている。また、「テレビ」が8.3ポイント減少している。

<生活に必要な情報の入手方法 (MA) >



<参考 平成25年度調査結果との比較>



■年齢別 生活に必要な情報の入手方法

- ・59歳以下の世代では「インターネット」が最も高いのに対し、60歳以上の世代では「テレビ」が最も高くなっている。
- ・年齢が若いほど「インターネット」および「日本人の友人・知人」の割合が高くなっている。一方で、年齢が高いほど「テレビ」の割合が高くなっている。

＜年齢別 生活に必要な情報の入手方法＞

	n	インターネット	新聞雑誌	テレビ	ラジオ	行政の窓口・広報誌(国・県・市・区など)	国際交流ラウンジの窓口・情報誌	横浜市国際交流協会(YOKE)の窓口・情報誌	会社学校	日本人の友人・知人	同じ国出身の友人・知人	ボランティア団体	大使館領事館	家族	宗教団体	その他	入手する方法がない	無回答
		%																
合計	1,764	79.9	19.0	49.8	5.1	8.0	3.1	2.8	27.7	49.4	41.9	2.8	4.5	36.8	3.2	1.0	0.3	1.0
29歳以下	387	94.6	15.0	32.6	2.1	3.1	2.3	1.6	44.7	56.1	53.5	2.1	2.6	23.8	1.8	0.8	0.0	0.8
30歳～39歳	524	90.6	13.0	45.4	3.4	9.0	2.9	2.9	32.6	53.4	47.5	2.7	4.2	35.5	3.1	0.8	0.4	0.6
40歳～49歳	368	83.2	17.4	53.0	4.9	9.0	4.1	2.7	22.6	46.7	39.7	3.0	6.3	44.8	1.6	0.3	0.0	0.5
50歳～59歳	235	67.2	18.7	62.6	8.1	8.5	3.0	4.3	16.2	44.3	29.8	4.3	7.2	43.4	3.4	1.3	0.4	0.4
60歳～69歳	129	52.7	32.6	68.2	10.9	10.1	4.7	3.9	14.0	42.6	31.0	3.9	2.3	43.4	11.6	0.8	0.0	1.6
70歳～79歳	74	33.8	56.8	75.7	10.8	16.2	2.7	4.1	1.4	39.2	24.3	1.4	2.7	41.9	1.4	4.1	1.4	4.1
80歳以上	26	3.8	65.4	80.8	19.2	11.5	0.0	0.0	7.7	26.9	11.5	3.8	3.8	42.3	7.7	7.7	0.0	7.7

■国籍・地域別 生活に必要な情報の入手方法

・すべての国・地域において「インターネット」が最も多くなっている。ブラジルでは「インターネット」と「テレビ」が同率である。

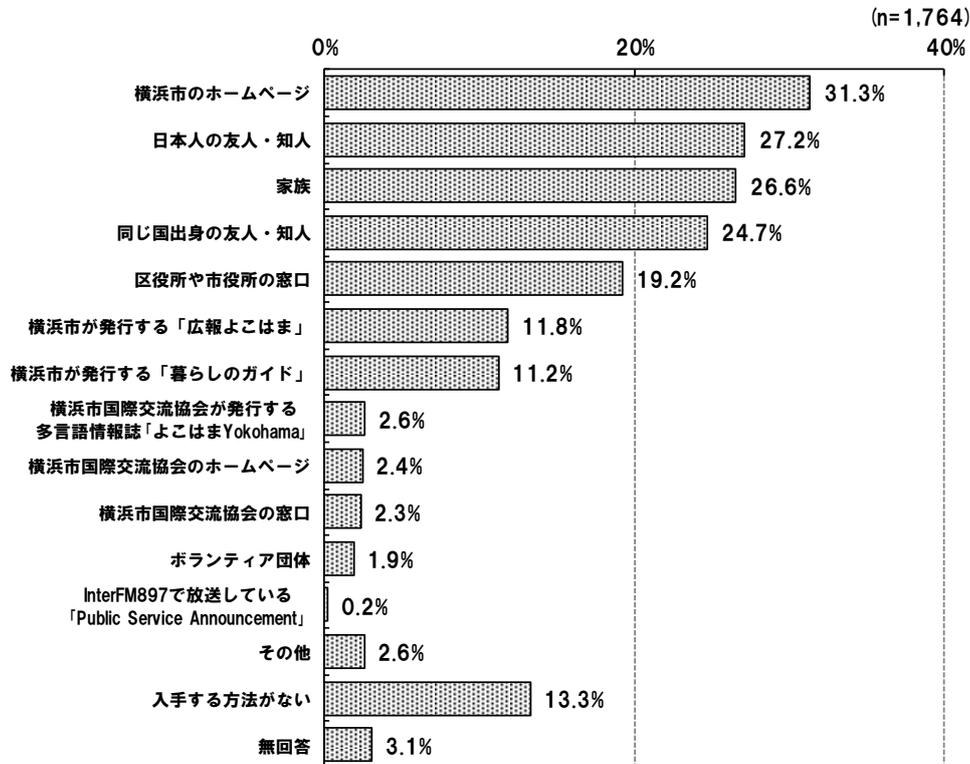
<国籍・地域別 生活に必要な情報の入手方法>

	n	インターネット	新聞・雑誌	テレビ	ラジオ	行政の窓口・広報紙	国際交流ラウンジの窓口・情報誌	横浜市国際交流協会の窓口	会社・学校	日本人の友人・知人	同じ国出身の友人・知人	ボランティア団体	大使館・領事館	家族	宗教団体	その他	入手する方法がない	無回答
		%																
合計	1,764	79.9	19.0	49.8	5.1	8.0	3.1	2.8	27.7	49.4	41.9	2.8	4.5	36.8	3.2	1.0	0.3	1.0
中国	722	80.1	18.0	46.8	2.6	8.7	2.1	1.9	25.3	45.7	47.6	1.2	3.5	34.1	0.7	0.4	0.3	0.4
韓国	238	68.1	34.5	61.8	8.8	9.7	1.3	0.8	19.3	47.1	23.5	0.8	2.9	37.8	4.2	2.1	0.8	3.4
フィリピン	149	81.2	10.1	67.1	4.7	4.0	8.1	11.4	20.8	53.7	43.0	9.4	4.0	45.6	14.1	0.0	0.0	0.0
ベトナム	121	88.4	19.8	33.1	3.3	5.8	4.1	1.7	30.6	56.2	62.8	4.1	3.3	23.1	3.3	0.0	0.0	2.5
台湾	69	68.1	26.1	63.8	4.3	8.7	4.3	0.0	36.2	56.5	37.7	2.9	0.0	31.9	0.0	0.0	0.0	0.0
アメリカ合衆国	65	89.2	20.0	44.6	12.3	4.6	1.5	4.6	32.3	56.9	26.2	0.0	7.7	50.8	3.1	4.6	0.0	1.5
インド	44	93.2	4.5	25.0	6.8	13.6	6.8	9.1	36.4	47.7	38.6	9.1	2.3	25.0	6.8	0.0	0.0	0.0
タイ	36	72.2	13.9	52.8	0.0	2.8	5.6	2.8	25.0	58.3	52.8	5.6	8.3	66.7	0.0	8.3	0.0	0.0
ネパール	32	84.4	0.0	28.1	3.1	6.3	0.0	0.0	37.5	40.6	65.6	0.0	0.0	31.3	3.1	3.1	3.1	0.0
インドネシア	23	82.6	0.0	47.8	0.0	0.0	0.0	0.0	43.5	65.2	60.9	4.3	17.4	21.7	13.0	0.0	0.0	4.3
ブラジル	22	77.3	9.1	77.3	13.6	18.2	0.0	0.0	50.0	54.5	31.8	4.5	9.1	40.9	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	210	86.2	20.0	49.5	9.5	8.6	4.3	2.9	37.1	52.4	32.4	4.3	8.1	45.7	3.3	1.0	0.0	0.0

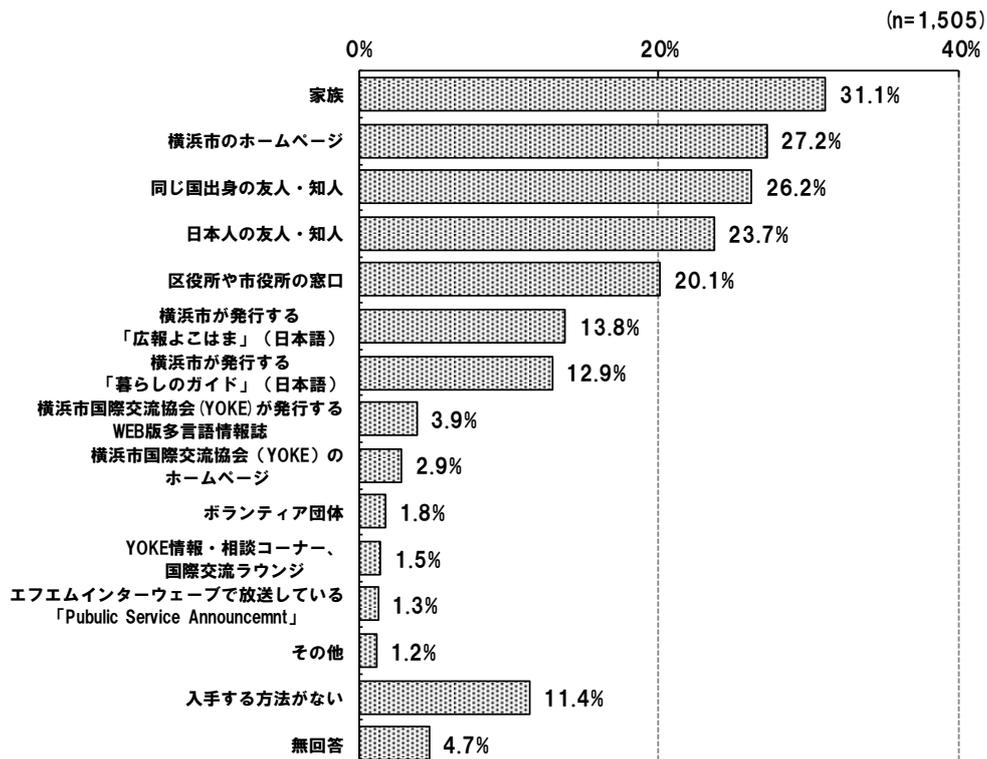
(2) 市役所からの情報の入手方法

・「横浜市のホームページ」が 31.3%と最も多い。次いで「日本人の友人・知人」(27.2%)、「家族」(26.6%)、「同じ国出身の友人・知人」(24.7%)の順となっている。

<市役所からの情報の入手方法 (MA) >



<参考 平成 25 年度調査結果>



■現在の日本語レベル別 横浜市役所からの情報入手方法（上位3位）

・「話す」「読む」「書く」「聞く」のいずれも「よくできる」では、「横浜市のホームページ」が最も多くなっている。また、「話す」「読む」「書く」「聞く」のいずれも「できない」では、「入手する方法がない」の順位が他と比べて高くなっている。

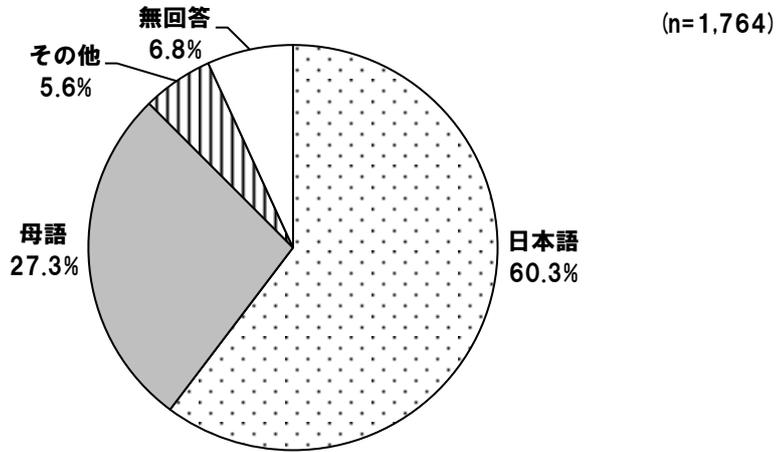
<現在の日本語レベル別 横浜市役所からの情報入手方法（上位3位）>

		1位	2位	3位
話す	よくできる (n=635)	横浜市のホームページ 45.4%	区役所や市役所の窓口 26.8%	日本人の友人・知人 26.1%
	まあまあできる (n=716)	日本人の友人・知人 31.1%	家族 28.9%	同じ国出身の友人・知人 27.9%
	あまりできない (n=283)	同じ国出身の友人・知人 34.6%	家族 28.6%	日本人の友人・知人 24.7%
	できない (n=48)	同じ国出身の友人・知人 33.3%	家族 25.0%	入手する方法がない 22.9%
読む	よくできる (n=554)	横浜市のホームページ 50.0%	区役所や市役所の窓口 27.1%	日本人の友人・知人 22.7%
	まあまあできる (n=661)	日本人の友人・知人 34.2%	横浜市のホームページ 28.9%	同じ国出身の友人・知人 28.9%
	あまりできない (n=307)	家族 38.4%	同じ国出身の友人・知人 32.9%	日本人の友人・知人 28.7%
	できない (n=105)	家族 31.4%	入手する方法がない 25.7%	同じ国出身の友人・知人 24.8%
書く	よくできる (n=451)	横浜市のホームページ 53.0%	区役所や市役所の窓口 27.9%	日本人の友人・知人 23.5%
	まあまあできる (n=620)	日本人の友人・知人 31.9%	横浜市のホームページ 31.3%	同じ国出身の友人・知人 26.8%
	あまりできない (n=404)	家族 36.1%	同じ国出身の友人・知人 32.4%	日本人の友人・知人 31.7%
	できない (n=153)	家族 35.9%	同じ国出身の友人・知人 24.2%	入手する方法がない 21.6%
聞く	よくできる (n=687)	横浜市のホームページ 45.3%	区役所や市役所の窓口 26.9%	日本人の友人・知人 24.2%
	まあまあできる (n=669)	日本人の友人・知人 33.6%	同じ国出身の友人・知人 30.5%	家族 30.5%
	あまりできない (n=233)	同じ国出身の友人・知人 35.2%	家族 29.6%	日本人の友人・知人 26.2%
	できない (n=46)	同じ国出身の友人・知人 30.4%	入手する方法がない 23.9%	家族 21.7%

(3) 情報収集における主な使用言語

・「日本語」が60.3%を占め、「母語」を大きく上回っている。

＜情報収集における主な使用言語（SA）＞



■現在の日本語レベル別 情報収集における主な使用言語

・「話す」「読む」「書く」「聞く」のいずれも「よくできる」「まあまあできる」では、「日本語」が最も多くなっている。「話す」「読む」「書く」「聞く」のいずれも「あまりできない」「できない」では、「母語」が最も多くなっている。

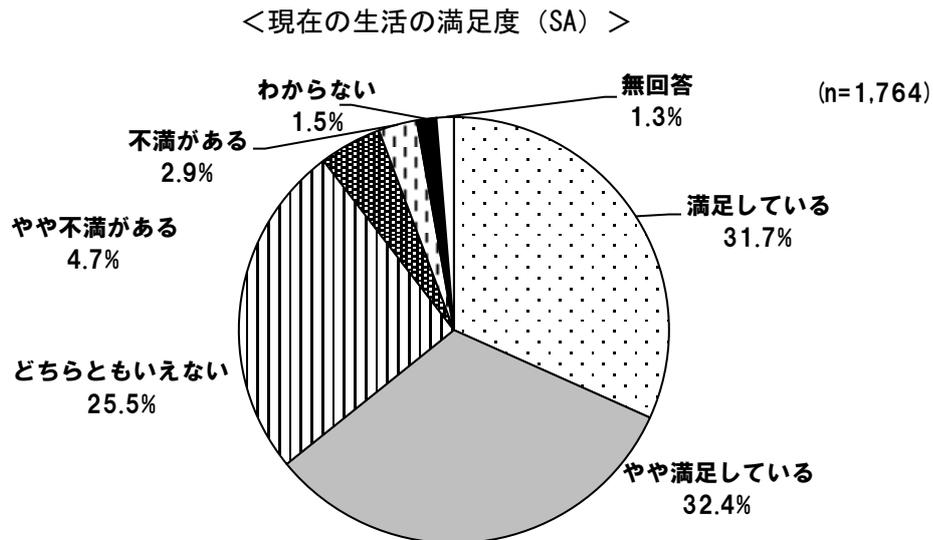
＜現在の日本語レベル別 情報収集における主な使用言語＞

		n	日本語	母語	その他	無回答
			%			
合計		1,764	60.3	27.3	5.6	6.8
話す	よくできる	635	86.0	8.2	1.6	4.3
	まあまあできる	716	59.5	29.2	5.2	6.1
	あまりできない	283	15.9	60.1	14.8	9.2
	できない	48	6.3	62.5	16.7	14.6
読む	よくできる	554	89.5	5.6	1.3	3.6
	まあまあできる	661	60.7	29.5	4.7	5.1
	あまりできない	307	28.0	50.8	12.4	8.8
	できない	105	11.4	56.2	18.1	14.3
書く	よくできる	451	91.4	3.8	0.9	4.0
	まあまあできる	620	64.2	26.6	4.2	5.0
	あまりできない	404	37.9	44.8	10.4	6.9
	できない	153	20.9	50.3	15.0	13.7
聞く	よくできる	687	85.4	8.4	2.0	4.1
	まあまあできる	669	55.8	31.8	5.5	6.9
	あまりできない	233	16.3	60.5	15.5	7.7
	できない	46	4.3	65.2	17.4	13.0

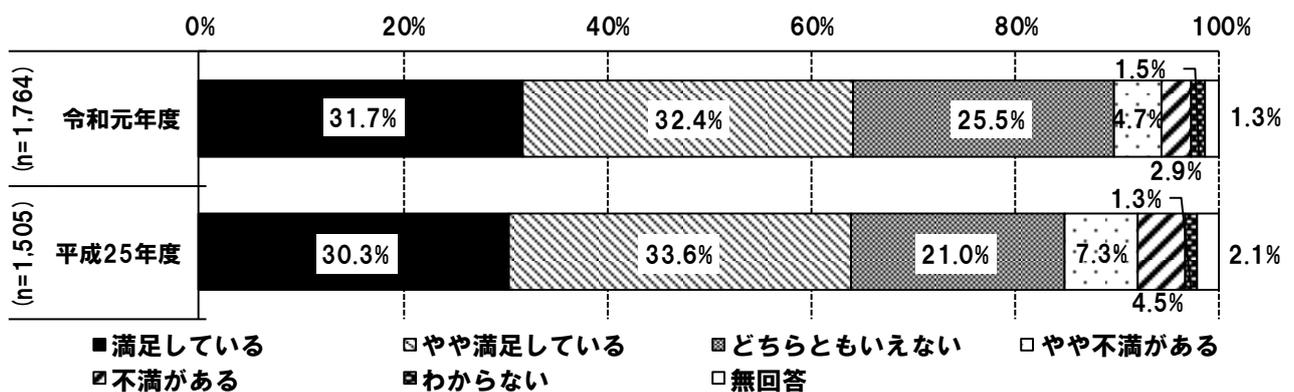
4. 生活の満足度や困っていることについて

(1) 現在の生活の満足度

- ・「やや満足している」が32.4%と最も多く、これに「満足している」が31.7%で続く。これらをあわせると、64.1%の人が現在の生活に満足している。一方で「やや不満がある」と「不満がある」をあわせると7.6%の人が現在の生活に不満を感じるとしている。
- ・平成25年度調査と比較すると、「満足している」が1.4ポイント増加している。また、「やや不満がある」と「不満がある」があわせて4.2ポイントの減少となっている。



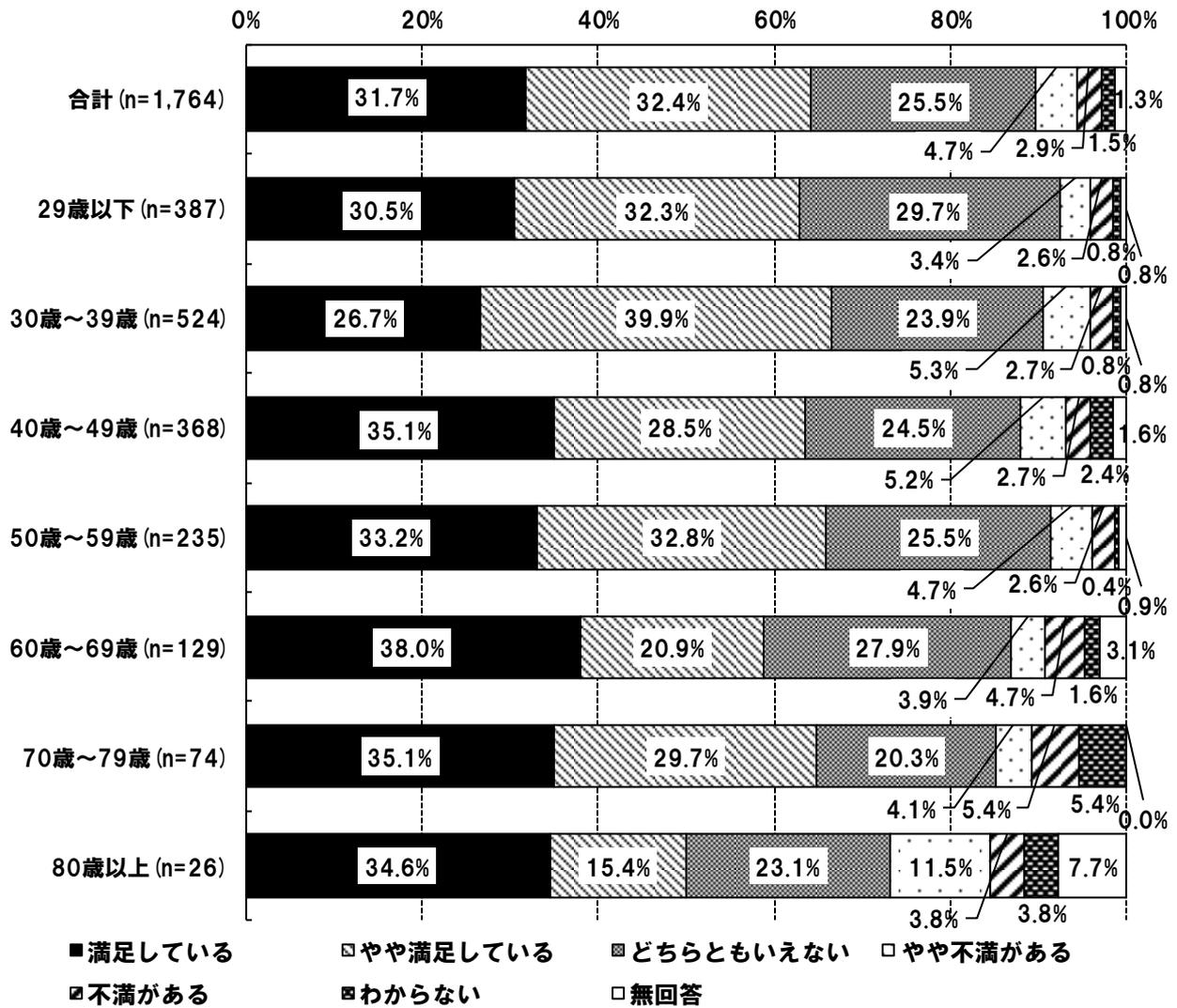
＜参考 平成25年度調査結果との比較＞



■年齢別 現在の生活の満足度

- ・39歳以下では「やや満足している」が最も多い。一方で、40歳以上では「満足している」が最も多くなっている。
- ・「満足している」の割合をみると、60歳～69歳が38.0%と最も多い。

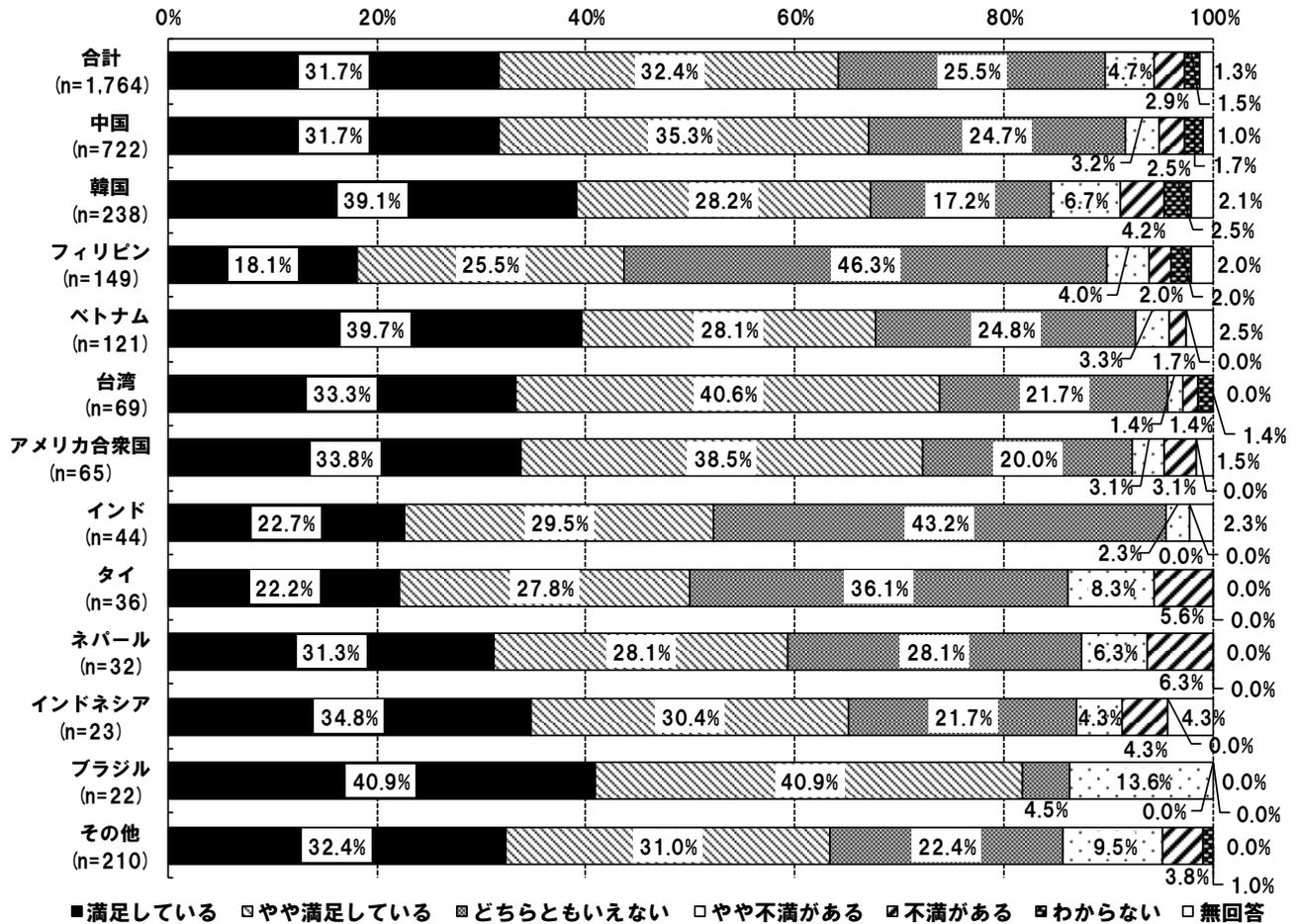
<年齢別 現在の生活の満足度>



■国籍・地域別 現在の生活の満足度

・国籍・地域別では、中国、台湾、アメリカ合衆国では「やや満足している」、韓国、ベトナム、ネパール、インドネシアでは「満足している」が最も多い。フィリピンでは「どちらともいえない」が最も多くなっている。ブラジルでは、「満足している」と「やや満足している」が同率である。

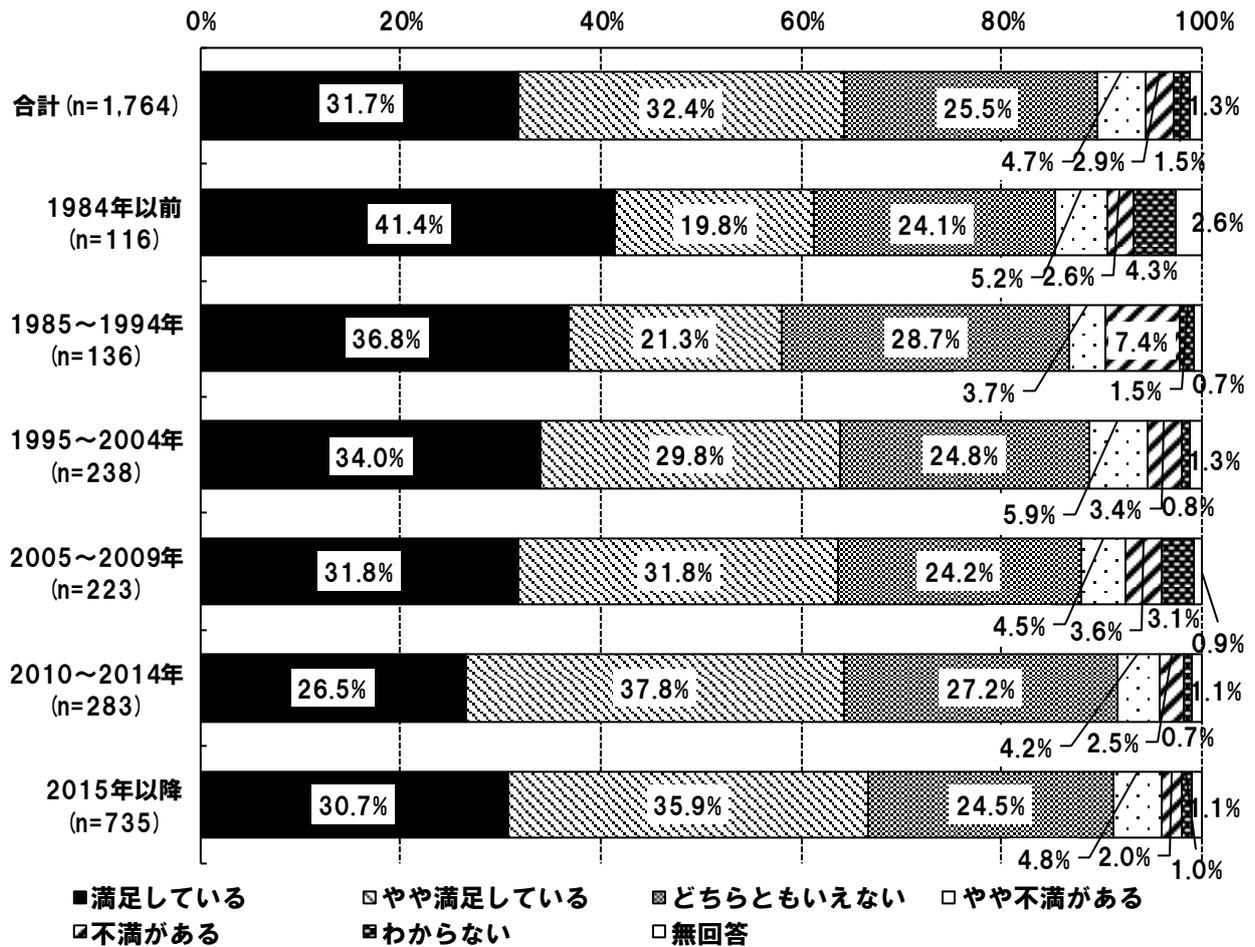
<国籍・地域別 現在の生活の満足度>



■横浜での居住開始時期別 現在の生活の満足度

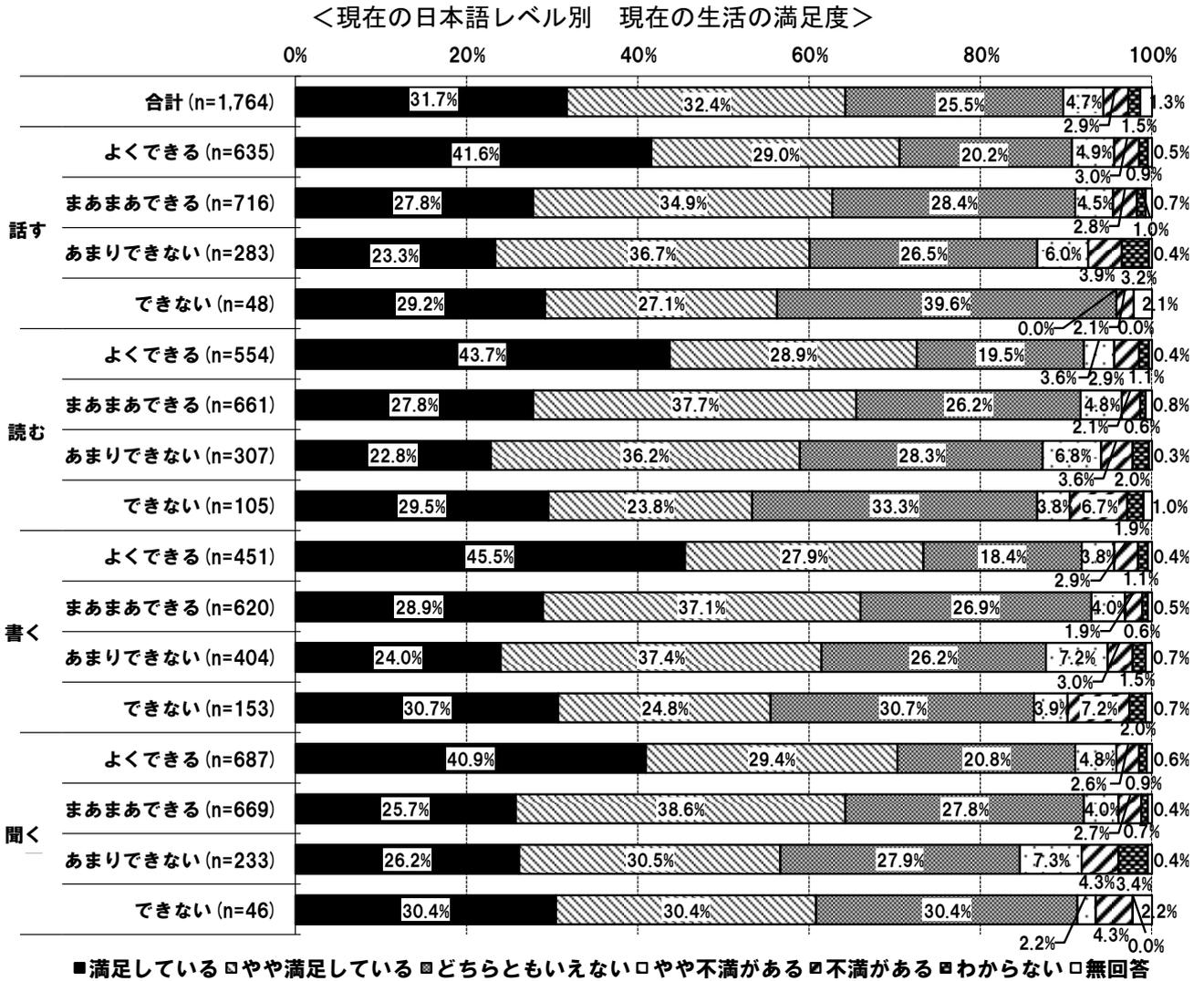
・概ね横浜への居住開始時期が古いほど「満足している」が高い傾向にある。2005年～2009年では「満足している」と「やや満足している」が同率、2010年以降では「やや満足している」が最も多くなっている。ただし「満足している」「やや満足している」を合わせた数値は、居住年数が浅いほうが高い傾向にある。

<横浜での居住開始時期別 現在の生活の満足度>



■現在の日本語レベル別 現在の生活の満足度

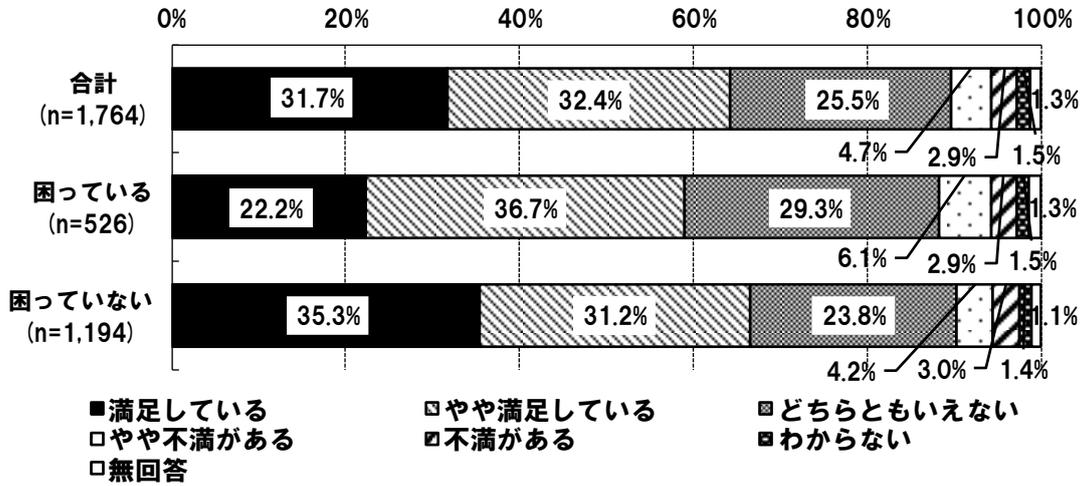
・「満足している」と「やや満足している」を合わせた数値でみると、「話す」「読む」「書く」のいずれも、現在の日本語レベルが高いほど満足度が高い傾向にある。また、「話す」「読む」「書く」「聞く」のいずれにおいても、「できない」人でも「満足している」の割合が高い傾向にある。



■日本語の不自由さに困っているかどうか別 現在の生活の満足度

・「困っていない」人に比べ、「困っている」人の満足度が低い状況にある。

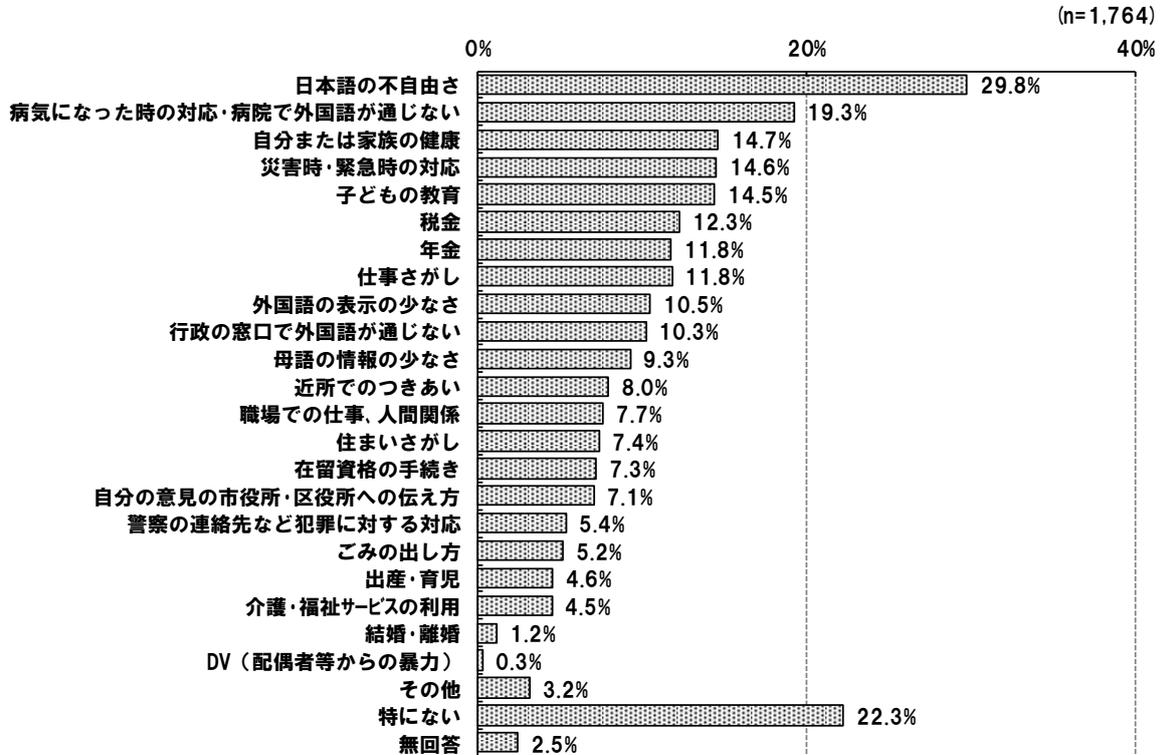
＜日本語の不自由さに困っているかどうか別 現在の生活の満足度＞



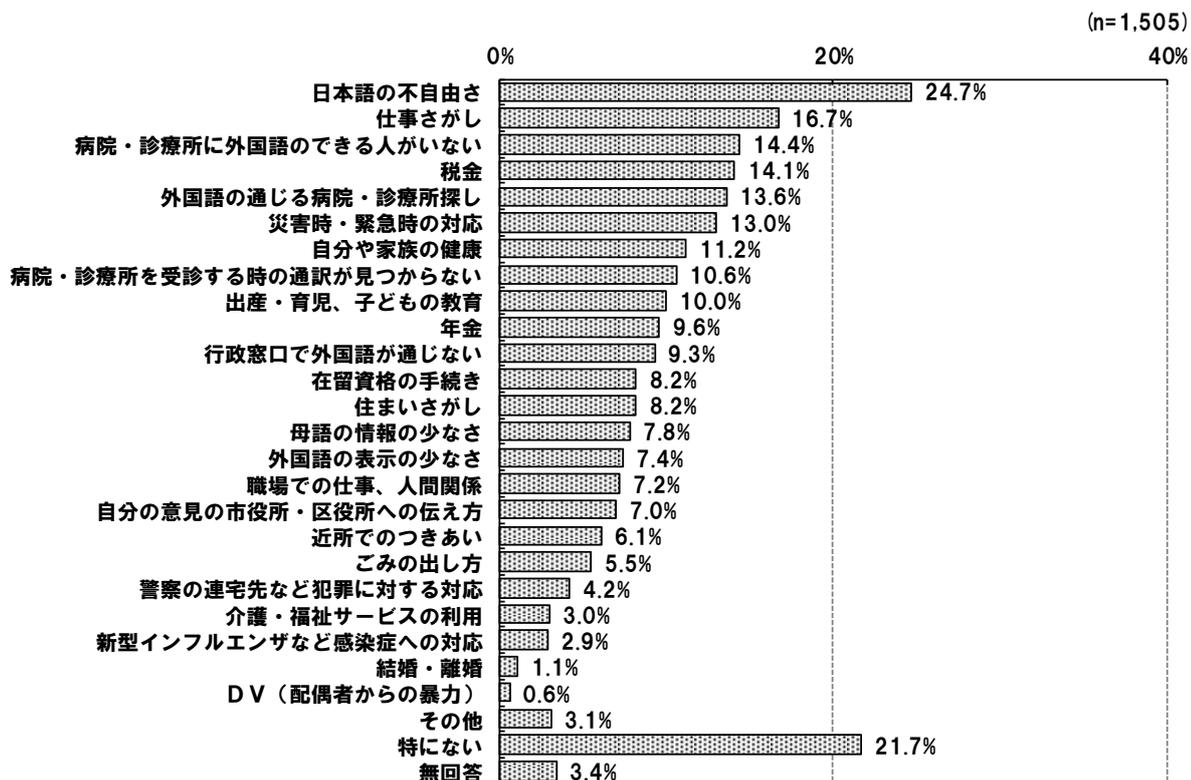
(2) 横浜での生活で、困っていることや心配なこと

・「日本語の不自由さ」が29.8%と最も多い。次いで「特にない」(22.3%)、「病気になった時の対応・病院で外国語が通じない」(19.3%)の順となっている。

<横浜での生活で、困っていることや心配なこと (MA) >



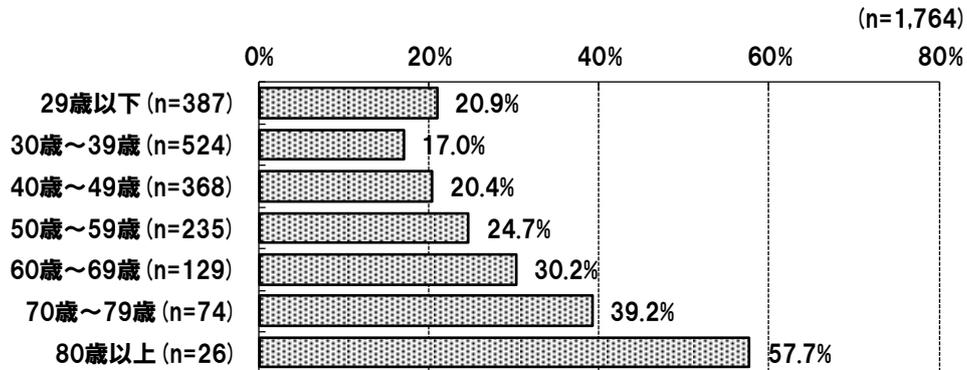
<参考 平成 25 年度調査結果 >



■年齢別 困っていることや心配なこと

・年齢別にみると、年齢が高いほど「困っていることや心配なことがない人」が多くなっている。

<困っていることや心配なことがない人（年齢別）>



■国籍・地域別 困っていることや心配なこと

・韓国、台湾、ブラジルでは「特にない」、タイ、ネパールでは「病気になった時の対応・病院で外国語が通じない」がそれぞれ最も多くなっている。それ以外の国では「日本語の不自由さ」が最も多い。

<国籍・地域別 困っていることや心配なこと>

	n	日本語の不自由さ	母語の情報の少なさ	外国語の表示の少なさ	住まいさがし	行政の窓口で外国語が通じない	病気になった時の対応 病院で外国語が通じない	税金	年金	介護 福祉サービスの利用	出産 育児	子どもの教育	ごみの出し方	結婚 離婚
		%												
合計	1,764	29.8	9.3	10.5	7.4	10.3	19.3	12.3	11.8	4.5	4.6	14.5	5.2	1.2
中国	722	29.8	5.4	2.1	4.8	7.2	17.9	11.1	10.9	4.6	4.0	19.9	6.5	1.9
韓国	238	8.0	2.9	1.7	4.2	3.4	3.4	9.7	10.1	3.8	3.8	8.0	4.2	0.0
フィリピン	149	36.9	7.4	31.5	14.1	19.5	31.5	17.4	18.1	4.0	4.7	11.4	4.7	1.3
ベトナム	121	52.9	19.8	5.8	8.3	7.4	24.8	7.4	5.0	9.1	9.9	9.9	2.5	0.0
台湾	69	11.6	4.3	2.9	4.3	5.8	14.5	11.6	13.0	4.3	2.9	5.8	11.6	0.0
アメリカ合衆国	65	30.8	16.9	24.6	9.2	20.0	23.1	20.0	16.9	4.6	6.2	12.3	4.6	1.5
インド	44	65.9	13.6	47.7	13.6	22.7	36.4	18.2	20.5	15.9	4.5	25.0	2.3	2.3
タイ	36	33.3	33.3	19.4	8.3	13.9	44.4	11.1	8.3	8.3	0.0	13.9	5.6	0.0
ネパール	32	18.8	25.0	18.8	21.9	15.6	37.5	15.6	12.5	0.0	6.3	15.6	0.0	3.1
インドネシア	23	39.1	21.7	34.8	8.7	13.0	13.0	13.0	13.0	0.0	8.7	13.0	4.3	0.0
ブラジル	22	22.7	18.2	27.3	22.7	9.1	18.2	4.5	4.5	4.5	4.5	9.1	0.0	4.5
その他	210	34.3	14.3	20.0	9.5	16.7	19.5	15.7	13.3	1.9	5.2	10.0	4.3	0.5

	n	自分の意見の市役所・区役所への伝え方	DV（配偶者等からの暴力）	仕事さがし	職場での仕事 人間関係	在留資格の手続き	災害時 緊急時の対応	警察の連絡先など犯罪に対する対応	近所でのつきあい	自分または家族の健康	その他	特にない	無回答
		%											
合計	1,764	7.1	0.3	11.8	7.7	7.3	14.6	5.4	8.0	14.7	3.2	22.3	2.5
中国	722	5.1	0.1	11.1	6.9	7.8	11.8	4.7	8.9	12.5	2.6	22.2	0.8
韓国	238	2.5	0.0	7.1	4.6	6.3	13.4	3.4	4.2	15.5	4.2	39.1	6.7
フィリピン	149	18.1	2.0	12.1	8.1	6.7	16.1	8.7	10.1	19.5	0.7	11.4	2.0
ベトナム	121	8.3	0.8	9.1	9.1	6.6	17.4	8.3	17.4	14.0	2.5	19.0	0.8
台湾	69	4.3	0.0	10.1	4.3	11.6	5.8	2.9	2.9	23.2	5.8	27.5	5.8
アメリカ合衆国	65	10.8	0.0	13.8	13.8	4.6	20.0	6.2	6.2	13.8	10.8	23.1	1.5
インド	44	20.5	0.0	36.4	9.1	6.8	25.0	6.8	6.8	18.2	6.8	4.5	2.3
タイ	36	5.6	0.0	16.7	13.9	11.1	16.7	8.3	2.8	25.0	0.0	11.1	2.8
ネパール	32	3.1	0.0	15.6	15.6	12.5	12.5	3.1	6.3	12.5	0.0	15.6	9.4
インドネシア	23	0.0	0.0	26.1	13.0	4.3	30.4	4.3	8.7	26.1	8.7	8.7	0.0
ブラジル	22	9.1	0.0	4.5	4.5	4.5	13.6	0.0	13.6	13.6	0.0	31.8	0.0
その他	210	8.6	0.5	13.8	9.0	5.2	19.5	7.1	5.7	12.9	2.4	20.0	2.4

■横浜での居住開始時期別 困っていることや心配なこと

・横浜での居住開始時期が2004年以前では「特にない」、2005年以降では「日本語の不自由さ」が最も多い。困っていることや心配なことについて「特にない」とする人は居住開始時期が古いほど多い。また、居住年数が浅いほど「日本語の不自由さ」が多くなっている。

<横浜での居住開始時期別 困っていることや心配なこと>

	n	日本語の不自由さ	母語の情報の少なさ	外国語の表示の少なさ	住まいさがし	行政の窓口で外国語が通じない	病気になるた時の対応 病院で外国語が通じない	税金	年金	介護 福祉サービスの利用	出産 育児	子どもの教育	ごみの出し方	結婚 離婚
		%												
合計	1,764	29.8	9.3	10.5	7.4	10.3	19.3	12.3	11.8	4.5	4.6	14.5	5.2	1.2
1984年以前	116	8.6	4.3	6.0	0.9	3.4	5.2	7.8	9.5	6.0	0.9	0.9	2.6	0.0
1985～1994年	136	14.7	9.6	8.1	5.9	6.6	8.8	12.5	12.5	5.9	0.7	5.1	2.9	0.7
1995～2004年	238	16.0	7.6	8.0	5.0	8.0	16.0	12.6	16.4	7.6	2.9	14.7	4.2	1.7
2005～2009年	223	26.0	13.0	7.6	4.5	6.7	17.0	14.8	13.5	3.6	4.0	21.5	3.6	0.4
2010～2014年	283	27.9	5.7	9.5	6.7	6.4	19.1	14.1	13.8	2.8	5.3	25.1	3.2	1.4
2015年以降	735	42.7	11.2	13.5	10.7	15.4	25.3	11.8	9.1	4.1	6.5	12.4	7.9	1.2
	n	自分の意見の市役所 区役所への伝え方	DV（配偶者等からの暴力）	仕事さがし	職場での仕事 人間関係	在留資格の手続き	災害時・緊急時の対応	警察の連絡先など 犯罪に対する対応	近所でのつきあい	自分または家族の健康	その他	特にない	無回答	
		%												
合計	1,764	7.1	0.3	11.8	7.7	7.3	14.6	5.4	8.0	14.7	3.2	22.3	2.5	
1984年以前	116	0.9	0.0	4.3	1.7	1.7	11.2	0.9	0.9	17.2	1.7	48.3	8.6	
1985～1994年	136	5.9	0.0	11.8	5.1	7.4	13.2	1.5	8.1	20.6	2.9	32.4	4.4	
1995～2004年	238	5.0	1.3	8.0	7.6	3.4	14.3	1.7	7.1	18.1	2.1	25.2	2.1	
2005～2009年	223	8.5	0.0	12.6	6.3	9.4	11.7	5.4	6.3	10.3	2.7	22.9	1.8	
2010～2014年	283	7.8	0.4	9.9	7.4	7.8	13.8	6.7	11.0	14.5	4.2	18.7	2.1	
2015年以降	735	8.6	0.3	15.4	9.7	8.8	17.0	7.6	8.8	13.5	3.7	16.7	1.0	

■現在の日本語レベル別 困っていることや心配なこと

- ・「話す」「読む」「書く」「聞く」のいずれも、「日本語の不自由さ」「行政の窓口で外国語が通じない」「病気になる時の対応・病院で外国語が通じない」で、できる人とできない人に大きな差がみられた。これ以外にも、聞くことが「できない」では「災害時・緊急時の対応」の数値が、全体値に比べて高くなっている。
- ・現在の日本語レベルが「よくできる」人ほど「特にない」が高くなっている。

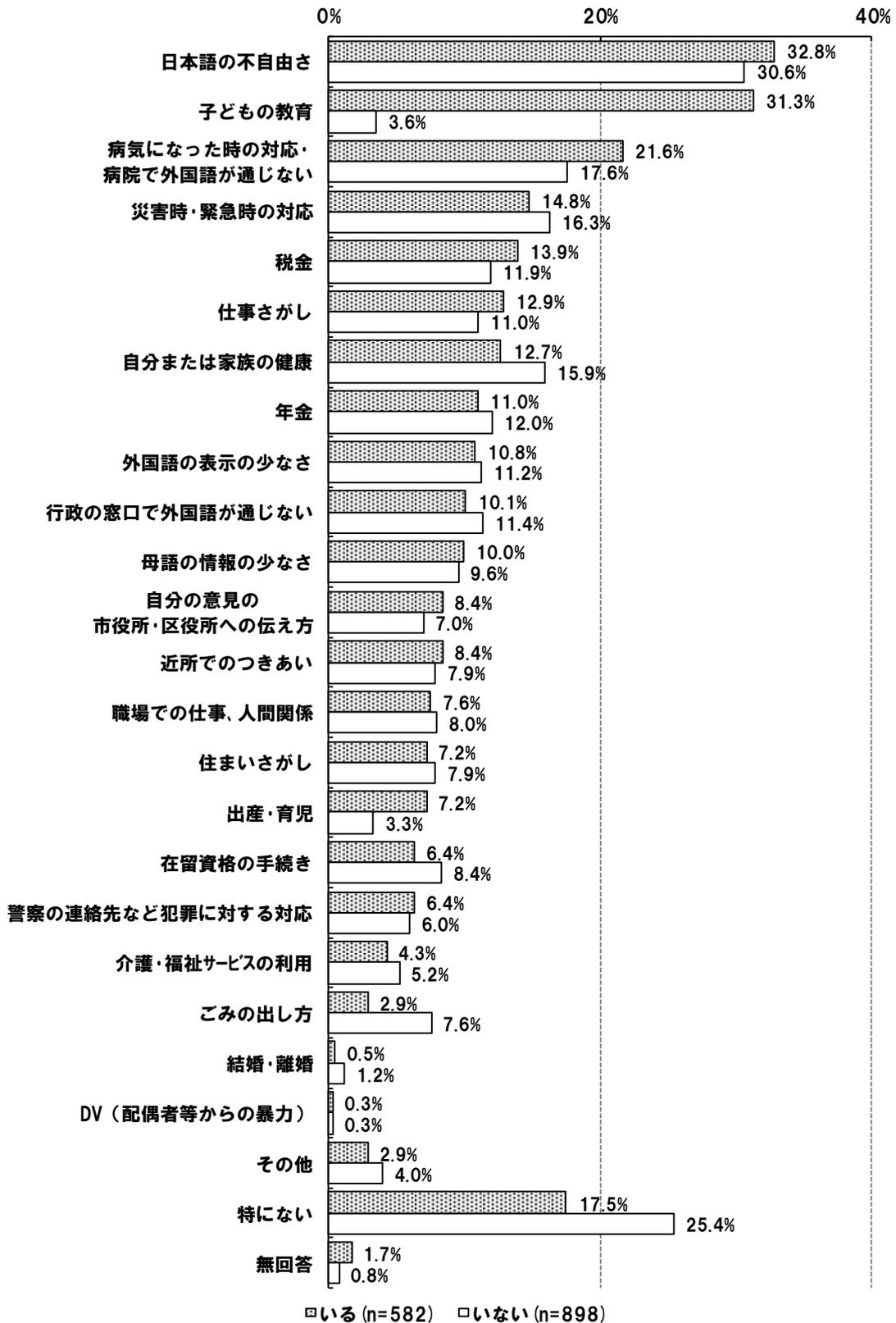
＜現在の日本語レベル別 困っていることや心配なこと（抜粋）＞

		n	日本語の不自由さ	母語の情報の少なさ	外国語の表示の少なさ	行政の窓口で外国語が通じない	外国語が通じない	病気になる時の対応・病院で	伝え方	自分の意見の市役所・区役所への	仕事さがし	災害時・緊急時の対応	近所でのつきあい	自分または家族の健康	特にない
			%												
合計		1,764	29.8	9.3	10.5	10.3	19.3	7.1	11.8	14.6	8.0	14.7	22.3		
話す	よくできる	635	4.3	5.8	5.8	3.6	7.9	4.1	10.6	14.6	7.2	15.0	32.1		
	まあまあできる	716	34.1	11.6	10.5	9.1	20.1	7.8	11.9	13.1	8.8	15.1	19.0		
	あまりできない	283	71.0	12.4	21.6	25.4	41.3	12.4	16.6	19.1	8.8	13.4	8.8		
	できない	48	72.9	12.5	18.8	31.3	41.7	12.5	12.5	22.9	6.3	12.5	10.4		
読む	よくできる	554	4.7	2.5	2.3	1.8	6.0	3.8	9.4	13.0	7.4	14.8	35.2		
	まあまあできる	661	32.7	10.1	10.3	8.6	20.0	7.6	12.1	13.3	8.8	12.3	18.2		
	あまりできない	307	60.9	18.2	22.5	23.8	37.5	11.1	18.2	21.2	10.1	18.6	11.4		
	できない	105	59.0	14.3	23.8	27.6	36.2	14.3	13.3	21.0	5.7	16.2	12.4		
書く	よくできる	451	4.9	2.4	2.7	2.0	6.0	4.7	8.0	12.9	8.0	13.3	37.0		
	まあまあできる	620	27.7	8.9	8.1	7.3	17.9	6.8	12.3	12.7	9.0	13.4	19.8		
	あまりできない	404	53.2	14.9	20.0	19.8	33.2	9.9	17.6	19.1	8.4	17.1	13.9		
	できない	153	53.6	17.6	20.9	23.5	31.4	11.1	12.4	21.6	6.5	16.3	11.8		
聞く	よくできる	687	6.1	6.4	6.3	3.8	8.4	4.4	10.0	14.1	7.7	14.7	31.9		
	まあまあできる	669	37.4	10.8	10.9	10.3	22.0	8.4	12.7	14.9	8.8	14.8	17.9		
	あまりできない	233	72.1	13.3	21.9	26.6	41.6	12.9	18.0	16.7	9.0	13.7	9.4		
	できない	46	71.7	17.4	17.4	28.3	41.3	8.7	13.0	23.9	6.5	10.9	10.9		

■子どもの有無別 困っていることや心配なこと

・子どもがいる世帯では、「子どもの教育」の割合が非常に高い。一方で子供のいない世帯では、「特にな
い」の割合が高くなっている。

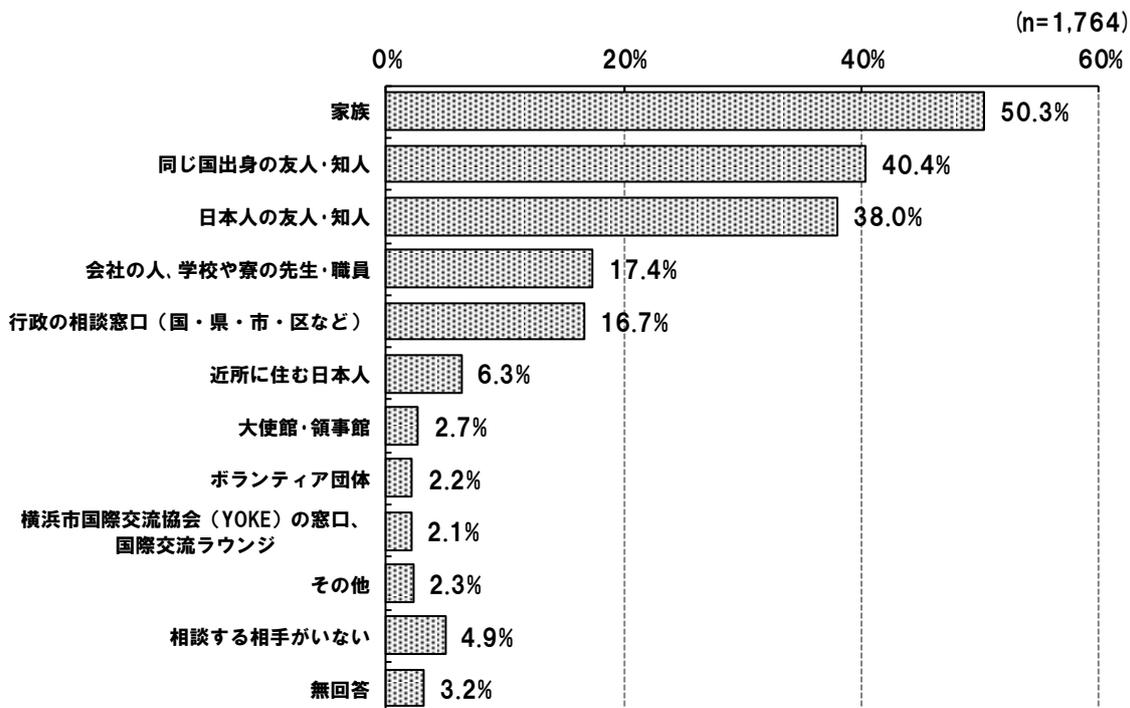
<子どもの有無別 困っていることや心配なこと>



(3) 横浜での生活で困っていることや心配なことがあったときの相談先

・「家族」が 50.3%と最も多い。次いで「同じ国出身の友人・知人」(40.4%)、「日本人の友人・知人」(38.0%) の順となっている。

<横浜での生活で困っていることや心配なことがあったときの相談先 (MA) >



■年齢別 相談相手

・29歳以下では「同じ国出身の友人・知人」、30歳以上では「家族」が最も多くなっている。若い人ほど「同じ国出身の友人・知人」の割合が多くなっている。また、29歳以下で「会社の人、学校や寮の先生・職員」、80歳以上で「行政の相談窓口（国・県・市・区など）」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。

＜年齢別 困っていることや心配なことがあったときの相談先＞

	n	行政の相談窓口（国・県・市・区など）	横浜市国際交流協会（YOKE）の窓口、国際交流フロンツ	会社の人 学校や寮の先生 職員	近所に住む日本人	日本人の友人・知人	同じ国出身の友人・知人	ボランティア団体	大使館 領事館	家族	その他	相談する相手がいない	無回答
		%											
合計	1,764	16.7	2.1	17.4	6.3	38.0	40.4	2.2	2.7	50.3	2.3	4.9	3.2
29歳以下	387	9.3	1.3	34.9	2.3	43.9	54.3	1.3	2.8	34.9	2.8	5.2	1.8
30歳～39歳	524	16.2	2.5	19.7	6.3	37.0	48.3	2.7	2.5	50.4	2.1	6.1	1.7
40歳～49歳	368	20.1	1.9	11.1	5.7	38.3	36.4	2.4	3.3	57.6	2.2	4.3	2.4
50歳～59歳	235	18.3	4.3	8.5	9.4	36.6	29.8	2.6	3.8	58.7	2.6	4.7	3.0
60歳～69歳	129	20.9	0.8	3.9	14.0	37.2	19.4	3.1	1.6	57.4	1.6	2.3	6.2
70歳～79歳	74	23.0	1.4	2.7	8.1	31.1	18.9	1.4	1.4	60.8	1.4	4.1	9.5
80歳以上	26	26.9	0.0	0.0	11.5	11.5	7.7	0.0	0.0	38.5	3.8	7.7	15.4

■横浜での居住開始時期別 相談相手

・横浜での居住開始時期についてみると、2014年以前では「家族」、2015年以降では「同じ国出身の友人・知人」が最も多くなっている。また、居住開始時期が古いほど「行政の相談窓口（国・県・市・区など）」の数値が高く、1984年以前では全体の数値を大きく上回っている。一方、居住開始時期が2015年以降では「会社の人、学校や寮の先生・職員」の数値が高くなっている。

＜横浜での居住開始時期別 困っていることや心配なことがあったときの相談先＞

	n	行政の相談窓口（国・県・市・区など）	横浜市国際交流協会（YOKE）の窓口、国際交流フロンジ	会社の人 学校や寮の先生 職員	近所に住む日本人	日本人の友人・知人	同じ国出身の友人・知人	ボランティア団体	大使館 領事館	家族	その他	相談する相手がない	無回答
		%											
合計	1,764	16.7	2.1	17.4	6.3	38.0	40.4	2.2	2.7	50.3	2.3	4.9	3.2
1984年以前	116	26.7	0.9	2.6	8.6	37.9	13.8	0.9	2.6	54.3	1.7	3.4	11.2
1985～1994年	136	26.5	2.9	5.9	14.7	33.8	19.9	2.2	1.5	61.8	1.5	4.4	5.1
1995～2004年	238	21.8	1.3	11.8	8.4	35.7	29.8	2.1	4.2	60.5	0.8	4.6	2.5
2005～2009年	223	17.9	4.0	9.4	5.8	37.2	41.3	1.3	2.7	61.0	0.0	4.9	1.8
2010～2014年	283	19.1	1.4	14.5	6.4	35.0	45.2	3.2	2.8	52.3	2.8	5.7	2.5
2015年以降	735	10.6	1.9	27.6	4.1	41.5	50.9	2.3	2.4	40.1	3.5	5.0	1.9

■現在の日本語レベル別 相談相手（抜粋）

・「話す」ことが「あまりできない」、「書く」ことが「まあまあできる」では「同じ国出身の友人・知人」が最も多くなっている。「聞く」ことが「あまりできない」「できない」人では「同じ国出身の友人・知人」と「家族」が同率で最も多くなっている。それ以外はいずれも「家族」が最も多くなっている。

<現在の日本語レベル別 困っていることや心配なことがあったときの相談先（抜粋）>

		n	行政の相談窓口	会社の人 学校や寮の先生 職員	日本人の友人・知人	同じ国出身の友人・知人	家族	相談する相手がいない	無回答
			%						
合計		1,764	16.7	17.4	38.0	40.4	50.3	4.9	3.2
話す	よくできる	635	23.8	16.7	43.3	33.2	52.0	5.0	2.8
	まあまあできる	716	15.1	19.6	40.1	45.3	50.8	4.5	2.0
	あまりできない	283	7.1	18.7	29.7	50.2	48.1	3.5	2.5
	できない	48	4.2	12.5	22.9	43.8	50.0	10.4	0.0
読む	よくできる	554	24.0	19.1	43.1	36.6	50.0	5.4	3.2
	まあまあできる	661	15.1	20.0	38.4	45.5	48.1	4.4	1.7
	あまりできない	307	11.4	17.6	40.4	44.0	58.0	2.0	1.6
	できない	105	5.7	10.5	27.6	41.0	52.4	8.6	1.9
書く	よくできる	451	24.8	18.8	41.2	34.6	49.7	6.0	3.3
	まあまあできる	620	15.8	20.5	41.1	46.9	46.8	4.7	1.8
	あまりできない	404	12.6	16.8	40.6	43.8	56.4	2.0	2.2
	できない	153	9.2	15.0	27.5	38.6	54.2	6.5	1.3
聞く	よくできる	687	22.3	17.3	43.1	35.1	52.1	5.2	3.1
	まあまあできる	669	15.2	20.0	40.2	46.2	50.7	4.0	1.5
	あまりできない	233	6.9	18.5	31.3	48.9	48.9	3.9	2.1
	できない	46	8.7	15.2	19.6	43.5	43.5	6.5	2.2

(4) 頼りにしているボランティア団体か同じ国出身者の団体

・SNS グループ、宗教団体、国際交流ラウンジ、NPO・市民団体や日本語教室などが挙げられている。

＜頼りにしているボランティア団体か同じ国出身者の団体（自由回答より抜粋）＞

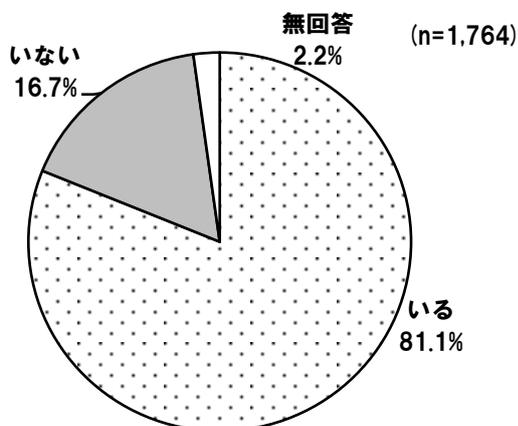
複数の回答があった団体	件数
SNSグループ	16
宗教団体	15
国際交流ラウンジ	13
NPO・市民団体	11
日本語教室	7
横浜市国際交流協会（YOKE）	3
子育て支援拠点	2
その他	4

(5) 信頼して相談できる友人の存在

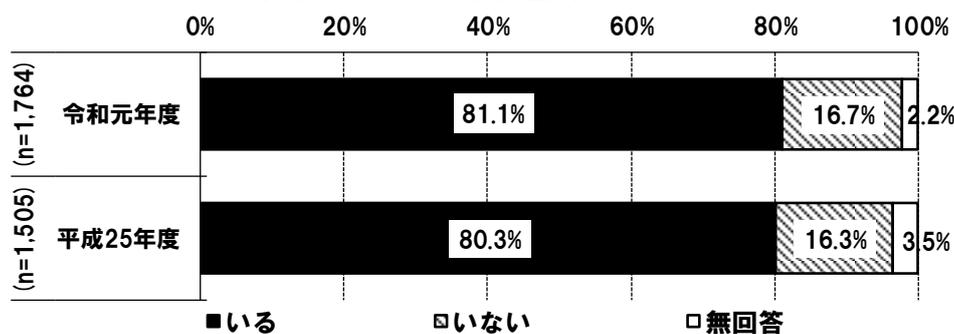
① 信頼して相談できる友人の有無

・「いる」が全体の81.1%を占めており、平成25年度調査と同様の傾向を示している。

＜信頼して相談できる友人の有無（SA）＞



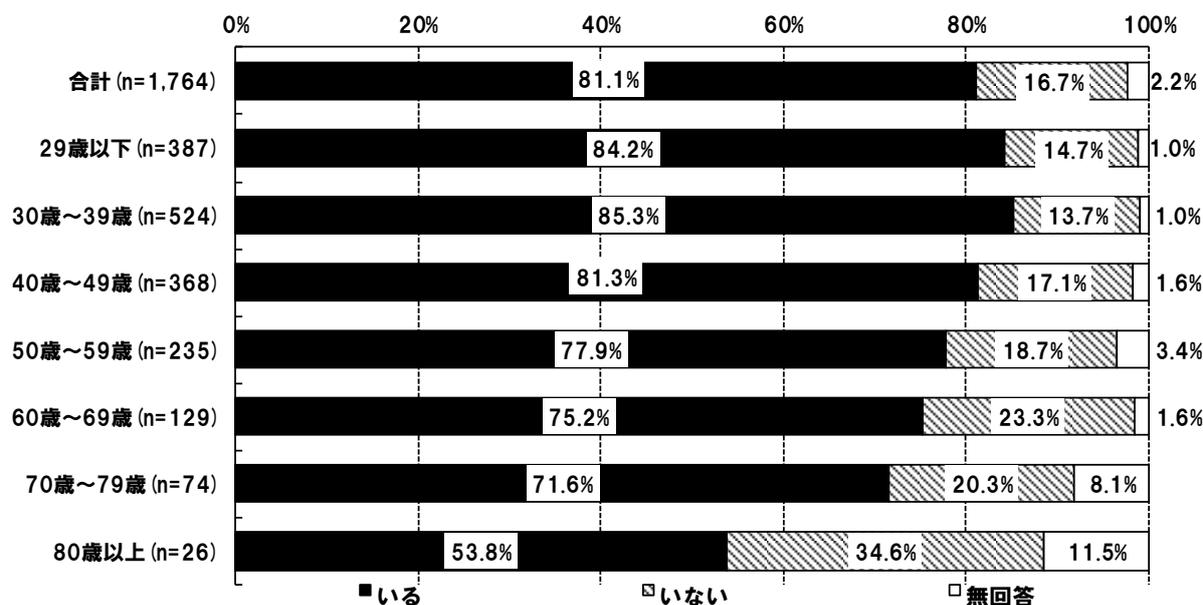
＜参考 平成25年度調査結果との比較＞



■年齢別 信頼して相談できる友人の存在

・いずれも「いる」が多いが、年齢が高いほど「いる」が減少傾向にある。

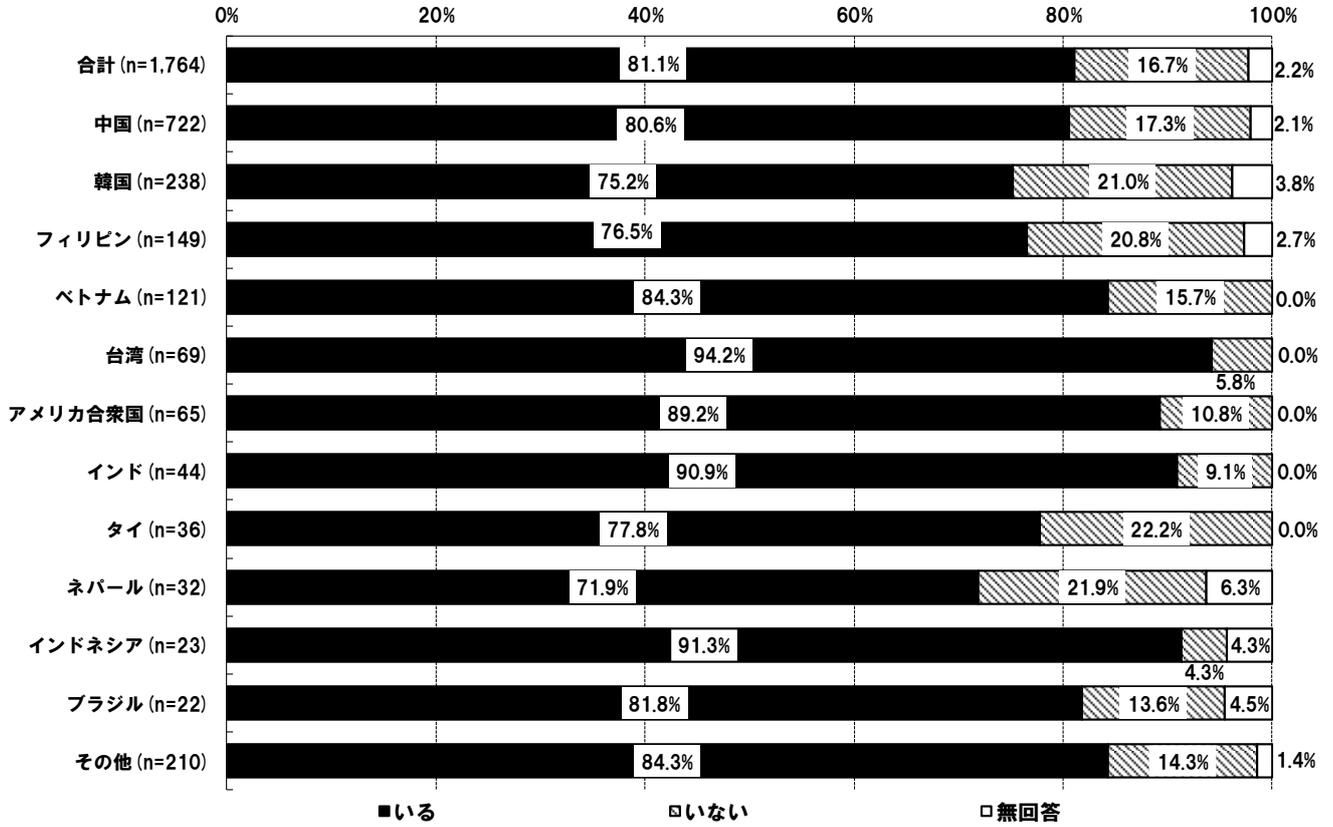
＜年齢別 信頼して相談できる友人の存在＞



■国籍・地域別 信頼して相談できる友人の存在

・国籍・地域別にみると、いずれも「いる」が多くなっている。

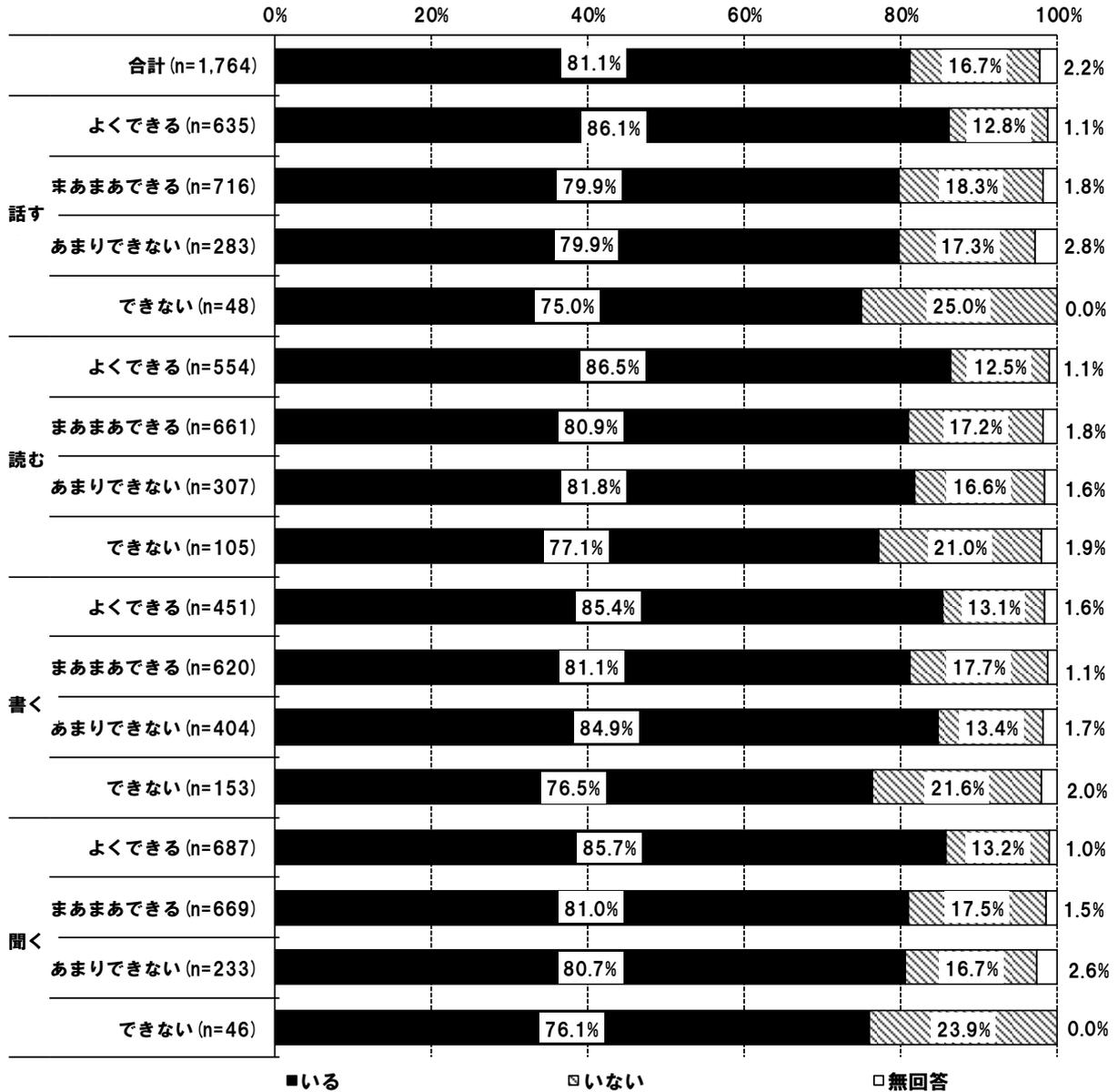
<国籍・地域別 信頼して相談できる友人の存在>



■現在の日本語レベル別 信頼して相談できる友人の存在

・「話す」「読む」「書く」「聞く」のすべての習熟度において「いる」の方が多い。「話す」「読む」「書く」「聞く」ことが「できない」人でわずかに「いる」の数値が低いですが、日本語レベルによって大きな差異がみられない。

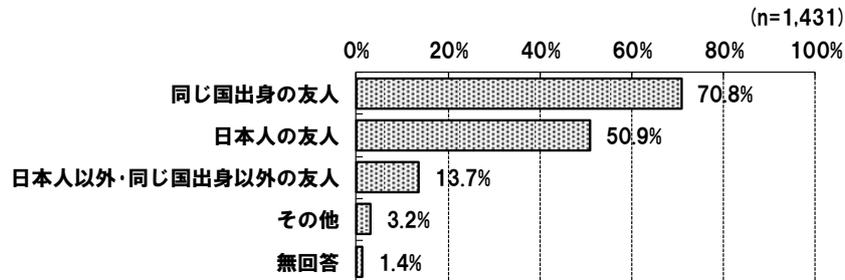
<現在の日本語レベル別 信頼して相談できる友人の存在>



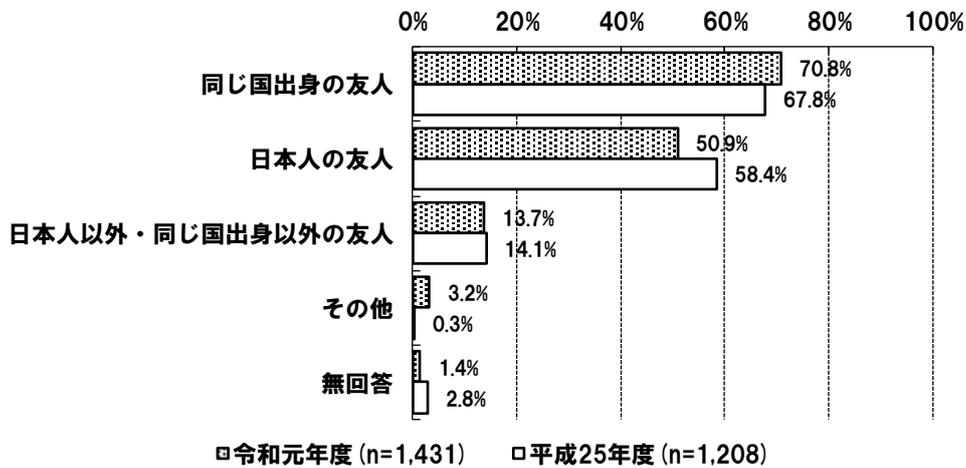
② 信頼して相談できる友人の属性

- ・「同じ国出身の友人」が70.8%と最も多い。次いで「日本人の友人」(50.9%)、「日本人以外・同じ国出身以外の友人」(13.7%)の順となっている。
- ・平成25年度調査も同様の傾向を示している。

<信頼して相談できる友人の属性 (MA) >



<参考 平成25年度調査結果との比較>



■年齢別 信頼して相談できる友人の属性

- ・年齢が高いほど「日本人の友人」が多くなっている。一方で年齢が若いほど「同じ国出身の友人」が多くなる傾向にある。

<年齢別 信頼して相談できる友人の属性>

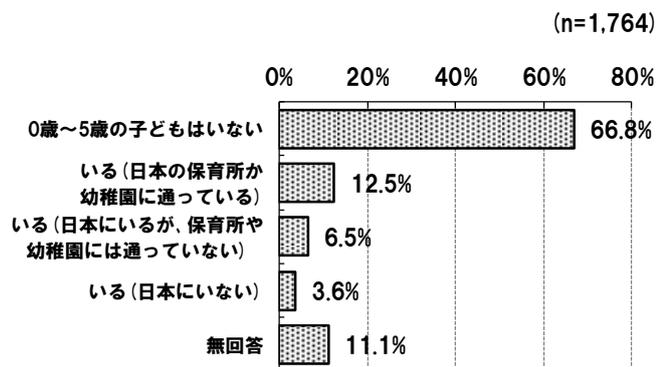
	n	日本人の友人	同じ国出身の友人	日本人以外・同じ国出身以外の友人	その他	無回答
合計	1,431	50.9	70.8	13.7	3.2	1.4
29歳以下	326	42.6	79.8	15.6	2.1	1.5
30歳～39歳	447	43.8	77.0	13.2	2.9	1.6
40歳～49歳	299	55.2	69.6	15.1	2.7	1.7
50歳～59歳	183	61.7	59.6	14.2	4.9	0.5
60歳～69歳	97	68.0	56.7	9.3	3.1	2.1
70歳～79歳	53	67.9	39.6	5.7	11.3	0.0
80歳以上	14	71.4	42.9	0.0	0.0	0.0

5. 子育て・教育について

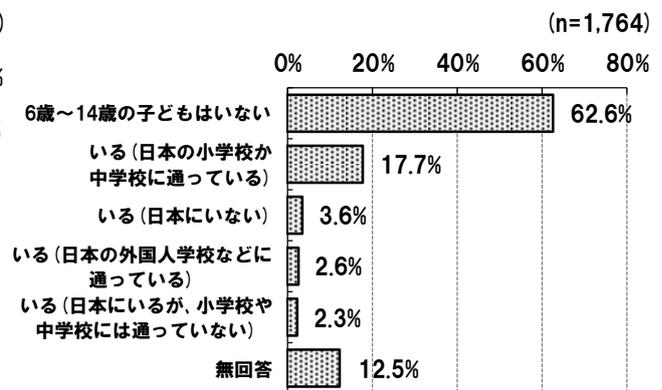
(1) 0歳～5歳、6歳～14歳の子どもの有無

- ・0歳～5歳の子どもの有無についてみると、「0歳～5歳の子どもはいない」が66.8%で最も多くなっている。次いで「いる（日本の保育所か幼稚園に通っている）」（12.5%）、「いる（日本にいないが、保育所や幼稚園には通っていない）」（6.5%）の順となっている。
- ・6歳～14歳の子どもの有無についてみると、「6歳～14歳の子どもはいない」が62.6%で最も多くなっている。次いで「いる（日本の小学校か中学校に通っている）」（17.7%）、「いる（日本にいない）」（3.6%）の順となっている。

<0歳～5歳の子どもの有無(MA)>

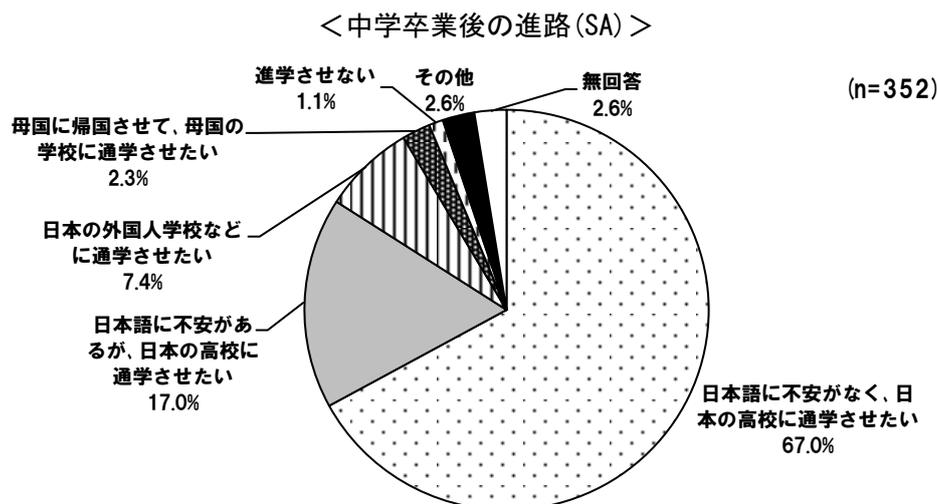


<6歳～14歳の子どもの有無(MA)>



(2) 中学校を卒業したあとどのような進路に進ませたいか

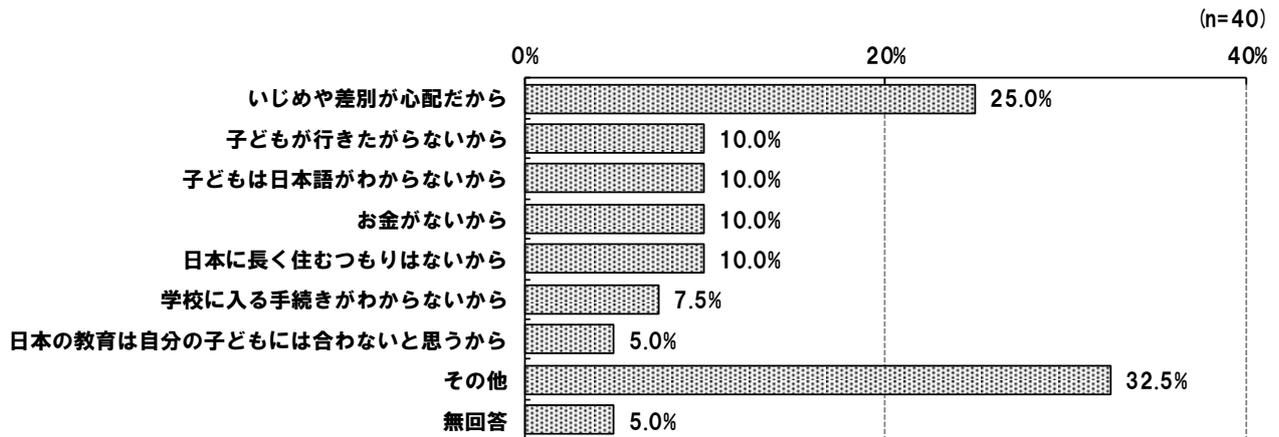
- ・「日本語に不安がなく、日本の高校に通学させたい」が67.0%と最も多い。これに「日本語に不安があるが、日本の高校に通学させたい」（17.0%）をあわせると、日本の高校に通学させたい人が8割強を占めている。



(3) 子どもが学校に通っていない理由

- ・回答数が少ないが、「いじめや差別が心配だから」が25.0%と最も多い。次いで「子どもが行きたがらないから」「子どもは日本語がわからないから」「お金がないから」「日本に長く住むつもりはないから」がいずれも10.0%で並ぶ。

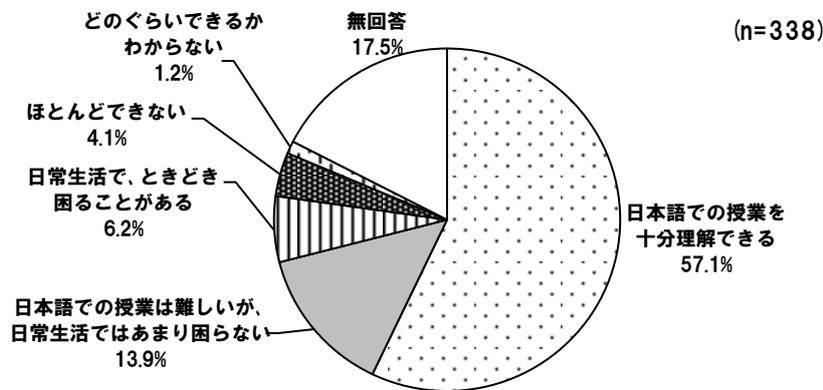
<子どもが学校に通っていない理由 (MA)>



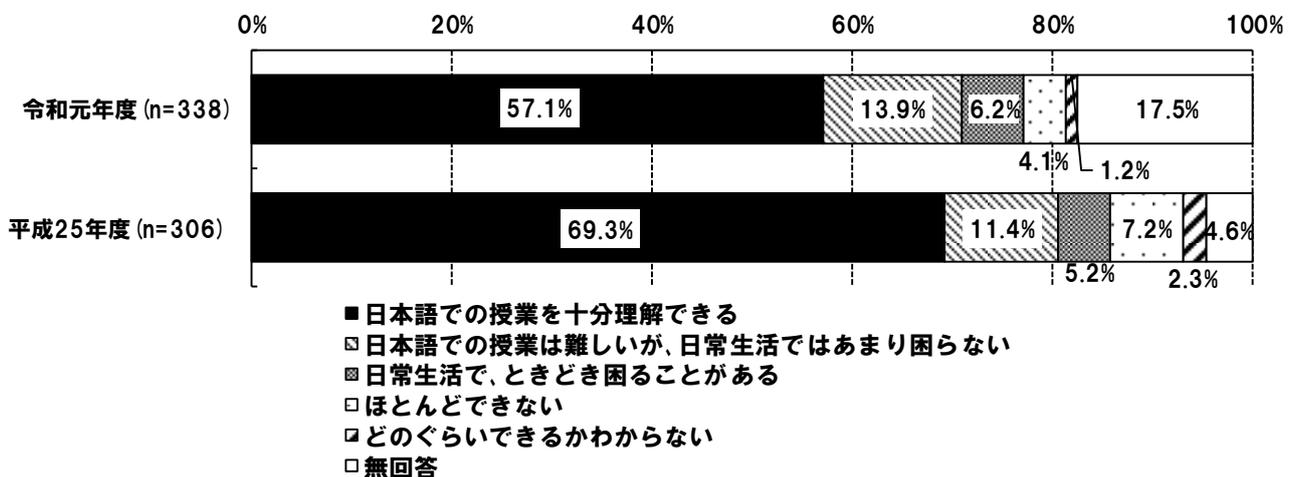
(4) 6歳～14歳の子どもの日本語レベル

- ・「日本語での授業を十分理解できる」が 57.1% と最も多い。次いで「日本語での授業は難しいが、日常生活ではあまり困らない」(13.9%)、「日常生活で、ときどき困ることがある」(6.2%) の順となっている。
- ・平成 25 年度調査と比較すると、「日本語での授業を十分理解できる」が 12.2 ポイント減少している。また、「ほとんどできない」も 3.1 ポイント減少している。

<6歳～14歳の子どもの日本語レベル (SA)>

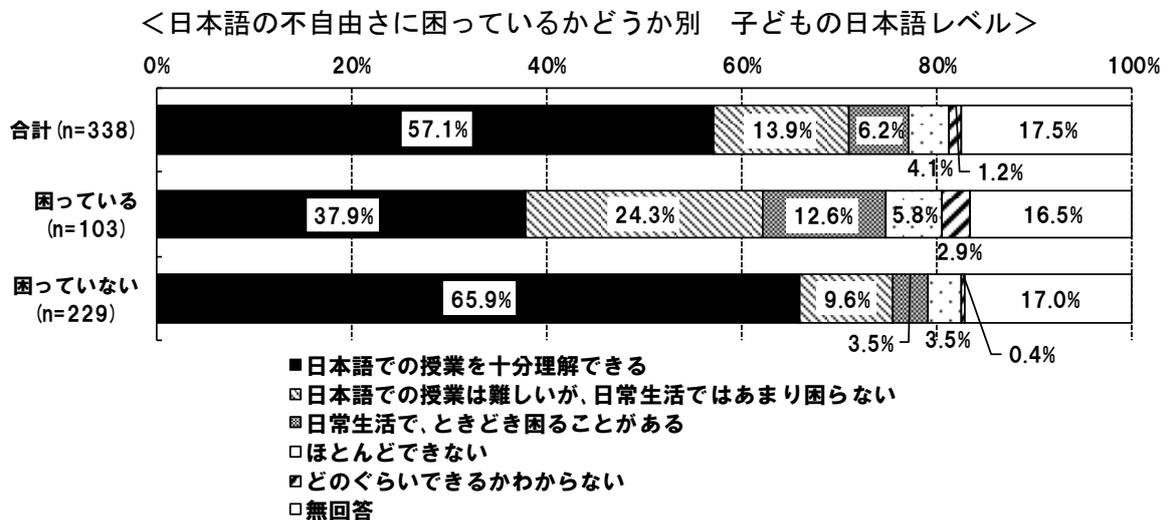


<参考 平成 25 年度調査結果との比較>



■日本語の不自由さに困っているかどうか別 子どもの日本語レベル

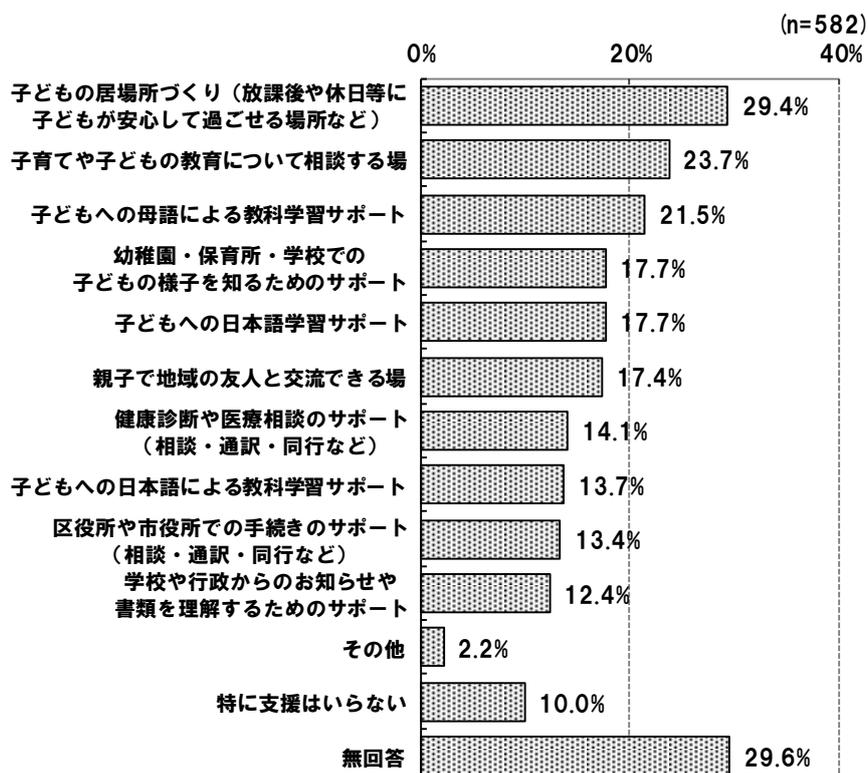
・日本語の不自由さに「困っていない」と回答した人の子どもの日本語レベルは「日本語での授業を十分に理解できる」が 65.9%を占めている。一方で、日本語の不自由さに「困っている」と回答した人の子どもの日本語レベルは「日本語での授業を十分に理解できる」が4割弱にとどまっている。



(5) 子育てや子どもの教育についてあったらよい支援

・「子どもの居場所づくり（放課後や休日等に子どもが安心して過ごせる場所など）」が 29.4%と最も多い。次いで「子どもや子育ての教育について相談する場」（23.7%）、「子どもへの母語による教科学習サポート」（21.5%）の順となっている。

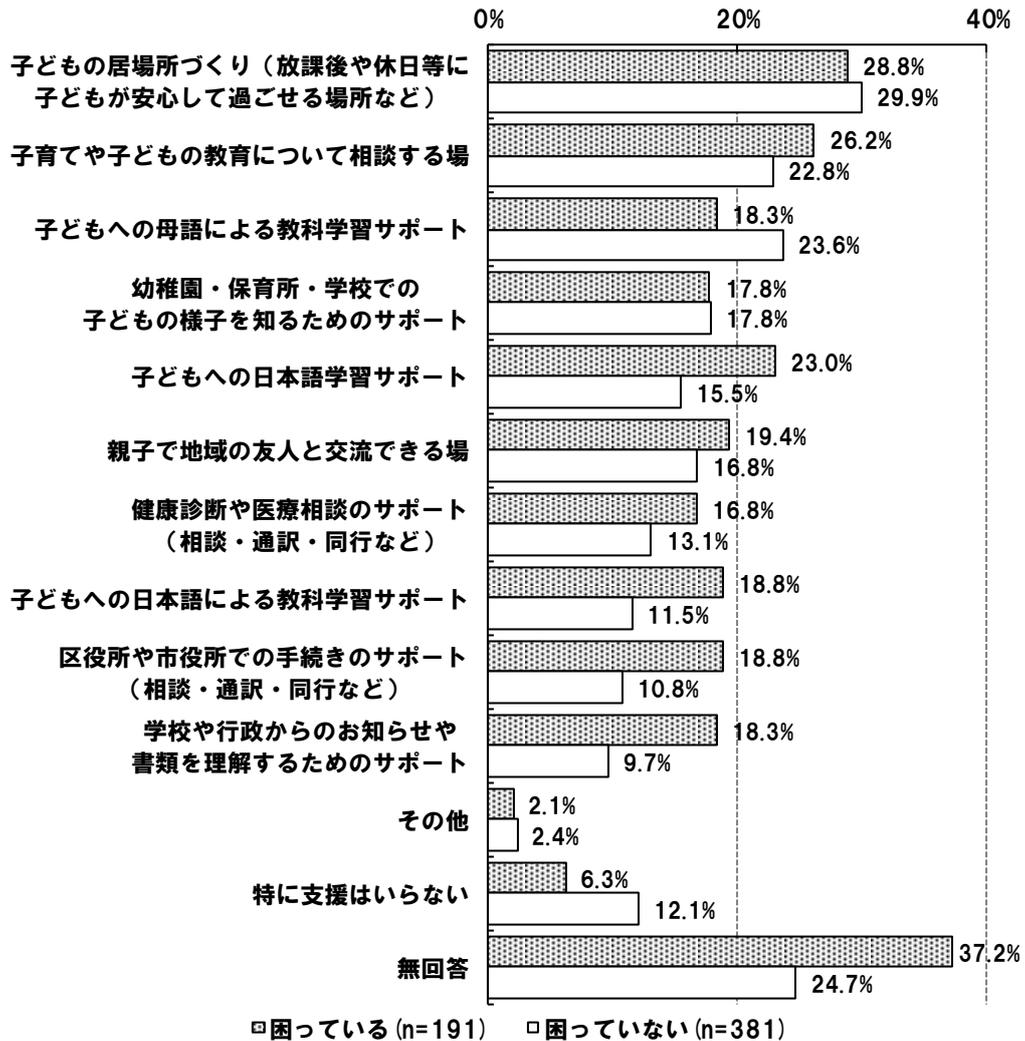
＜子育てや子どもの教育についてあったらよい支援（MA）＞



■日本語の不自由さに困っているかどうか別 子育てや子どもの教育についてあったらよい支援

・日本語の不自由さに困っているかどうかを問わずに、「子どもの居場所づくり（放課後や休日等に子どもが安心して過ごせる場所など）」が最も多くなっている。日本語の不自由さに「困っている」人では、「区役所や市役所での手続きのサポート（相談・通訳・同行など）」、「学校や行政からのお知らせや書類を理解するためのサポート」の数値が、「困っていない」人に比べて8ポイント以上高くなっている。

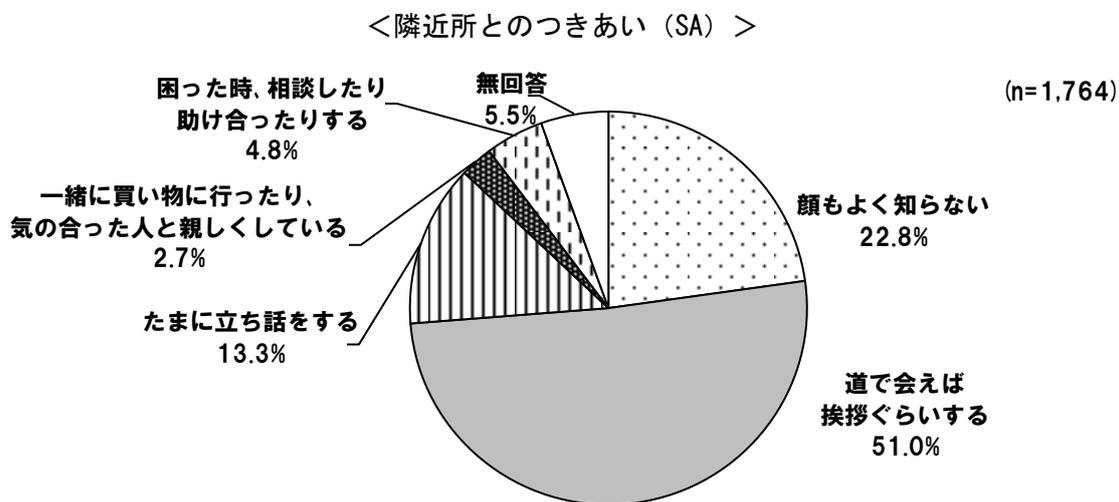
＜日本語の不自由さに困っているかどうか別 子育てや子どもの教育についてあったらよい支援＞



6. 住まいの環境について

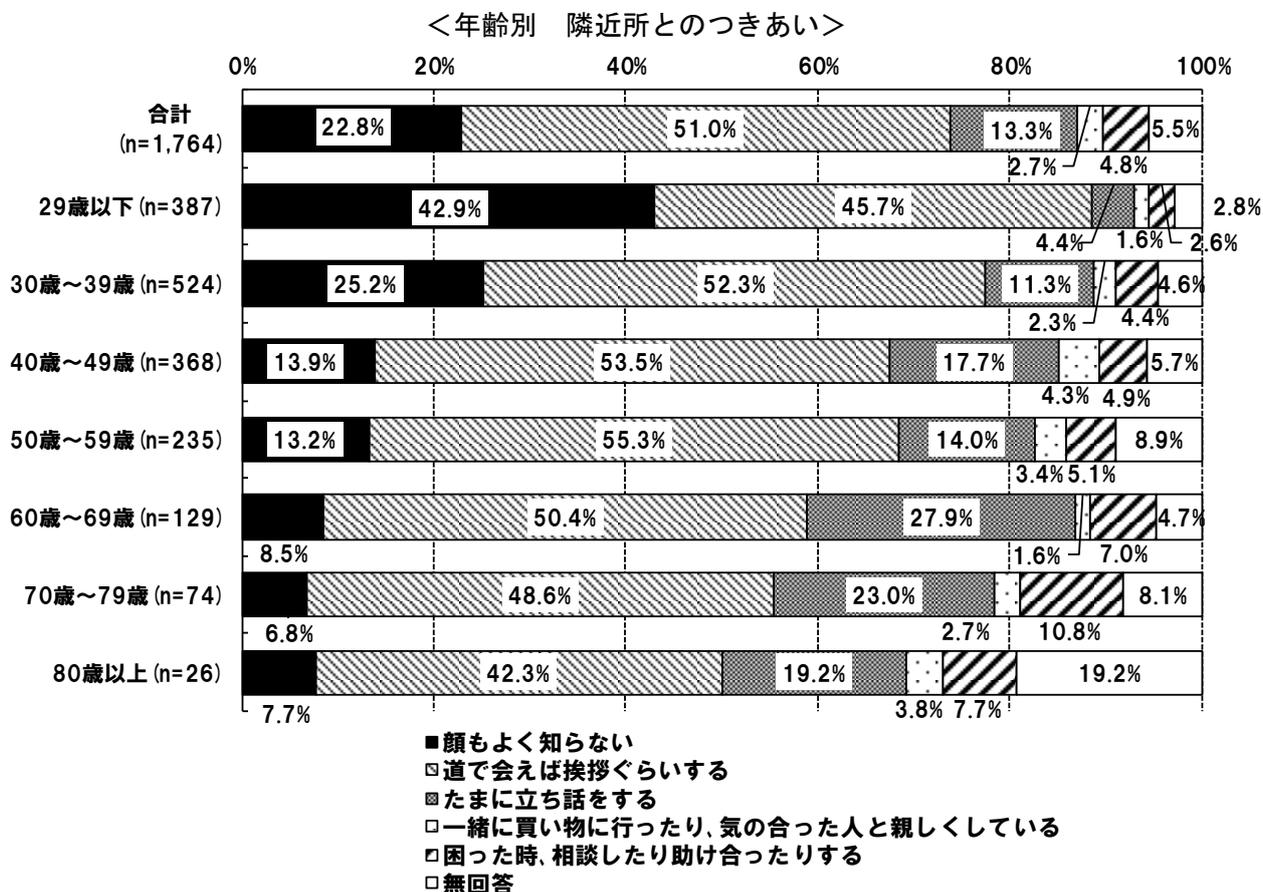
(1) 隣近所とのつきあい

- ・「道で会えば挨拶ぐらいする」が51.0%と最も多い。次いで「顔もよく知らない」(22.8%)、「たまに立ち話をする」(13.3%)の順となっている。



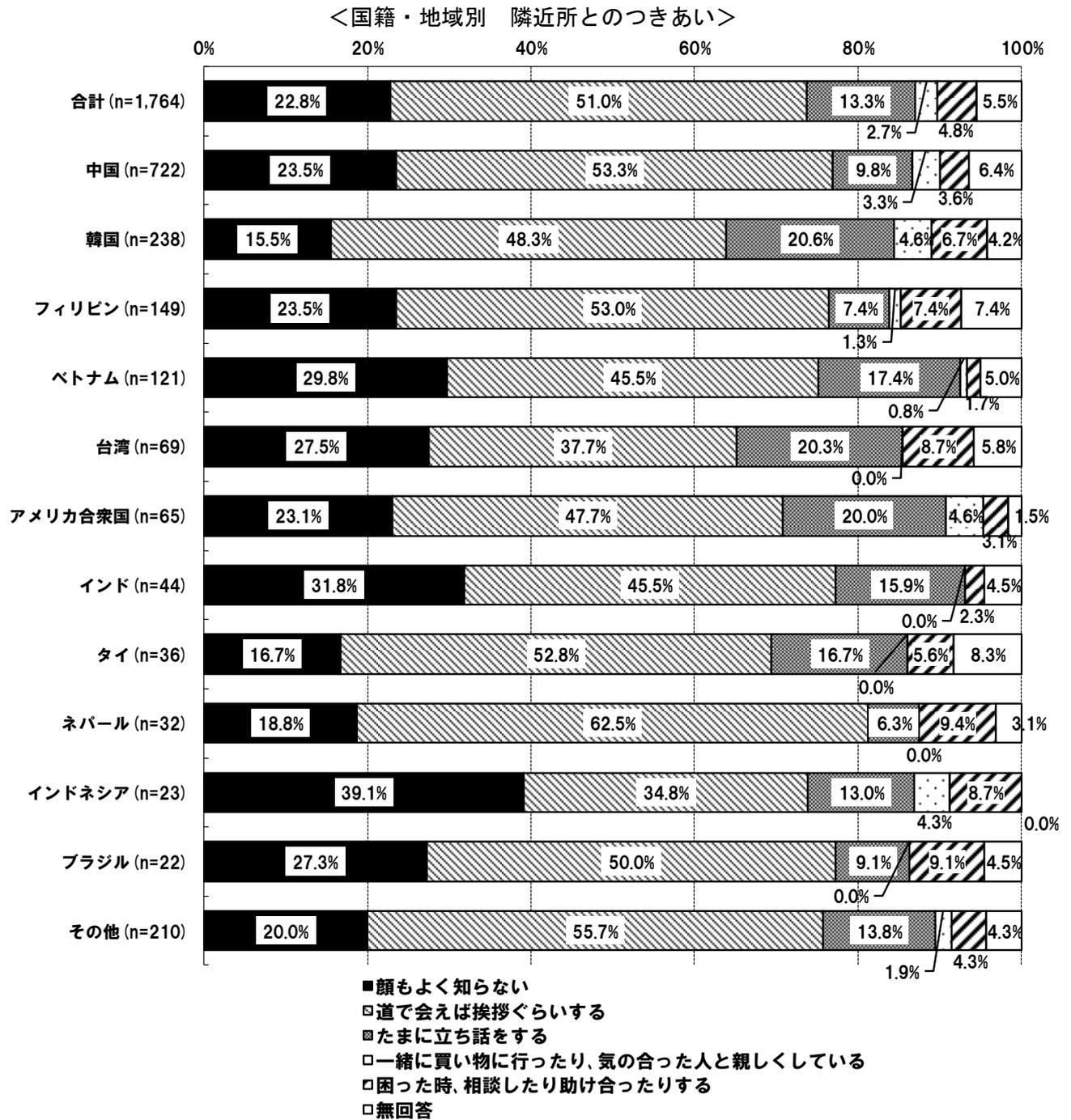
■年齢別 隣近所とのつきあい

- ・いずれの年代も「道で会えば挨拶ぐらいする」が最も多い。また、年齢が若いほど「顔もよく知らない」が多くなる傾向にある。



■国籍・地域別 隣近所とのつきあい

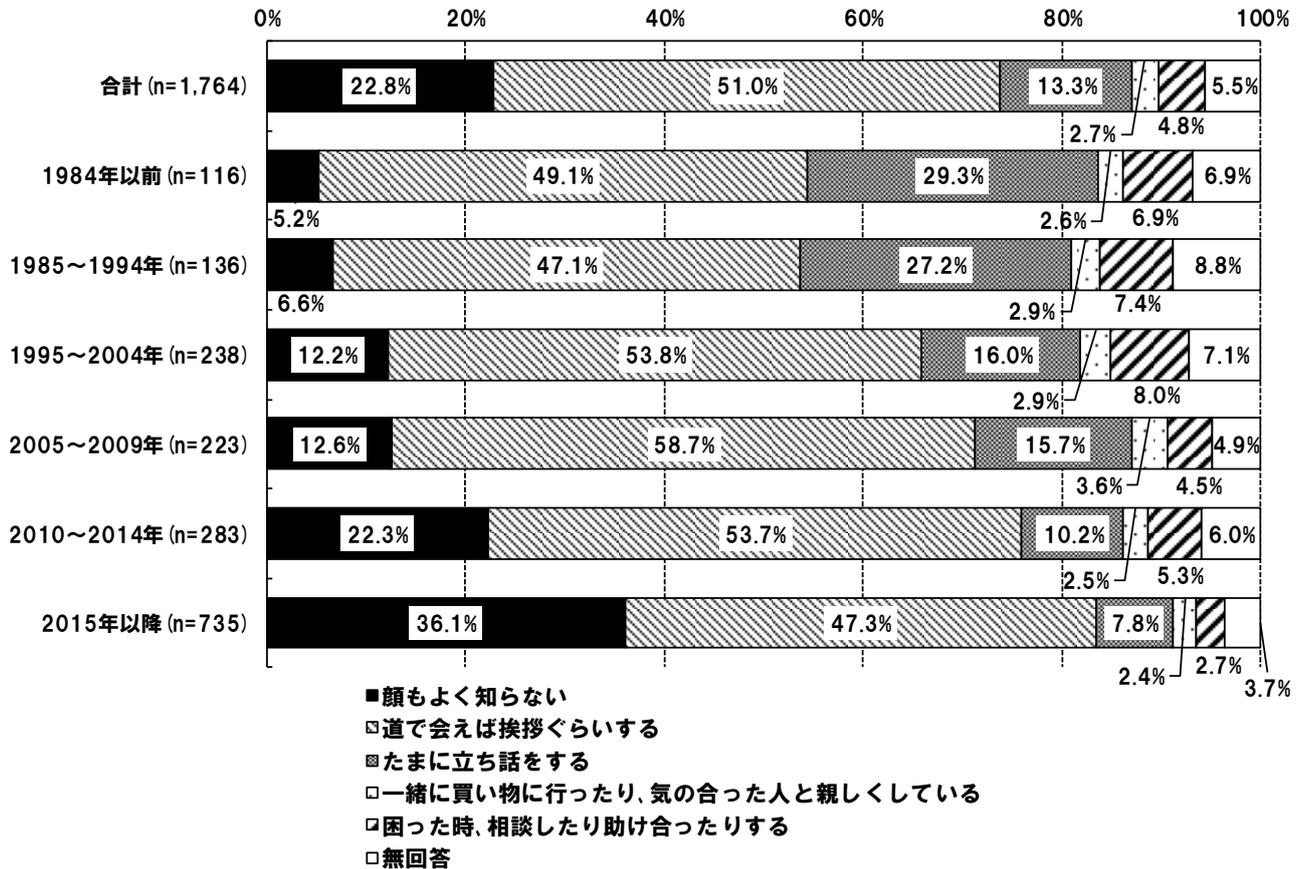
・インドネシア以外の国・地域では「道で会えば挨拶ぐらいする」が最も多い。



■横浜での居住開始時期別 隣近所とのつきあい

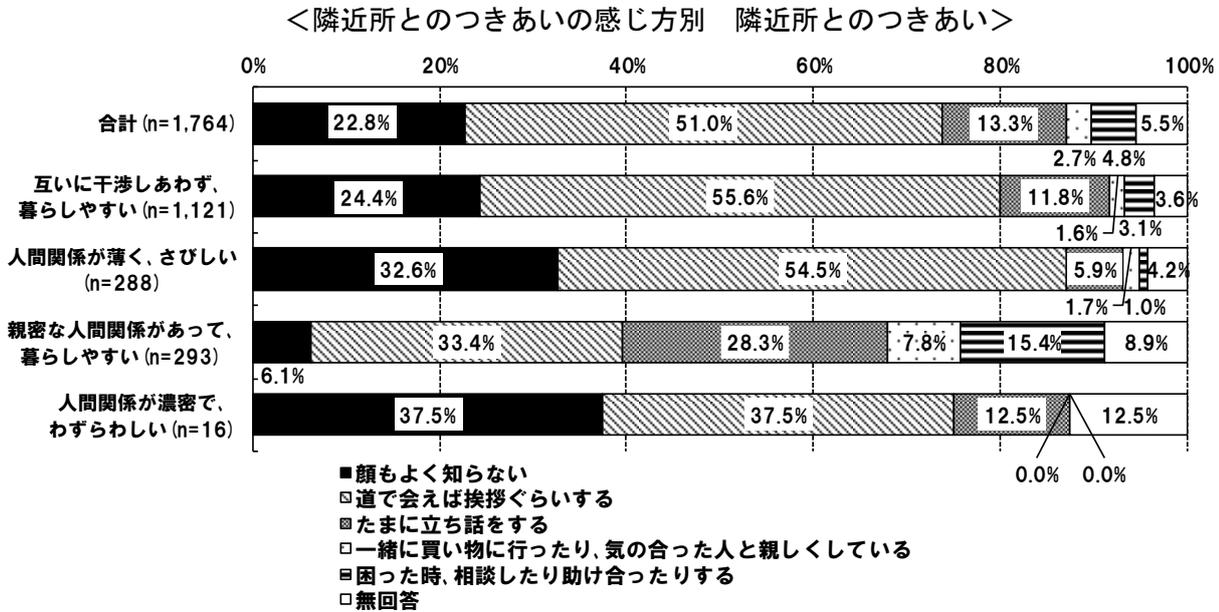
・いずれも「道で会えば挨拶ぐらいする」が最も多い。1985～1994年以前に居住を開始した人では「た
まに立ち話をする」、2015年以降では「顔もよく知らない」の数値が全体値に比べて10ポイント以上
高い。横浜での居住年数が浅いほど付き合いも浅くなっている。

<横浜での居住開始時期別 隣近所とのつきあい>



■隣近所とのつきあいの感じ方別 隣近所とのつきあい

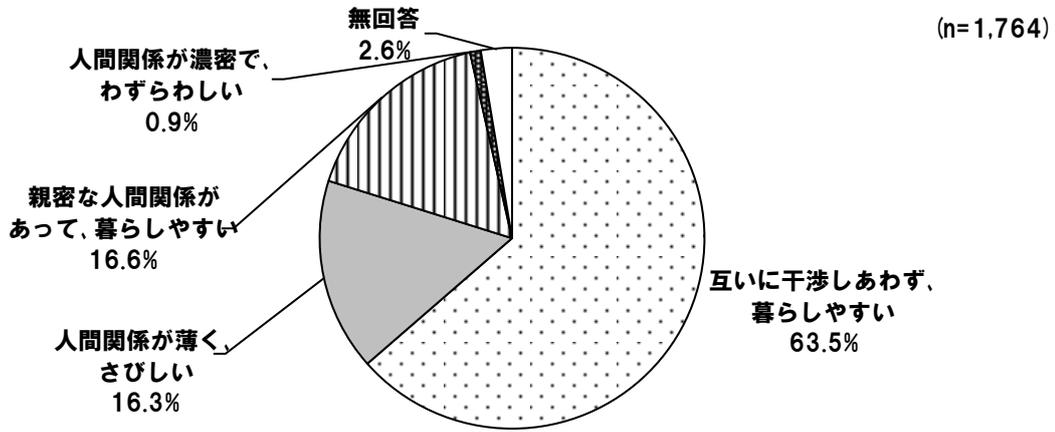
- ・隣近所とのつきあいの感じ方を問わず、「道で会えば挨拶ぐらいする」が最も多くなっている。また、他の人に比べて、「親密な関係があって、暮らしやすい」と感じている人は「たまに立ち話をする」、「一緒に買い物に行ったり、気の合った人と親しくしている」、「困った時、相談したり助け合ったりする」の割合が高くなっている。



(2) 隣近所とのつきあいの感じ方

・「互いに干渉しあわず、暮らしやすい」が63.5%と最も多い。次いで「親密な人間関係があって、暮らしやすい」(16.6%)、「人間関係が薄く、さびしい」(16.3%)の順となっている。

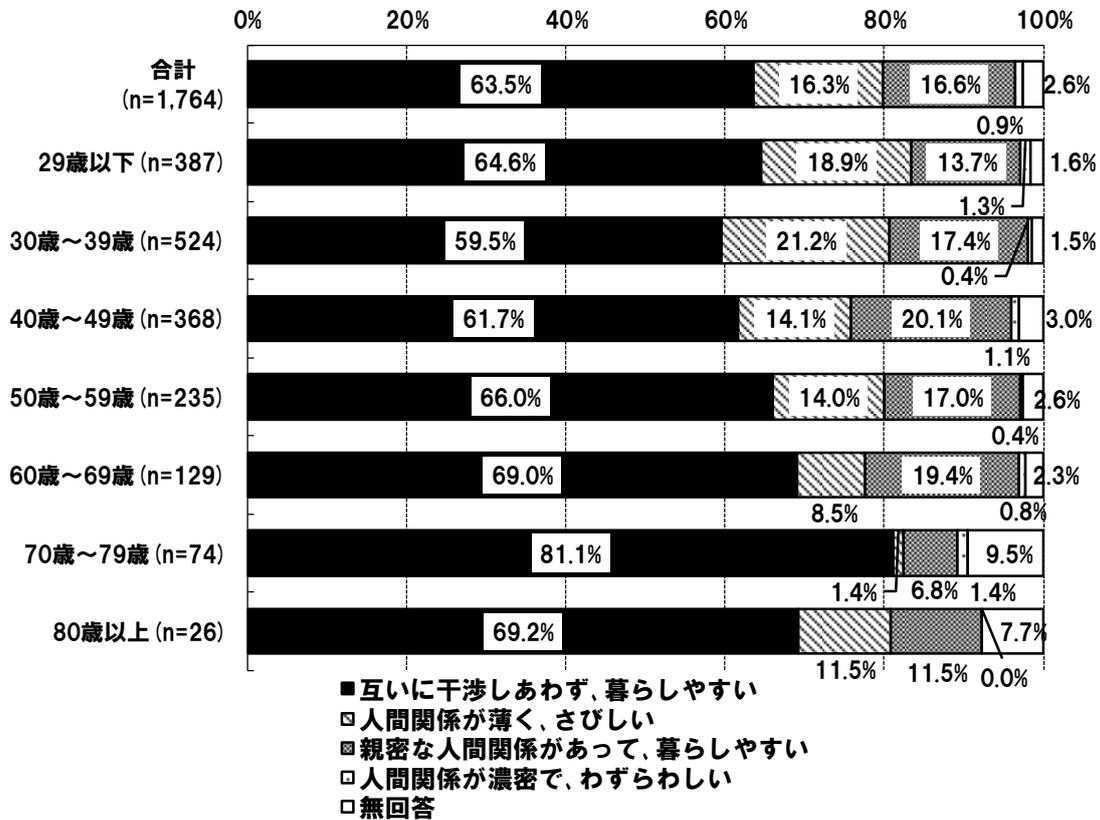
<隣近所とのつきあいの感じ方 (SA) >



■年齢別 隣近所とのつきあいの感じ方

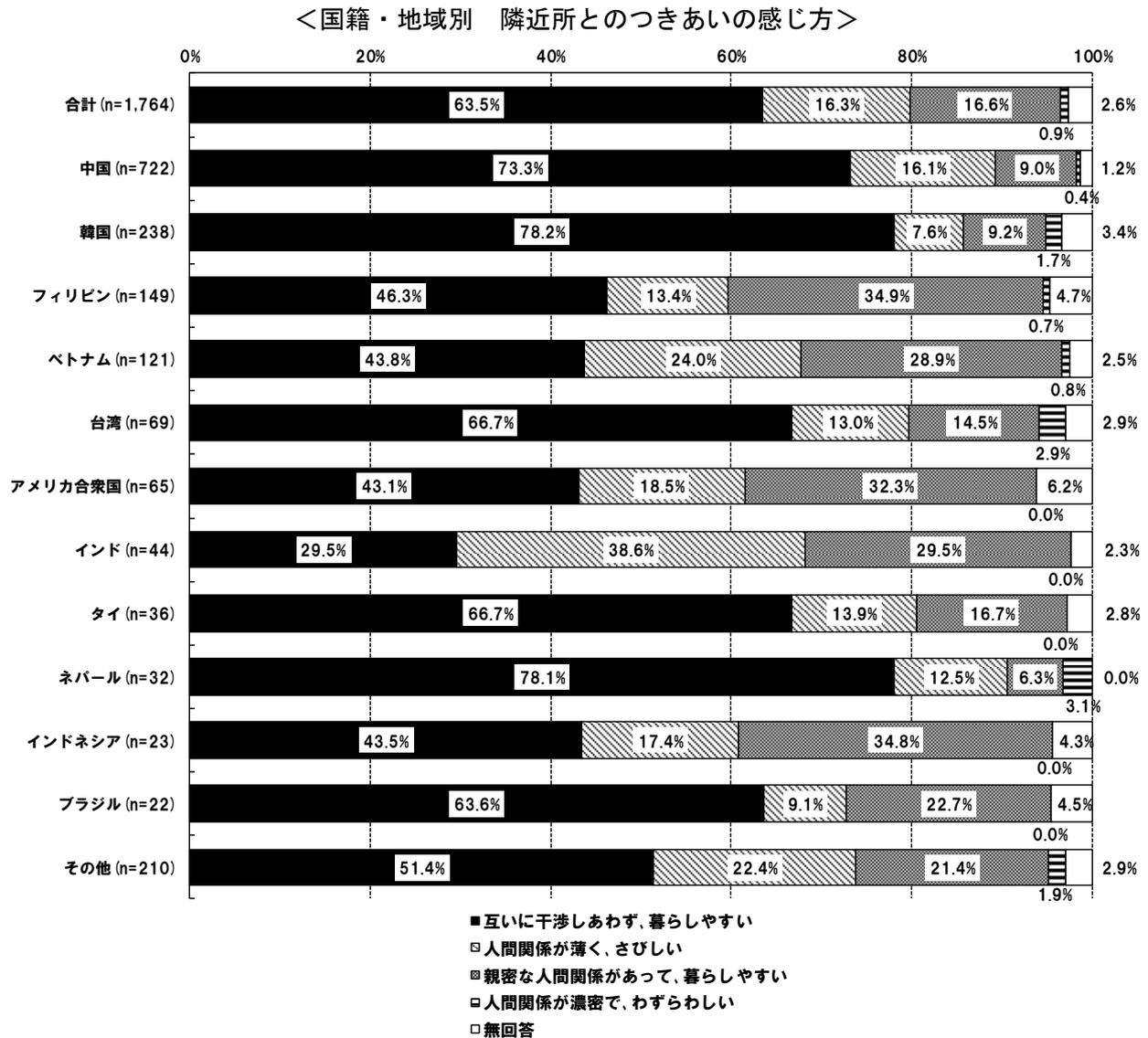
・いずれの年代でも「互いに干渉しあわず、暮らしやすい」が最も多い。

<年齢別 隣近所とのつきあいの感じ方>



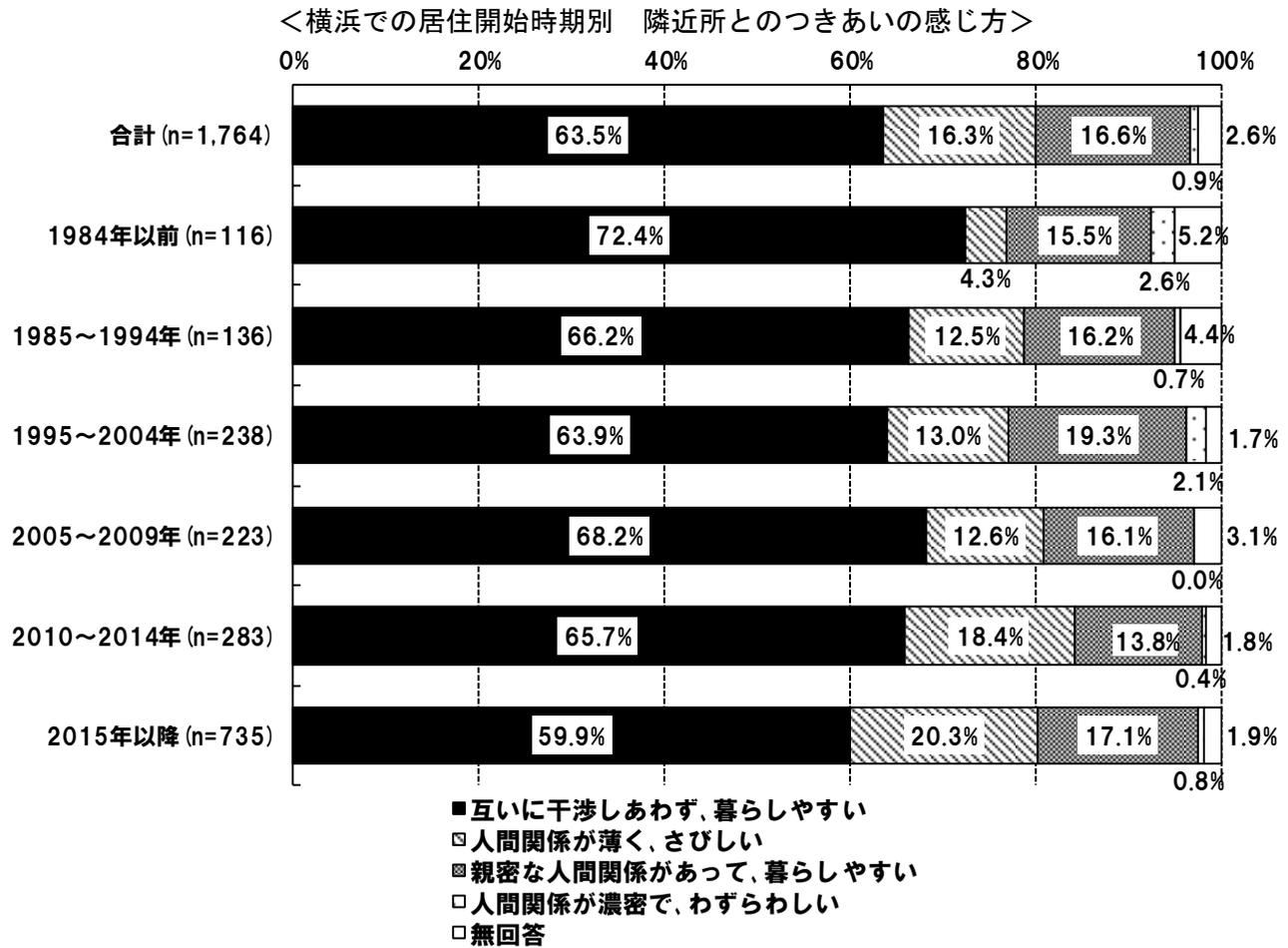
■国籍・地域別 隣近所とのつきあいの感じ方

・インドでは「人間関係が薄く、さびしい」、それ以外の国・地域では「互いに干渉しあわず、暮らしやすい」が最も多くなっている。またフィリピン、アメリカ合衆国、インドネシアでは「親密な人間関係があって、暮らしやすい」が3割以上となっている。



■横浜での居住開始時期別 隣近所とのつきあいの感じ方

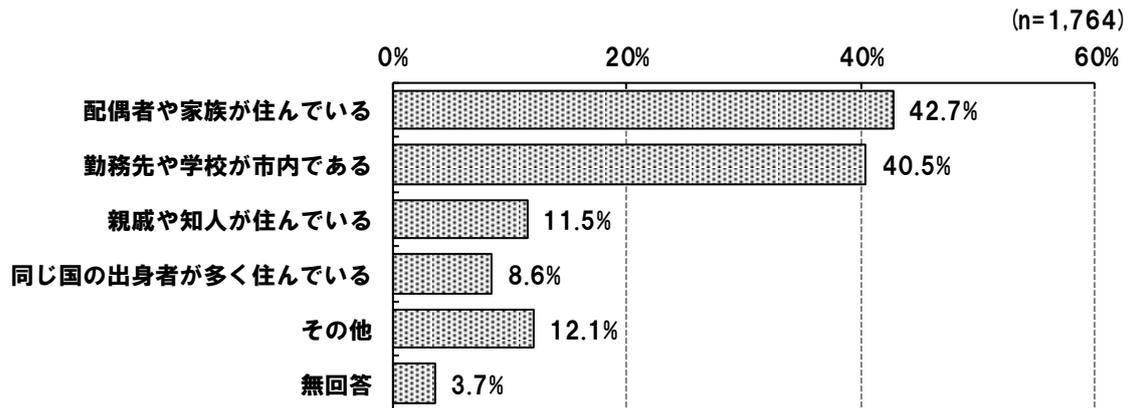
・横浜での居住開始時期を問わずに「互いに干渉しあわず、暮らしやすい」が最も多くなっている。



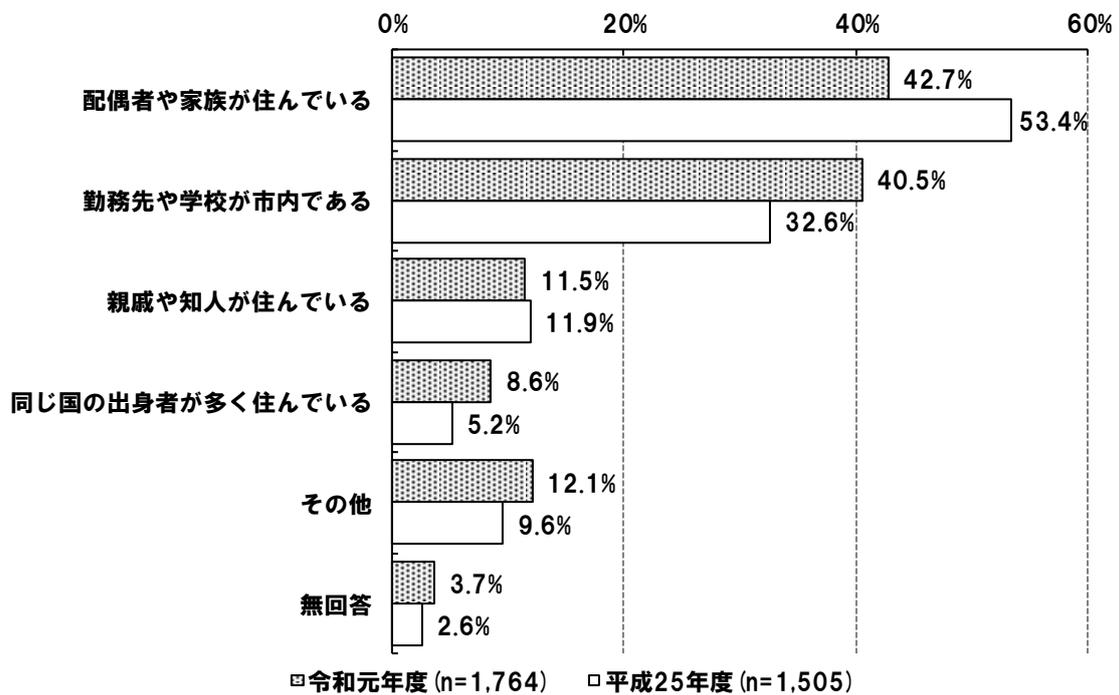
(3) 横浜に住む理由

- ・ 4割以上の人が横浜に住む理由として「配偶者や家族が住んでいる」または「勤務先や学校が市内である」を挙げている。平成25年度調査も概ね同様の傾向を示している。
- ・ 平成25年度調査に比べ、「配偶者や家族が住んでいる」が10.7ポイント減少し、「勤務先や学校が市内である」が7.9ポイント増加している。

<横浜に住む理由 (MA) >



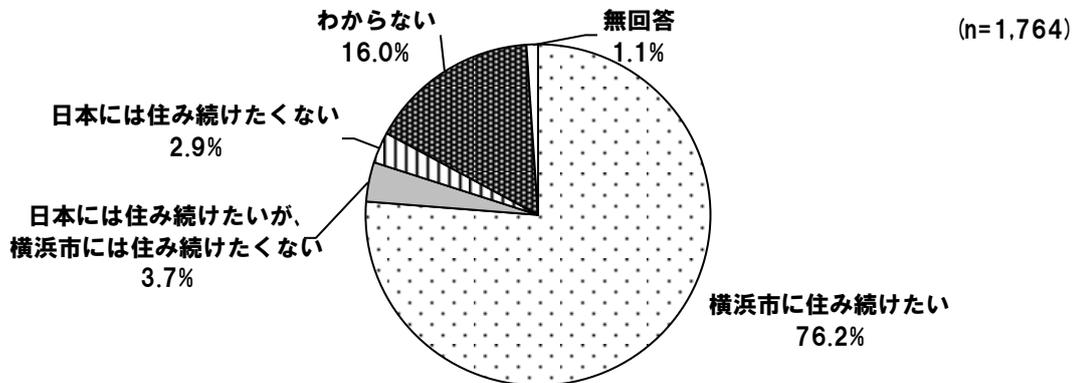
<参考 平成25年度調査結果との比較>



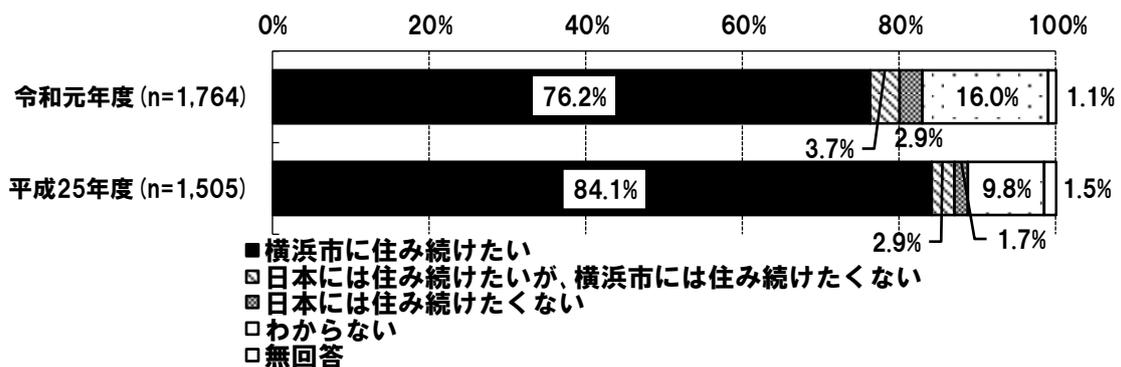
(4) 日本または横浜市への定住希望

- ・「横浜市に住みたい」が76.2%で多数を占める。
- ・平成25年度調査と比較すると、「横浜市に住みたい」が7.9ポイント減少し、「わからない」が6.2ポイント増加している。

＜日本または横浜市への定住希望（SA）＞



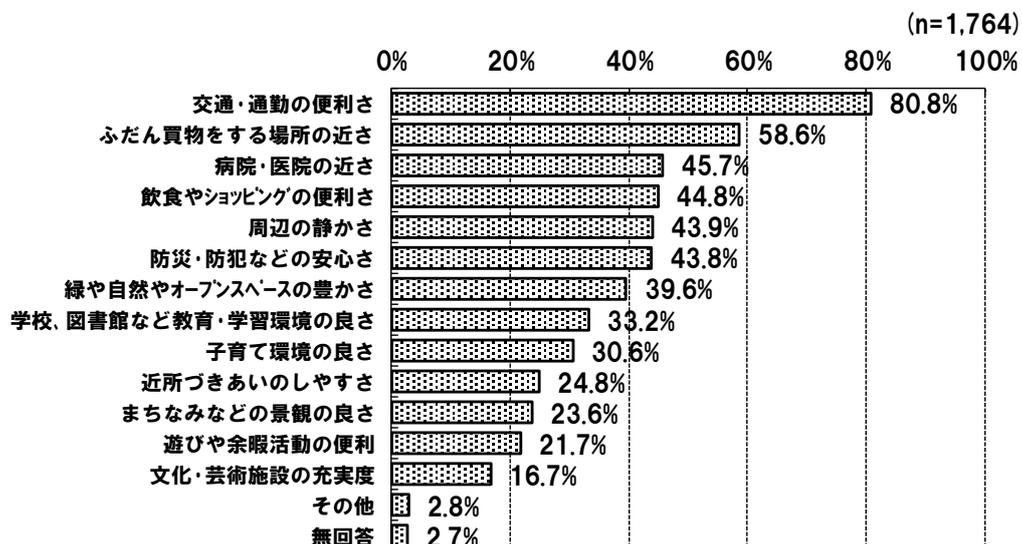
＜参考 平成25年度調査結果との比較＞



(5) 特に重視する転居先の住まいの周辺の環境

- ・「交通・通勤の便利さ」が80.8%と最も多い。次いで「ふだん買い物をする場所の近さ」(58.6%)、「病院・医院の近さ」(45.7%)、「飲食やショッピングの便利さ」(44.8%)の順となっている。

＜特に重視する転居先の住まいの周辺の環境（MA）＞



■年齢別 特に重視する転居先の住まいの周辺の環境

・60歳以下では「交通・通勤の便利さ」、70歳～79歳では「ふだん買い物をする場所の近さ」、80歳以上では「病院・医院の近さ」が最も多い。また29歳以下では「飲食やショッピングの便利さ」、30歳～39歳では「子育て環境の良さ」「学校、図書館など教育・学習環境の良さ」、60歳以上では「病院・医院の近さ」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高い。さらに年齢が若いほど「交通・通勤の便利さ」を重視する傾向にある。

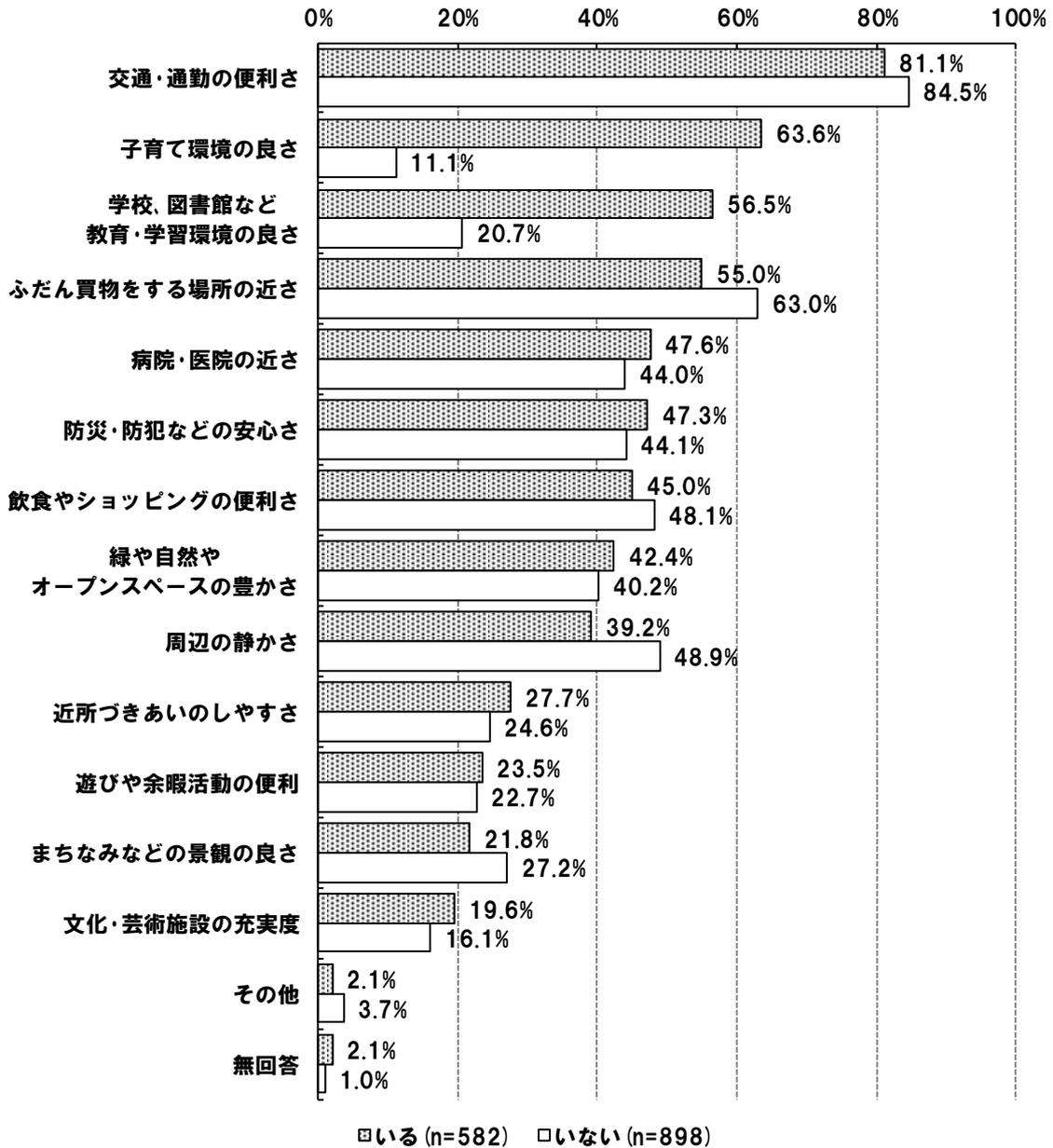
<年齢別 特に重視する転居先の住まいの周辺の環境>

	n	交通 通勤の 便利さ	ふだん 買い物を する場所 の近さ	病院 医院の 近さ	防災 防犯など の安心さ	緑や自然 やオープ ンスペー スの豊か さ	周辺 の静かさ	子育て 環境の良 さ	飲食や ショッピ ングの便 利さ	近所づ きあいの しやすさ	まちな みなどの 景観の良 さ	学校 図書館 など教育 学習環境 の良さ	遊び や余暇活 動の便利 	文化 芸術施設 の充実度	その他	無 回答
		%														
合計	1,764	80.8	58.6	45.7	43.8	39.6	43.9	30.6	44.8	24.8	23.6	33.2	21.7	16.7	2.8	2.7
29歳以下	387	89.1	66.1	33.6	41.6	39.0	50.1	17.6	55.0	24.5	25.6	28.4	24.8	16.5	2.8	0.3
30歳～39歳	524	85.9	57.1	45.4	49.8	42.9	43.9	53.1	48.3	25.2	22.9	48.7	23.9	17.2	2.1	1.1
40歳～49歳	368	79.9	51.6	44.6	45.4	41.3	41.8	36.7	43.8	23.6	24.5	39.4	20.1	15.8	3.5	2.4
50歳～59歳	235	78.3	59.1	52.3	42.1	40.0	43.4	14.9	36.2	28.1	27.2	21.3	23.4	18.3	2.6	2.1
60歳～69歳	129	66.7	64.3	62.8	34.9	33.3	41.9	8.5	32.6	25.6	18.6	11.6	14.7	17.8	3.1	6.2
70歳～79歳	74	51.4	62.2	59.5	29.7	25.7	33.8	6.8	32.4	20.3	20.3	6.8	12.2	16.2	2.7	14.9
80歳以上	26	53.8	53.8	69.2	46.2	23.1	30.8	3.8	26.9	19.2	11.5	3.8	7.7	11.5	3.8	15.4

■子どもの有無別 特に重視する転居先の住まいの周辺の環境

・子どもの有無別にみると、子どもがいる世帯がより「子育て環境の良さ」「学校、図書館など教育・学習環境の良さ」を重視している。一方で、子どもがいない世帯がより「周辺の静かさ」「ふだん買い物をする場所の近さ」を重視している。

<子どもの有無別 特に重視する転居先の住まいの周辺の環境>

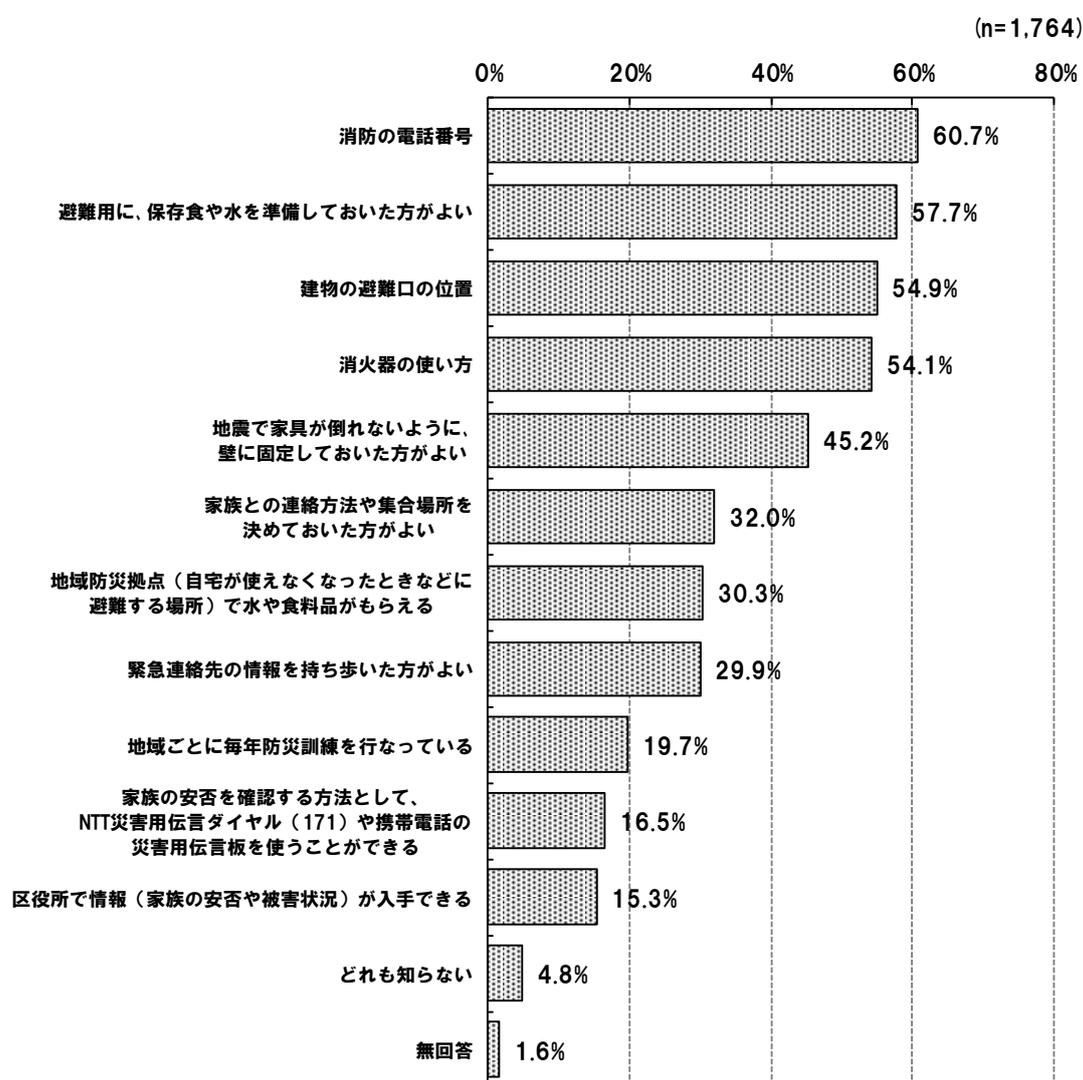


7. 防災について

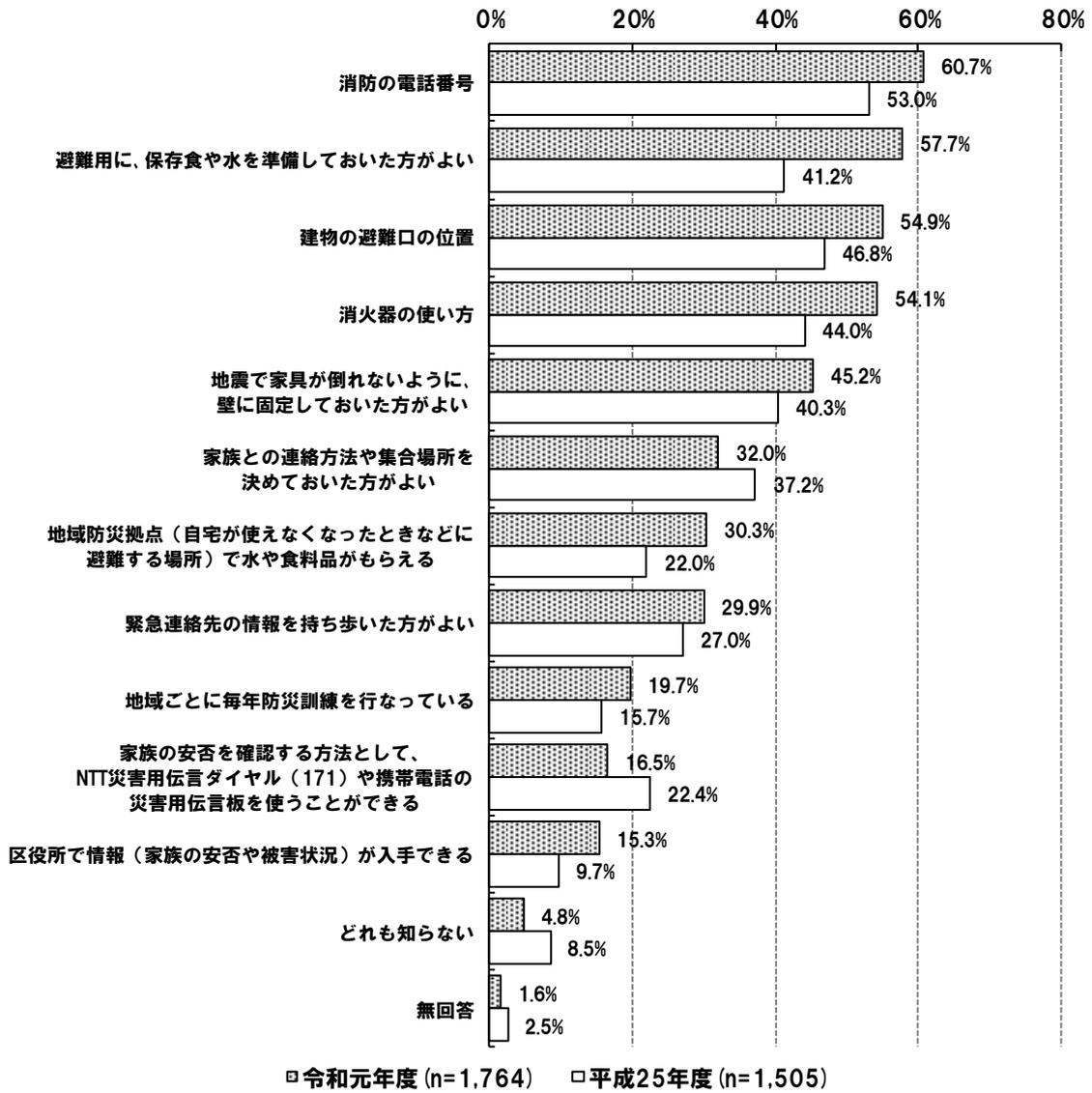
(1) 災害に関する知識

- ・「消防の電話番号」が 60.7%と最も多い。次いで「避難用に、保存食や水を準備しておいた方がよい」(57.7%)、「建物の避難口の位置」(54.9%)、「消火器の使い方」(54.1%)の順となっている。
- ・平成 25 年度調査と比較すると、「消防の電話番号」が最も多いことに変化はないが、前回 4 位だった「避難用に、保存食や水を準備しておいた方がよい」が今回調査では 16.5 ポイント増えて 2 位となっている。また「消火器の使い方」が 10.1 ポイント、「消防の電話番号」が 7.7 ポイント、「建物の避難口の位置」が 8.1 ポイント増加するなど、大きく数値が上昇している項目も多くなっている。

<災害に関する知識(MA)>



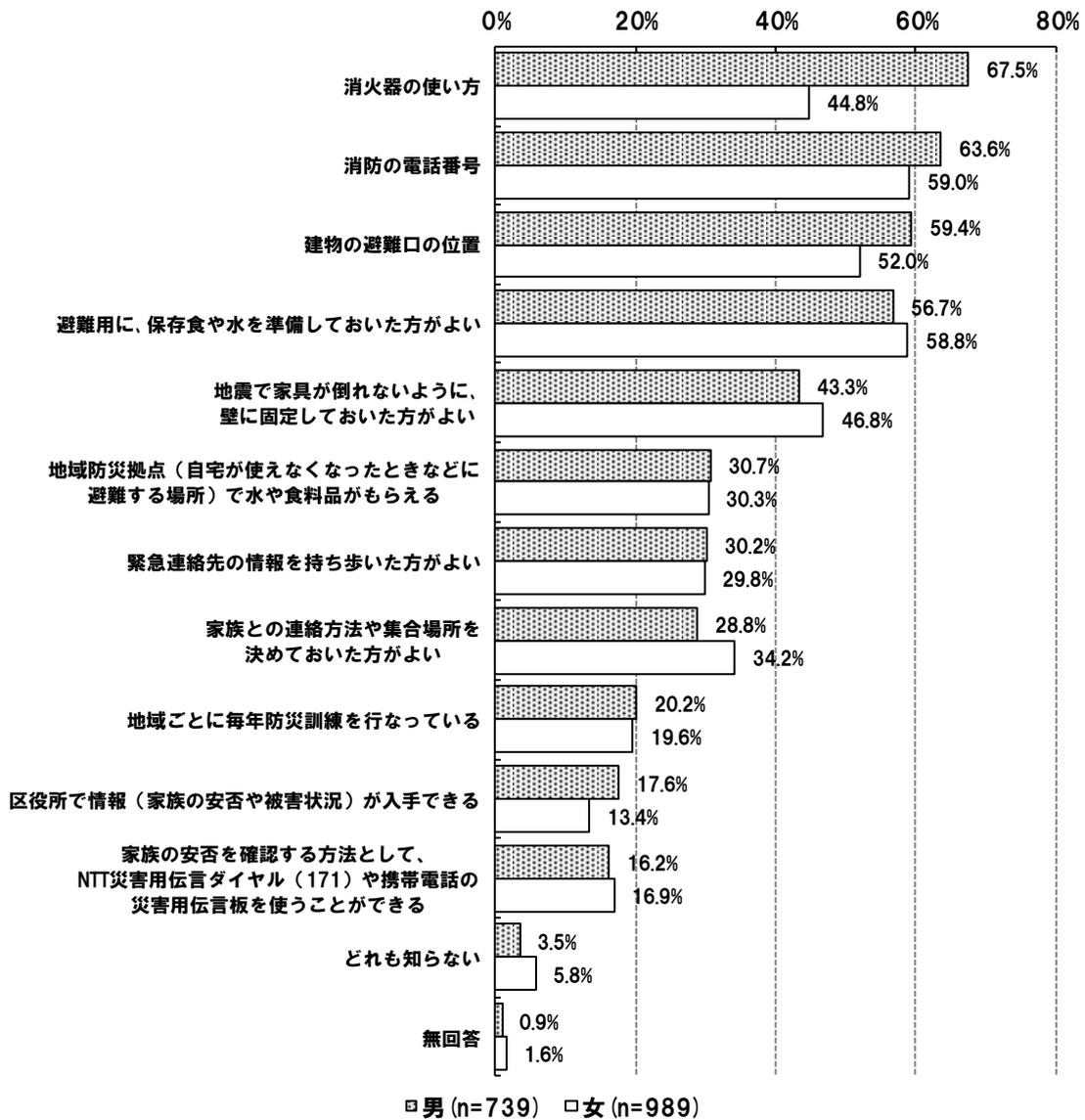
<参考 平成25年度調査結果との比較>



■男女別 災害に関する知識

- ・男性は「消火器の使い方」、女性は「消防の電話番号」が最も多い。男性は女性より「消火器の使い方」が22.7ポイント高くなっている。

<男女別 災害に関する知識>



■年齢別 災害に関する知識

・29歳以下では「消火器の使い方」、30歳以上では「消防の電話番号」が最も多い。また、70歳以上では「建物の避難口の位置」の数値が低くなっている。さらに80歳以上では「家族の安否を確認する方法として、NTT災害用伝言ダイヤル（171）や携帯電話の災害用伝言板を使うことができる」と「緊急連絡先の情報を持ち歩いた方がよい」の数値が高くなっている。

＜年齢別 災害に関する知識＞

	n	消火器の使い方	消防の電話番号	建物の避難口の位置	区役所で情報（家族の安否や被害状況）が入手できる	家族の安否を確認する方法として、NTT災害用伝言ダイヤル（171）や携帯電話の災害用伝言板を使うことができる	地域防災拠点（自宅が使えなくなったときなどに避難する場所）で水や食料品がもらえる	避難用に保存食や水を準備しておいた方がよい	地震で家具が倒れないように壁に固定しておいた方がよい	地域ごとに毎年防災訓練を行なっている	家族との連絡方法や集合場所を決めておいた方がよい	緊急連絡先の情報を持ち歩いた方がよい	どれも知らない	無回答
		%												
合計	1,764	54.1	60.7	54.9	15.3	16.5	30.3	57.7	45.2	19.7	32.0	29.9	4.8	1.6
29歳以下	387	56.8	55.0	53.0	13.2	8.5	23.5	57.1	39.3	15.5	21.2	33.3	4.4	1.0
30歳～39歳	524	54.8	60.7	58.0	13.5	13.5	29.4	61.3	46.9	18.9	26.9	30.5	5.0	0.8
40歳～49歳	368	55.7	64.1	54.9	16.8	20.4	36.1	57.6	44.8	23.1	40.8	25.8	4.9	0.5
50歳～59歳	235	48.1	57.4	57.0	18.3	20.9	33.6	56.2	52.3	20.9	40.9	27.7	4.7	1.7
60歳～69歳	129	52.7	70.5	53.5	15.5	29.5	32.6	54.3	49.6	24.8	39.5	34.1	6.2	3.1
70歳～79歳	74	51.4	64.9	44.6	21.6	21.6	32.4	50.0	36.5	17.6	40.5	25.7	4.1	6.8
80歳以上	26	53.8	65.4	46.2	19.2	30.8	30.8	50.0	50.0	23.1	34.6	46.2	7.7	3.8

■横浜での居住開始時期別 災害に関する知識

- ・1995～2004年では「避難用に、保存食や水を準備しておいた方がよい」、2015年以降では「建物の避難口の位置」が最も多い。それ以外は「消防の電話番号」が最も多くなっている。
- ・1984年以前では「家族の安否を確認する方法として、NTT災害用伝言ダイヤル（171）や携帯電話の災害用伝言板を使うことができる」、2004年以前では「家族との連絡方法や集合場所を決めておいた方がよい」の数値がそれぞれ全体値より10ポイント以上高くなっている。

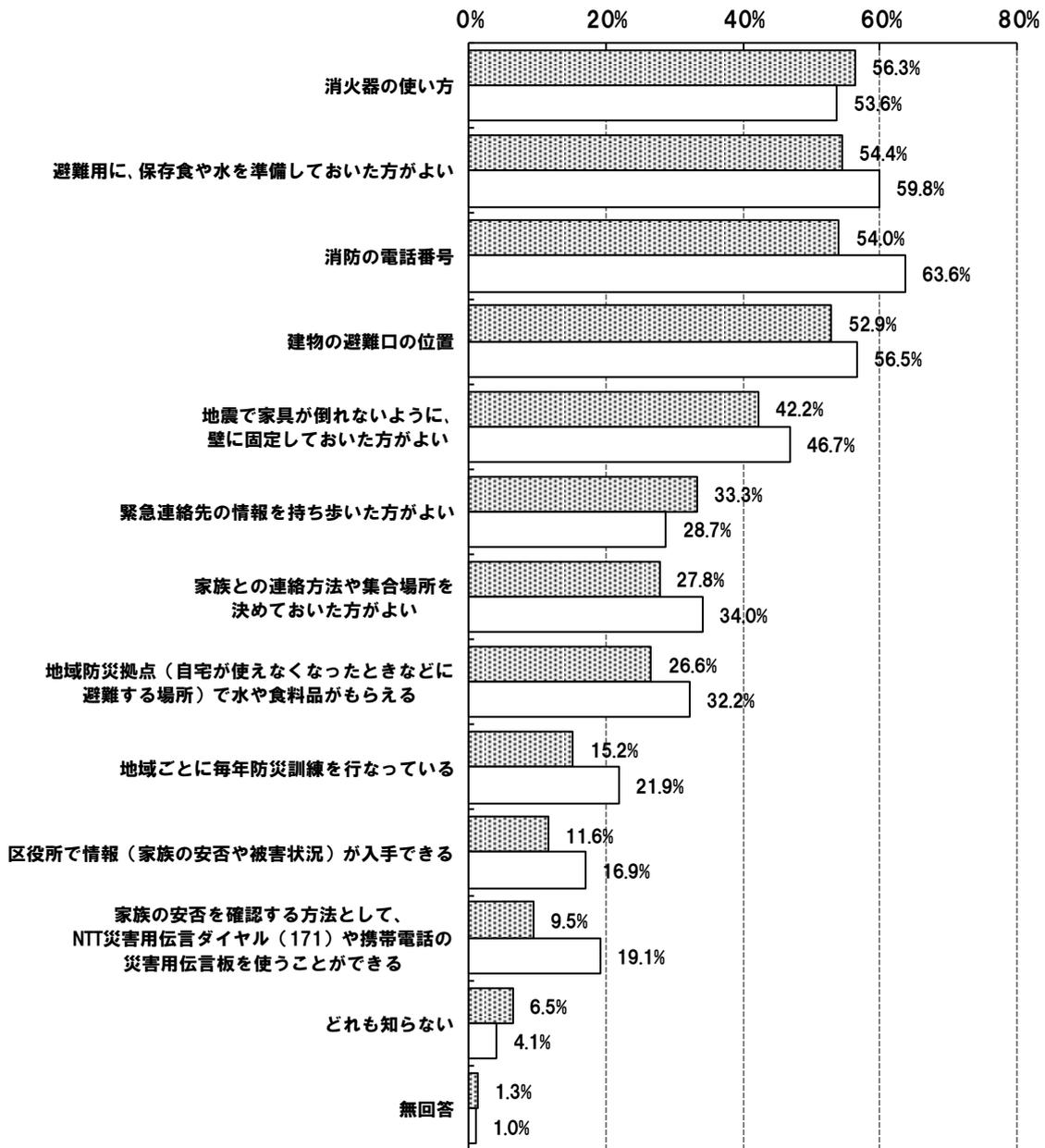
＜横浜での居住開始時期別 災害に関する知識＞

	n	消火器の使い方	消防の電話番号	建物の避難口の位置	区役所で情報（家族の安否や被害状況）が入手できる	家族の安否を確認する方法として、NTT災害用伝言ダイヤル（171）や携帯電話の災害用伝言板を使うことができる	地域防災拠点（自宅が使えなくなったときなどに避難する場所）で水や食料品がもらえる	避難用に保存食や水を準備しておいた方がよい	地震で家具が倒れないように壁に固定しておいた方がよい	地域ごとに毎年防災訓練を行なっている	家族との連絡方法や集合場所を決めておいた方がよい	緊急連絡先の情報を持ち歩いた方がよい	どれも知らない	無回答
		%												
合計	1,764	54.1	60.7	54.9	15.3	16.5	30.3	57.7	45.2	19.7	32.0	29.9	4.8	1.6
1984年以前	116	56.0	73.3	50.0	21.6	31.9	33.6	51.7	46.6	19.8	45.7	33.6	6.0	4.3
1985～1994年	136	52.2	72.8	55.1	14.7	25.7	37.5	61.8	51.5	26.5	47.1	33.1	2.2	2.2
1995～2004年	238	48.7	57.6	51.7	19.7	21.4	34.0	61.3	49.6	24.8	43.3	27.7	6.3	2.1
2005～2009年	223	52.0	60.1	53.4	11.2	16.6	33.2	56.1	45.7	21.5	36.3	29.6	6.3	0.9
2010～2014年	283	49.8	61.5	50.9	14.5	14.1	30.7	55.8	41.7	20.1	32.9	23.0	4.6	1.1
2015年以降	735	58.2	57.6	59.0	14.1	11.4	26.1	58.6	43.9	16.3	22.0	32.2	4.2	0.8

■日本語の不自由さに困っているかどうか別 災害に関する知識

- ・日本語の不自由さに「困っている」人では「消火器の使い方」が56.3%と最も多い。一方で「困っていない」人では「消防の電話番号」が63.6%と最も多い。
- ・日本語の不自由さに「困っている」人は、「困っていない」人に比べて「家族の安否を確認する方法として、NTT 災害用伝言ダイヤル（171）や携帯電話の災害用伝言板を使うことができる」の数值が約10ポイント低くなっている。

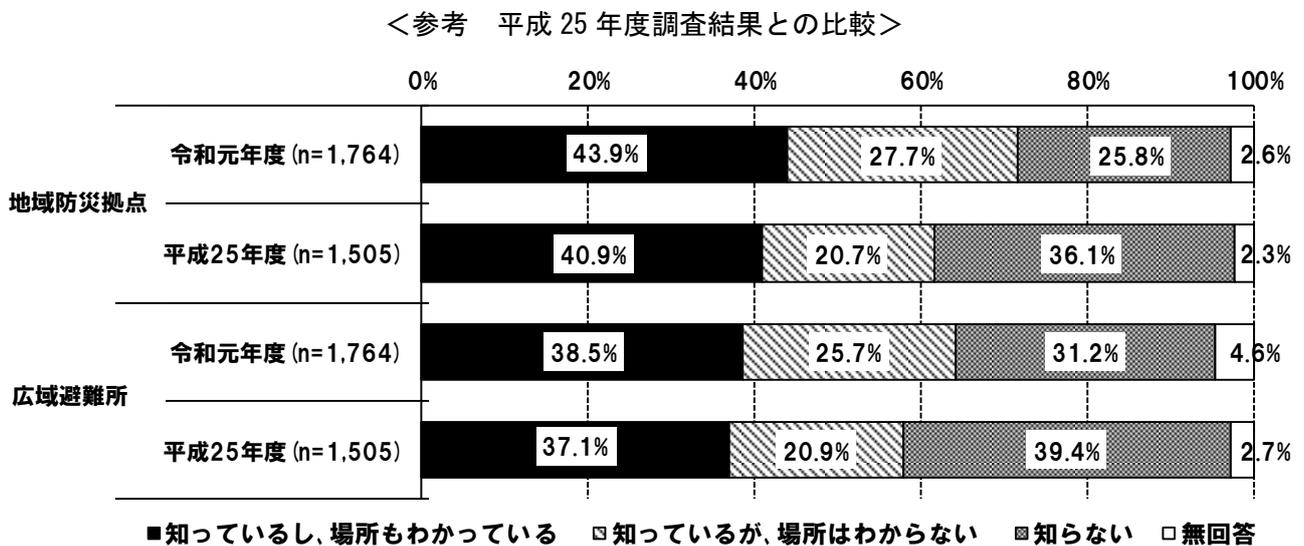
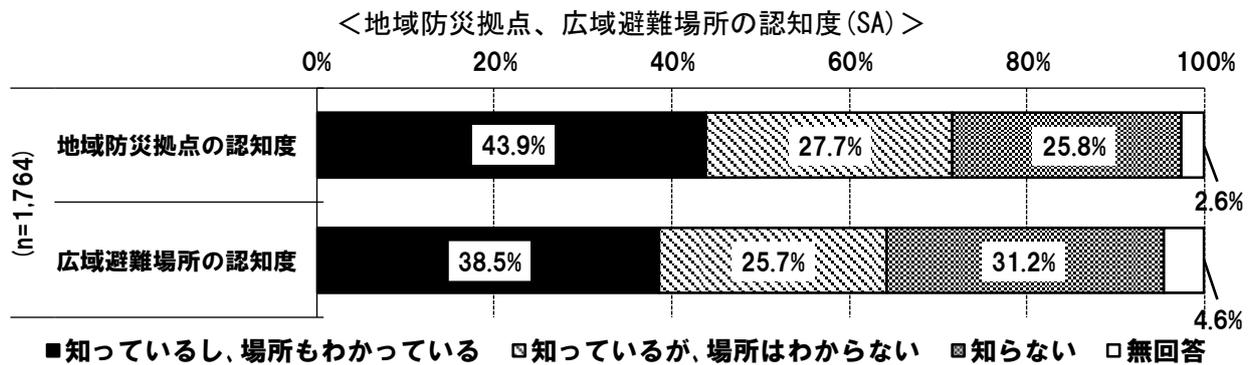
＜日本語の不自由さに困っているかどうか別 災害に関する知識＞



■困っている (n=526) □困っていない (n=1,194)

(2) 地域防災拠点、広域避難場所の認知度

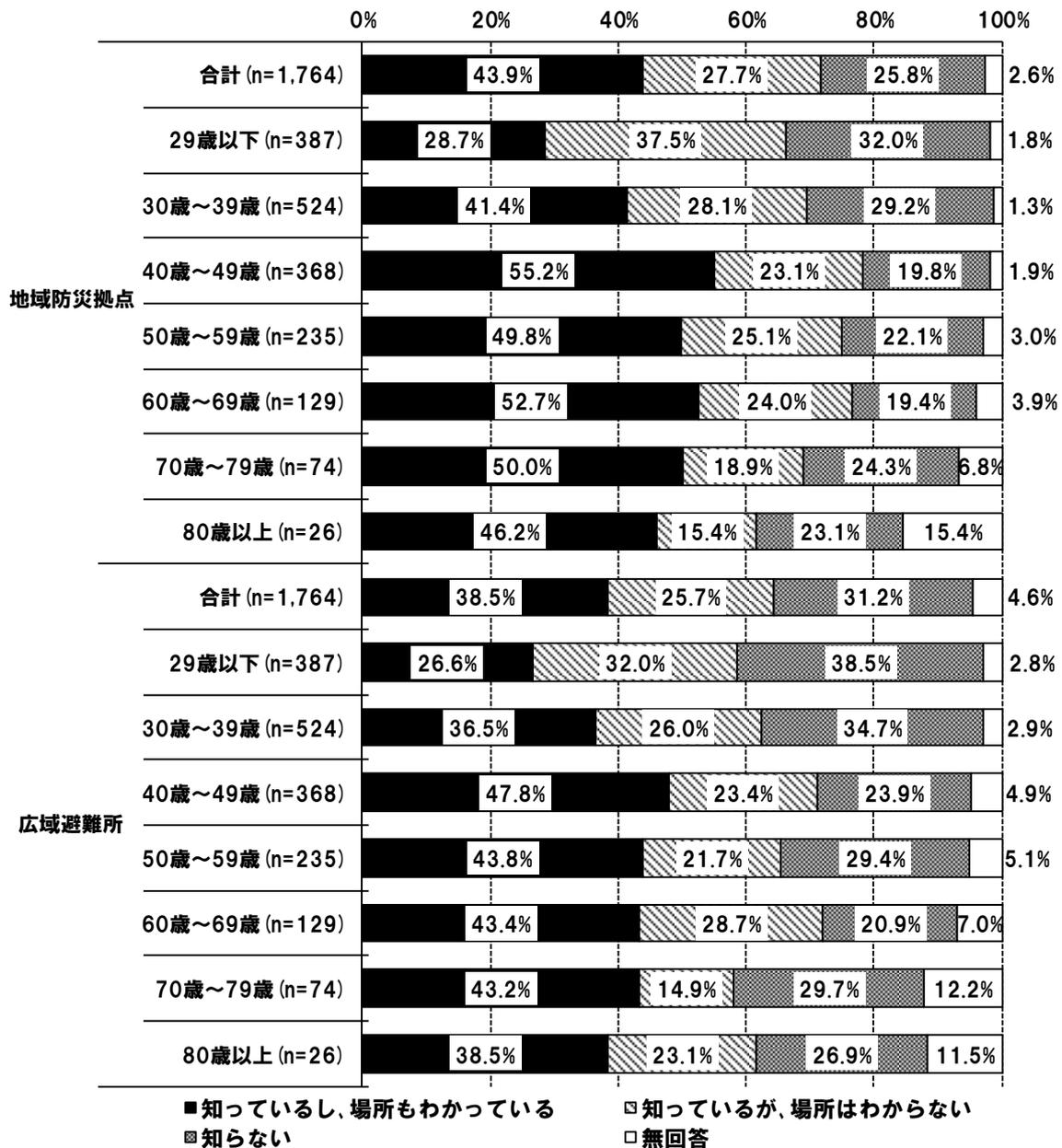
- ・地域防災拠点について、「知っているし、場所もわかっている」が43.9%と最も多く、「知っているが、場所はわからない」が27.7%とこれに次ぐ。
- ・広域避難場所について、「知っているし、場所もわかっている」が38.5%と最も多い。一方で「知らない」が31.2%と、地域防災拠点に比べて認知度がやや低くなっている。
- ・平成25年度調査と比較すると、地域防災拠点、広域避難場所の認知度がともに高くなっている。具体的に地域防災拠点については「知っているし、場所もわかっている」が3.0ポイント上昇し、「知らない」が10.3ポイント減少している。広域避難場所については「知っているし、場所もわかっている」が1.4ポイント上昇し、「知らない」が8.2ポイント減少している。



■年齢別 地域防災拠点、広域避難場所の認知度

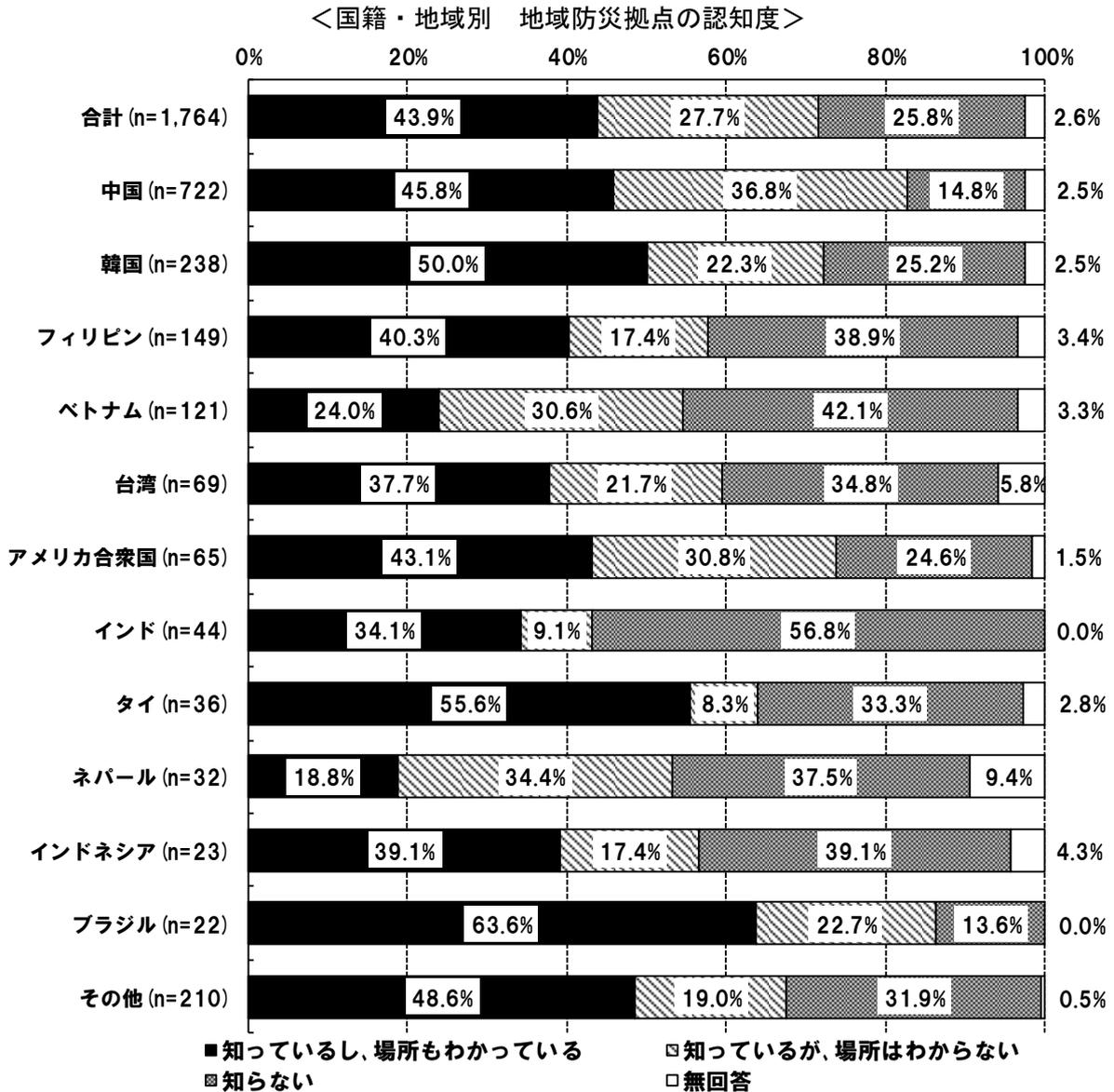
- ・地域防災拠点について、29歳以下では「知っているが場所はわからない」、30歳以上では「知っているし、場所もわかっている」が最も多くなっている。
- ・広域避難場所については、29歳以下では「知らない」、30歳以上では「知っているし、場所もわかっている」が最も多くなっている。

<年齢別 地域防災拠点、広域避難場所の認知度>

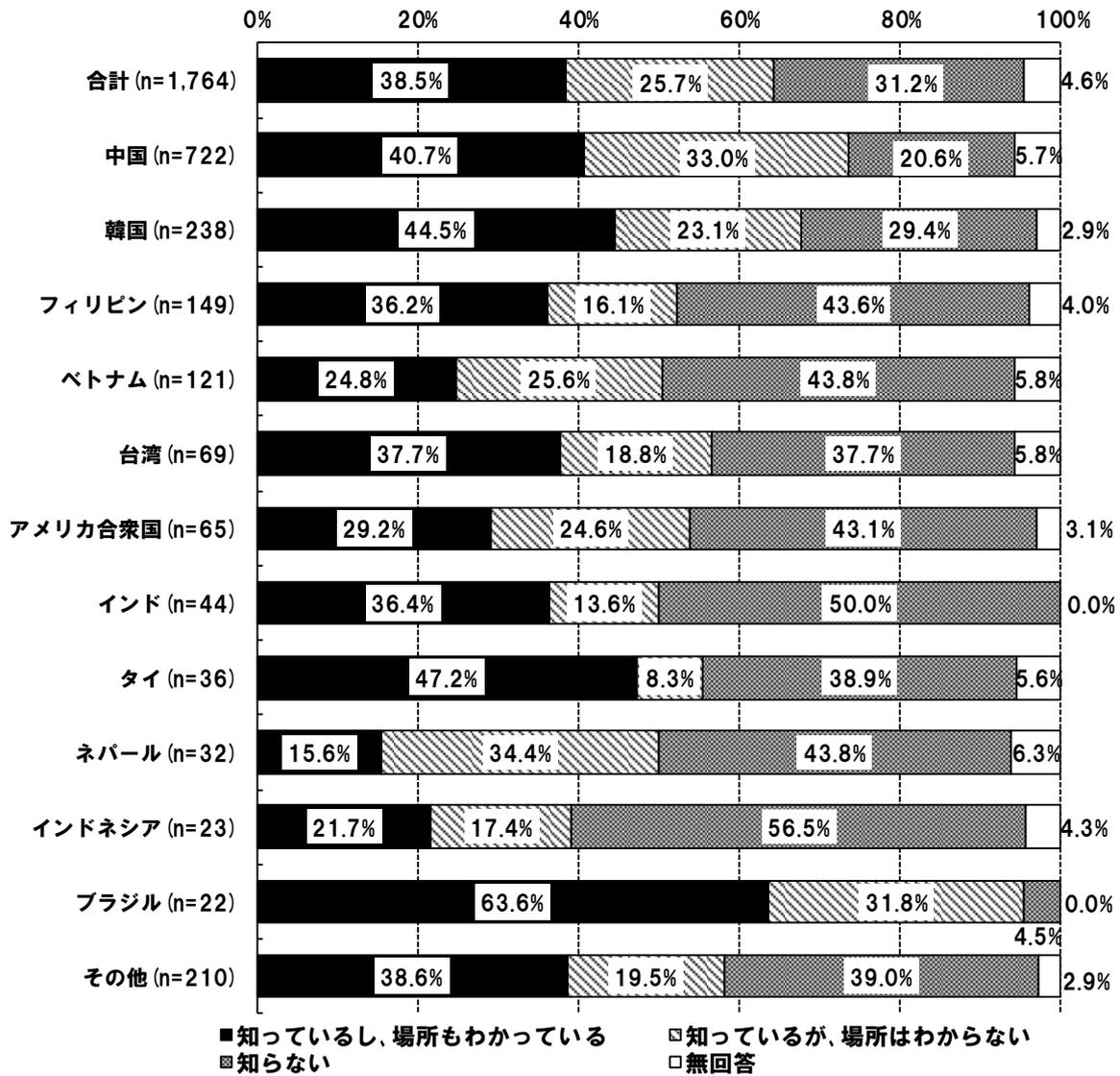


■国籍・地域別 地域防災拠点、広域避難場所の認知度

- ・地域防災拠点について、ベトナム、インド、ネパールで「知らない」が最も多く、インドネシアでは「知っているし、場所もわかっている」と「知らない」が同率、それ以外の国・地域では「知っているし、場所もわかっている」が最も多くなっている。
- ・広域避難場所については、中国、韓国、タイ、ブラジルでは「知っているし、場所もわかっている」が最も多く、台湾では「知っているし、場所もわかっている」と「知らない」が同率、それ以外の国・地域では「知らない」が最も多くなっている。

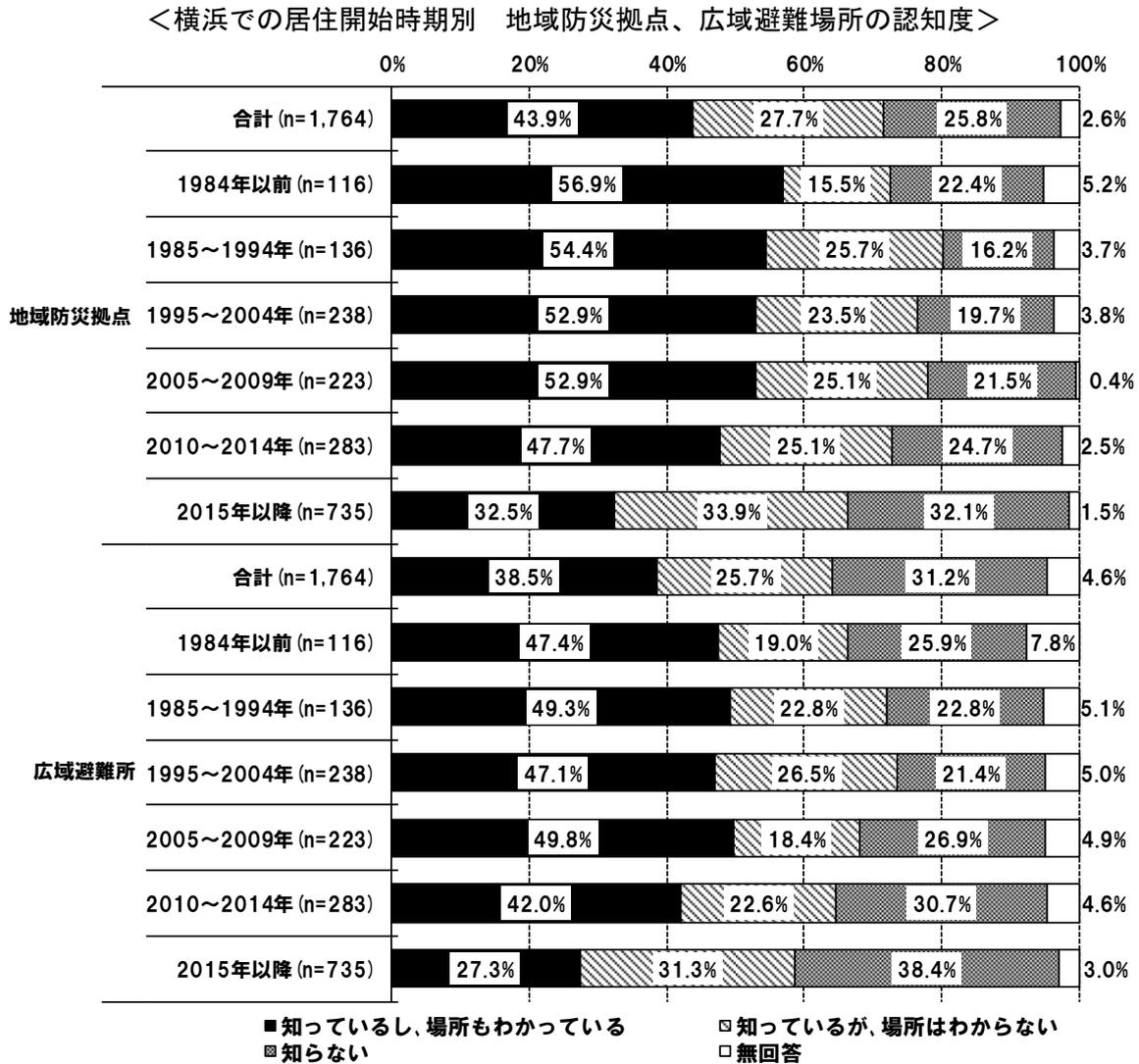


＜国籍・地域別 広域避難場所の認知度＞



■横浜での居住開始時期別 地域防災拠点、広域避難場所の認知度

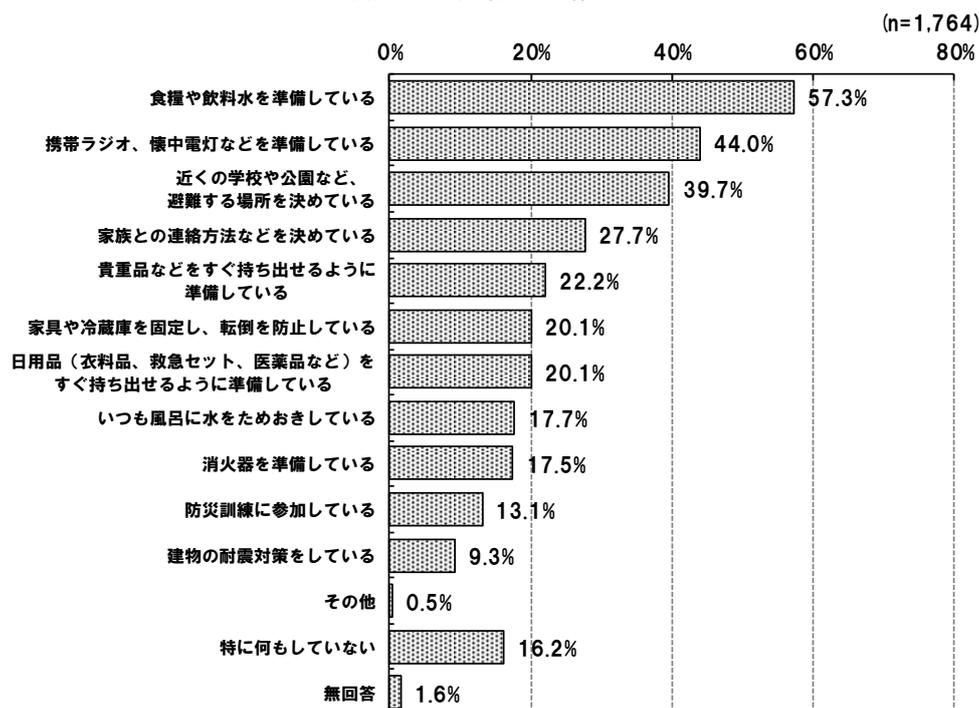
- ・地域防災拠点について、居住開始時期が古いほど「知っているし、場所もわかっている」が高くなる傾向にある。
- ・広域避難場所について、2014年以前では「知っているし、場所もわかっている」、2015年以降では「知らない」が最も多くなっている。



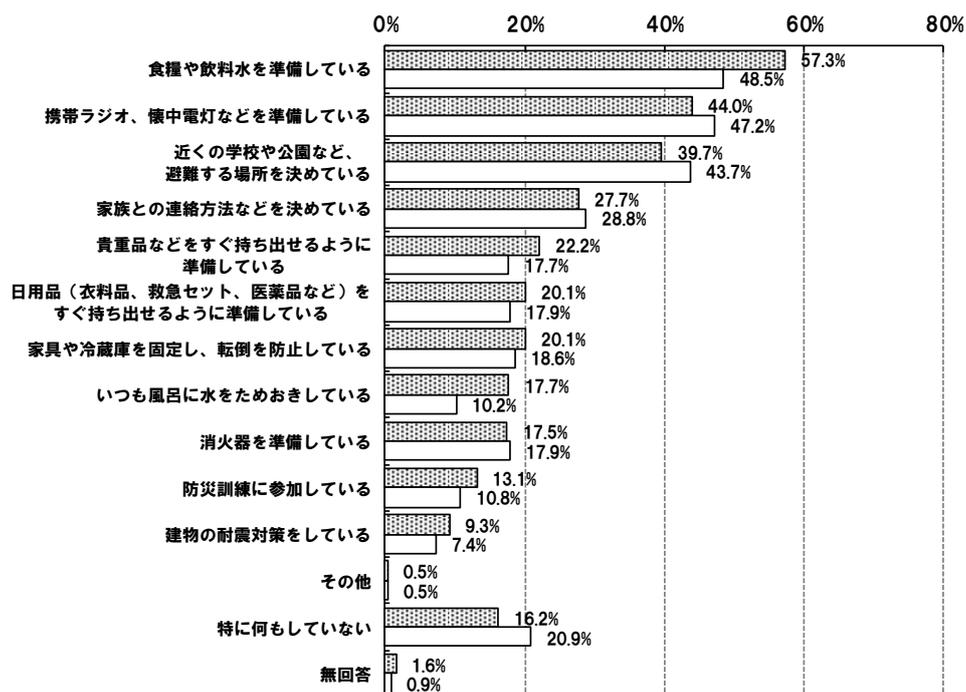
(3) 日頃からの災害への備え

- ・「食糧や飲料水を準備している」が57.3%と最も多い。次いで「携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している」(44.0%)、「近くの学校や公園など、避難する場所を決めている」(39.7%)、「家族との連絡方法などを決めている」(27.7%)の順となっている。
- ・平成25年度調査は今回調査と概ね同様の傾向を示している。平成25年度調査に比べ、「食糧や飲料水を準備している」が8.8ポイント増加している。また「特に何もしていない」が4.7ポイント減少している。

<日頃からの災害への備え(MA)>



<参考 平成25年度調査結果との比較>



■ 令和元年度 (n=1,764) □ 平成25年度 (n=1,505)

■年齢別 日頃からの災害への備え

・59歳以下では「食糧や飲料水を準備している」、60歳～69歳では「携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している」と「食糧や飲料水を準備している」が同率、70歳以上では「携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している」が最も多くなっている。

＜年齢別 日頃からの災害への備え＞

	n	携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している	食糧や飲料水を準備している	消火器を準備している	近くの学校や公園など、避難する場所を決めている	いつも風呂に水をためおきしている	家具や冷蔵庫を固定し、転倒を防止している	家族との連絡方法などを決めている	貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している	日用品（衣料品、救急セット、医薬品など）をすぐ持ち出せるように準備している	建物の耐震対策をしている	防災訓練に参加している	その他	特に何もしていない	無回答
		%													
合計	1,764	44.0	57.3	17.5	39.7	17.7	20.1	27.7	22.2	20.1	9.3	13.1	0.5	16.2	1.6
29歳以下	387	26.9	53.7	10.1	33.1	15.8	13.4	24.8	24.0	22.5	6.7	14.7	0.8	20.7	1.6
30歳～39歳	524	37.4	60.1	15.3	38.4	18.9	20.2	22.3	21.0	17.6	8.0	12.4	0.0	17.0	0.8
40歳～49歳	368	53.3	59.8	18.8	48.6	15.5	24.5	32.3	22.3	20.9	11.7	10.6	0.5	14.1	0.5
50歳～59歳	235	55.3	59.6	22.1	40.0	20.0	21.7	33.6	22.6	22.6	8.9	13.6	0.0	14.9	0.9
60歳～69歳	129	61.2	61.2	26.4	47.3	22.5	24.0	34.9	20.9	20.9	12.4	16.3	0.8	13.2	2.3
70歳～79歳	74	60.8	39.2	25.7	31.1	18.9	21.6	31.1	21.6	17.6	17.6	17.6	2.7	9.5	8.1
80歳以上	26	69.2	46.2	26.9	26.9	19.2	26.9	19.2	30.8	19.2	7.7	15.4	0.0	7.7	7.7

■横浜での居住開始時期別 日頃からの災害への備え

・1994年以前では「携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している」、1995年以降では「食糧や飲料水を準備している」が最も多くなっている。また、1984年以前に居住を開始した人で「消火器を準備している」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。

<横浜での居住開始時期別 日頃からの災害への備え>

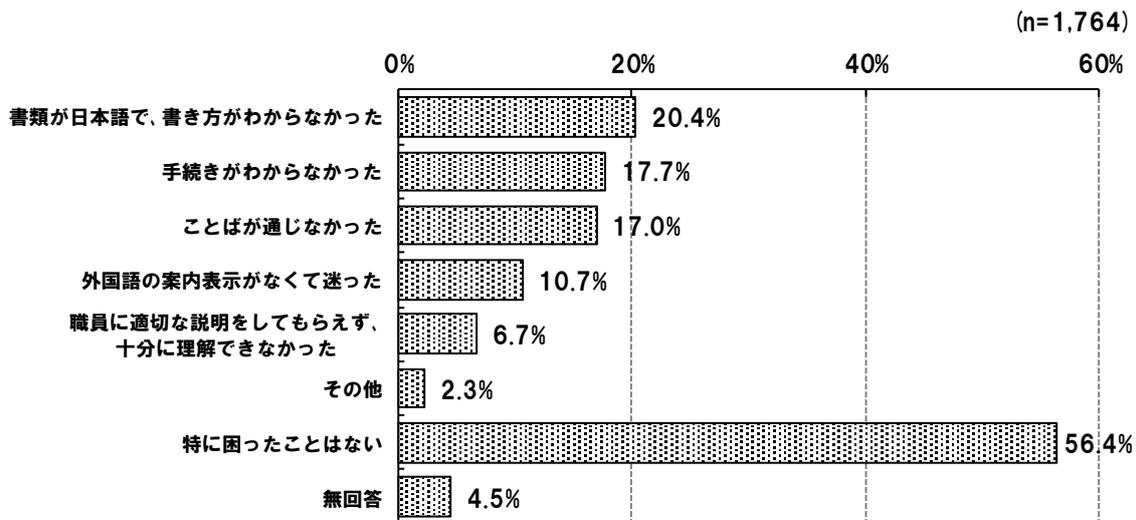
	n	携帯ラジオ、懐中電灯などを準備している	食糧や飲料水を準備している	消火器を準備している	近くの学校や公園など、避難する場所を決めている	いつも風呂に水をためおきしている	家具や冷蔵庫を固定し、転倒を防止している	家族との連絡方法などを決めている	貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している	日用品（衣料品、救急セット、医薬品など）をすぐ持ち出せるように準備している	建物の耐震対策をしている	防災訓練に参加している	その他	特に何もしていない	無回答
		%													
合計	1,764	44.0	57.3	17.5	39.7	17.7	20.1	27.7	22.2	20.1	9.3	13.1	0.5	16.2	1.6
1984年以前	116	61.2	44.0	30.2	37.9	18.1	14.7	25.9	16.4	16.4	12.9	12.9	0.9	15.5	5.2
1985～1994年	136	58.8	51.5	19.1	46.3	16.2	19.9	33.8	19.9	21.3	11.0	17.6	0.0	16.9	2.9
1995～2004年	238	55.0	62.6	21.0	41.2	16.0	28.6	32.8	21.0	23.9	8.8	11.8	0.8	11.3	1.7
2005～2009年	223	45.3	57.0	18.4	47.1	18.4	23.8	30.5	22.0	21.1	9.0	11.2	0.0	18.8	0.4
2010～2014年	283	40.3	56.9	13.4	42.8	16.3	14.8	26.1	19.4	15.9	10.6	13.8	0.0	15.5	1.8
2015年以降	735	36.1	58.8	15.2	35.4	18.9	19.6	25.0	25.6	20.5	8.4	13.2	0.7	17.4	0.7

8. 行政窓口でのサービスについて

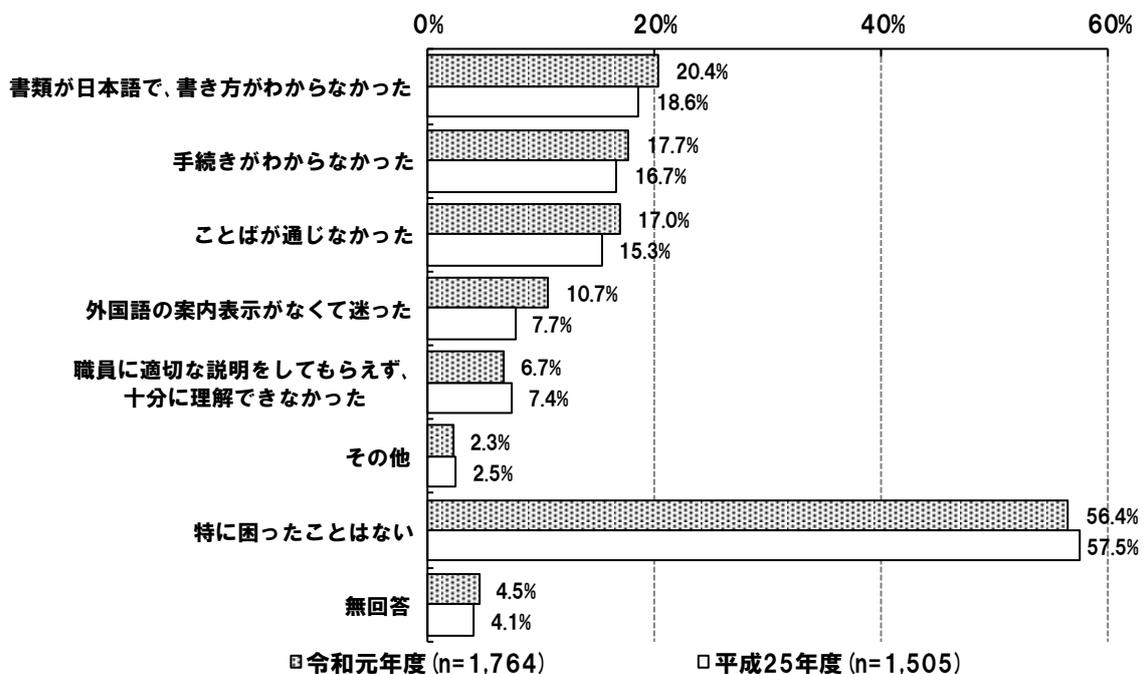
(1) 区役所などの窓口で、困ったことはあるか

- ・「特に困ったことはない」が56.4%と最も多い。
- ・困ったことのうち、「書類が日本語で、書き方がわからなかった」が20.4%と最も多い。次いで「手続きがわからなかった」(17.7%)、「ことばが通じなかった」(17.0%)の順となっている。
- ・平成25年度調査も概ね同様の傾向を示している。

<区役所などの行政窓口で、困ったこと (MA)>



<参考 平成25年度調査結果との比較>



■国籍・地域別 区役所などの窓口で困ったこと

・フィリピン、インド、タイでは「書類が日本語で、書き方がわからなかった」が最も多く、ドイツでは「ことばが通じなかった」と「手続きがわからなかった」と「書類が日本語で、書き方がわからなかった」が同率、それ以外ではいずれも「特に困ったことはない」が最も多くなっている。

<国籍・地域別 区役所などの窓口で困ったこと>

	n	外国語の案内表示が なくて迷った	ことばが通じなかった	手続きがわからなかった	書類が日本語で書き方が わからなかった	職員に適切な説明を してもらえず十分に 理解できなかった	その他	特に困ったことはない	無回答
		%							
合計	1,764	10.7	17.0	17.7	20.4	6.7	2.3	56.4	4.5
中国	722	2.9	16.3	15.5	11.8	6.0	1.8	63.7	3.2
韓国	238	3.8	3.8	6.7	8.8	5.9	2.9	73.5	7.6
フィリピン	149	20.1	24.8	22.8	48.3	12.8	2.7	32.2	5.4
ベトナム	121	27.3	35.5	26.4	30.6	0.8	0.8	43.8	0.8
ネパール	32	25.0	9.4	18.8	34.4	3.1	0.0	43.8	6.3
インド	44	29.5	34.1	25.0	45.5	4.5	4.5	34.1	2.3
台湾	69	4.3	8.7	13.0	13.0	4.3	2.9	65.2	5.8
アメリカ合衆国	65	18.5	21.5	26.2	38.5	12.3	4.6	50.8	4.6
ブラジル	22	13.6	4.5	31.8	27.3	4.5	0.0	50.0	4.5
タイ	36	38.9	33.3	41.7	55.6	8.3	2.8	16.7	5.6
インドネシア	23	13.0	8.7	26.1	13.0	8.7	8.7	47.8	8.7
バレー	6	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	66.7	0.0
スリランカ	7	28.6	28.6	14.3	28.6	0.0	0.0	57.1	14.3
イギリス	20	10.0	15.0	15.0	15.0	5.0	0.0	60.0	10.0
ドイツ	12	25.0	41.7	41.7	41.7	25.0	0.0	16.7	8.3
朝鮮	14	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	78.6	14.3
その他	151	18.5	13.9	21.9	21.2	9.3	2.0	49.7	4.0

■横浜での居住開始時期別 区役所などの窓口で困ったこと

・いずれも「特に困ったことはない」が最も多くなっている。また横浜での居住開始時期が2015年以降では「ことばが通じなかった」が25.4%と全体平均を大きく上回っている。

＜横浜での居住開始時期別 区役所などの窓口で困ったこと＞

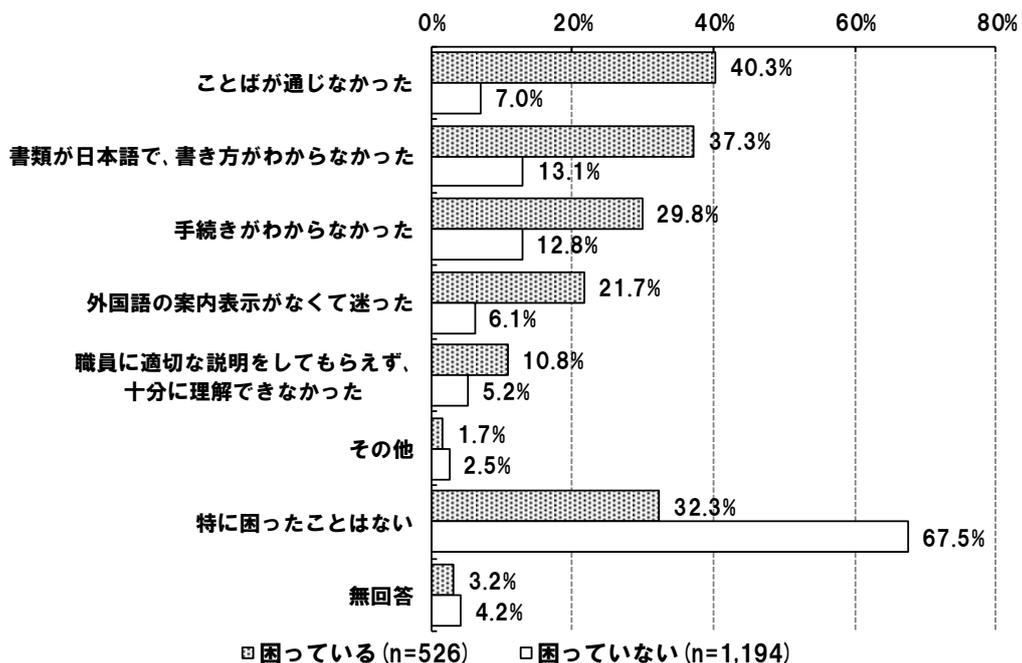
	n	外国語の案内表示が なくて迷った	ことばが通じなかった	手続きがわからなかった	書類が日本語で 書き方が わからなかった	職員に適切な説明を してもらえず 十分に 理解できなかった	その他	特に困ったことはない	無回答
		%							
合計	1,764	10.7	17.0	17.7	20.4	6.7	2.3	56.4	4.5
1984年以前	116	1.7	4.3	4.3	9.5	1.7	0.9	72.4	14.7
1985～1994年	136	8.8	5.1	21.3	19.1	9.6	0.7	57.4	5.9
1995～2004年	238	6.7	10.1	14.7	19.7	7.6	1.3	61.8	5.0
2005～2009年	223	11.7	16.1	15.2	20.6	9.4	4.0	57.0	5.8
2010～2014年	283	6.7	12.4	15.2	19.8	5.7	2.8	61.8	2.5
2015年以降	735	14.7	25.4	22.4	22.6	6.7	2.4	50.1	2.2

■日本語の不自由さに困っているかどうか別 区役所などの窓口で困ったこと

・日本語の不自由さに「困っていない」人では、「特に困ったことはない」が67.5%と最も多い。日本語の不自由さに「困っている」人では、「ことばが通じなかった」が40.3%と最も多くなっている。

・日本語の不自由さに「困っている」人では「ことばが通じなかった」「書類が日本語で、書き方がわからなかった」「手続きがわからなかった」「外国語の案内表示がなくて迷った」という4項目において、「困っていない」人を大きく上回っている。

＜日本語の不自由さに困っているかどうか別 区役所などの窓口で困ったこと＞

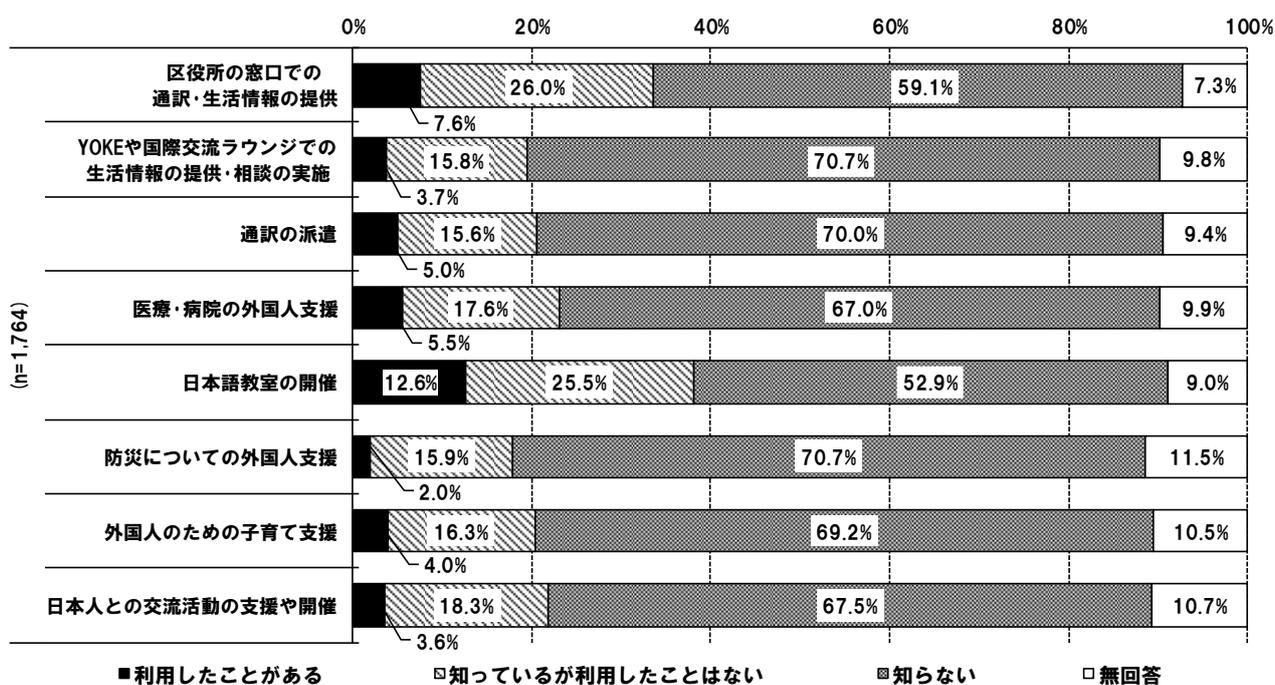


(2) 横浜市役所等の外国人支援サービスの認知度、満足度、重要度

① 認知度

- ・認知度が高いサービスとして、「日本語教室の開催」(38.1%)、「区役所の窓口での通訳・生活情報の提供」(33.6%)、「医療・病院の外国人支援」(23.1%)が上位を占める。
- ・「利用したことがある」サービスについても、「日本語教室の開催」が12.6%と最も多い。

＜外国人支援サービスに対する認知度(SA)＞



■国籍・地域別 外国人支援サービスの認知度

・国籍・地域別の認知度についてみると、韓国では「区役所の窓口での通訳・生活情報の提供」の認知度が最も高く、台湾では「区役所の窓口での通訳・生活情報の提供」と「日本語教室の開催」が同率である。一方で他の国・地域では「日本語教室の開催」の認知度が最も高くなっている。

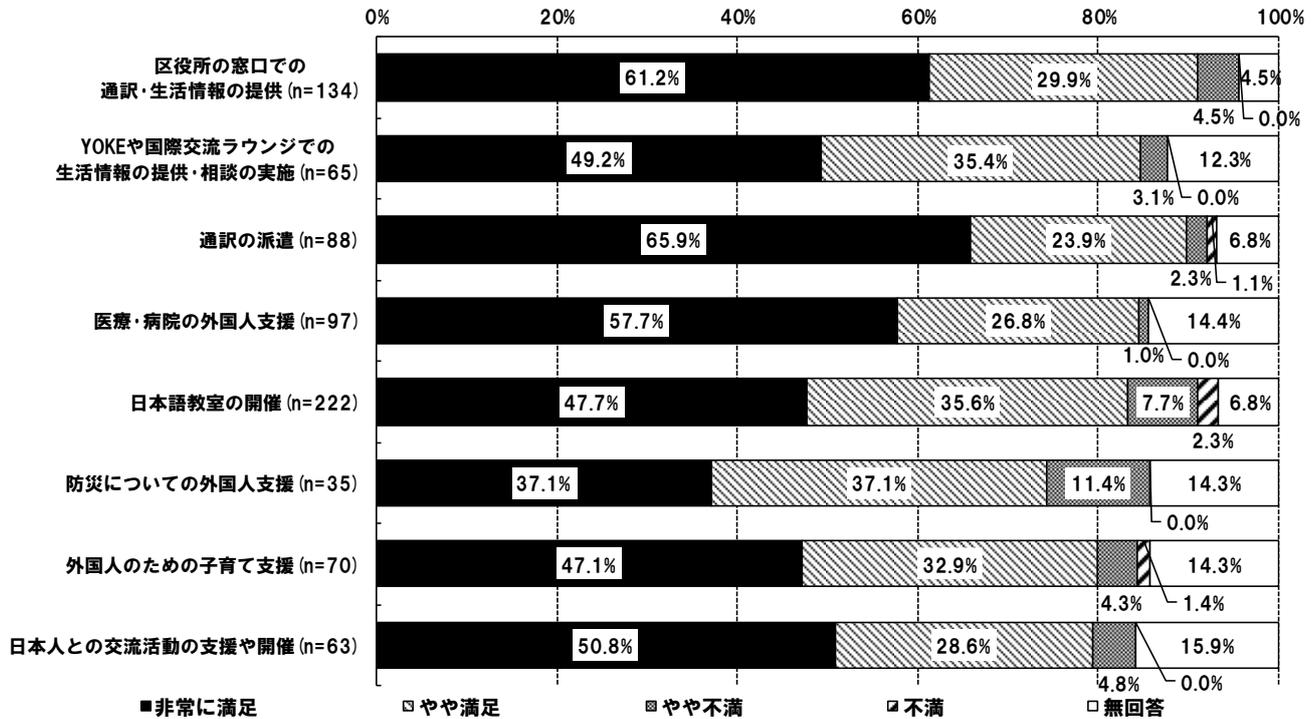
＜国籍・地域別 外国人支援サービスの認知度＞

	n	区役所の窓口での通訳・生活情報の提供	Y O K Eや国際交流フロンティアでの生活情報の提供・相談の実施	通訳の派遣	医療病院の外国人支援	日本語教室の開催	防災についての外国人支援	外国人のための子育て支援	日本人との交流活動の支援や開催
		%							
合計	1,764	33.6	19.4	20.6	23.1	38.1	17.9	20.3	21.9
中国	722	36.0	18.3	21.1	24.5	39.5	16.3	21.1	22.9
韓国	238	29.0	16.0	16.4	15.5	24.4	9.7	12.6	16.8
フィリピン	149	32.9	24.8	21.5	32.2	45.0	23.5	29.5	26.2
ベトナム	121	28.9	17.4	24.0	22.3	39.7	30.6	20.7	23.1
台湾	69	42.0	31.9	23.2	29.0	42.0	21.7	27.5	26.1
アメリカ合衆国	65	27.7	29.2	26.2	27.7	49.2	18.5	26.2	29.2
インド	44	34.1	18.2	27.3	20.5	43.2	20.5	18.2	11.4
タイ	36	19.4	16.7	11.1	11.1	30.6	11.1	16.7	19.4
ネパール	32	18.8	9.4	12.5	12.5	25.0	12.5	15.6	6.3
インドネシア	23	26.1	17.4	13.0	21.7	39.1	8.7	13.0	8.7
ブラジル	22	59.1	40.9	45.5	36.4	63.6	36.4	36.4	40.9
その他	210	33.8	17.1	18.6	21.0	37.6	19.0	16.2	19.5

② 満足度

- ・外国人支援サービスを利用したことがある人を対象に、サービスに対する満足度を聞いたところ、「防災についての外国人支援」で「非常に満足」と「やや満足」の数値が同率、それ以外では「非常に満足」が最も多くなっている。

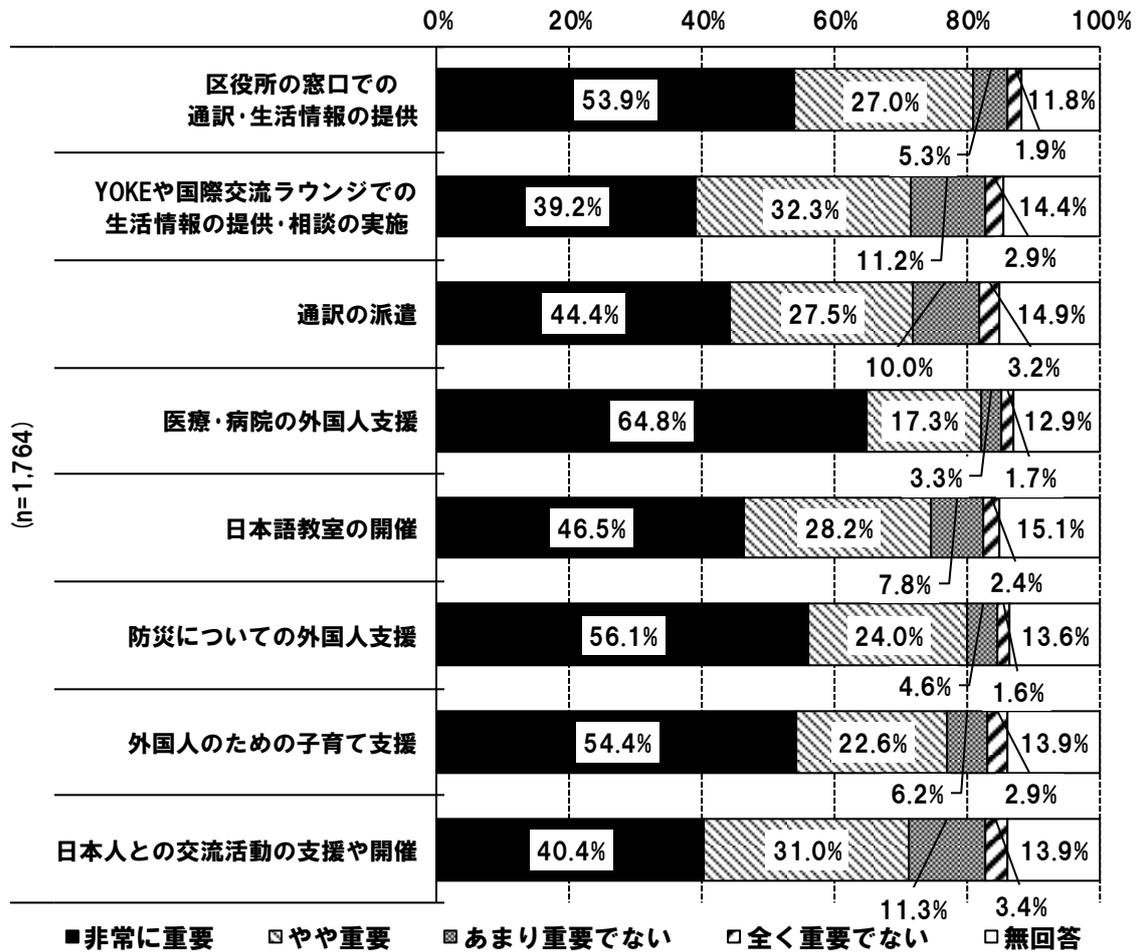
<外国人支援サービスに対する満足度(SA)>



③ 重要度

・いずれのサービスも「非常に重要」が最も多くなっている。なかでも「医療・病院の外国人支援」では「非常に重要」が64.8%を占めている。

<外国人支援サービスの重要度(SA)>



■国籍・地域別 非常に重要と思う外国人支援サービス

・外国人支援サービスの重要度について「非常に重要と思う」の回答状況を国籍・地域別にみると、インドでは「医療・病院の外国人支援」と「防災についての外国人支援」が同率である。また、ネパールでは「区役所の窓口での通訳・生活情報の提供」と「医療・病院の外国人支援」が同率である。それ以外の国・地域では「医療・病院の外国人支援」が最も多くなっている。

<国籍・地域別 非常に重要と思う外国人支援サービス>

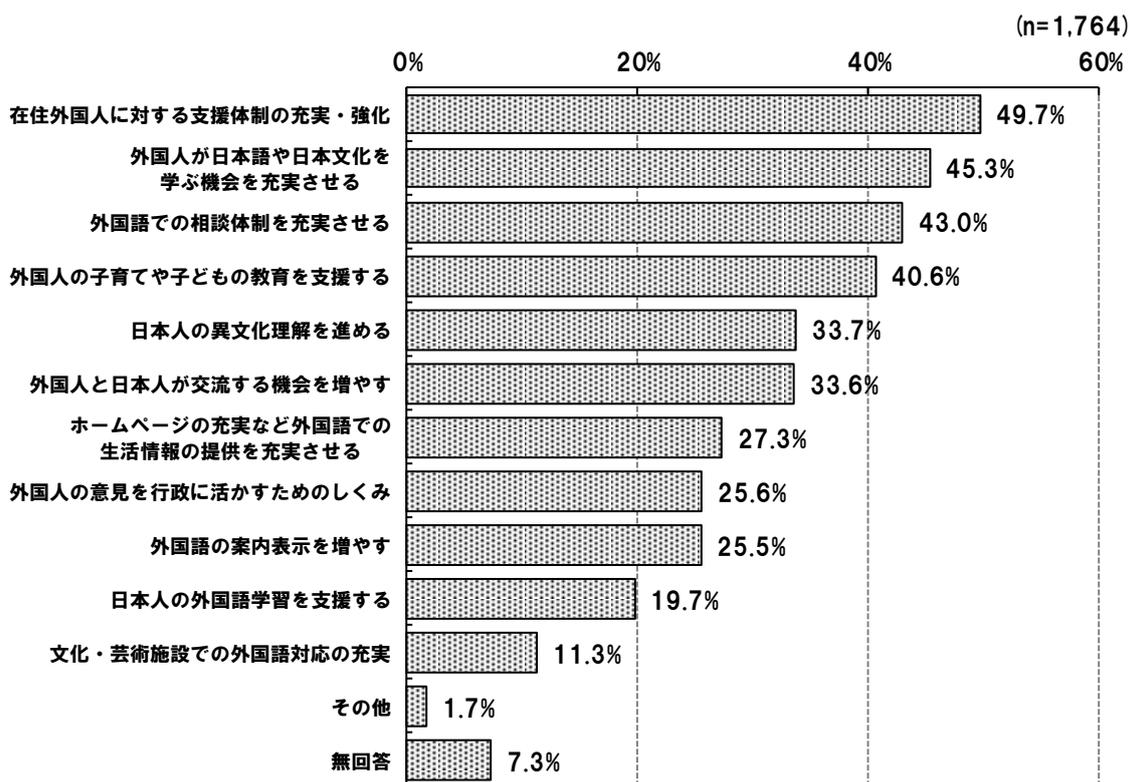
	n	区役所の窓口での通訳・生活情報の提供	Y O K Eや国際交流フロンジでの生活情報の提供・相談の実施	通訳の派遣	医療・病院の外国人支援	日本語教室の開催	防災についての外国人支援	外国人のための子育て支援	日本人との交流活動の支援や開催
		%							
合計	1,764	53.9	39.2	44.4	64.8	46.5	56.1	54.4	40.4
中国	722	55.0	39.2	44.9	65.7	43.6	55.5	58.0	41.8
韓国	238	53.8	37.8	37.0	59.2	39.9	50.8	49.2	36.6
フィリピン	149	59.1	49.0	49.0	67.1	55.0	61.1	56.4	44.3
ベトナム	121	63.6	47.9	57.0	82.6	62.8	72.7	62.0	52.9
台湾	69	52.2	39.1	31.9	62.3	40.6	50.7	50.7	36.2
アメリカ合衆国	65	46.2	35.4	49.2	67.7	50.8	64.6	53.8	33.8
インド	44	52.3	36.4	52.3	68.2	59.1	68.2	61.4	52.3
タイ	36	41.7	27.8	38.9	58.3	50.0	52.8	38.9	33.3
ネパール	32	53.1	43.8	37.5	53.1	50.0	46.9	46.9	43.8
インドネシア	23	30.4	26.1	34.8	43.5	26.1	39.1	30.4	26.1
ブラジル	22	59.1	50.0	45.5	68.2	59.1	54.5	54.5	45.5
その他	210	49.5	34.8	43.8	62.4	48.1	54.3	51.4	33.8

9. 多文化共生について

(1) 外国人にとって暮らしやすいまちにするために必要な取組

- ・「在住外国人に対する支援体制の充実・強化」が 49.7%と最も多い。次いで「外国人が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させる」(45.3%)、「外国語での相談体制を充実させる」(43.0%)、「外国人の子育てや子どもの教育を支援する」(40.6%)の順となっている。

＜外国人にとって暮らしやすいまちにするために必要な取組(MA)＞



■年齢別 外国人にとって暮らしやすいまちにするために必要な取組

- ・30歳～39歳では「外国人の子育てや子どもの教育を支援する」、70歳～79歳では「外国語での相談体制を充実させる」、それ以外の世代では「在住外国人に対する支援体制の充実・強化」が最も多くなっている。
- ・また、年齢が若いほど「外国人が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させる」が多くなる傾向にある。

<年齢別 外国人にとって暮らしやすいまちにするために必要な取組>

	n	充実強化	在住外国人に対する支援体制の充実させる	外国語での相談体制を充実させる	ホームページの充実など外国語での生活情報の提供を充実させる	外国語の案内表示を増やす	外国人の意見を行政に活かすためのしくみ	外国人の子育てや子どもの教育を支援する	外国人が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させる	日本人の外国語学習を支援する	外国人と日本人が交流する機会を増やす	日本人の異文化理解を進める	文化芸術施設での外国語対応の充実	その他	無回答
		%													
合計	1,764	49.7	43.0	27.3	25.5	25.6	40.6	45.3	19.7	33.6	33.7	11.3	1.7	7.3	
29歳以下	387	53.2	45.2	32.6	31.3	22.0	39.0	49.9	25.3	39.3	38.0	14.5	1.6	2.8	
30歳～39歳	524	49.8	40.8	27.5	20.6	28.8	52.7	49.8	20.8	36.1	39.5	10.1	1.1	4.0	
40歳～49歳	368	49.7	44.0	23.4	26.4	25.5	42.7	47.3	18.8	31.3	32.1	12.0	1.9	6.3	
50歳～59歳	235	52.3	48.9	31.5	28.1	28.5	28.1	41.3	17.9	28.9	26.4	9.8	2.6	7.7	
60歳～69歳	129	48.8	41.1	25.6	20.9	20.2	27.9	32.6	14.0	26.4	19.4	7.0	2.3	14.0	
70歳～79歳	74	32.4	35.1	17.6	23.0	24.3	24.3	28.4	8.1	25.7	29.7	14.9	1.4	29.7	
80歳以上	26	38.5	30.8	11.5	26.9	34.6	19.2	26.9	15.4	30.8	34.6	7.7	0.0	34.6	

■国籍・地域別 外国人にとって暮らしやすいまちにするために必要な取組

・国籍・地域別にみると、中国、ブラジルでは「外国人の子育てや子どもの教育を支援する」、韓国、台湾では「在住外国人に対する支援体制の充実・強化」、ベトナム、ネパールでは「外国人が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させる」がそれぞれ最も多くなっている。フィリピン、インドネシアでは「在住外国人に対する支援体制の充実・強化」と「外国語での相談体制を充実させる」が同率である。アメリカ合衆国、インド、タイでは「外国語での相談体制を充実させる」が最も多くなっている。

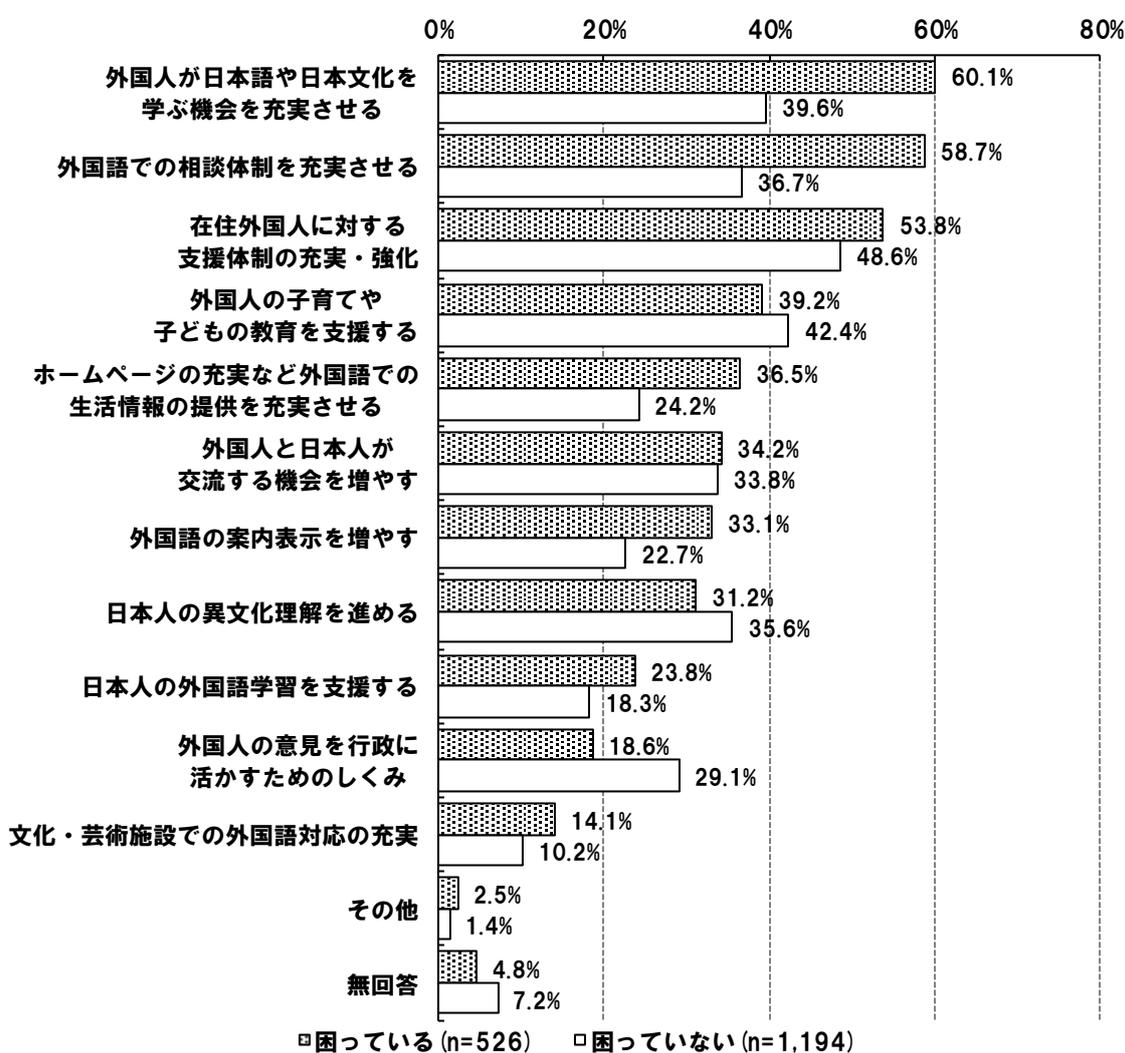
<国籍・地域別 外国人にとって暮らしやすいまちにするために必要な取組>

	n	充実強化	外国語での相談体制を充実させる	ホームページの充実など外国語での生活情報の提供を充実させる	外国語の案内表示を増やす	外国人の意見を行政に活かすためのしくみ	外国人の子育てや子どもの教育を支援する	外国人が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させる	日本人の外国語学習を支援する	外国人と日本人が交流する機会を増やす	日本人の異文化理解を進める	文化芸術施設での外国語対応の充実	その他	無回答
		%												
合計	1,764	49.7	43.0	27.3	25.5	25.6	40.6	45.3	19.7	33.6	33.7	11.3	1.7	7.3
中国	722	50.8	39.3	25.1	18.0	27.1	51.2	45.8	16.1	31.9	37.0	10.0	0.6	7.1
韓国	238	49.2	31.5	20.6	19.3	30.7	35.3	36.1	16.4	32.4	32.4	8.8	2.5	12.2
フィリピン	149	61.1	61.1	36.9	40.9	15.4	28.9	51.0	32.2	37.6	26.2	13.4	1.3	4.7
ベトナム	121	53.7	48.8	36.4	39.7	19.8	40.5	59.5	26.4	41.3	32.2	10.7	0.8	2.5
台湾	69	60.9	33.3	24.6	15.9	27.5	34.8	55.1	20.3	36.2	47.8	11.6	0.0	7.2
アメリカ合衆国	65	43.1	50.8	35.4	30.8	26.2	35.4	27.7	16.9	29.2	24.6	16.9	9.2	10.8
インド	44	43.2	72.7	40.9	52.3	20.5	38.6	61.4	29.5	47.7	20.5	13.6	0.0	0.0
タイ	36	50.0	66.7	33.3	41.7	13.9	25.0	36.1	13.9	16.7	13.9	5.6	2.8	5.6
ネパール	32	53.1	62.5	34.4	28.1	40.6	21.9	68.8	15.6	53.1	21.9	18.8	0.0	6.3
インドネシア	23	47.8	47.8	21.7	26.1	8.7	39.1	43.5	26.1	26.1	26.1	26.1	8.7	13.0
ブラジル	22	31.8	36.4	13.6	40.9	31.8	45.5	40.9	9.1	27.3	36.4	4.5	0.0	4.5
その他	210	38.6	41.0	27.1	32.4	26.7	29.5	41.0	25.2	34.8	37.1	14.3	3.3	5.7

■日本語の不自由さに困っているかどうか別 外国人にとって暮らしやすいまちにするために必要な取組

- ・日本語の不自由さに「困っている」人では、「外国人が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させる」が60.1%と最も多い。
- ・日本語の不自由さに「困っていない」人では、「在住外国人に対する支援体制の充実・強化」が48.6%と最も多い。
- ・日本語の不自由さに「困っている」人は「困っていない」人に比べ、「外国語での相談体制を充実させる」と「外国人が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させる」の数値が20ポイント以上上回っている。

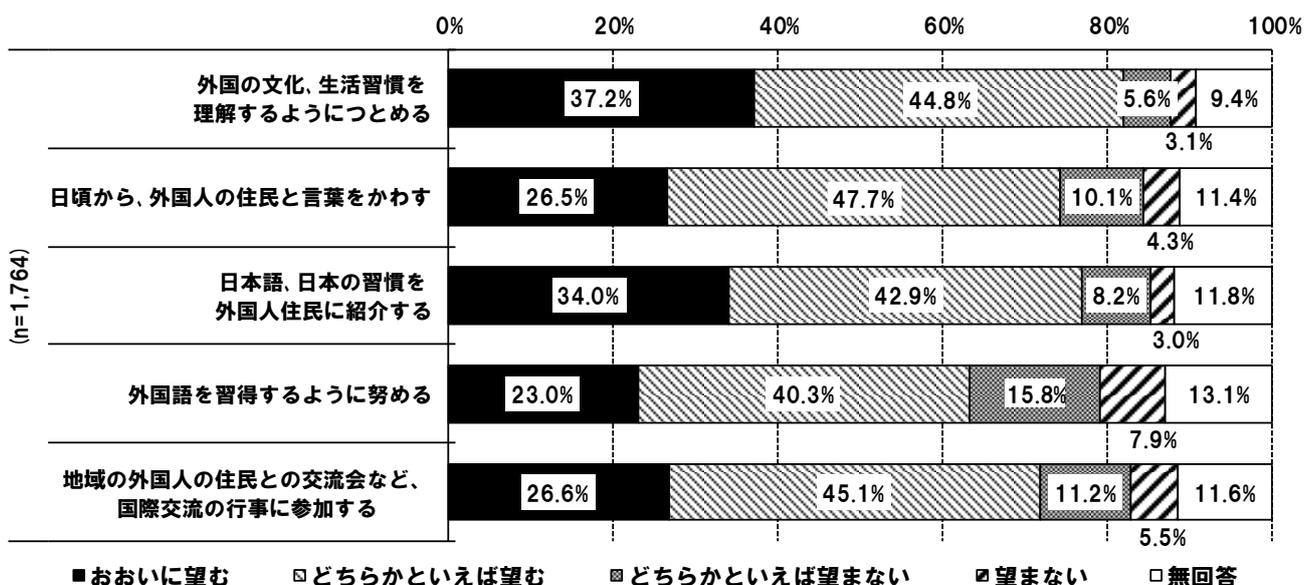
＜日本語の不自由さに困っているかどうか別
外国人にとって暮らしやすいまちにするために必要な取組＞



(2) 多文化共生のまちづくりについて日本人住民に望むこと

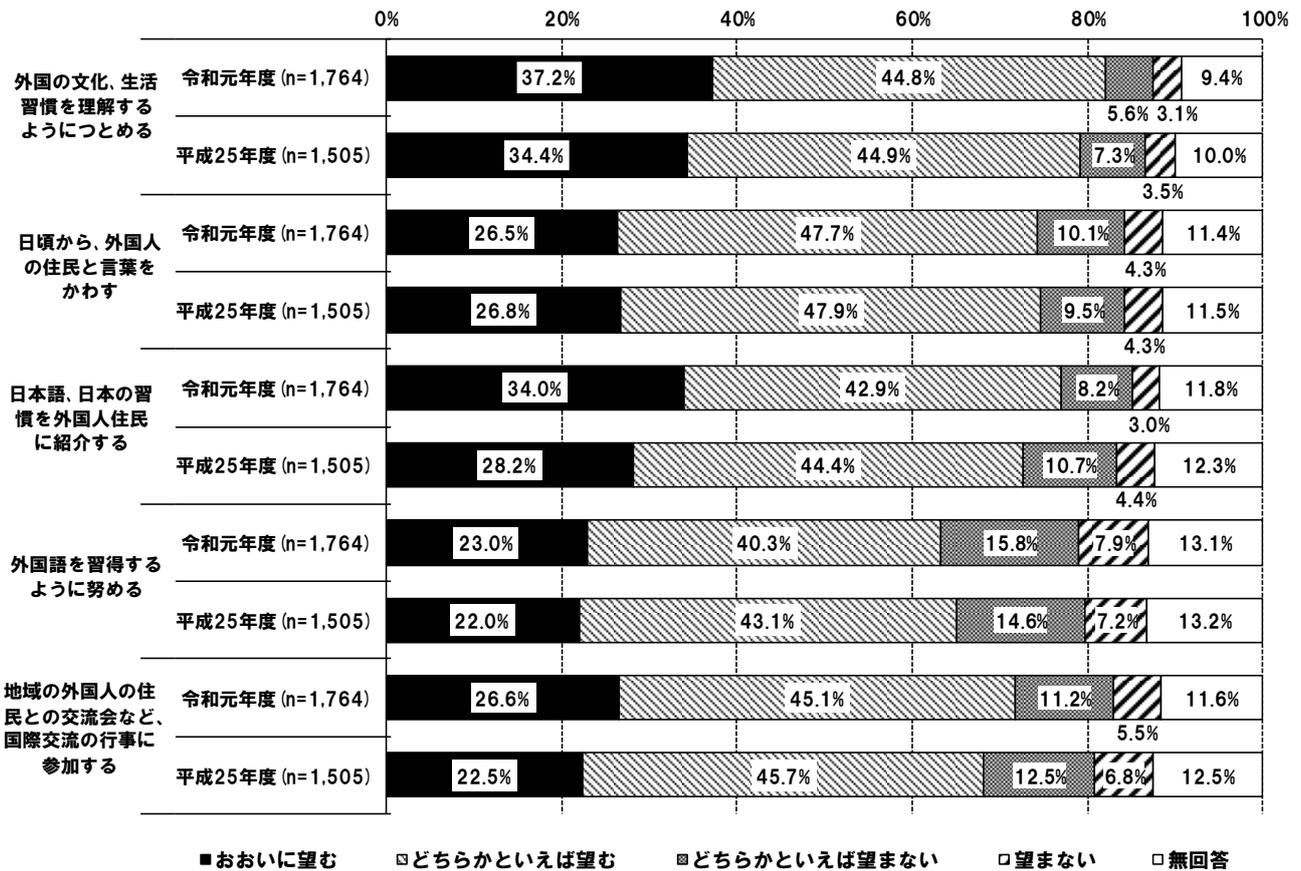
- ・多文化共生のまちづくりについて日本人住民におおいに望むこととして、「外国の文化、生活習慣を理解するようにつとめる」が37.2%と最も多い。次いで「日本語、日本の習慣を外国人住民に紹介する」(34.0%)、「地域の外国人の住民との交流会など、国際交流の行事に参加する」(26.6%)の順となっている。
- ・望まないことについてみると、「外国語を習得するように努める」が相対的に多くなっている。

<多文化共生のまちづくりについて日本人住民に望むこと (SA)>



- ・平成 25 年度調査も概ね同様の傾向を示している。
- ・「日本語、日本の習慣を外国人住民に紹介する」について、「おおいに望む」と「どちらかといえば望む」があわせて 4.3 ポイントの増加となっている。また、「地域の外国人の住民との交流会など、国際交流の行事に参加する」について、「おおいに望む」と「どちらかといえば望む」があわせて 3.5 ポイントの増加となっている。

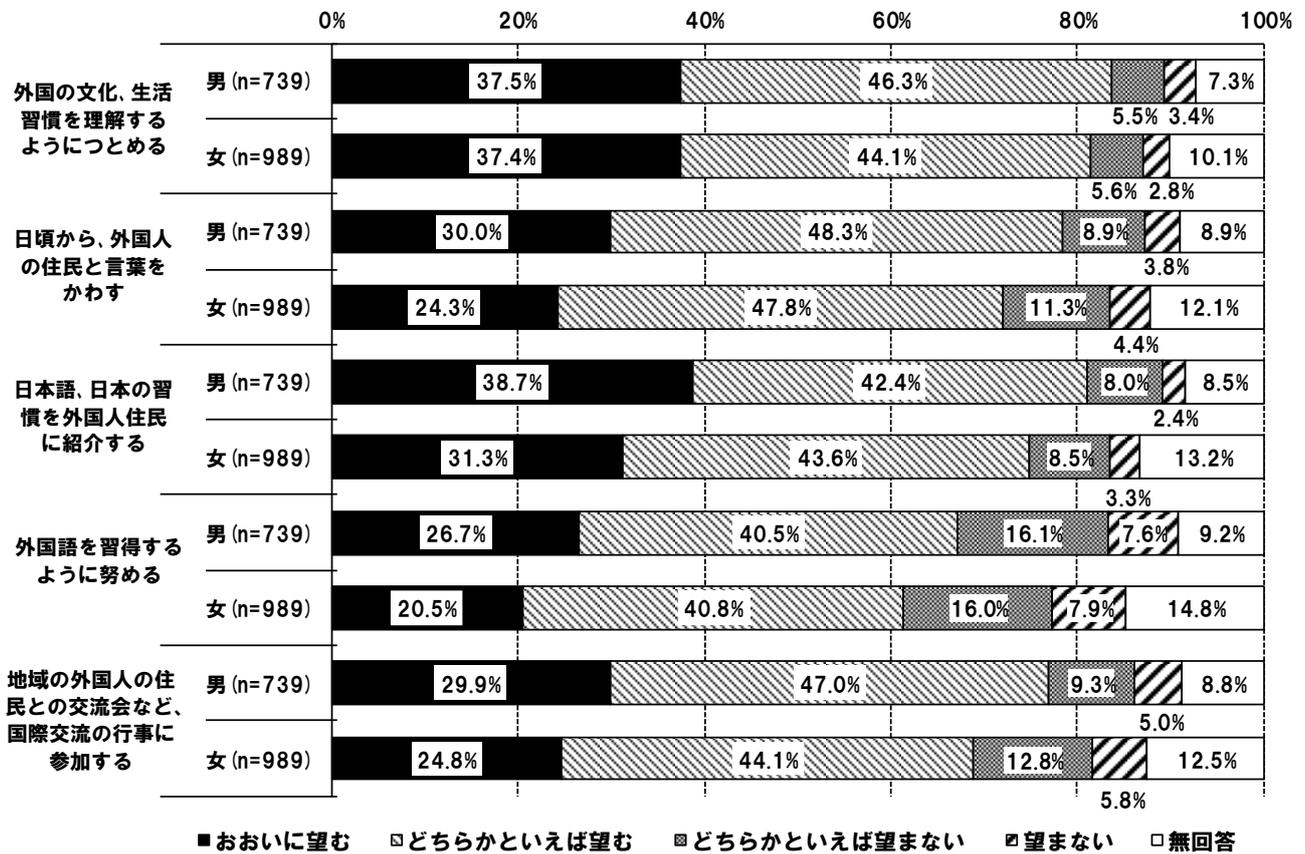
＜参考 平成 25 年度調査結果との比較＞



■男女別 多文化共生のまちづくりについて日本人住民に望むこと

- ・全ての項目について、男女とも「どちらかといえば望む」が最も多い。
- ・女性に比べ、男性は日本人住民に望むことが多い。

<男女別 多文化共生のまちづくりについて日本人住民に望むこと>



■年齢別 多文化共生のまちづくりについて日本人住民に望むこと

- ・「外国の文化、生活習慣を理解するようにつとめる」について、30歳～39歳では「おおいに望む」、80歳以上では「おおいに望む」と「どちらかといえば望む」が同率、それ以外の世代では「どちらかといえば望む」が最も多い。
- ・「日頃から、外国人の住民と言葉をかわす」について、どの世代も「どちらかといえば望む」が最も多い。
- ・「日本語、日本の習慣を外国人住民に紹介する」について、29歳以下では「おおいに望む」、それ以外の世代では「どちらかといえば望む」が最も多くなっている。
- ・「外国語を習得するよう努める」については、どの世代も「どちらかといえば望む」が最も多い。
- ・「地域の外国人の住民との交流会など、国際交流の行事に参加する」について、79歳以下では「どちらかといえば望む」が最も多くなっている。

<年齢別 多文化共生のまちづくりについて日本人住民に望むこと>

	n	おおいに望む	どちらかといえ ば望む	どちらかといえ ば望まない	望まない	無回答	
		%					
外国の文化、生活 習慣を理解するよ うにつとめる	合計	1,764	37.2	44.8	5.6	3.1	9.4
	29歳以下	387	41.9	46.0	4.4	3.6	4.1
	30歳～39歳	524	43.5	43.3	5.5	2.7	5.0
	40歳～49歳	368	33.2	47.6	7.1	1.9	10.3
	50歳～59歳	235	32.3	46.4	6.4	4.3	10.6
	60歳～69歳	129	33.3	44.2	1.6	3.9	17.1
	70歳～79歳	74	21.6	37.8	9.5	2.7	28.4
	80歳以上	26	23.1	23.1	7.7	3.8	42.3
日頃から、外国人 の住民と言葉をか わす	合計	1,764	26.5	47.7	10.1	4.3	11.4
	29歳以下	387	33.1	47.3	10.1	5.4	4.1
	30歳～39歳	524	29.2	51.1	10.1	3.2	6.3
	40歳～49歳	368	24.2	50.8	10.3	3.0	11.7
	50歳～59歳	235	25.1	43.4	11.9	6.0	13.6
	60歳～69歳	129	17.8	47.3	5.4	3.9	25.6
	70歳～79歳	74	13.5	33.8	12.2	5.4	35.1
	80歳以上	26	7.7	30.8	11.5	7.7	42.3
日本語、日本の習 慣を外国人住民 に紹介する	合計	1,764	34.0	42.9	8.2	3.0	11.8
	29歳以下	387	46.5	37.7	8.0	3.4	4.4
	30歳～39歳	524	36.5	46.6	8.4	2.1	6.5
	40歳～49歳	368	32.3	44.0	8.2	2.2	13.3
	50歳～59歳	235	27.2	46.4	9.4	3.8	13.2
	60歳～69歳	129	23.3	46.5	4.7	2.3	23.3
	70歳～79歳	74	12.2	31.1	14.9	5.4	36.5
	80歳以上	26	19.2	23.1	3.8	7.7	46.2
外国語を習得する ように努める	合計	1,764	23.0	40.3	15.8	7.9	13.1
	29歳以下	387	31.0	39.5	14.5	10.1	4.9
	30歳～39歳	524	24.2	42.9	17.9	6.9	8.0
	40歳～49歳	368	21.2	43.2	14.7	7.6	13.3
	50歳～59歳	235	22.6	37.9	17.9	7.7	14.0
	60歳～69歳	129	13.2	38.8	13.2	3.9	31.0
	70歳～79歳	74	8.1	29.7	14.9	9.5	37.8
	80歳以上	26	7.7	26.9	3.8	15.4	46.2
地域の外国人の 住民との交流会な ど、国際交流の行 事に参加する	合計	1,764	26.6	45.1	11.2	5.5	11.6
	29歳以下	387	33.6	47.8	10.1	5.2	3.4
	30歳～39歳	524	30.5	48.1	11.5	3.8	6.1
	40歳～49歳	368	23.9	47.8	10.1	4.9	13.3
	50歳～59歳	235	24.3	40.9	13.6	7.2	14.0
	60歳～69歳	129	15.5	41.9	10.1	6.2	26.4
	70歳～79歳	74	10.8	27.0	17.6	8.1	36.5
	80歳以上	26	19.2	19.2	7.7	19.2	34.6

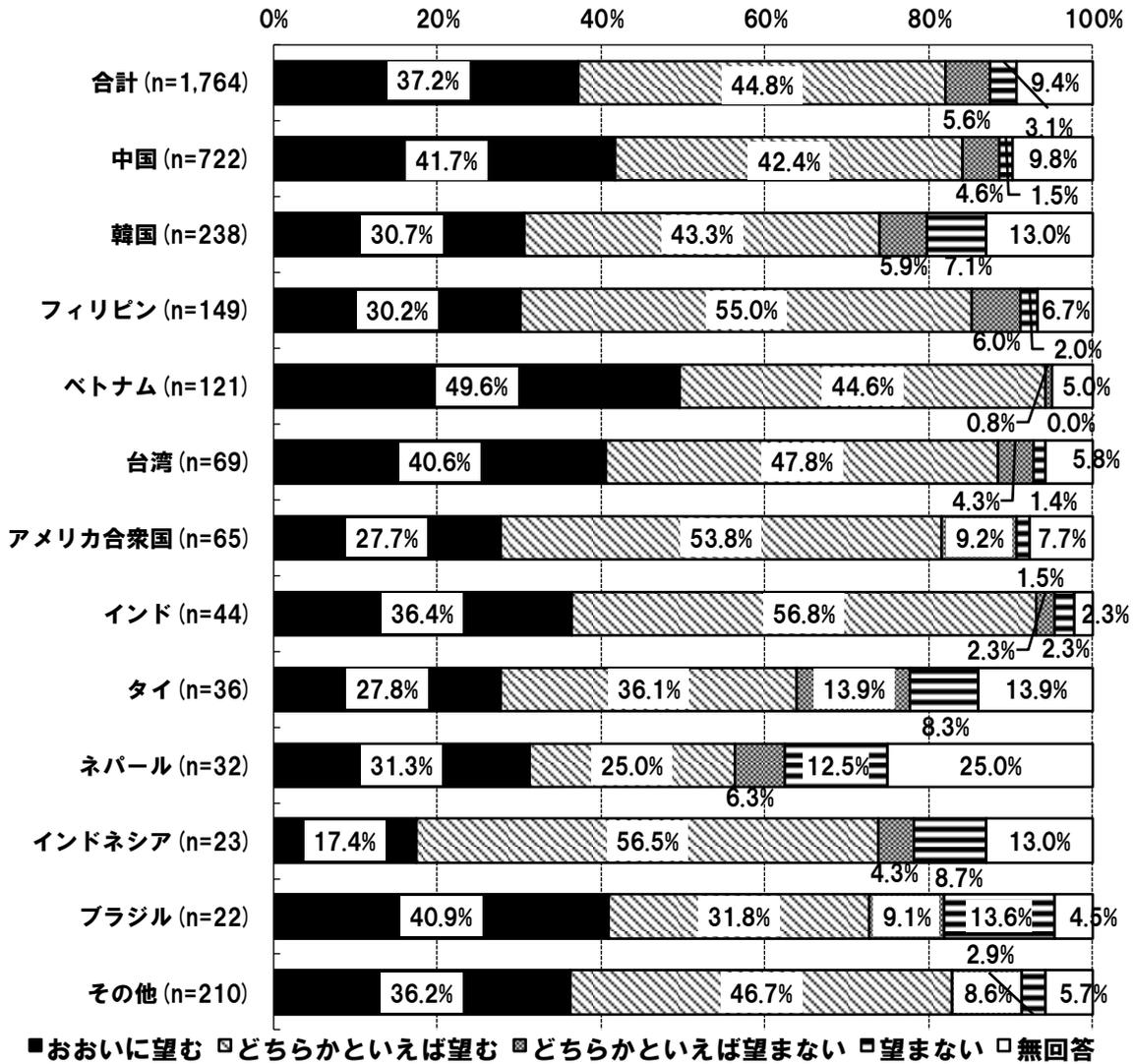
■国籍・地域別 多文化共生のまちづくりについて日本人住民に望むこと

A 外国の文化、生活習慣を理解するようにつとめる

・ベトナム、ネパール、ブラジルでは「おおいに望む」、それ以外の国・地域では「どちらかといえば望む」が最も多くなっている。

<国籍・地域別 多文化共生のまちづくりについて日本人住民に望むこと>

A 外国の文化、生活習慣を理解するようにつとめる

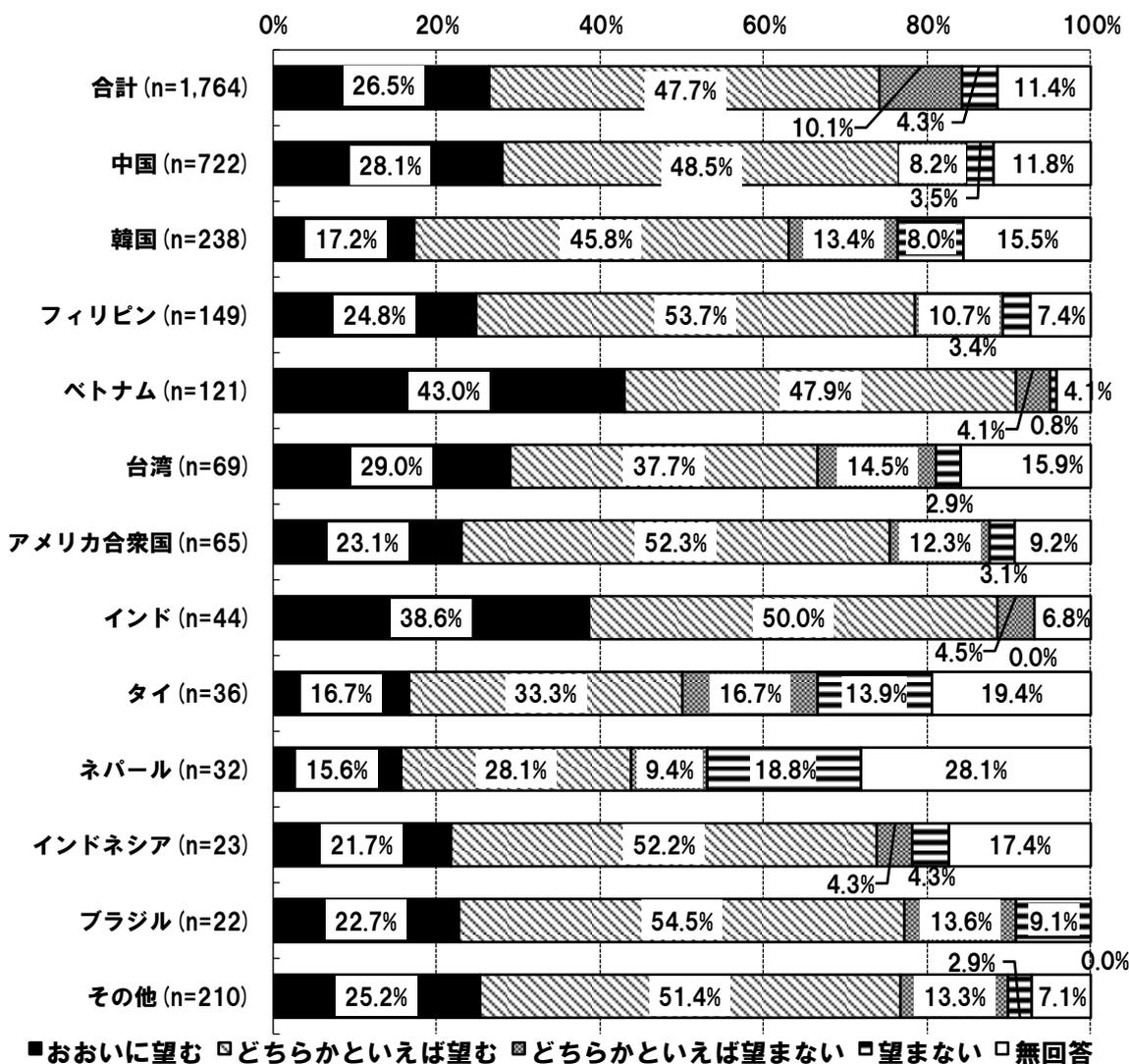


B 日頃から、外国人の住民と言葉をかわす

・すべての国・地域では「どちらかといえば望む」が最も多くなっている。

<国籍・地域別 多文化共生のまちづくりについて日本人住民に望むこと>

B 日頃から、外国人の住民と言葉をかわす

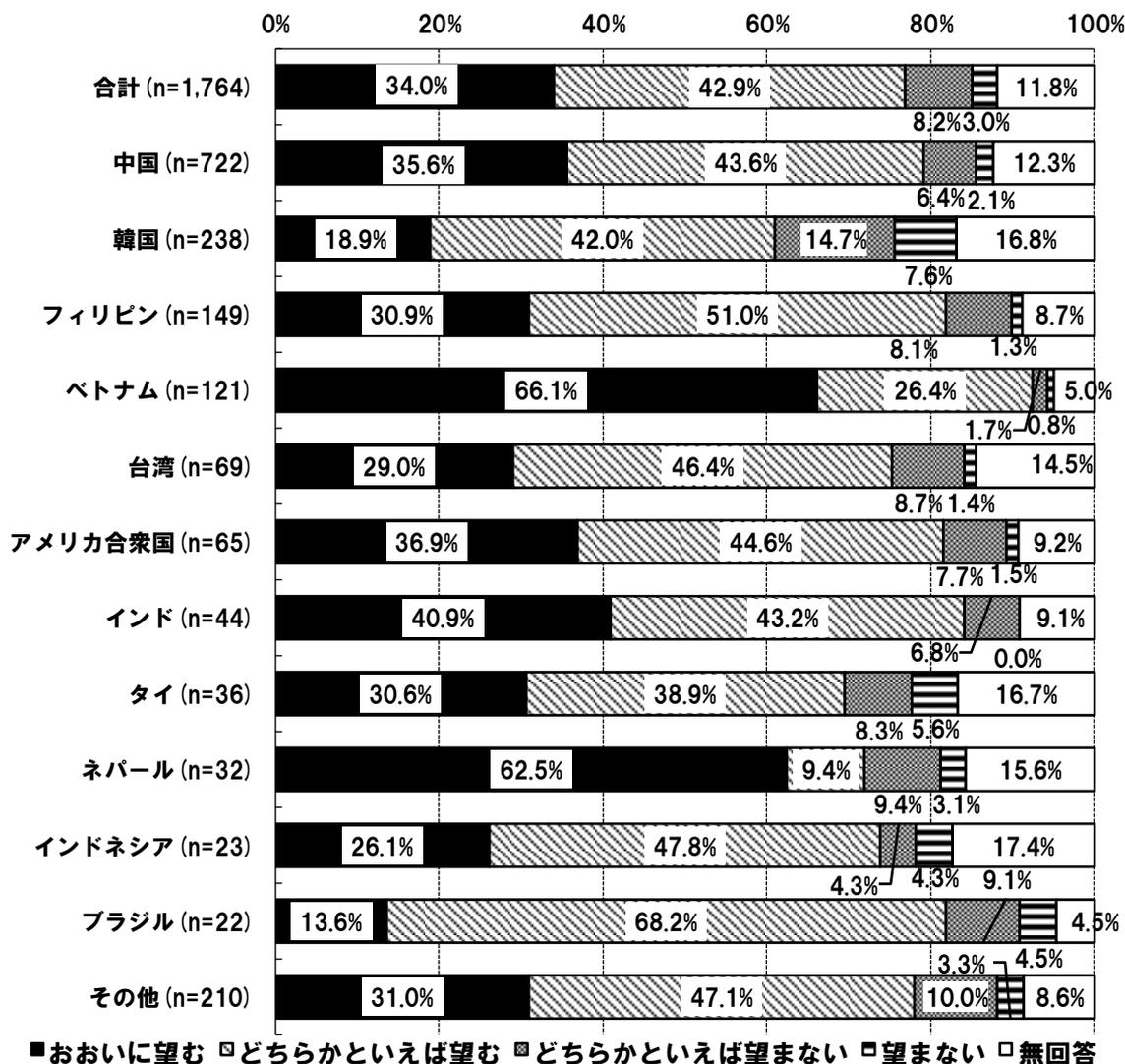


C 日本語、日本の習慣を外国人住民に紹介する

・ベトナム、ネパールでは「おおいに望む」、それ以外の国・地域では「どちらかといえば望む」が最も多くなっている。

<国籍・地域別 多文化共生のまちづくりについて日本人住民に望むこと>

C 日本語、日本の習慣を外国人住民に紹介する

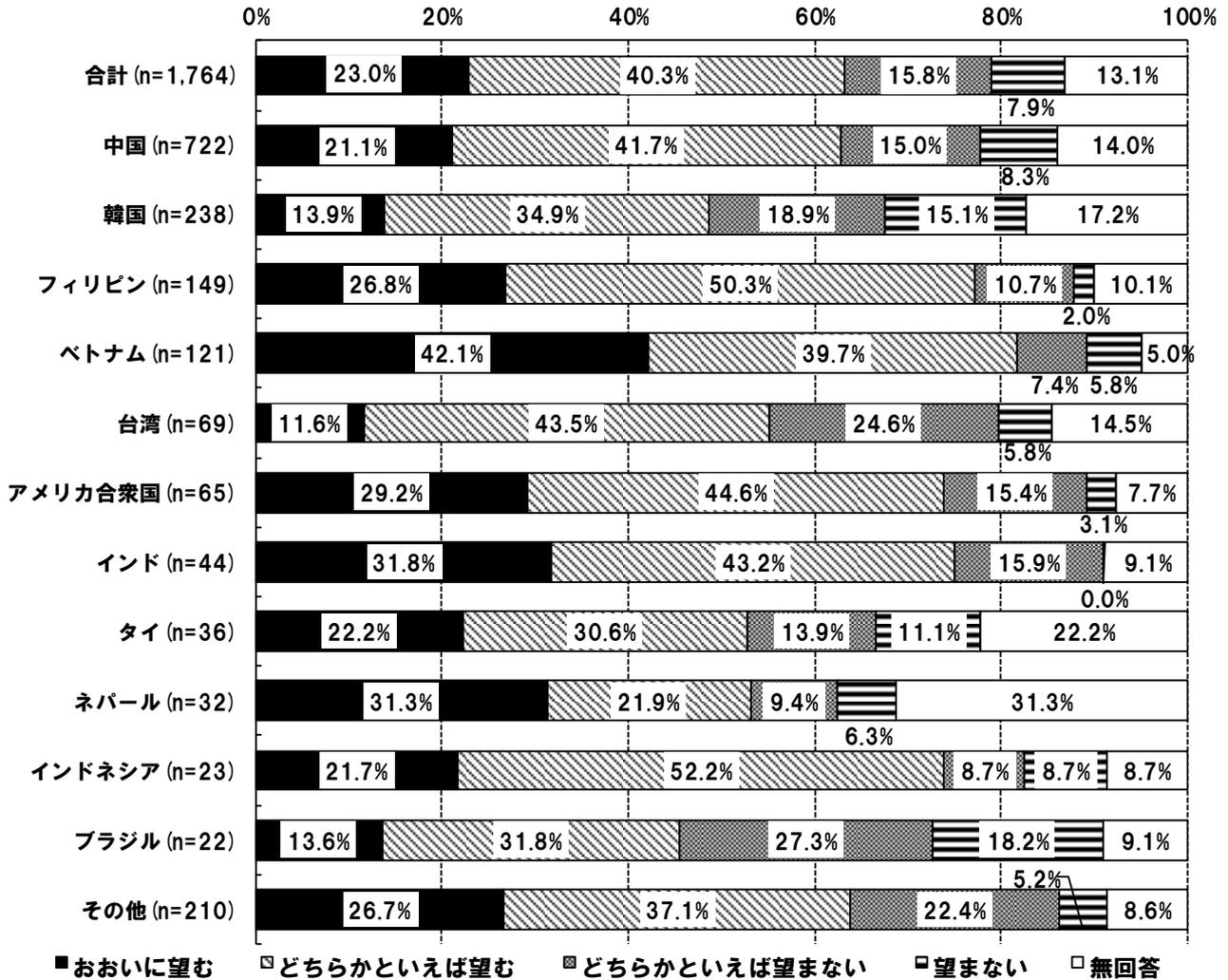


D 外国語を習得するように努める

・ベトナム、ネパールでは「おおいに望む」、それ以外の国・地域では「どちらかといえば望む」が最も多くなっている。

＜国籍・地域別 多文化共生のまちづくりについて日本人住民に望むこと＞

D 外国語を習得するように努める

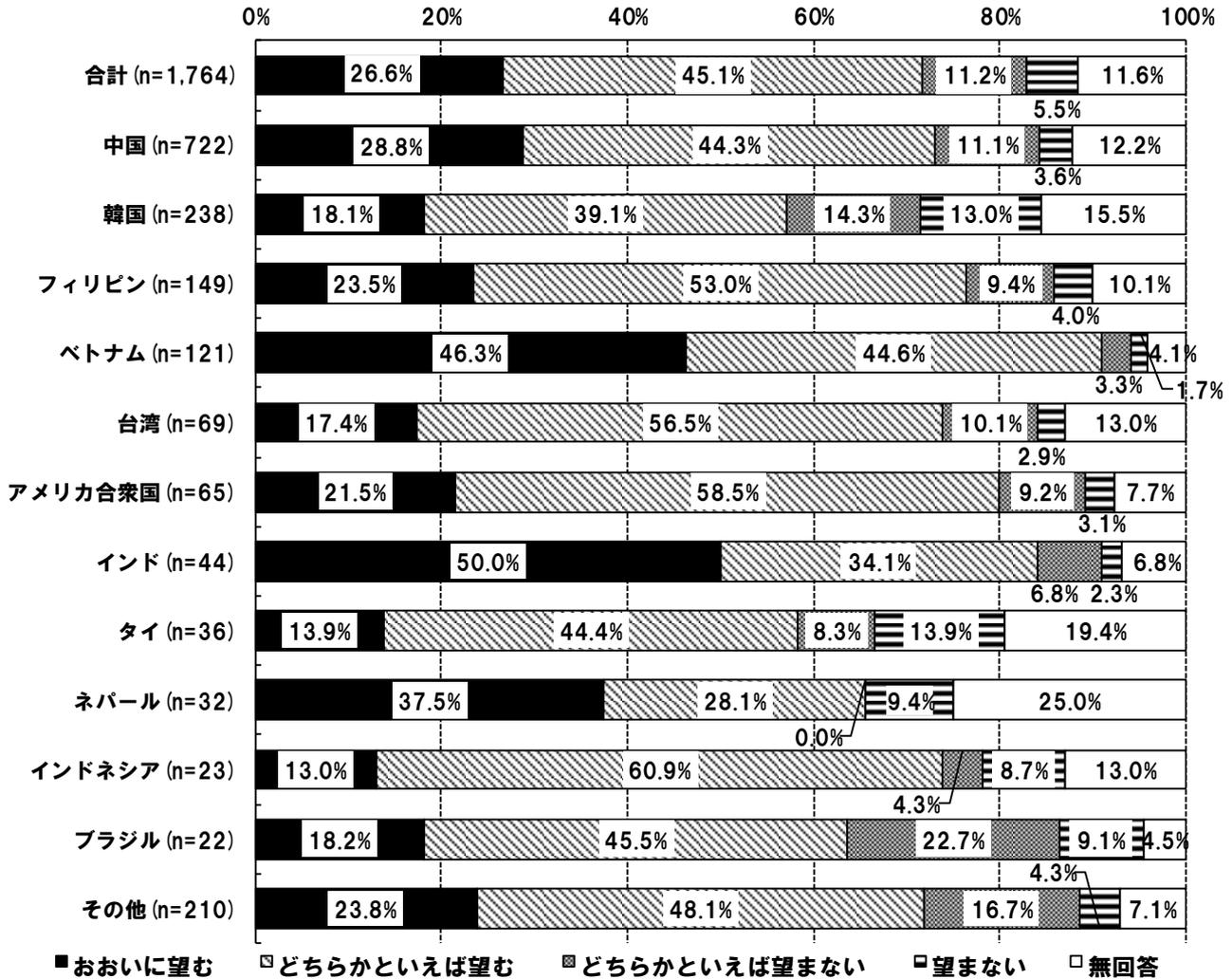


E 地域の外国人の住民との交流会など、国際交流の行事に参加する

・ベトナム、インド、ネパールでは「おおいに望む」、それ以外の国・地域では「どちらかといえば望む」が最も多くなっている。

<国籍・地域別 多文化共生のまちづくりについて日本人住民に望むこと>

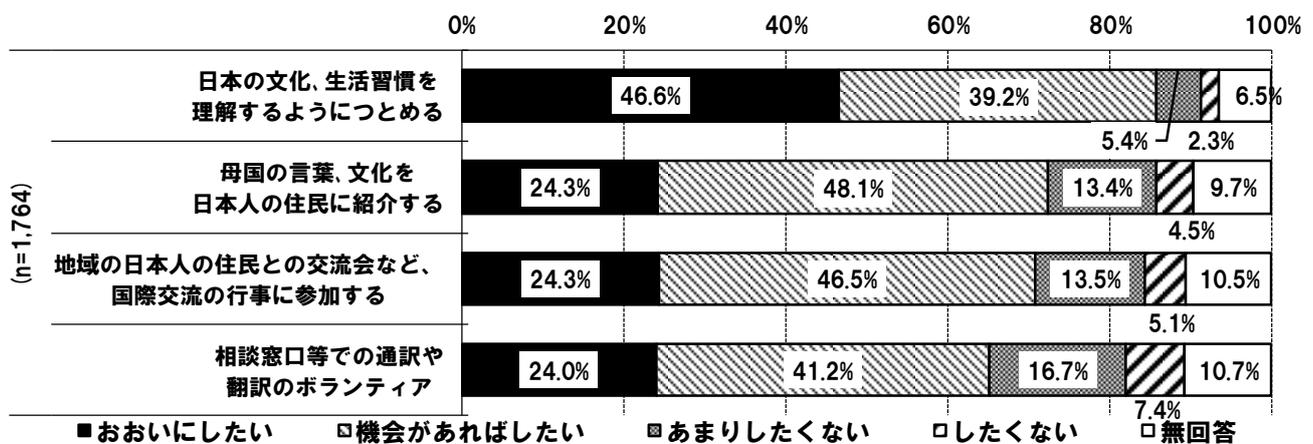
E 地域の外国人の住民との交流会など、国際交流の行事に参加する



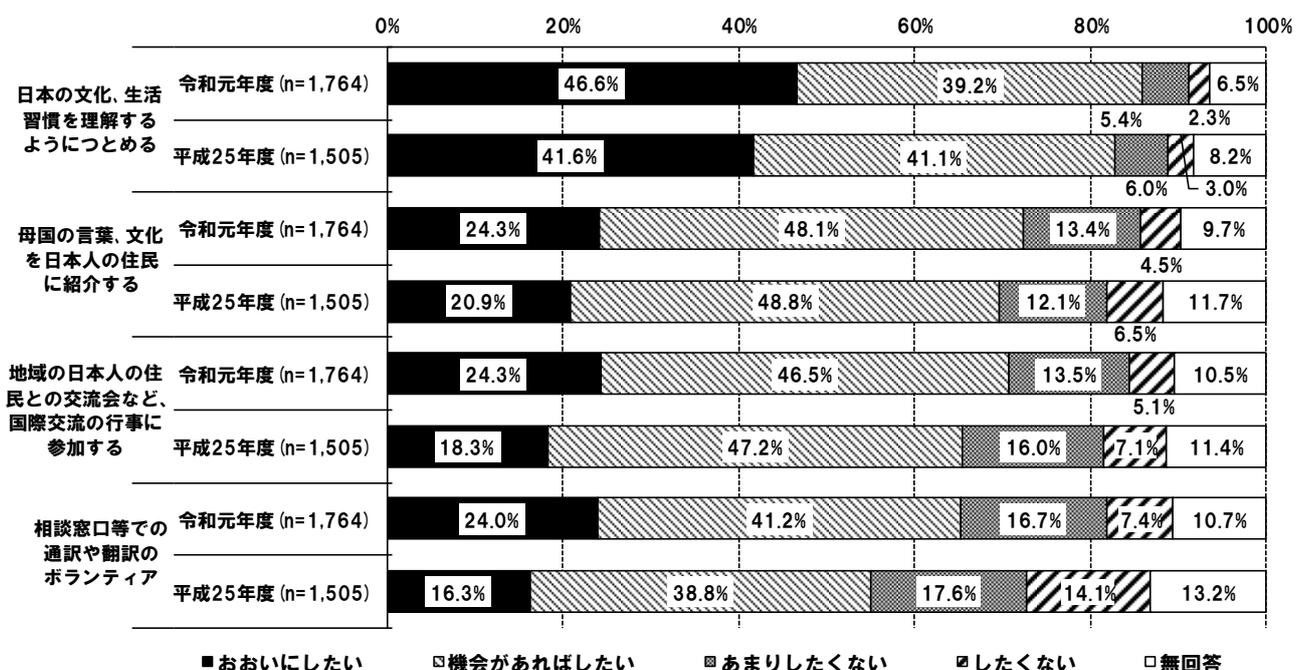
(3) 多文化共生のまちづくりについてしたいこと

- ・「日本の文化、生活習慣を理解するようにつとめる」では、「おおいにしたい」が 46.6%と最も多い。
「機会があればしたい」(39.2%)を加えると 85.8%の人が日本の文化、生活習慣を理解したいと考えている。
- ・「母国の言葉、文化を日本人の住民に紹介する」「地域の日本人の住民との交流会など、国際交流の行事に参加する」「相談窓口等での通訳や翻訳のボランティア」についてみると、「おおいにしたい」がいずれも2割強を占めている。
- ・平成 25 年度調査と比較すると、いずれの項目においても「おおいにしたい」の割合が多くなっている。

<多文化共生のまちづくりについてしたいこと (SA)>



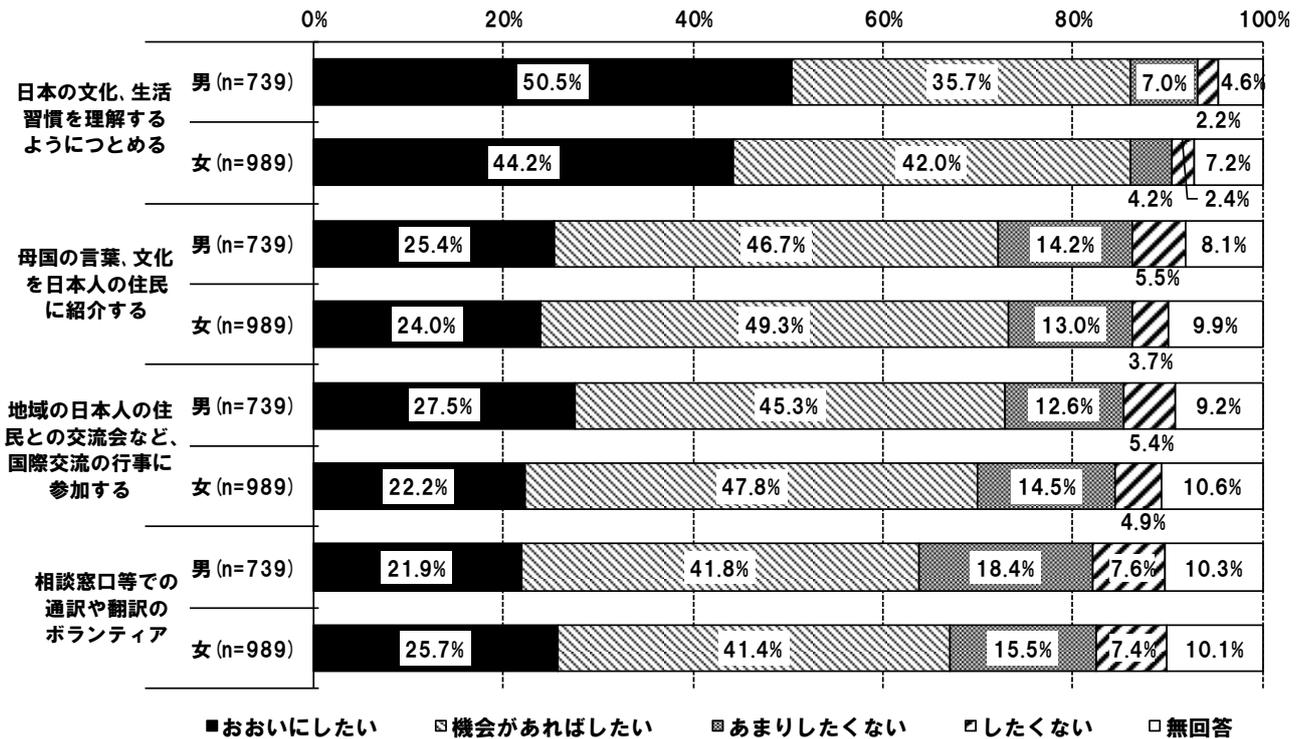
<参考 平成 25 年度調査結果との比較>



■男女別 多文化共生のまちづくりについてしたいこと

- ・男性と女性は概ね同様の傾向を示している。
- ・「日本の文化、生活習慣を理解するようにつとめる」または「地域の日本人の住民との交流会など、国際交流の行事に参加する」を「おおいにしたい」と回答した男性の割合が女性より5ポイント以上高くなっている。一方で「相談窓口等での通訳や翻訳のボランティア」を「おおいにしたい」と回答した女性の割合が男性より3.8ポイント高くなっている。

<男女別 多文化共生のまちづくりについてしたいこと>



■年齢別 多文化共生のまちづくりについてしたいこと

- ・「日本の文化、生活習慣を理解するようにつとめる」について、39歳以下では「おおいにしたい」が最も多い。一方で40歳以上では「機会があればしたい」が最も多い。
- ・「母国の言葉、文化を日本人の住民に紹介する」および「地域の日本人の住民との交流会など、国際交流の行事に参加する」について、いずれの年齢層も「機会があればしたい」が最も多い。
- ・「相談窓口等での通訳や翻訳のボランティア」について、70歳～79歳では「あまりしたくない」、80歳以上では「したくない」がそれぞれ最も多くなっている。

<年齢別 多文化共生のまちづくりについてしたいこと>

	n	おおいにしたい	機会があれば したい	あまりしたくない	したくない	無回答	
		%					
日本の文化、生活習慣を理解するようにつとめる	合計	1,764	46.6	39.2	5.4	2.3	6.5
	29歳以下	387	57.1	34.4	3.6	1.8	3.1
	30歳～39歳	524	53.1	38.0	3.8	2.3	2.9
	40歳～49歳	368	41.8	44.0	6.0	2.7	5.4
	50歳～59歳	235	40.4	42.6	7.7	3.4	6.0
	60歳～69歳	129	38.8	45.7	3.9	0.8	10.9
	70歳～79歳	74	21.6	33.8	12.2	2.7	29.7
	80歳以上	26	11.5	26.9	19.2	0.0	42.3
母国の言葉、文化を日本人の住民に紹介する	合計	1,764	24.3	48.1	13.4	4.5	9.7
	29歳以下	387	36.4	43.2	11.4	4.7	4.4
	30歳～39歳	524	28.4	52.1	10.7	4.2	4.6
	40歳～49歳	368	18.5	54.6	14.4	3.8	8.7
	50歳～59歳	235	17.9	48.5	17.4	6.4	9.8
	60歳～69歳	129	13.2	41.9	15.5	3.9	25.6
	70歳～79歳	74	6.8	36.5	21.6	5.4	29.7
	80歳以上	26	3.8	23.1	19.2	3.8	50.0
地域の日本人の住民との交流会など、国際交流の行事に参加する	合計	1,764	24.3	46.5	13.5	5.1	10.5
	29歳以下	387	34.1	47.3	9.3	5.2	4.1
	30歳～39歳	524	29.4	49.4	12.0	4.4	4.8
	40歳～49歳	368	19.0	51.9	15.2	3.3	10.6
	50歳～59歳	235	17.4	46.0	15.7	7.7	13.2
	60歳～69歳	129	17.1	36.4	18.6	3.9	24.0
	70歳～79歳	74	6.8	27.0	24.3	8.1	33.8
	80歳以上	26	0.0	19.2	15.4	19.2	46.2
相談窓口等での通訳や翻訳のボランティア	合計	1,764	24.0	41.2	16.7	7.4	10.7
	29歳以下	387	33.1	42.4	13.4	6.7	4.4
	30歳～39歳	524	27.1	46.8	15.6	5.5	5.0
	40歳～49歳	368	21.5	45.7	16.6	5.7	10.6
	50歳～59歳	235	20.9	40.4	17.0	10.2	11.5
	60歳～69歳	129	12.4	29.5	21.7	9.3	27.1
	70歳～79歳	74	5.4	16.2	31.1	10.8	36.5
	80歳以上	26	7.7	7.7	15.4	26.9	42.3

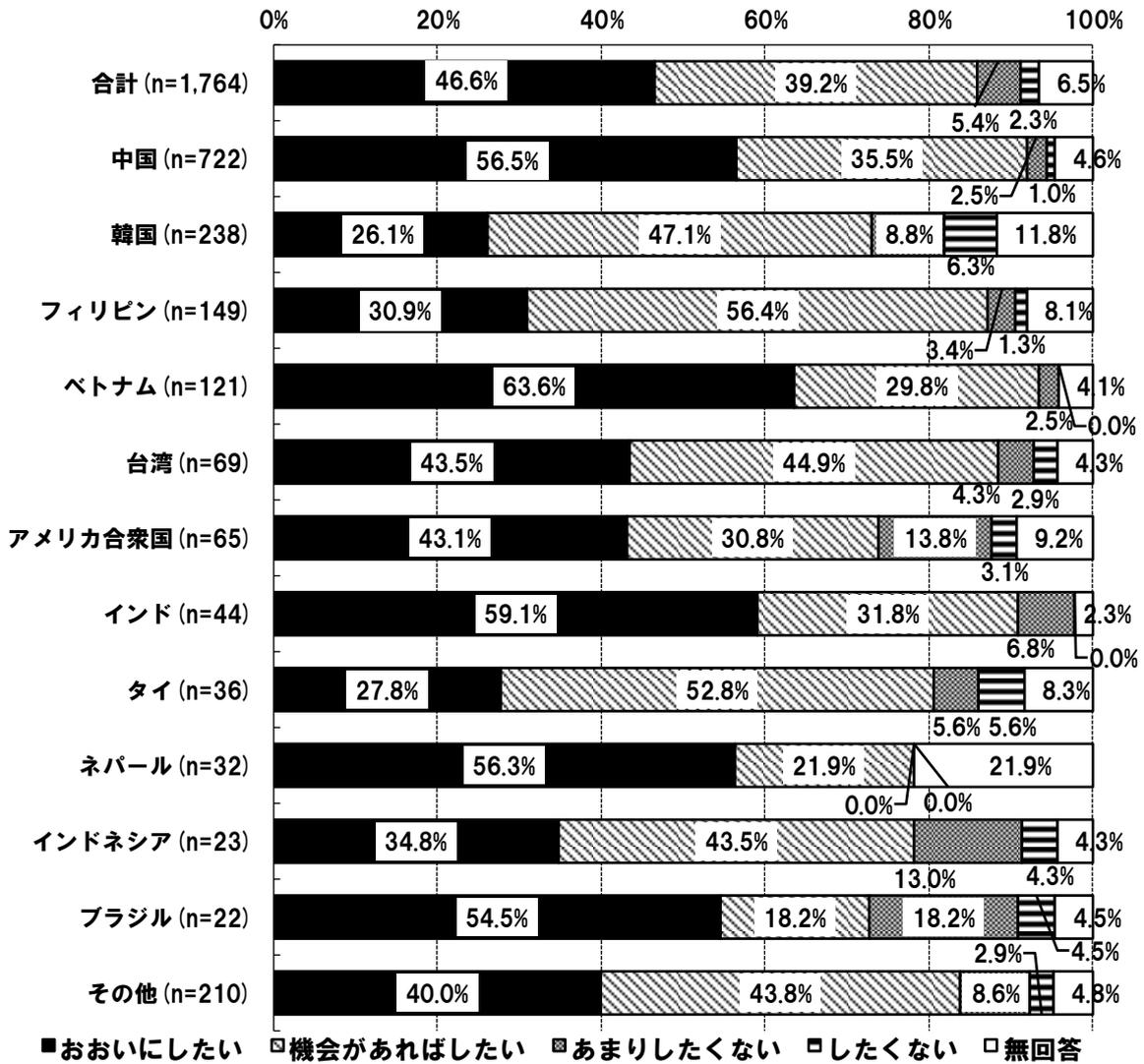
■国籍・地域別 多文化共生のまちづくりについてしたいこと

A 日本の文化、生活習慣を理解するようにつとめる

- ・中国、ベトナム、アメリカ合衆国、インド、ネパール、ブラジルでは「おおいにしたい」が最も多い。
- それ以外の国・地域では「機会があればしたい」が最も多くなっている。

<国籍・地域別 多文化共生のまちづくりについてしたいこと>

A 日本の文化、生活習慣を理解するようにつとめる

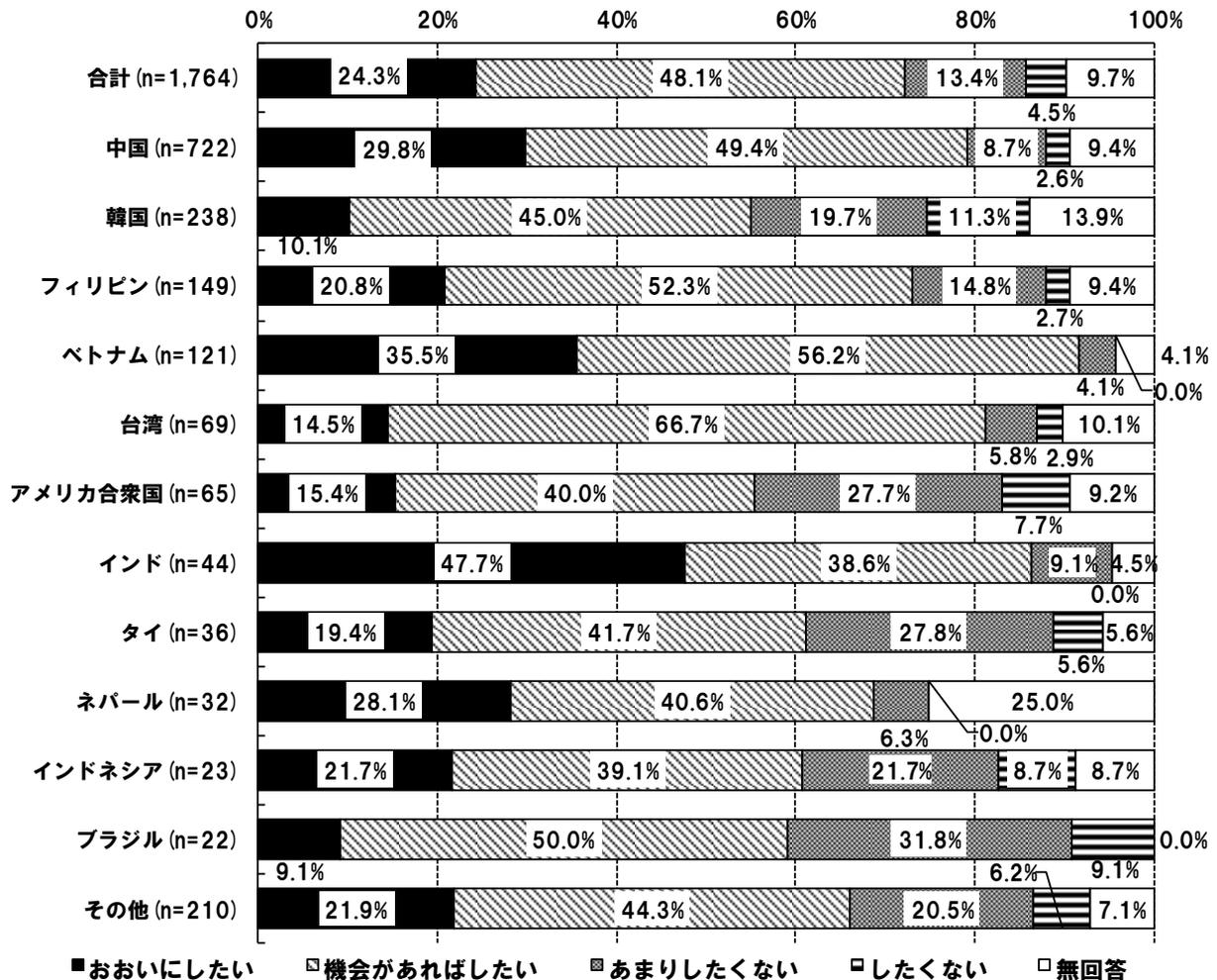


B 母国の言葉、文化を日本人の住民に紹介する

・インドでは、「おおいにしたい」が最も多い。それ以外の国・地域では「機会があればしたい」が最も多くなっている。

<国籍・地域別 多文化共生のまちづくりについてしたいこと>

B 母国の言葉、文化を日本人の住民に紹介する

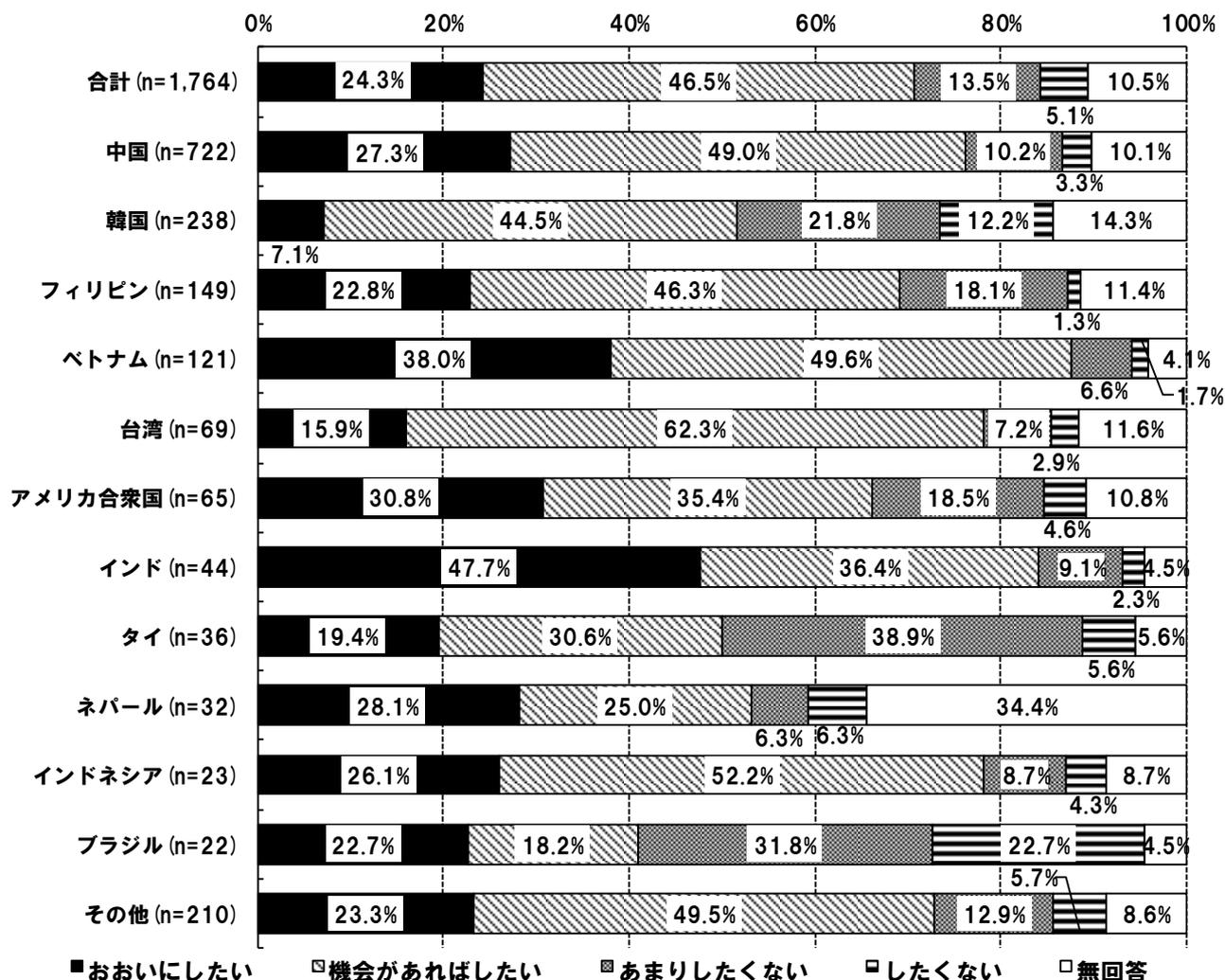


C 地域の日本人の住民との交流会など、国際交流の行事に参加する

・インド、ネパールでは、「おおいにしたい」が最も多い一方で、タイ、ブラジルでは「あまりしたくない」が最も多くなっている。それ以外の国・地域では「機会があればしたい」が最も多くなっている。

<国籍・地域別 多文化共生のまちづくりについてしたいこと>

C 地域の日本人の住民との交流会など、国際交流の行事に参加する

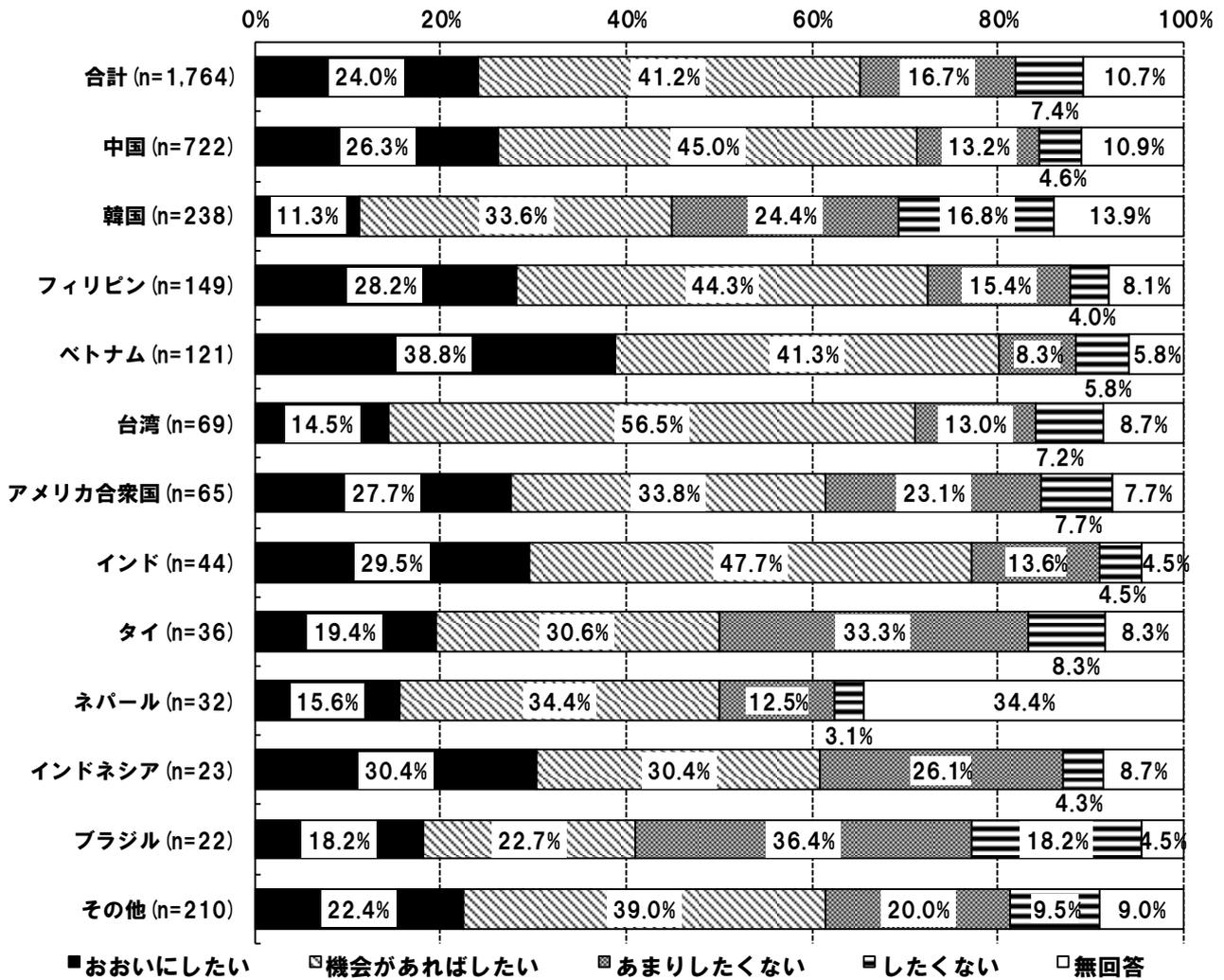


D 相談窓口等での通訳や翻訳のボランティア

・タイ、ブラジルでは「あまりしたくない」が最も多い。インドネシアでは「おおいにしたい」と「機会があればしたい」が同率である。それ以外の国・地域では「機会があればしたい」が最も多くなっている。

<国籍・地域別 多文化共生のまちづくりについてしたいこと>

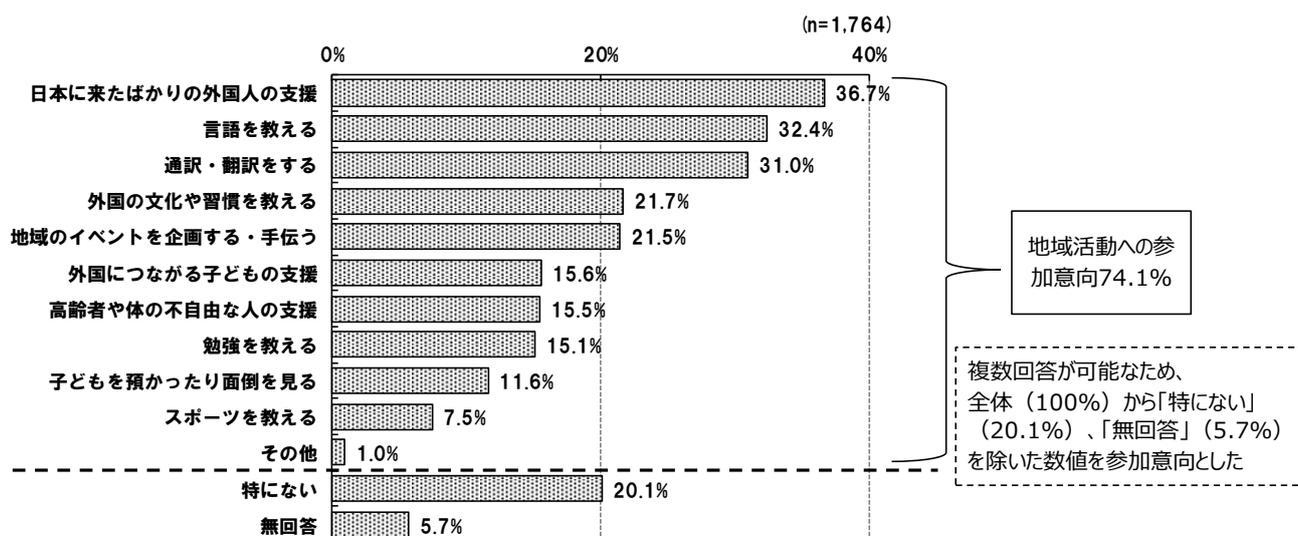
D 相談窓口等での通訳や翻訳のボランティア



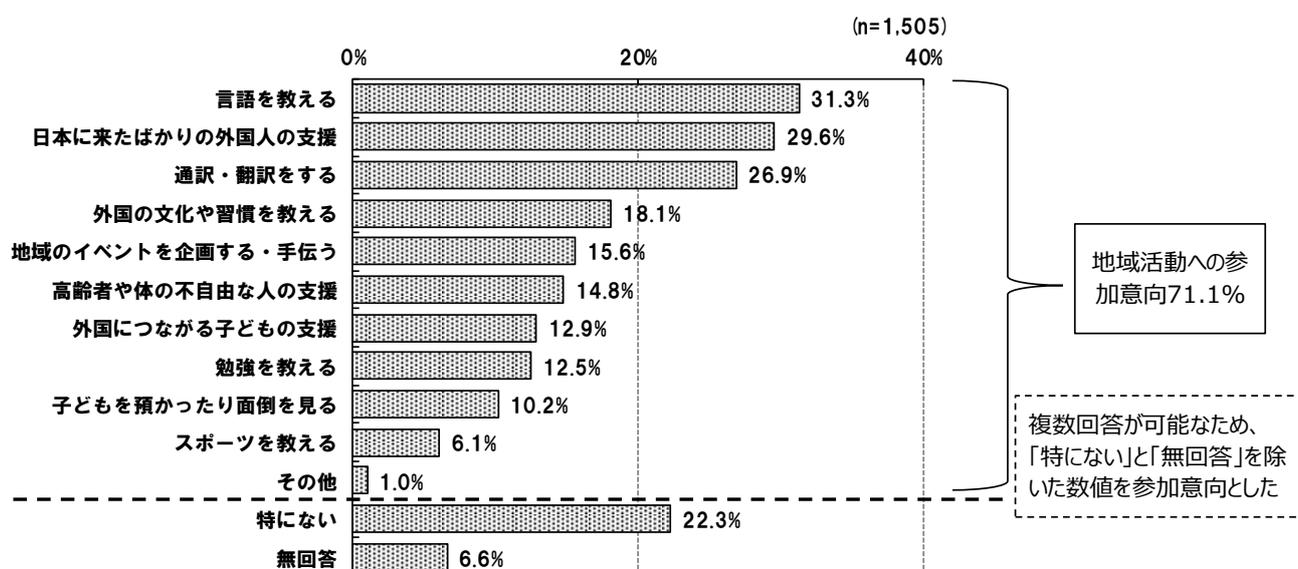
(4) やってみたいと思う地域活動

- ・「特にない」(20.1%)と無回答(5.7%)を除くと、74.1%の人が地域活動への参加意向を有している。
- ・やってみたいと思う地域活動では、「日本に来たばかりの外国人の支援」が36.7%と最も多い。次いで「言語を教える」(32.4%)、「通訳・翻訳をする」(31.0%)の順となっている。
- ・平成25年度調査と比較すると、地域活動への参加意向を有している人の割合が71.1%から3ポイント上昇している。

<やってみたいと思う地域活動(MA)>

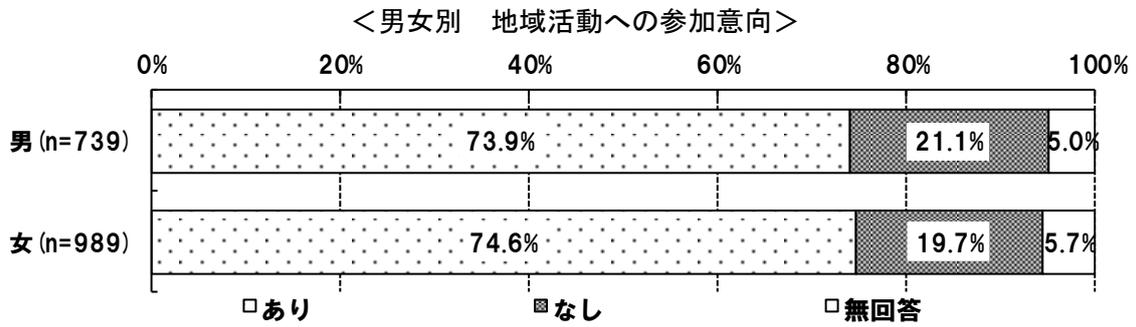


<参考 平成25年度調査結果>



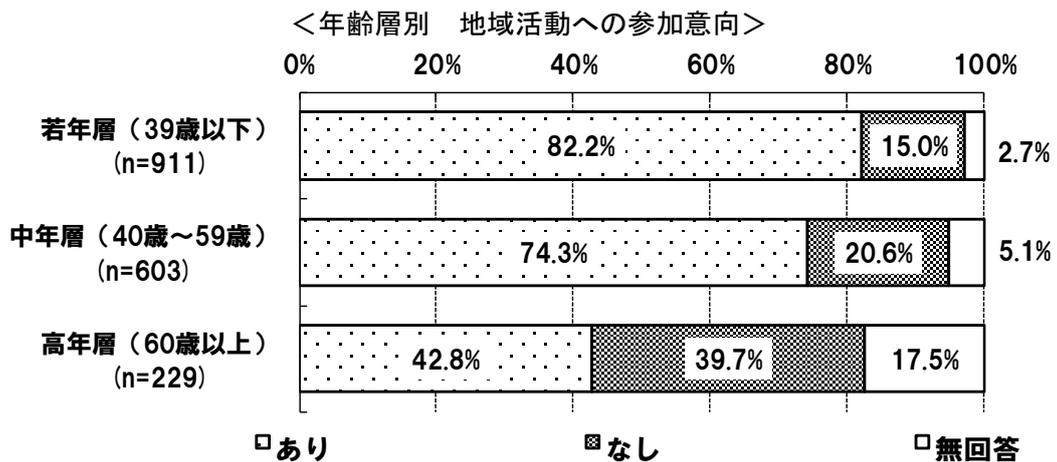
■男女別 地域活動への参加意向

・地域活動への参加意向について、男女は同様の傾向を示している。



■年齢別 地域活動への参加意向

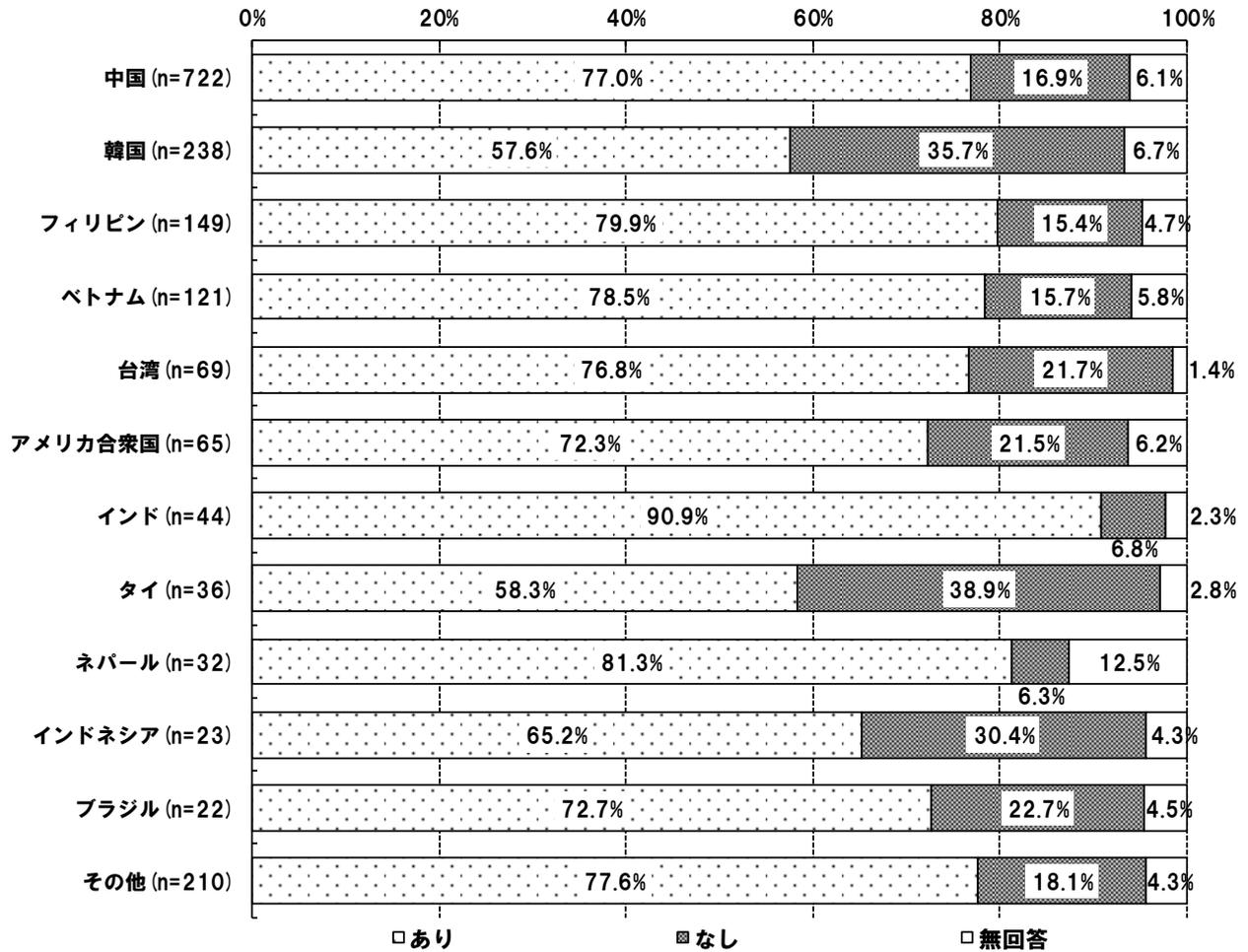
・年齢別では、若年層（39歳以下）と中年層（40歳～59歳）で参加意向が高くなっている一方、高年層（60歳以上）では参加意向が低くなっている。



■国籍・地域別 地域活動への参加意向

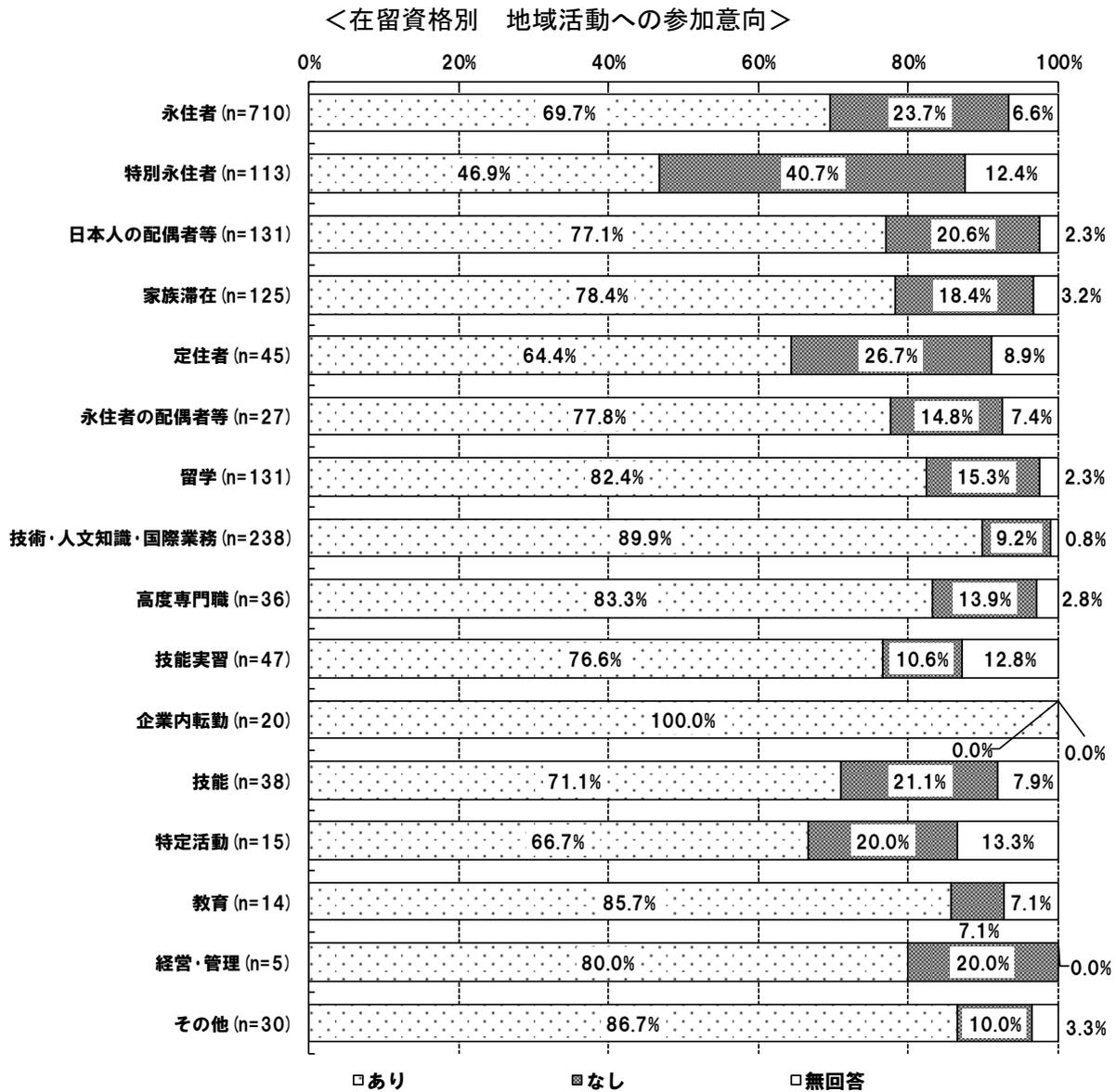
・すべての国・地域では、参加意向「あり」が過半数を占めている。

＜国籍・地域別 地域活動への参加意向＞



■在留資格別 地域活動への参加意向

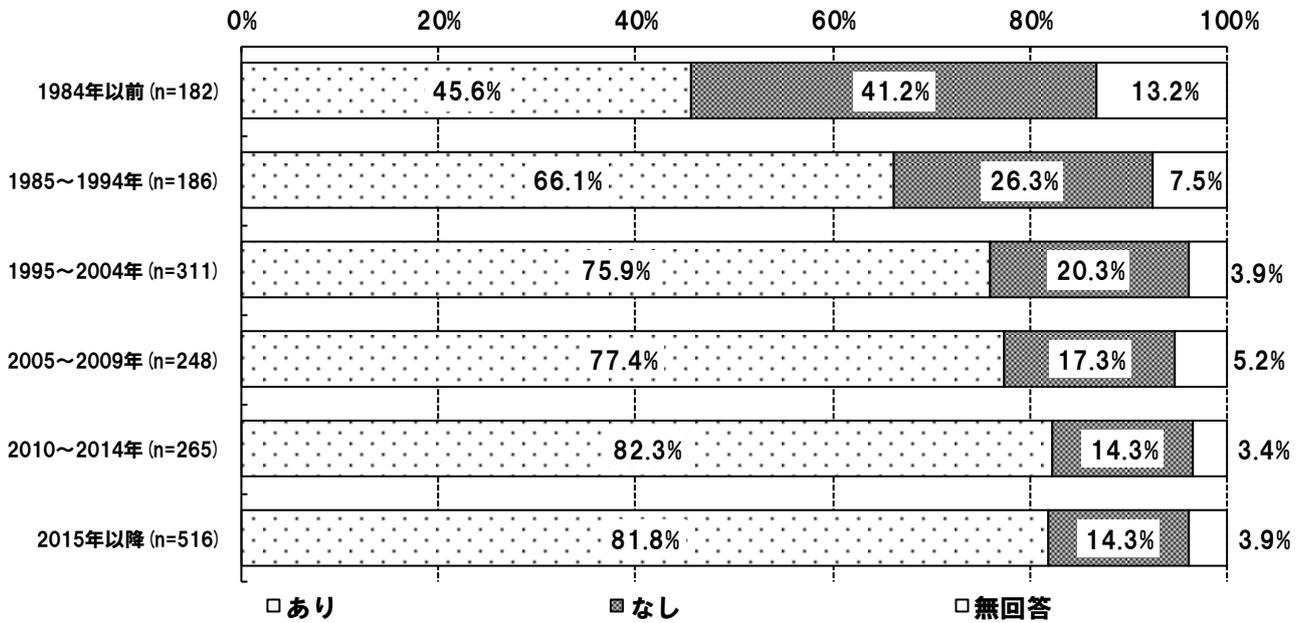
・特別永住者では、参加意向「あり」が他の在留資格に比べて低い水準にある。



■日本での居住開始時期別 地域活動への参加意向

- ・日本での居住開始時期が浅い人ほど、地域活動への参加意向が高い傾向にある。日本での居住開始が1984年以前では参加意向が低く、参加意向「あり」と「なし」が同程度である。

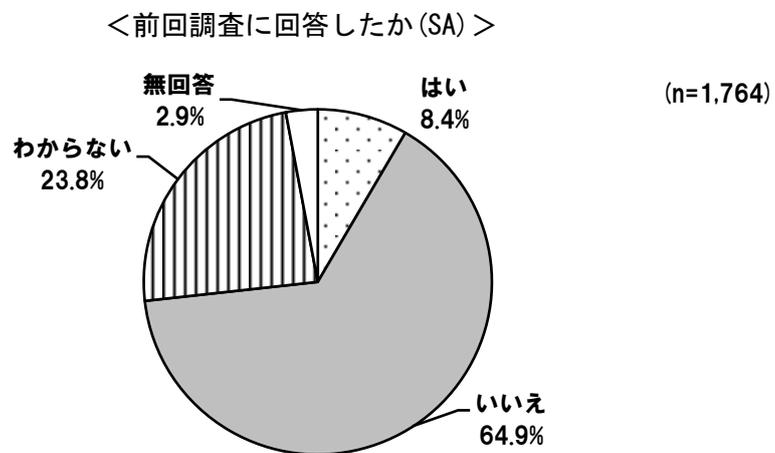
<日本での居住開始時期別 地域活動への参加意向>



10. その他

(1) 前回調査への回答

・「いいえ」が64.9%で最も多く、「はい」の8.4%を大きく上回っている。



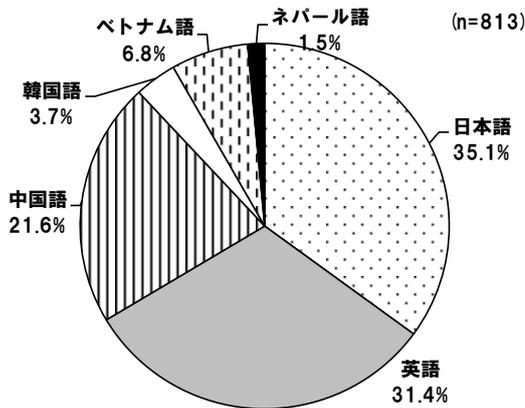
(2) 横浜市にぜひ取り組んでほしいこと、日常生活の中で不便に感じていること、困っていること等

- ・自由記述に回答があったのは517件(1,764件の29.3%)、延べ意見数813件であった。延べ意見数の言語別割合をみると、「日本語」(35.1%)、「英語」(31.4%)、「中国語」(21.6%)、「ベトナム語」(6.8%)、「韓国語」(3.7%)、「ネパール語」(1.5%)という結果となっている。
- ・横浜での生活、市の施策や横浜市外国人意識調査の実施などを評価する意見は128件で延べ意見数の15.7%を占める結果となっている。
- ・要望に関する意見は685件(84.3%)で、分野別に見ると、「行政」、「多文化共生」、「言葉」、「子育て・教育」、「生活」の順に多く、これら上位5位で全体の約7割を占めている。
- ・各分野に関する主な要望は下表に示すとおりである。

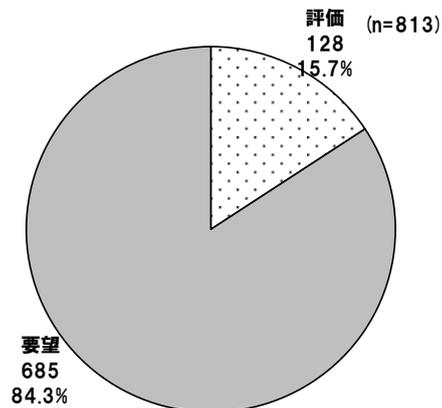
＜各分野に関する主な要望＞

分野	主な要望
行政	「税金・年金・保険」(44件)、「サービスについて」(31件)
多文化共生	「交流」(33件)、「差別と偏見」(27件)
言葉	「言葉の勉強の仕方について」(40件)、「言葉で困っていること」(29件)
子育て・教育	「学校」(32件)、「幼稚園・保育園」(17件)
生活	「横浜での生活」(43件)、「ゴミ出し」(15件)
調査	「調査方法」(18件)、「調査対象」(15件)
情報	「外国語での情報」(31件)、「横浜市の情報」(13件)
仕事	「就職や起業について」(19件)、「労働環境について」(14件)
医療	「医療」(14件)、「病院」(12件)
住宅	「賃貸契約」(12件)、「住宅支援」(11件)
交通	「道路」(9件)、「バス」(5件)
安全・安心	「災害」(9件)、「防犯」(4件)
街の美化	「街の美化」(11件)

＜延べ意見数の言語別割合＞

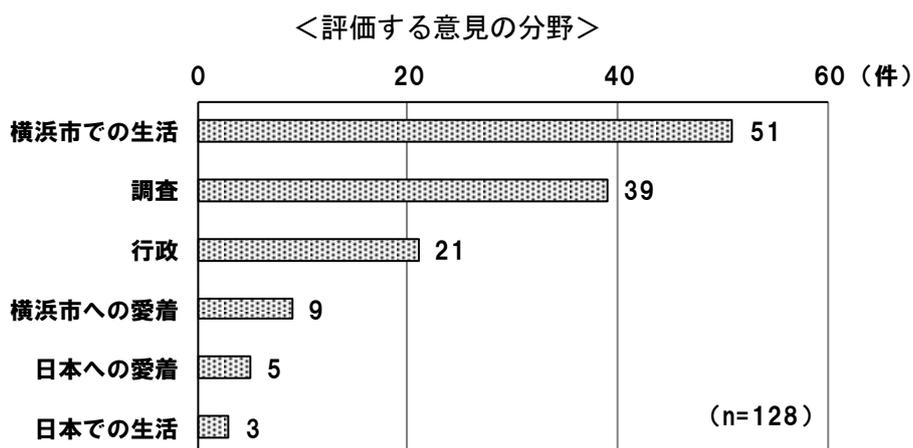


＜評価と要望の割合＞



＜回答言語別延べ件数＞

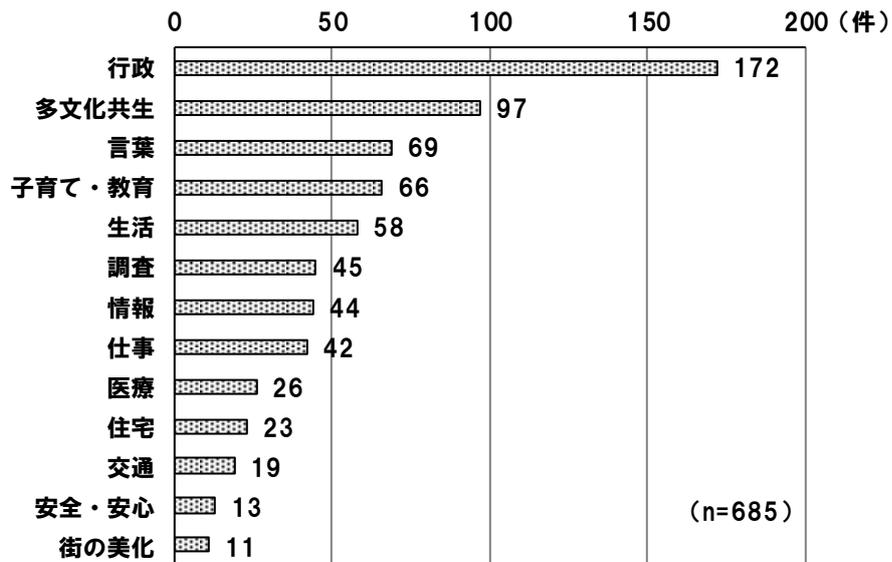
回答言語	延べ件数 (件)			構成比 (%)	
	評価	要望	合計	評価	要望
日本語	28	257	285	9.8	90.2
英語	56	199	255	22.0	78.0
中国語	24	152	176	13.6	86.4
韓国語	3	27	30	10.0	90.0
ベトナム語	14	41	55	25.5	74.5
ネパール語	3	9	12	25.0	75.0
総計	128	685	813	15.7	84.3



＜評価する意見の主な内容＞

分野	主な意見	件数
横浜市での生活	不満はなく、満足している	25
	住みやすい	13
	すべてがとても良い	8
	ずっと住みたい	3
	横浜は安全に生活できる場所	2
調査	意見を言う機会を提供してくれて、感謝している	28
	とても有益な調査	9
	結果を生かしてほしい	1
	その他	1
行政	外国人のために努力していることに感謝している	13
	横浜市の外国人に対する態度、政策に感心している	4
	来日時には無かったサービスも増えているようなので、より安心して暮らせるように工夫されているんだと感じた	2
	その他	2
横浜市への愛着	横浜が好き	7
	横浜を愛している	1
	親近感が強まった	1
日本への愛着	日本はとても良い国	2
	日本が好き	2
	日本が母国だと思っている	1
日本での生活	日本での生活に満足している	2
	日本での生活に慣れた	1
総計		128

<要望に関する意見の主な分野>



<要望に関する意見の主なテーマ>

分野	テーマ	件数	分野	テーマ	件数
行政	税金・年金・保険	44	調査	調査方法	18
	サービスについて	31		調査対象	15
	施策	28		調査内容	12
	行政窓口について	18	情報	外国語での情報	31
	在留資格・在留カード	15		横浜市の情報	13
	外国人支援	13	仕事	就職や起業について	19
	外国人の待遇	12		労働環境について	14
	公共施設	11		収入	9
多文化共生	交流	33	医療	医療	14
	差別と偏見	27		病院	12
	日本人の意識	21	住宅	賃貸契約	12
	日本の文化	7		住宅支援	11
	外国の文化	6	交通	道路	9
	外国人の意識向上	3		バス	5
言葉	言葉の勉強の仕方について	40		鉄道	3
	言葉で困っていること	29		駅	1
子育て・教育	学校	32	安全・安心	駐車場・駐輪場	1
	幼稚園・保育園	17		災害	9
	必要な支援について	17		防犯	4
生活	横浜での生活	43	街の美化	街の美化	11
	ゴミ出し	15			
総計					685

< 要望に関する意見の主な内容 (1) >

分野	テーマ	意見	件数
行政	税金・年金・保険	税金・年金・健康保険料などが高い	19
		税金の軽減	12
		税金・年金・保険の仕組みをわかりやすくしてほしい	5
		年金問題	3
		年金の支給額を増やしてほしい	2
		税金の使途として、教育や福祉分野により多く使ってほしい	1
		健康保険制度の改善	1
		納税証明書の発行	1
	サービスについて	通訳・翻訳サポートがほしい	15
		法律などの相談窓口の開設	3
		法律や規制に関する連絡	3
		親子の苗字が異なる場合の証明がほしい	1
		経営に関するアドバイスやサポート	1
		手続きの簡素化	1
		住まいの区であるかどうかを問わずに行政手続きができるようになってほしい	1
		区役所に情報交換用できる掲示板を設置してほしい	1
		多文化共生のためにボランティアだけでなく、プロを活用してほしい	1
		外国人向けのツアーの企画	1
		一貫性のあるサービス提供	1
		活動や看板の多くは、日本人目線になっている	1
		サービスを乱用する外国人の存在	1
	施策	IR に関するご意見	10
		ヘイトスピーチ禁止条例に関するご意見	3
		マイナンバーカードに関するご意見	3
		外国人の受け入れと多文化共生を推進してほしい	2
		外国人から意見を聴取する場や制度を作してほしい	2
		横浜市の PR に関するご意見	2
		インフラ整備への予算を増やしてほしい	1
		ムスリムの多い地域では男女別の日本語教室を設けてほしい	1
		重税感があるわりには外国人対応が不十分	1
		法整備の強化	1
		外国人住民に対する語学要件の設定	1
		喫煙文化への尊重	1
	行政窓口について	外国語を話せる職員配置	6
		担当者が親切でない	3
		土日に窓口を開放	2
		外国人向け窓口の設置	2
		担当者の説明が不十分	1
		書類がわかりにくい	1
		電子翻訳機の導入	1
		立地場所の見直し	1
	在留資格・在留カード	行政機関間の連携	1
		交付要件の見直し	6
		在留資格に関する相談	6
		在留カードの手続きの場所は交通不便	1
		出入国在留管理局に行かなくても手続きできるようにしてほしい	1
	不法就労者の存在	1	
外国人支援	外国人に対する支援の充実	7	
	通訳・翻訳に関する人員体制の充実	2	
	横浜に来たばかりの外国人への支援	2	
	実習生や留学生などの低所得者に対する支援	1	
	家族が来日するための支援	1	
外国人の待遇	政治行政への参加	8	
	警察などの対応の改善	4	
公共施設	図書館が少ない、図書館に英語の蔵書の充実	2	
	育児・教育施設が少ない	1	
	区役所にコミュニティルームを設置してほしい	1	
	図書館に外国語相談窓口を設置してほしい	1	
	全年齢層のための公共スペースがほしい	1	
	スポーツ設備を増やしてほしい	1	
	大通りや路地などに腰掛けやベンチをもっと設置してほしい	1	
	公園や病院などのインフラ整備	1	
公共入浴施設の「タトゥー禁止」	1		
多くの公園の入り口は電動自転車が入りにくい	1		

<要望に関する意見の主な内容（2）>

分野	テーマ	意見	件数
多文化共生	交流	日本人と交流する場や機会を増やしてほしい	13
		地域住民と交流したい	5
		地域活動に参加したい	4
		外国人同士が交流できる場がほしい	4
		近隣住民同士のコミュニケーションに改善が必要だ	2
		日本人とのコミュニケーションが難しい	2
		日本人と仲良くしたい	2
		異文化交流の橋がけになっている	1
	差別と偏見	差別・偏見をなくしてほしい	27
	日本人の意識	日本人が外国人と友好的になってほしい	6
		日本人は英語を習うべき	5
		多様性に対する理解を深めてほしい	4
		名字に対する日本人の反応に戸惑うことがある	1
		日本人にもっと英語を勉強してほしい	1
		外国人に心のない言葉をかける日本人がいる	1
		日本人のネットワークになかなか入れない	1
人間関係が薄い		1	
歴史認識に関するご意見	1		
日本の文化	日本の文化を学びたい	7	
外国の文化	外国文化への理解	3	
	外国文化への理解	2	
	「外国語」や「外国文化」としても「英語」や「アメリカ文化」だけではない	1	
外国人の意識向上	外国人が日本社会に適応すべき 様々な活動や議論に参加すべき	2 1	
言葉	言葉の勉強の仕方について	日本語を勉強できる場や機会を増やしてほしい	21
		無料の日本語教室の充実	10
		日本語を勉強したい	8
		日本人向けの無料の英語教室の充実	1
	言葉で困っていること	日本語が分からなくて日常生活で困っている	14
		病院で言葉が通じない	10
		日本語の災害関連情報が理解できなかった	1
		もっとふりがなが使われると良い	1
		言葉の障壁がある外国人がもっと住みやすいまちになってほしい	1
		日本語が分からないので子どもの勉強を教えられない	1
日本語が不自由で運転免許を取ることが難しい	1		
子育て・教育	学校	中学校での給食の実施・普及	7
		インターナショナルスクールの費用が高い	6
		高校までの給食の実施	2
		外国人学校に対する支援	2
		英語教育の充実	2
		学校選びに資する情報提供	2
		学校が少ない	2
		外国人の保護者や児童に対するサポートがほしい	2
		良質な教育資源の充実	1
		学校への予算を増やしてほしい	1
		大学まで学費を無料してほしい	1
		適切な歴史教育を推進してほしい	1
		学校でのいじめが心配	1
		室内プールがよい	1
	ミシン作業など家庭で作るものが理解できない	1	
	幼稚園・保育園	幼稚園・保育園に入ることが難しい	7
		幼稚園・保育園が少ない	5
		入園ルールの見直し	1
		入園手続きが煩雑	1
		一時保育が利用しにくい	1
		乳幼児向けの外国人学校を無償化してほしい	1
		保育時間が短い	1
	必要な支援について	(教育や福祉など) 子育て支援の充実	8
子どもへの日本語学習支援		4	
子供の母国語教育に対する支援		2	
子育て世帯に対する資金的支援		1	
育児情報の提供		1	
子育て世帯の社会参加に対するサポート		1	

<要望に関する意見の主な内容（3）>

分野	テーマ	意見	件数	
生活	横浜での生活	物価が高い	6	
		騒音対策	3	
		外国人も暮らしやすい横浜市になってほしい	3	
		キャッシュレス化の普及促進	2	
		もっと環境に配慮してほしい	2	
		図書館が少なくて不便	1	
		歩きたばこ対策	1	
		大気汚染をなくしてほしい	1	
		横浜がますます良くなることを望む	1	
		訪れる人に良い思い出をもたらす横浜市になってほしい	1	
		Vegan やハラルなど食の多様性に配慮してほしい	1	
		人口に対してインフラが不足している	1	
		団体のスポーツイベントを増やしてほしい	1	
		モバイルデバイスの充電スポットを設置してほしい	1	
		高齢者、子ども、障害者や妊婦などに席を譲る人が少ない	1	
		免税標識がわかりにくい	1	
		番地の設定に関するご意見	1	
		無料で卓球できる機会がほしい	1	
		通勤が大変	1	
		家族と泊まるためにホテルが必要	1	
		商店街が少ない	1	
		近隣トラブルがある	1	
		高齢になったときに不安がある	1	
		喫煙できる店を残してほしい	1	
		外国語の本がたくさんあると良い	1	
		家で猫を飼うことができればよい	1	
		スポーツクラブを探したい	1	
		車のマナー	1	
		クレジットカードの申請が難しい	1	
		銀行の業務処理が遅すぎる上、態度がよくない	1	
		薬局の閉店時間が早い	1	
		言いたいことが多い	1	
		ゴミ出し	ゴミの出し方がわかりにくい	5
	ゴミ収集方法の見直し		3	
	ゴミ収集の時間や回数を変更してほしい		2	
	ゴミの出し方を説明してほしい		2	
	ゴミ分別の強化		2	
	ゴミ集積所が遠い		1	
	調査	調査方法	調査用紙は国・地域別に送付すると経費削減になる	4
			ポルトガル語やスペイン語版も作ってほしい	3
			オンライン調査にすべき	3
			調査の意図が分からない	2
			タイ語のアンケートを作ってほしい	1
中国語繁体字に対応してほしい			1	
フランス語に対応していない			1	
マークシートを利用すべき			1	
調査に関する情報発信			1	
母国との生活面での比較を行ってほしい			1	
調査対象		日本で生まれ育った外国人は対象外にすべき	12	
		日本人にも同様の調査をしてほしい	2	
		障害者にとって回答しにくい	1	
調査の内容		日本で生まれ育った外国人にとって回答しにくい	5	
		質問が難しい	2	
		調査結果をふまえて関連の施策を実行してほしい	1	
		アンケート調査を通して、在日外国人とコミュニケーションが取れたらと思う	1	
		当てはまらない内容がある	1	
	調査の結果を知りたい	1		
アンケートの結果から得られるものが想像できない	1			

<要望に関する意見の主な内容（４）>

分野	テーマ	意見	件数		
情報	外国語での情報	英語での情報がほしい	14		
		標識の外国語対応が必要	3		
		タイ語の案内や資料がほしい	2		
		外国語での情報を提供してほしい	2		
		市役所からの公式発表はいつも日本語なので、読めない。	1		
		スーパーのレジ袋をゴミ袋として再利用できることについての案内を2か国語で作成してほしい	1		
		災害の緊急通知は日本語しかなかった	1		
		外国語の案内板を多めに設置したほうがよい	1		
		スペイン語の情報がほとんどない	1		
		ベトナム語のホームページや地図があるとよい	1		
		中国語繁体字版の資料がほしい	1		
		外国人が生活の中で使用するであろうウェブサイトの多言語対応	1		
		病院の領収書や処方箋等の英語対応	1		
		ウェブサイトまたはスマホアプリが正確で適正な多言語対応であること	1		
	横浜市の情報	外国人向け情報提供が必要	2		
		永住者への情報提供がほしい	1		
		外国人の目に触れやすい場所に多言語資料を置いてほしい	1		
		外国人住民に近所の情報をメールなどで配信できるとよい	1		
		住んでいる区に関する知らせなどをLINEなどで配信してほしい	1		
		横浜に関連した良い活動やイベントがたくさんあるにも関わらず、いつどこで開催されているかを見つけるのが非常に困難	1		
		インドネシアのイベントがあるときに情報を提供してほしい	1		
		野生動物の保護や治療に関する情報提供がほしい	1		
		パソコンを持っていないので、ホームページだけでなく、電話番号も教えてほしい	1		
		ホームページがわかりにくい	1		
		学校の掲示板は区に関する情報が非常に少ない	1		
		外国語に対応できる病院や医師の情報がほしい	1		
		仕事	就職や起業について	仕事に関する情報や機会を提供してほしい	8
				外国人の就職や起業に対する支援	5
				外国人向けの仕事は少ない	3
				外国人向けの職業訓練を紹介してほしい	1
外国人向けの職業紹介所などを設置してほしい	1				
外国人の就労制限の緩和	1				
労働環境について	仕事環境を改善してほしい		7		
	長時間労働を強いられている		4		
	仕事のトラブルに関する相談場所		2		
	雇用主からのパワーハラスメント		1		
	収入		時給が安い	6	
			日本人と同レベルの給与がほしい	2	
賃金の未払い		1			
医療		医療	外国人向け医療サービスの充実	6	
			子どもの医療に対する支援の充実	5	
			医療ミスに関する相談場所がほしい	1	
	医療費助成に関する手続きの説明		1		
	診療所の住所を探す方法が分からない		1		
	病院	外国人に対するサポートが必要	7		
外国語に対応できる病院が少ない		3			
病院の対応が悪い		2			

<要望に関する意見の主な内容（５）>

分野	テーマ	意見	件数
住宅	賃貸契約	外国人に貸してくれない	5
		部屋探しが大変	4
		家を探している外国人へのサポート	2
		日本国籍を持つ人の保証が必要で非常に難しい	1
	住宅支援	市営住宅を増やしてほしい	3
		市営住宅の抽選がなかなかあたらぬ	2
		住宅の購入に対するアドバイス	1
		住宅ローンの軽減	1
		住宅ローンの申請要件の緩和	1
		防音のために家をリノベーションする支援	1
		住宅が狭くて古い	1
		今の家はこれ以上住める状態ではない	1
	交通	道路	自転車道を整備してほしい
歩道が狭い			2
専用車線や専用道路の整備			2
細い道の整備			1
一部の道路は修繕されていない			1
道が狭い			1
バス		本数を増やしてほしい	2
		バス停留所に椅子やシェルターがない	1
		英語版のウェブサイトがない	1
		バスルートが地図にない	1
鉄道		運賃が高い	1
		本数を増やしてほしい	1
		英語対応できるスタッフの配置	1
駅		駅の対応はマンションの建設に追いついていない	1
駐車場	駐輪場が少ない	1	
安全・安心	災害	外国人向け防災情報の充実	2
		災害情報の外国語対応	2
		防災訓練をしてほしい	2
		防災の充実	1
		事故や災害に遭ったときの対応方法	1
		賃貸物件に家具を固定するための釘が使えない	1
	防犯	一部の場所について治安が悪いと感じる	1
		たまに不審者に遭遇するので治安が心配	1
		通報の方法が分からない	1
		盗難にあった	1
街の美化	街の美化	横浜市の清潔さを維持してほしい	5
		古い住宅が多い	2
		自然を大切にすまちなってほしい	1
		野良猫対策	1
		犬猫のフンの始末の悪さに困っている	1
		ネズミ対策を講じてほしい	1